

東大阪市

男女共同参画に関する市民意識調査

報告書

平成22年(2010年)3月

東 大 阪 市

はじめに

本市では、男女が社会の対等な構成員としてともに責任を分かち合い、自らの意思であらゆる分野に参画し、個人として尊重され、生き生きと自分らしく生きていくことができる男女共同参画社会をめざし、平成 15 年（2003 年）に「男女共同参画プランひがしおおさか 2 1」を策定しました。長期計画であるプランの実効性を保つため、平成 19 年（2007 年）には一部改訂を行いました。重点的に取り組んでいく必要事項と具体的な施策の内容を明確にしました。

現プランが目標年度を迎えるにあたり、平成 23 年度からの「(仮称) 新男女共同参画推進プラン」策定の基礎資料とするため、意識調査を実施いたしました。今回の調査結果から見えてきた本市の特性や市民ニーズ、新しい課題を考慮し、市民の皆様の声を十分に反映した効果的な施策を進めるよう努めてまいります。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました市民の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも男女共同参画社会の実現に向け、より一層のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成 22 年（2010 年）3 月

東大阪市長 野 田 義 和

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の方法	3
3. 回収状況	3
4. 報告書の見方	4
5. 標本誤差	4
6. 回答者の属性	5
II. 調査結果のまとめ	11
1. 仕事について	13
2. 日常生活や子育てについて	15
3. 男女の地位に関する意識について	17
4. 健康や地域活動、老後の暮らしについて	18
5. 人権の尊重について	21
6. 男女共同参画社会の形成に関する意識について	22
III. 調査結果の分析	23
1. 仕事について	25
2. 日常生活や子育てについて	53
3. 男女の地位に関する意識について	71
4. 健康や地域活動、老後の暮らしについて	82
5. 人権の尊重について	104
6. 男女共同参画社会の形成に関する意識について	111
IV. 調査結果からみえてくるもの	115
V. 自由意見のまとめ	123
VI. 調査票	131

I . 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画社会に関する意識と実態を知ることにより、「（仮称）新東大阪市男女共同参画推進プラン」の策定に関して、この新プランが社会情勢の変化に対応し地域に根ざしたものになるよう基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の方法

（1）調査対象

市内在住の満18歳以上の男女

（2）標本数

3,000人（女性1,511人、男性1,489人）

（3）抽出方法

住民基本台帳及び外国人登録原票から無作為抽出（系統抽出法）（基準日：平成21年9月1日）

（4）調査方法

郵送による配布及び回収（調査期間中に督促はがきを1回送付）

（5）調査期間

平成21年9月18日から10月6日まで

（6）調査内容

- ①個人の属性
- ②仕事について
- ③日常生活や子育てについて
- ④男女の地位に関する意識について
- ⑤健康や地域活動、老後の暮らしについて
- ⑥人権の尊重について
- ⑦男女共同参画社会の形成に関する意識について

3. 回収状況

回収数 1,247 （うち有効回収数 1,236 無効数 11 ）

	全体	女性	男性	その他	不明 [答えない を含む]
標本数	3,000	1,511	1,489	—	—
有効回収数	1,236	715	517	1	3
有効回収率	41.2%	47.3%	34.7%	—	—

4. 報告書の見方

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数（副設問では設問該当対象数）に対する百分比（％）を表している。1人の対象者に2以上の回答を求める設問では、百分比（％）の合計は100.0％を超える。
- (2) 百分比（％）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計が100.0％にならないことがある。
- (3) 分類別の表中の百分比（％）は、すべて各分類項目の該当対象数を100.0％として算出した。
- (4) 図表にある「N」は、集計対象票数（あるいは、分類別の該当対象数）を示し、比率は「N」を100.0％として表した。
- (5) クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、および「その他」「不明（無回答）」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。
- (6) 表の単位は、2段の場合、上段が実数、下段が構成比（％）、1段の場合、構成比（％）である。
- (7) 本文中の「前回調査」は平成17年度実施の調査のことである。

5. 標本誤差

本調査の主な回答率における標本誤差の幅は次のとおりである。

【標本誤差の1/2幅を求める公式】（信頼度95％の場合）

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

ただし

N＝母集団数 女性：203,009
男性：199,014

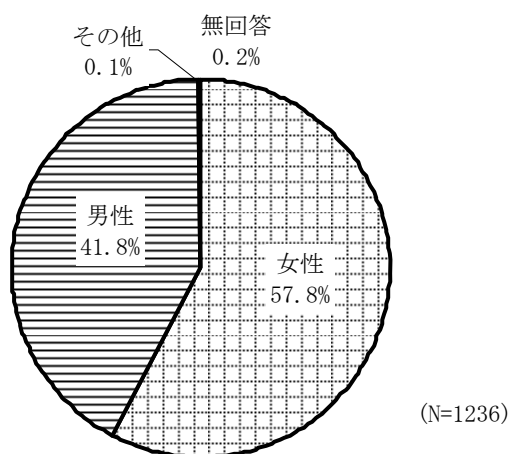
n＝標本数 女性：715
男性：517

P＝標本測定値（回答率：％）

P（％）	標本誤差	
	女性	男性
50％	±3.7	±4.3
45％または55％	±3.6	±4.3
40％または60％	±3.6	±4.2
35％または65％	±3.5	±4.1
30％または70％	±3.4	±3.9
25％または75％	±3.2	±3.7
20％または80％	±2.9	±3.4
15％または85％	±2.6	±3.1
10％または90％	±2.2	±2.6
5％または95％	±1.6	±1.9

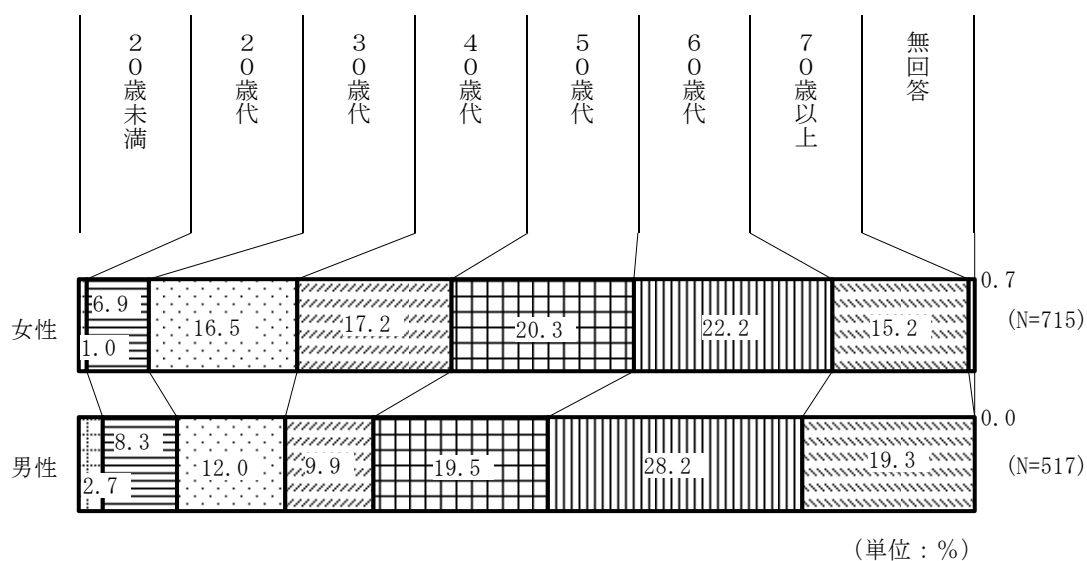
6. 回答者の属性

(1) 性別



「女性」は 57.8%、「男性」は 41.8%で、女性の方が 16.0%多くなっている。

(2) 年齢



男女ともに 60 歳代が最も高く、女性 22.2%・男性 28.2%である。

50 歳以上の割合は、女性 57.7%・男性 67.0%で、男女ともに半数を超えている。

本市の母集団の人口構成比と比較すると、女性の場合は 20 歳未満、20、30 歳代では母集団と比べて低く、50 歳代以上では母集団より高くなっている。

男性の場合は、20～40 歳代では母集団と比べて低く、50 歳上では母集団より高くなっている。

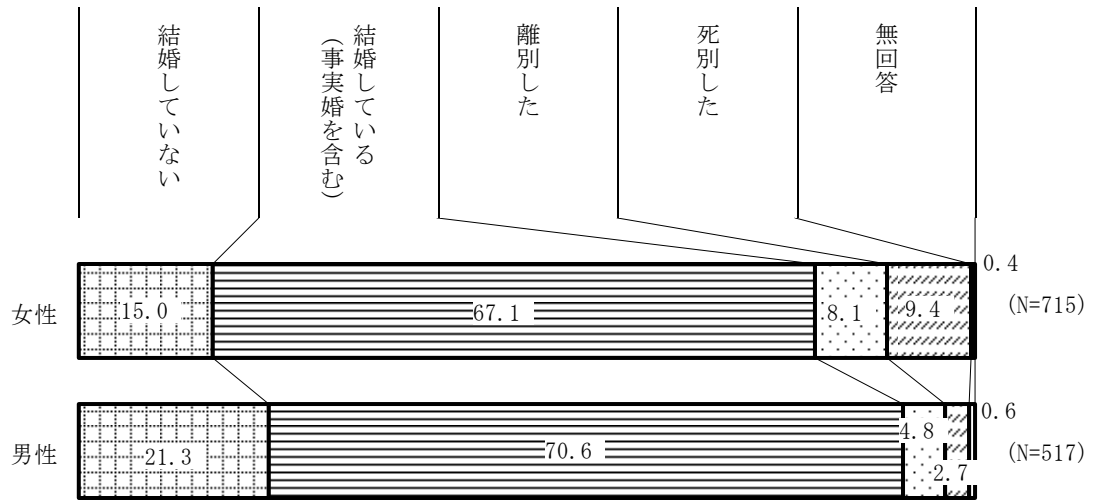
よって、調査の結果をみるとときには、50 歳以上の回答をより多く反映していることを考慮する必要がある。

母集団の性・年齢層別人口構成比（平成 21 年 8 月 31 日現在）

	全体	18, 19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代
女性	203, 009	2. 5	14. 7	19. 8	17. 5	15. 2	19. 0	11. 5
男性	199, 014	2. 4	13. 6	18. 8	17. 0	14. 8	20. 2	13. 3

(人、%)

(3) 結婚の状況



(単位：%)

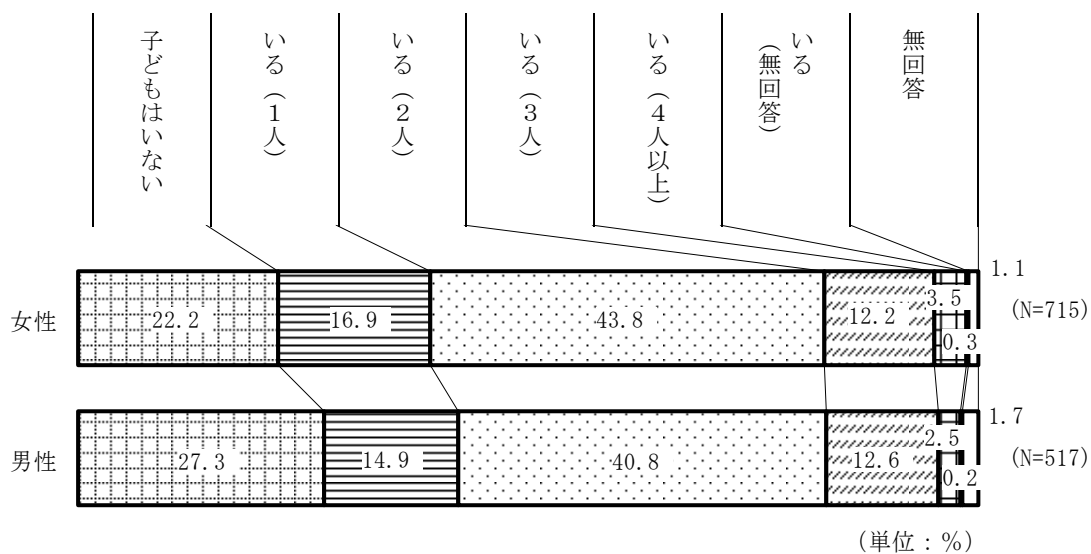
男女ともに「結婚している（事実婚を含む）」が最も高く、女性 67.1%・男性 70.6%である。「結婚していない」割合は、男性の方が 6.3 ポイント高い。また、「離別した」「死別した」の割合は、それぞれ女性の方が高くなっている。

表 年齢層別 結婚の状況

		対象者数 (人)	結婚していない	結婚している (事実婚を含む)	離別した	死別した	無回答
女性	30 歳未満	56	69. 6	26. 8	3. 6	0. 0	0. 0
	30 歳代	118	27. 1	69. 5	3. 4	0. 0	0. 0
	40 歳代	123	11. 4	69. 1	18. 7	0. 8	0. 0
	50 歳代	145	6. 2	78. 6	9. 0	5. 5	0. 7
	60 歳代	159	4. 4	73. 6	5. 7	15. 7	0. 6
	70 歳以上	109	4. 6	60. 6	5. 5	29. 4	0. 0
男性	30 歳未満	57	84. 2	14. 0	1. 8	0. 0	0. 0
	30 歳代	62	40. 3	54. 8	4. 8	0. 0	0. 0
	40 歳代	51	19. 6	74. 5	5. 9	0. 0	0. 0
	50 歳代	101	12. 9	79. 2	5. 9	1. 0	1. 0
	60 歳代	146	6. 2	84. 9	5. 5	3. 4	0. 0
	70 歳以上	100	5. 0	81. 0	4. 0	8. 0	2. 0

(%)

(4) 子どもの状況



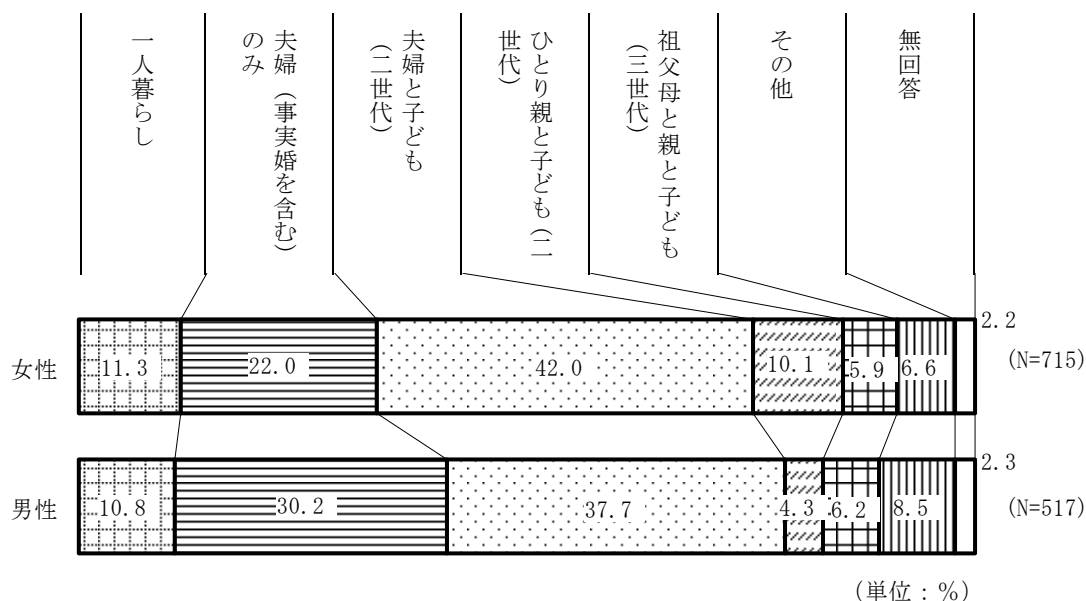
「子供はいない」割合は、女性 22.2%・男性 27.3%で、「子供がいる」割合は、女性 76.7%・男性 71.0%である。「子供がいる」中では、「2人」の割合が最も高く、60%弱を占める。

表 年齢層別 子どもの状況

		対象者数(人)	子供はいない	子供がいる					無回答
				1人	2人	3人	4人以上	子どもの数は無回答	
女性	30歳未満	56	76.8	54.5	36.4	9.1	0.0	0.0	3.6
	30歳代	118	35.6	36.5	52.7	5.4	5.4	0.0	1.7
	40歳代	123	20.3	18.8	54.2	18.8	8.3	0.0	1.6
	50歳代	145	13.1	15.2	60.8	19.2	4.0	0.8	0.7
	60歳代	159	11.3	13.5	64.5	19.9	2.1	0.0	0.0
	70歳以上	109	10.1	31.6	51.0	12.2	5.1	0.0	0.0
男性	30歳未満	57	89.5	66.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
	30歳代	62	54.8	40.7	48.1	7.4	3.7	0.0	1.6
	40歳代	51	27.5	22.2	58.3	11.1	8.3	0.0	2.0
	50歳代	101	16.8	17.3	51.9	27.2	3.7	0.0	3.0
	60歳代	146	8.9	22.1	54.2	22.9	0.8	0.0	1.4
	70歳以上	100	12.0	12.8	73.3	7.0	5.8	1.2	2.0

(%)

(5) 世帯状況



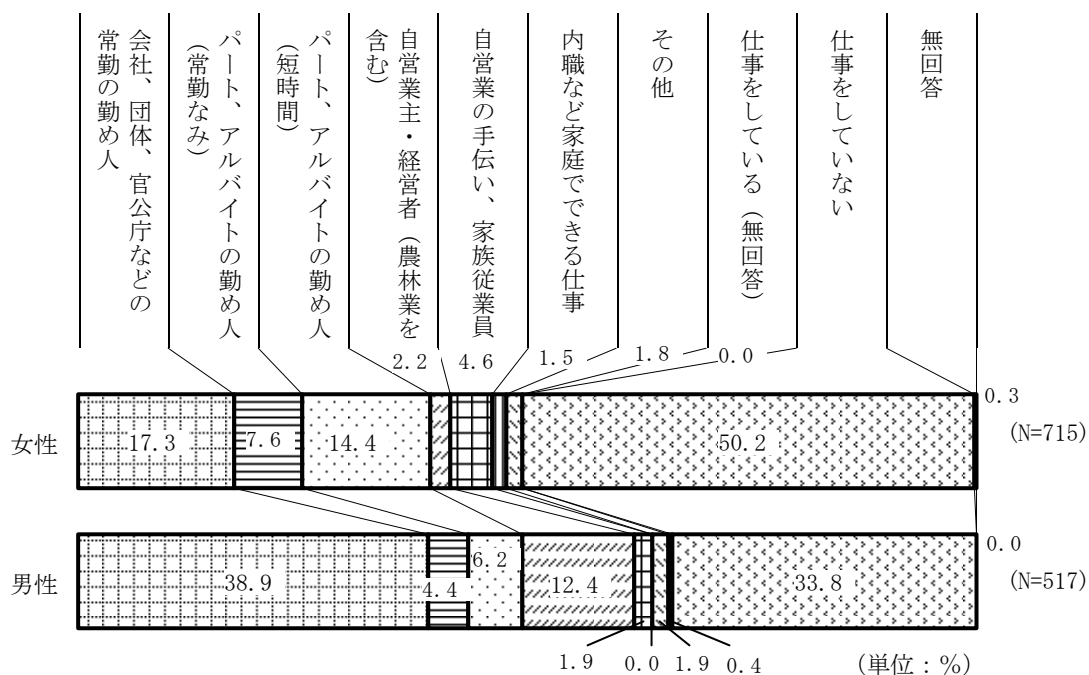
男女ともに「夫婦と子ども（二世代）」が最も高く、女性 42.0%・男性 37.7%である。ついで、「夫婦（事実婚を含む）のみ」が女性 22.0%・男性 30.2%と続く。「ひとり親と子ども（二世代）」の割合は、女性の場合 10.1%で 10 人に 1 人の割合となっている。

表 年齢層別 世帯状況

		対象者数（人）	一人暮らし	夫婦（事実婚を含む）のみ	夫婦と子ども（二世代）	ひとり親と子ども（二世代）	祖父母と親と子ども（三世代）	その他	無回答
女性	30 歳未満	56	12.5	5.4	60.7	5.4	3.6	10.7	1.8
	30 歳代	118	4.2	11.0	60.2	5.1	10.2	6.8	2.5
	40 歳代	123	5.7	6.5	54.5	14.6	11.4	6.5	0.8
	50 歳代	145	9.7	20.7	46.9	11.7	4.8	4.1	2.1
	60 歳代	159	13.8	34.6	30.2	10.1	2.5	6.3	2.5
	70 歳以上	109	23.9	44.0	10.1	9.2	1.8	8.3	2.8
男性	30 歳未満	57	10.5	3.5	36.8	3.5	15.8	21.1	8.8
	30 歳代	62	14.5	14.5	41.9	1.6	9.7	16.1	1.6
	40 歳代	51	7.8	9.8	54.9	13.7	3.9	9.8	0.0
	50 歳代	101	11.9	15.8	49.5	5.0	9.9	5.9	2.0
	60 歳代	146	9.6	47.3	30.8	1.4	2.7	6.2	2.1
	70 歳以上	100	11.0	55.0	25.0	5.0	1.0	2.0	1.0

(%)

(6) 職業



女性の場合は、「仕事をしていない」が 50.2%で 2 人に 1 人の割合である。ついで、「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が 17.3%、「パート、アルバイトの勤め人(短時間)」が 14.4%、「パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)」が 7.6%である。

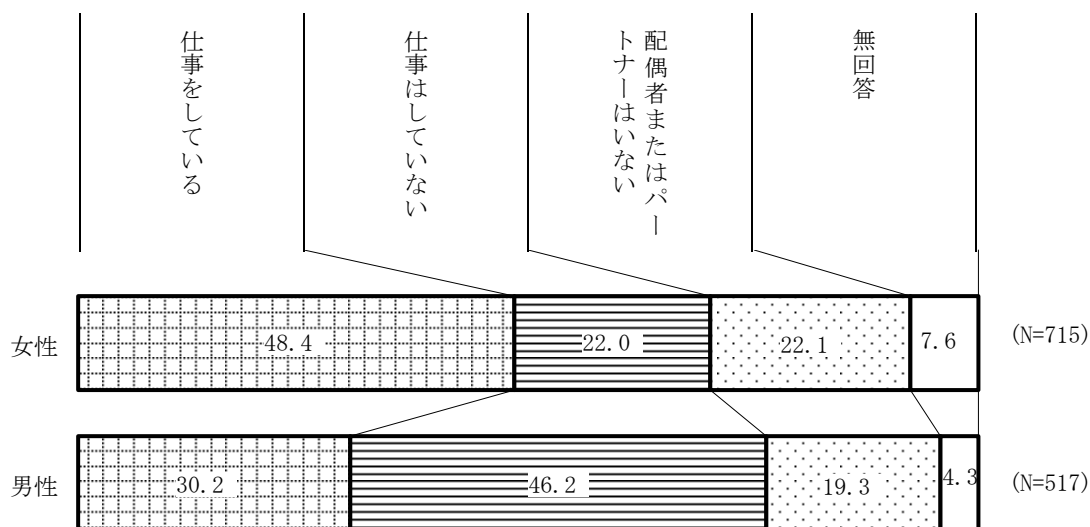
男性の場合は、「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が 38.9%、「自営業主・経営者(農林業を含む)」12.4%である。

表 年齢層別 職業

		対象者数(人)	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	自営業主・経営者(農林業を含む)	自営業の手伝い、家族従業員	内職など家庭でできる仕事	その他	無回答
女性	30 歳未満	45	53.3	13.3	28.9	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0
	30 歳代	71	46.5	12.7	22.5	2.8	7.0	5.6	2.8	0.0
	40 歳代	86	36.0	11.6	34.9	3.5	4.7	1.2	8.1	0.0
	50 歳代	89	25.8	28.1	28.1	5.6	9.0	2.2	1.1	0.0
	60 歳代	49	18.4	6.1	32.7	10.2	28.6	2.0	2.0	0.0
	70 歳以上	12	16.7	8.3	25.0	8.3	16.7	25.0	0.0	0.0
男性	30 歳未満	43	41.9	9.3	27.9	7.0	9.3	0.0	4.7	0.0
	30 歳代	59	76.3	8.5	1.7	10.2	3.4	0.0	0.0	0.0
	40 歳代	43	83.7	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0	2.3	0.0
	50 歳代	88	80.7	2.3	3.4	11.4	1.1	0.0	1.1	0.0
	60 歳代	86	29.1	10.5	16.3	36.0	2.3	0.0	3.5	2.3
	70 歳以上	23	26.1	13.0	8.7	34.8	4.3	0.0	13.0	0.0

(%)

(7) 配偶者の仕事の状況



(単位：%)

配偶者またはパートナーが「仕事をしている」割合は、女性 48.4%・男性 30.2%、「仕事をしていない」割合は女性 22.0%・男性 46.2%である。

表 年齢層別 配偶者の仕事の状況

		対象者数 (人)	仕事をしている	仕事をしていない	配偶者またはパートナーはいない	無回答
女性	30 歳未満	56	37.5	5.4	51.8	5.4
	30 歳代	118	68.6	3.4	22.9	5.1
	40 歳代	123	66.7	5.7	22.8	4.9
	50 歳代	145	62.1	14.5	13.1	10.3
	60 歳代	159	37.7	37.1	20.1	5.0
	70 歳以上	109	10.1	57.8	20.2	11.9
男性	30 歳未満	57	19.3	5.3	61.4	14.0
	30 歳代	62	29.0	29.0	33.9	8.1
	40 歳代	51	52.9	31.4	13.7	2.0
	50 歳代	101	38.6	47.5	13.9	0.0
	60 歳代	146	33.6	55.5	8.2	2.7
	70 歳以上	100	12.0	73.0	11.0	4.0

(%)

Ⅱ．調査結果のまとめ

1. 仕事について

1-1. 1週間の労働時間（問8）＜図1-1＞

■男性の10人に1人以上が週60時間以上働いている

残業時間も含めての1週間のおおよその労働時間をたずねた。

週40時間以上働いている割合は、女性37.2%・男性68.5%で、男性の方が約30ポイント高くなっている。

特に男性の場合は、「週60時間以上」の割合が12.6%である。これを年齢層別でみると、30歳未満、50歳代で高く、30歳未満では16.3%、50歳代では15.9%である。

1-2. 昨年1年間の税込み収入（問9）＜図1-4＞

■男女の収入差は大きい

昨年1年間の収入をたずねた。

女性の場合は、「103万円未満」が35.0%、「103万円～200万円未満」が23.4%で、年収200万円未満の割合は58.4%である。

一方、男性の場合は「103万円未満」から「1,000万円以上」まで7.0%～17.0%と各層に分散している。

「年収200万円未満」の割合を男女で比べると女性58.4%・男性22.8%であり、女性の方が35.6ポイント高くなっている。

年齢層別にみると、「200万円未満」の割合が高いのは女性の60歳代、70歳以上、男性の30歳未満である。

また、どの働き方においても、女性の収入の方が男性よりも低い傾向がある。

1-3. 仕事上でのストレス（不安や悩み）（問10）＜図1-7＞

■男女ともに「収入が少ない」ことにストレスを感じる

仕事の上でのストレスの度合いについてたずねた。

男女ともに「収入が少ない」（女性52.5%・男性59.3%）、「上司や部下、同僚との人間関係」（女性44.6%・男性44.1%）、「不況・解雇、将来性が感じられない」（女性41.5%・男性52.0%）の割合が高い。

男女で比較すると、「子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない」では女性の割合が高く、「不況・解雇、将来性が感じられない」、「労働時間が長い」、「収入が少ない」では男性の割合が高くなっている。

1-4. 職場での性別による対応や評価の差（問11）＜図1-16＞

■「管理職への登用」では、「男性優遇」と感じる割合が高い

働いている女性354人・男性342人に、今の職場での男女の対応や評価への差があるかど

うかをたずねた。

「平等である」よりも『男性』の方が優遇されている」の割合が高いものは、「管理職への登用」（女性26.6%・男性24.3%）だけであるが、その他に、女性の場合は「賃金」「昇進・昇格」、男性では「昇進・昇格」「採用数」において、「『男性』の方が優遇されている」の割合が20%を超えている。

一方で、「育児・介護休業などの取得に関して」は、『女性』の方が優遇されている」の割合が男女ともに10%を超えている。

1-5. 仕事をしていない理由（問 12）＜図 1-29＞

■男性は「定年退職」、女性は「家事や子育てをしている」が主な理由

現在「仕事をしていない」と答えた女性 359 人・男性 175 人に、その理由をたずねた。

男性の場合は、「定年退職した」が 49.1%で最も高くなっている。

女性の場合は、「家事や子育てをしている」が 19.2%で、最も高くなっている。ついで、「健康上の問題がある」、「定年退職した」「求職中である」がそれぞれ 10%台である。一方、「家事や子育てをしている」については、男性は 0%となっている。

年齢層でみると、女性の 30 歳代では、「家事や子育てをしている」の割合が他の年齢層よりも突出して高く 68.1%となっている。

1-6. 今後の就労意向（問 13）＜図 1-31＞

■就労を希望する割合は、女性は約 40%・男性は 50%弱

現在「仕事をしていない」と答えた女性 359 人・男性 175 人に、今後の就労意向についてたずねた。

女性の場合は、「ぜひ、仕事につきたい」が 16.7%、「できれば、仕事につきたい」が 23.1%で、それを合わせた＜仕事につきたい＞割合は 39.8%である。

男性の場合は、「ぜひ、仕事につきたい」が 18.3%、「できれば、仕事につきたい」が 28.6%、合わせた＜仕事につきたい＞割合は 46.9%である。

年齢層でみると、＜仕事につきたい＞割合は、女性の 30 歳未満で 100%、40 歳代で 83.7%、30 歳代で 70.2%である。

1-7. 就労に当たっての困ったことや不安（問 13-1）＜図 1-33＞

■男女ともに「年齢制限」が最も高い

現在は仕事をしていないが、＜仕事につきたい＞とする女性 143 人・男性 82 人に、今後仕事につく上で困ったことや不安についてたずねた。

男女ともに「年齢制限」（女性 54.5%・男性 43.9%）、「自分のしたい仕事につけるか」（女性 43.4%・男性 39.0%）、「自分の健康状態や体力」（女性 40.6%・男性 36.6%）の割合が高くなっている。

男女で比較すると、女性は「家事、子育て、介護との両立ができるか」を 36.4%が選んでいるものの、男性では 0%である。

女性の年齢層でみると、30 歳未満では「自分のしたい仕事につけるか」(72.7%)、30 歳代では「家事、子育て、介護との両立ができるか」(75.8%) が突出して高くなっている。

2. 日常生活や子育てについて

2-1. 日常生活における考え方（問 14）＜図 2-1＞

■「男（女）らしく育てる」「3 歳までは母親のもとで育てる」「妻子を養うのは男性の責任」という意見に肯定的な割合は 5 割を超える

子育てや介護、職場など、日常のさまざまな場面での男女の役割についての考えをたずねた。

子育てに関する設問での＜そう思う＞（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）割合は、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」（女性 56.3%・男性 72.3%）、「子どもが 3 歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」（女性 72.9%・男性 66.0%）、「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」（女性 57.4%・男性 71.7%）と、肯定する意見が高くなっている。

「どちらともいえない」の割合は、「男性の方が女性より、管理職としての資質がある」（女性 44.1%・男性 42.4%）、「育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい」（女性 42.1%・男性 37.3%）で高くなっている。

2-2. 平日の生活時間（問 15）＜表 2-1＞

■男女で、「仕事・学業」「家事・育児・介護など」時間に関きがある

平日の 24 時間をどのように過ごすかについてたずねた。

男女で違いの大きいのは、「仕事・通勤あるいは学業・通学」（女性 7 時間 54 分・男性 9 時間 30 分）、「家事・育児・介護など」（女性 5 時間 24 分・男性 2 時間 12 分）である。

年齢層別にみると、女性の 30 歳代では「家事・育児・介護など」が 7 時間 18 分であり、他の年齢層より大幅に長く、その一方で「仕事・通勤あるいは学業・通学」時間も 9 時間 30 分と最も長くなっている。

男性の 30 歳代、50 歳代では「仕事・通勤あるいは学業・通学」時間が 10 時間を超えている。

2-3. 暮らし方の希望と現実（問 16・17）＜図 2-7、図 2-9＞

■女性では、希望は多様だが、現実には「『家庭生活』を優先している」が最も高い希望する暮らし方と実際の生活についてたずねた。

希望の暮らし方をみると、「『家庭生活』を優先したい」「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」を同じ程度に希望している。

しかし、現実の暮らし方では、「『家庭生活』を優先している」が最も高く 38.3%となっている。

■男性では、「『仕事』と『家庭生活』の両立」を希望する割合が最も高いが、現実には「『仕事』を優先している」が最も高い

希望では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」(28.2%)、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」(20.7%)の割合が高い。

しかし、現実の暮らし方では、「『仕事』を優先している」が最も高く 29.6%となっている。

2-4. 望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方（問 18）＜図 2-11＞

■女性が望む生き方は、「就労継続型」と「再就職型」がそれぞれ約 30%

女性に、女性の望ましい生き方と実際の生き方についてたずねた。

「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」という再就職型が最も高く 30.6%で、就労継続型（「結婚しないで働き続ける」＋「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」＋「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」）は 28.3%である。

一方、実際の生き方は、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」16.1%、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する」が 11.2%、「結婚し、出産をし、家事・育児に余裕ができてから初めて就職する」が 9.5%、「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」が 9.1%である。

2-5. 子どもに望む生き方（問 19）＜図 2-15＞

■男女ともに、女の子には「家族や周りの人たちと円満に暮らす」ことを望む割合が高い

子どもの将来の生き方についてたずねた。

「女の子」の将来については、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が突出して高く、女性 56.4%・男性 50.5%。ついで、「人間性豊かな生活をする」が女性 32.3%・男性 32.1%、「本人の意思に任せる」が女性 26.3%・男性 24.2%である。

■男女ともに、男の子には「経済的に自立した生活をする」ことを望む割合が高い

一方、「男の子」の将来については、「経済的に自立した生活をする」が突出して高く、女性 62.1%・男性 50.1%である。ついで、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が女性 25.3%・男性 21.1%、「本人の意思に任せる」が女性 24.2%・男性 26.1%となっている。前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっている。

2-6. 男女平等を進めるために小・中学校で取組むこと（問 20）＜図 2-17＞

■「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」割合は男女ともに 50%を超える

小学校・中学校での男女平等の取り組みで重要なものについてたずねた。

選択率の高いのは、「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」（女性 62.5%・男性 55.3%）、「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」（女性 50.3%・男性 40.8%）、「男女平等の意識を育てる授業をする」（女性 31.9%・男性 39.3%）である。

3. 男女の地位に関する意識について

3-1. 各分野における男女の地位の平等感（問 21）＜図 3-1＞

■就労に関する分野で、「男性が優遇」とする割合が女性 80%弱・男性 70%弱

社会におけるさまざまな分野で、男女は平等になっているかをたずねた。

＜男性が優遇＞（「男性が優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」）の割合が高いのは、『雇用の機会や働く分野』で女性 78.5%・男性 67.5%、『職場（賃金や待遇など）』で女性 78.0%・男性 67.9%である。

また、すべての分野で＜男性が優遇＞の割合は、男性よりも女性の方が高くなっている。

特に、「政治・経済活動への参加」、「法律や制度」、「家庭生活の場」では 20 ポイント前後の開きがある。

「平等になっている」の割合が 50%を超えている分野は、女性では「学校教育の場」、男性では「学校教育の場」、「地域活動、社会活動への参加」である。

3-2. 固定的な性別役割分担意識（問 22）＜図 3-13＞

■男性では「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感する」割合が高い

「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方についてたずねた。

女性の場合は、＜同感グループ＞（「同感である」＋「どちらかといえば同感である」）が 43.8%、＜同感しないグループ＞（「同感しない」＋「どちらかといえば同感しない」）が 39.7%で、ほぼ同程度の割合である。

男性の場合は、＜同感グループ＞が 55.9%で、＜同感しないグループ＞は 25.1%。男女で比較すると、男性の方が＜同感グループ＞の割合が 12.1 ポイント高くなっている。

■前回から「同感しない」割合が減っている

前回調査では、女性の場合は、＜同感グループ＞44.1%、＜同感しないグループ＞53.5%。男性の場合は、＜同感グループ＞58.2%、＜同感しないグループ＞40.4%であった。

これを今回調査と比較すると、男女ともに＜同感グループ＞の割合はほとんど変化がないものの、＜同感しないグループ＞の割合が女性では 13.8 ポイント、男性では 15.3 ポイント減っている。

3－3. 固定的な性別役割分担意識に「同感する」理由（問 22-1）＜図 3－17＞

■固定的な性別役割分担意識に同感する理由は「男女で違う役割があると思うから」が大半を占める

固定的な性別役割分担意識に「同感する」理由をたずねた。

「男女で違う役割があると思うから」（女性 72.5%・男性 68.5%）が大半を占めている。ついで、「子どもの頃からそのように教育を受けてきたから」が女性 13.4%・男性 14.2%、「社会の風潮・慣習としてそうになっていると感じるから」が女性 11.5%・男性 15.2%である。

3－4. 固定的な性別役割分担意識に「同感しない」理由（問 22-2）＜図 3－19＞

■固定的な性別役割分担意識に同感しない理由は「社会の風潮・慣習としてそうになっていると感じる」が男女で 50%前後

固定的な性別役割分担意識に「同感しない」理由をたずねた。

「社会の風潮・慣習としてそうになっていると感じるから」が女性 43.7%・男性 50.8%。「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」が女性 33.1%・男性 33.8%である。

特に、「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」は、男性の 30 歳代（54.5%）、男性の 30 歳未満（50.0%）、女性の 30 歳代（46.3%）で高くなっている。

4. 健康や地域活動、老後の暮らしについて

4－1. 生活の中でのストレス（不安や悩み）（問 23）＜図 4－1＞

■生活の中でのストレスは、男女ともに「老後の生活」「経済的なこと」

生活の中でのストレスの度合いについてたずねた。

男女ともに「老後の生活（経済や健康）」と「経済的なこと」の割合が 70%前後と極めて高くなっている。

また、男女で割合の違いが大きいのは、「家事の負担」、「配偶者やパートナー、恋人のこと」で、それぞれ 18.0 ポイント、10.7 ポイント女性の方が高くなっている。

4－2．地域活動への参加状況と参加意向（問 24）＜図 4－8＞

■「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」への参加意向は男女ともに2人に1人の割合

地域活動への参加状況と参加意向についてたずねた。

その中で、＜今後参加したい＞（「参加した、している・今後も参加したい」＋「参加したことがない・今後は参加したい」）割合を高い順にみると、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」、「自治会・町内会の活動」、「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」である。

一方、男女とも＜今後参加したくない＞割合が最も高いのは「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」で男女ともに60%を超えている。

年齢層でみると、30歳未満では、これまでは参加していない割合が高いものの今後は参加したいとする傾向が強い。

4－3．地域活動へ参加したくない理由（問 24-1）＜図 4－14＞

■地域活動に参加したくない理由は、女性では「人間関係がわずらわしいから」、男性では「あまり関心がないから」の割合が高い

「今後は（も）参加したくない」と答えた女性578人・男性383人にその理由をたずねた。

女性の理由は、「人間関係がわずらわしいから」、「参加するきっかけがないから」、「あまり関心がないから」の割合が高くなっている。

男性では、「あまり関心がないから」、「仕事が忙しいから」、「人間関係がわずらわしいから」の割合が高くなっている。

また、「仕事が忙しいから」では男性の方が11.2ポイント、「家事・育児・介護で忙しいから」では女性の方が17.8ポイント高くなっている。

年齢層でみると、女性の30歳未満では「参加するきっかけがないから」が50%を超えている。男性の40歳代では「仕事が忙しいから」が50%を超えている。

4－4．老後の生活の不安（問 25）＜図 4－16＞

■「健康で過ごせるか」と「経済的にやっていけるか」が老後の2大不安

老後の生活への不安についてたずねた。

「健康で過ごせるか」（女性70.3%・男性66.0%）、「経済的にやっていけるか」（女性62.0%・男性58.2%）の割合が、男女ともに50%を超えて高い。ついで、「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」（女性40.3%・男性44.1%）である。

4－5．老後にやってみたいこと（問 26）＜図 4－18＞

■老後にやってみたいことは「趣味の活動」「旅行」

老後をいきいきと暮らすためにやってみたいことをたずねた。

女性の上位 3 位は、「趣味の活動」（59.0%）、「旅行」（57.8%）、「家族との団らん」（40.4%）である。

男性の上位 3 位は、「趣味の活動」（53.2%）、「旅行」（48.0%）、「夫婦の団らん」（37.9%）である。また、「働くこと」「スポーツ」「ボランティア活動」「自治会・町内会の活動」「夫婦の団らん」では女性よりも選択率が高い。

4－6．「男もつらい」と感じることの有無と「男もつらい」と感じる理由（問 27、27-1）

＜図 4－20、図 4－22＞

■「男もつらい」と感じる男性は 57.3%

男性に対して「男もつらい」と感じるかどうかをたずねた。

その結果は、「ある」（57.3%）が「ない」（31.9%）のほぼ 2 倍となっている。

年齢層でみると、「ある」の割合が最も高いのは 40 歳代で、72.5%。ついで 50 歳代 68.3%、30 歳代 66.1%である。

その理由を割合の高い順にみると、「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前と言われる」（36.1%）、「なにかにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」（30.1%）、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」（29.4%）、「妻子を養うのは男の責任だと言われる」（27.7%）である。

4－7．女性の心とからだの健康を保つために必要な取り組み（問 28）＜図 4－24＞

■「安心して出産にのぞむための検診・相談」については約 40%が＜知っている＞

女性の回答者に、東大阪市の女性の心とからだの健康へ取り組みの認知度をたずねた。

＜知っている＞（「よく知っている」＋「聞いたことがある」）の割合が最も高いのは「安心して出産にのぞむための検診・相談」（41.6%）で、ついで、「食生活や健康づくりに関する情報提供」（39.3%）、「女性のための悩みや不安（DVを含む）に対する相談」（37.6%）である。

また、利用したことがある割合は「安心して出産にのぞむための検診・相談」が最も高いものの、その割合は 4.8%にとどまっている。

5. 人権の尊重について

5-1. 女性の人権が尊重されていないと感じること（問 29）＜図 5-1＞

■総じて女性の人権に対する尊重の度合いは高くない

女性の人権が尊重されていないことがら（9項目）を列挙し、尊重されていないと感じるものをたずねた。

最も選択された「痴漢やレイプなどの性犯罪」においても女性 56.8%・男性 38.5%である。

また、すべての項目で女性の方が男性より選択率が高く、特に「痴漢やレイプなどの性犯罪」（女性 56.8%・男性 38.5%）、「性風俗営業、売買春、援助交際」（女性 37.9%・男性 20.1%）では17ポイント以上の差がある。

5-2. 配偶者やパートナー、恋人からの暴力（DV）（問 30）＜図 5-2＞

■女性が「大声でどなったり、物を壊したりされた」経験は17.0%

「配偶者やパートナー、恋人からの暴力」の経験についてたずねた。

＜されたことがある＞（「何度もされた」＋「1、2度された」）割合で高いのは、女性の場合、「大声でどなったり、物を壊したりする」が17.0%、「平手で打つ」が14.9%、『誰のおかげで生活できるんだ』、『食わせてやっている』と言う」が12.3%、「こぶしでなぐったり、足で蹴る」が10.5%である。男性の場合は、「平手で打つ」が最も高く、6.6%である。

その逆に、＜したことがある＞（「何度もした」＋「1、2度した」）割合で高いのは、男性の場合は、「平手で打つ」で12.6%、「大声でどなったり、物を壊したりする」で11.6%である。女性の場合は、「平手で打つ」が最も高く、5.2%である。

5-3. DV被害を受けた後の行動（問 31）＜図 5-3＞

■被害を受けた後は「二人で話し合った」が最も高い

配偶者やパートナー、恋人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））後の対処の仕方についてたずねた。

「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」割合が最も高く、女性 34.0%・男性 57.4%である。ついで、女性の場合は、「友人・知人に相談した」が22.9%、「親や兄弟姉妹、親類に相談した」が22.5%である。

また、「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」は、女性 30.5%・男性 21.6%で、公的、民間を問わず支援機関に相談、避難した割合は極めて低くいずれも5%に満たない。

5-4. DV被害を受けた後にどこにも相談しなかった（または、できなかった）理由（問32）

<図5-4>

■「相談するほどの事ではないと思った」が男女ともに50%を超える

DV被害を受けた後に相談しなかった、あるいはできなかった理由をたずねた。

男女ともに「相談するほどの事ではないと思った」割合が高く、女性52.5%・男性62.5%である。

女性の場合は、「自分さえ我慢すればやっていけると思った」28.8%、「相談しても無駄だと思った」が21.3%となっている。

男性の場合は、「自分にも悪いところがあると思った」が25.0%。

「どこに（誰に）相談したらよいのかわからなかった」は女性6.3%・男性3.1%である。

6. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

6-1. 法律や言葉、東大阪市の取り組みの認知度（問33）<図6-1>

■認知度の高いのは、「男女雇用機会均等法」と「ドメスティック・バイオレンス（DV）」

男女共同参画に関わる法律や言葉、東大阪市での取り組みについての認知度をたずねた。

<知っている>（「よく知っている」＋「聞いたことがある」）の割合が高いのは、「男女雇用機会均等法」、「ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者や恋人など親しい人からの暴力）」で約60%、ついで「育児・介護休業法」で約50%である。

しかし、「男女共同参画推進プランひがしおおさか21」「東大阪市男女共同参画推進条例」など東大阪市の取り組みについては、20%以下となっている。

6-2. 「男女共同参画」を推進するために参加したい活動（問34）<図6-2>

■男女共同参画を推進するために参加したい活動は「特にない・わからない」が男女ともに50%を超える

男女共同参画を推進するために参加したい活動についてたずねた。

「特にない・わからない」が男女ともに50%（女性50.6%・男性55.3%）を超えている。

ついで、女性の場合は「女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの活動に参加する」（13.3%）、「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」（12.9%）、「子育て支援に関する活動に参加する」（12.4%）の割合が高くなっている。

男性の場合は、「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」（11.4%）、「男女の平等と相互の理解や協力についての学習会を開催したり、参加したりする」（11.2%）の割合が高い。

Ⅲ. 調査結果の分析

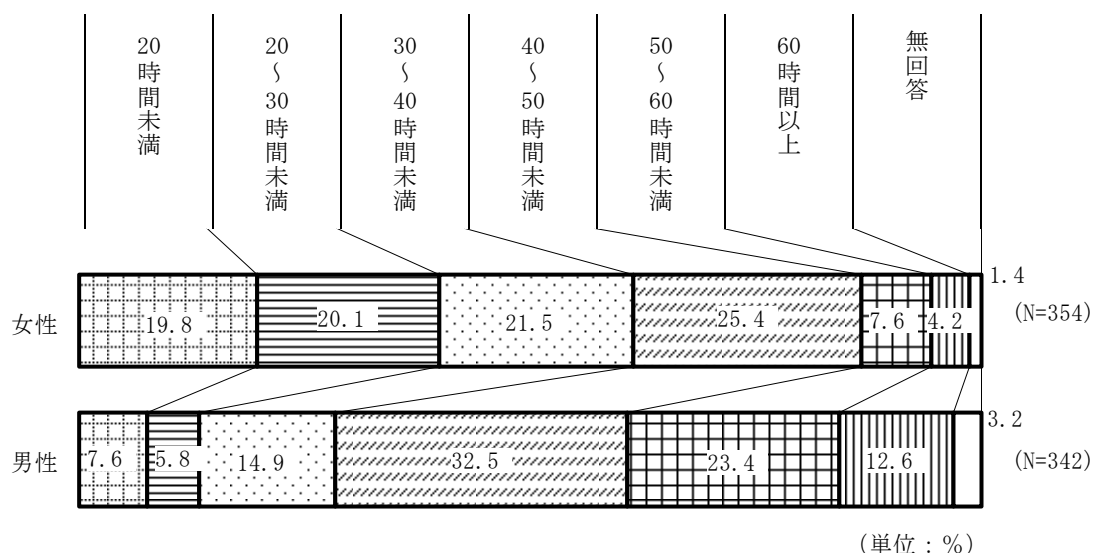
1. 仕事について

問6で、現在「仕事をしている」と答えられた方におたずねします。

問8 あなたは、1週間でおよそ何時間くらい働いていますか（残業時間も含みます）。

（○は1つ）

図1-1 1週間の労働時間



■週60時間以上働く男性は12.6%

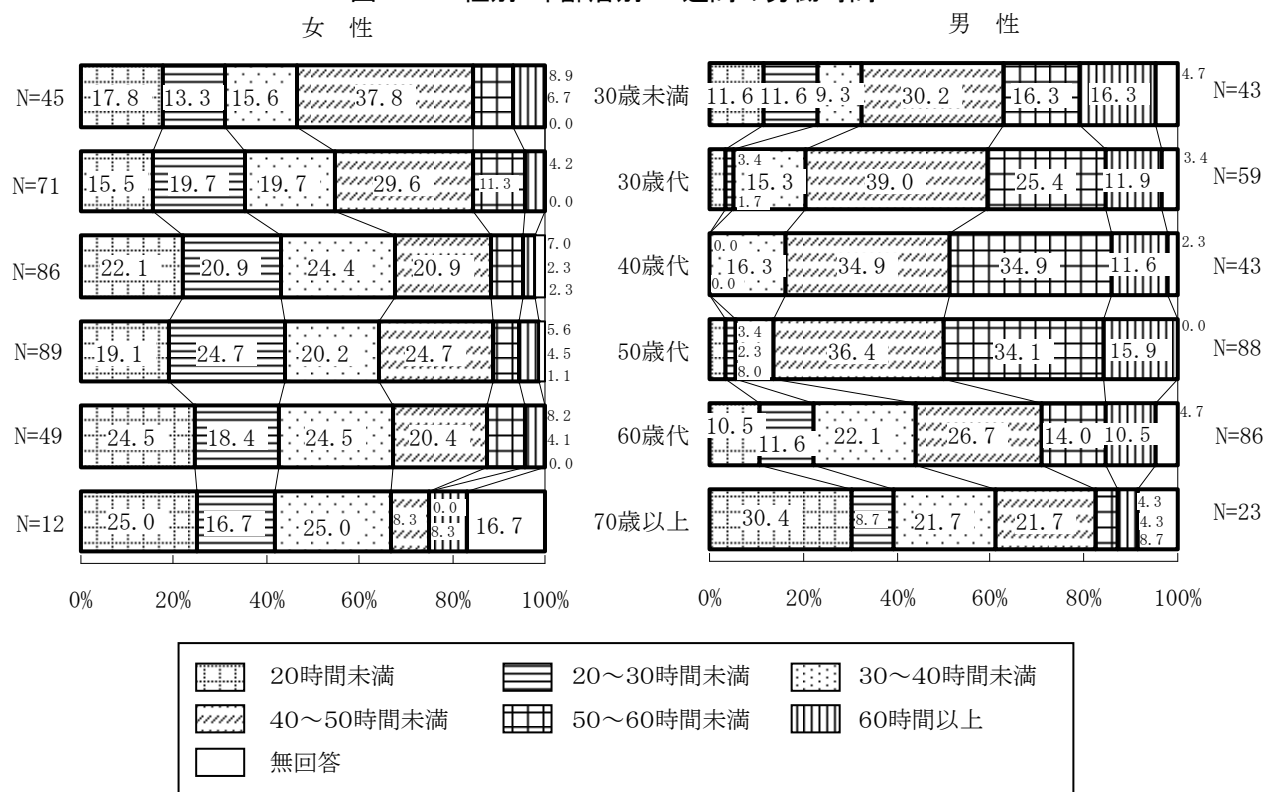
女性の労働時間をみると、「40～50 時間未満」の割合が 25.4%で若干高いものの、「20 時間未満」から「40～50 時間未満」での各割合が 20%前後であり、労働時間に片寄りが無い。

男性の場合は、「40～50時間未満」の割合が最も高く 32.5%。ついで「50～60時間未満」23.4%、「30～40時間未満」14.9%、「60時間以上」12.6%である。

法定労働時間である週40時間（事業場の規模と業種によっては44時間の場合もあり）を目安としてみた場合、これを超える時間を働いている割合は、女性37.2%・男性68.5%で、男性の方が約30ポイント高い。

性別・年齢層別

図1-2 性別・年齢層別 1週間の労働時間



参考表 性別・年齢層別 1週間の労働時間

		対象者数(人)	20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50～60時間未満	60時間以上	無回答
女性	30歳未満	45	17.8	13.3	15.6	37.8	8.9	6.7	0.0
	30歳代	71	15.5	19.7	19.7	29.6	11.3	4.2	0.0
	40歳代	86	22.1	20.9	24.4	20.9	7.0	2.3	2.3
	50歳代	89	19.1	24.7	20.2	24.7	5.6	4.5	1.1
	60歳代	49	24.5	18.4	24.5	20.4	8.2	4.1	0.0
	70歳以上	12	25.0	16.7	25.0	8.3	0.0	8.3	16.7
男性	30歳未満	43	11.6	11.6	9.3	30.2	16.3	16.3	4.7
	30歳代	59	3.4	1.7	15.3	39.0	25.4	11.9	3.4
	40歳代	43	0.0	0.0	16.3	34.9	34.9	11.6	2.3
	50歳代	88	3.4	2.3	8.0	36.4	34.1	15.9	0.0
	60歳代	86	10.5	11.6	22.1	26.7	14.0	10.5	4.7
	70歳以上	23	30.4	8.7	21.7	21.7	4.3	4.3	8.7

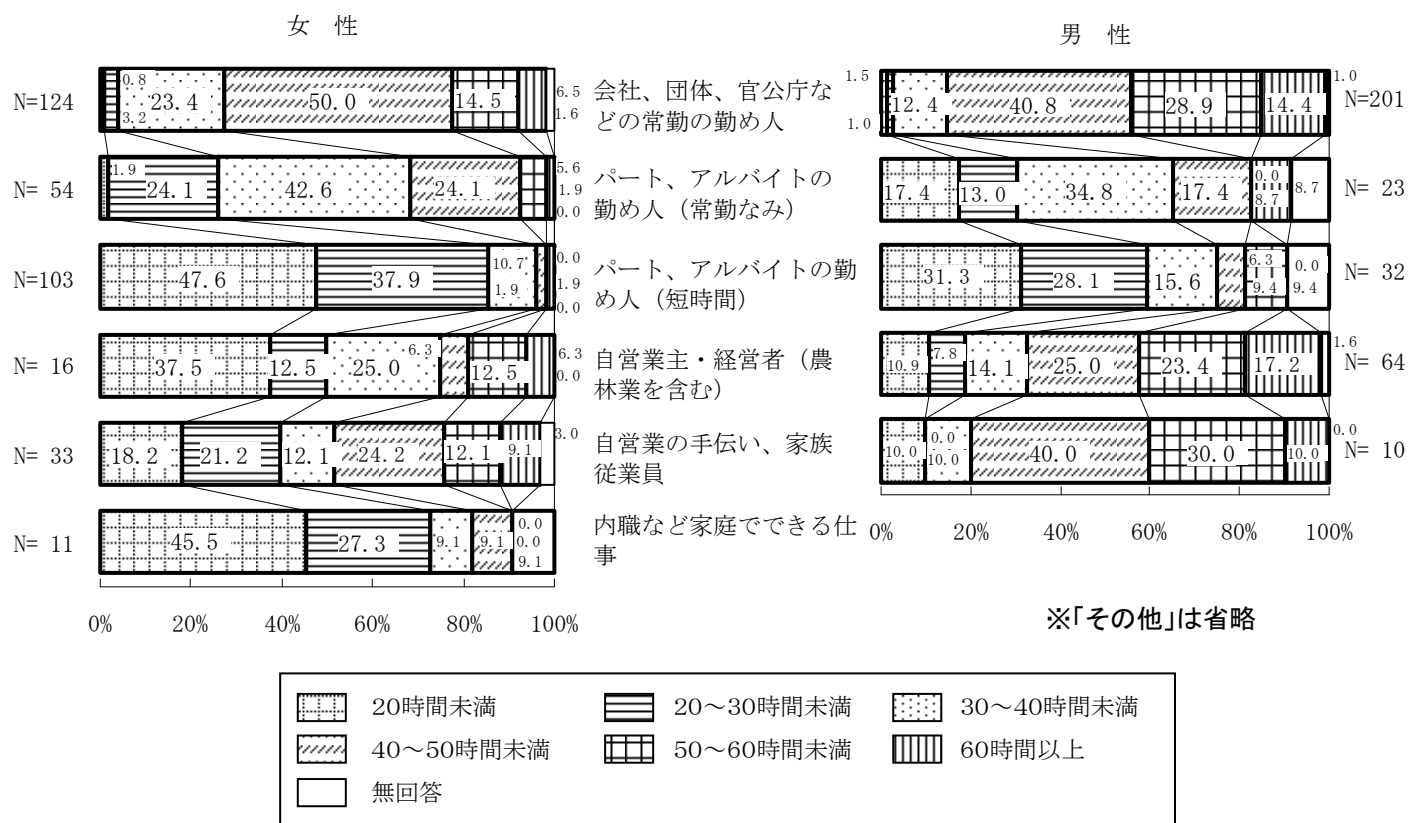
(%)

◆女性の場合、「40～50 時間未満」の割合が最も高いのは 30 歳未満で 37.8%で、「40 時間以上」の割合は、53.4%である。

◆男性の場合、「60 時間以上」の割合は、30 歳未満で 16.3%、50 歳代で 15.9%と、他の年齢層よりも高くなっている。

性別・職業別

図1-3 性別・職業別 1週間の労働時間



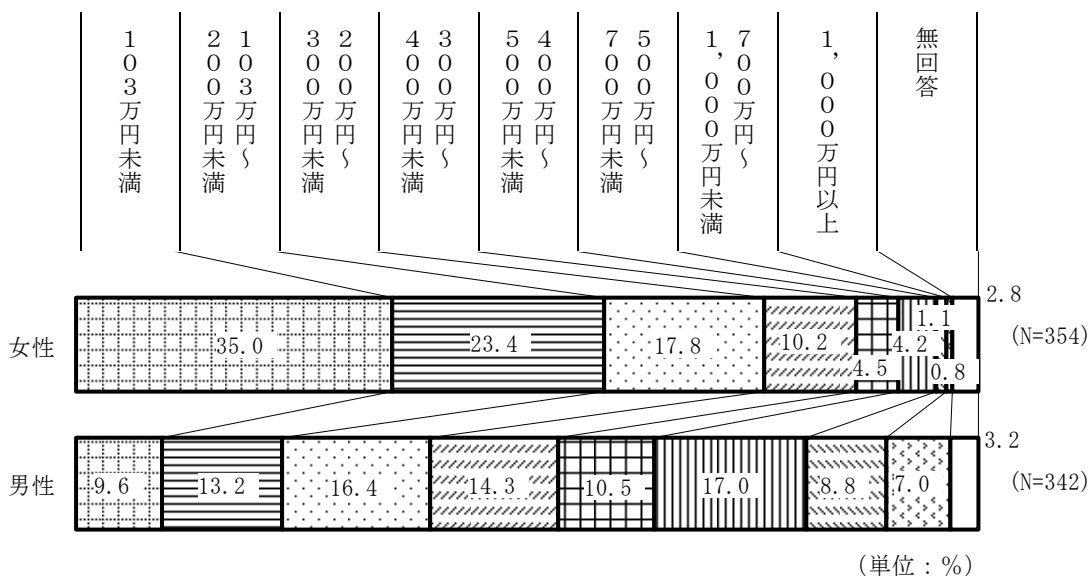
参考表 性別・職業別 1週間の労働時間

		対象者数(人)	20時間未満	20~30時間未満	30~40時間未満	40~50時間未満	50~60時間未満	60時間以上	無回答
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	0.8	3.2	23.4	50.0	14.5	6.5	1.6
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	1.9	24.1	42.6	24.1	5.6	1.9	0.0
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	103	47.6	37.9	10.7	1.9	0.0	1.9	0.0
	自営業主・経営者(農林業を含む)	16	37.5	12.5	25.0	6.3	12.5	6.3	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	33	18.2	21.2	12.1	24.2	12.1	9.1	3.0
	内職など家庭でできる仕事	11	45.5	27.3	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1
	その他	13	15.4	23.1	30.8	23.1	0.0	0.0	7.7
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	1.5	1.0	12.4	40.8	28.9	14.4	1.0
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	23	17.4	13.0	34.8	17.4	0.0	8.7	8.7
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	32	31.3	28.1	15.6	6.3	9.4	0.0	9.4
	自営業主・経営者(農林業を含む)	64	10.9	7.8	14.1	25.0	23.4	17.2	1.6
	自営業の手伝い、家族従業員	10	10.0	0.0	10.0	40.0	30.0	10.0	0.0
	内職など家庭でできる仕事	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	10	10.0	10.0	10.0	30.0	10.0	0.0	30.0

(%)

問9 あなたの昨年1年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。（○は1つ）

図1-4 昨年1年間の収入（税込み）



■女性の場合は、「200万円未満」が60%弱

女性の場合をみると、最も割合の高いのは「103万円未満」で35.0%、3人に1人の割合である。ついで、「103万円～200万円未満」が23.4%、「200万円～300万円未満」が17.8%と続く。

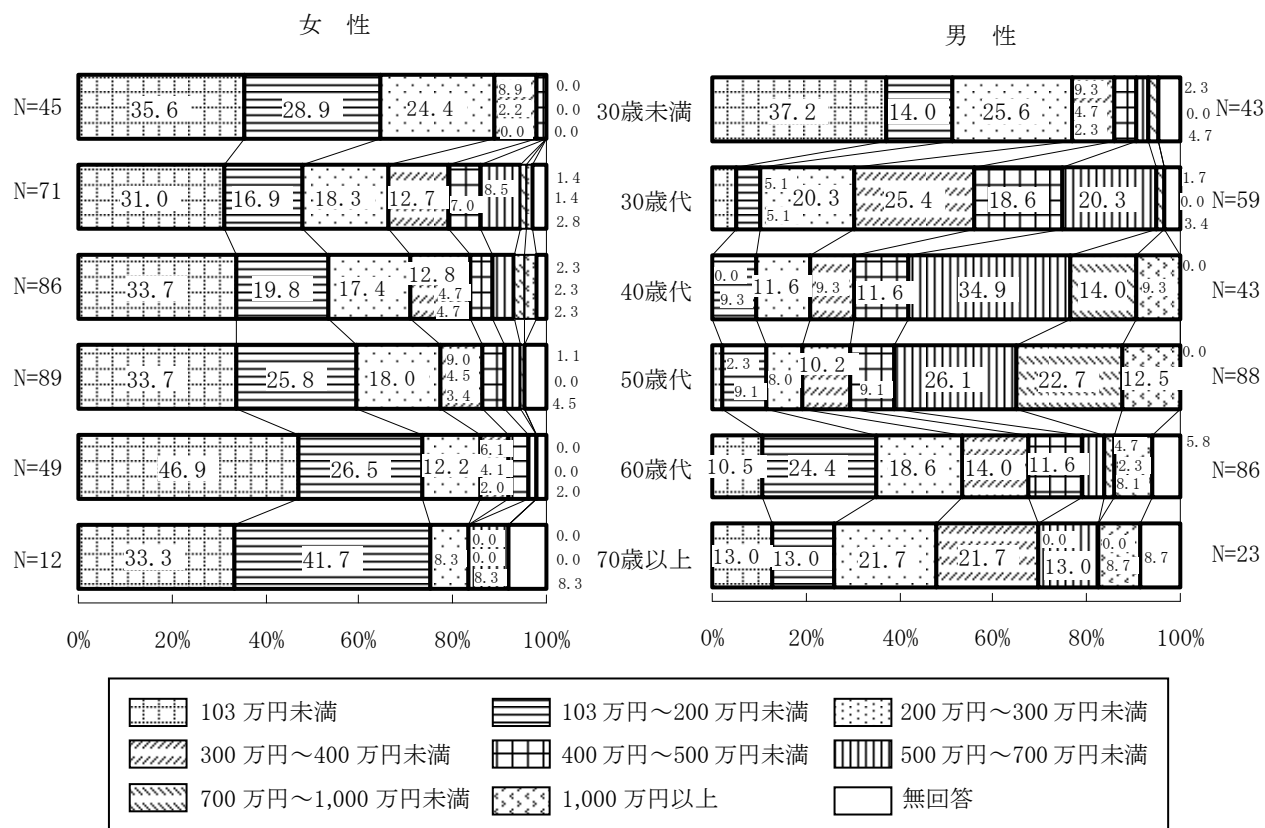
男性の場合は、割合の高い順にみると「500万円～700万円未満」17.0%、「200万円～300万円未満」16.4%、「300万円～400万円未満」14.3%、「103万円～200万円未満」13.2%であり、各層に分散している。

■男女の収入差は大きい

男女で収入を比較すると、「200万円未満」の収入が女性の場合は58.4%であるのに対して、男性は22.8%。また、「500万円以上」の収入が女性の場合は6.1%であるのに対して、男性は32.8%となっている。

性別・年齢層別

図1-5 性別・年齢層別 昨年1年間の収入(税込み)



参考表 性別・年齢層別 昨年1年間の収入(税込み)

		対象者数 (人)	1 0 3 万円 未満	2 0 0 万円 未満	3 0 0 万円 未満	4 0 0 万円 未満	5 0 0 万円 未満	7 0 0 万円 未満	1, 0 0 0 万円 未満	1, 0 0 0 万円 以上	無 回 答
女性	30歳未満	45	35.6	28.9	24.4	8.9	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	71	31.0	16.9	18.3	12.7	7.0	8.5	1.4	1.4	2.8
	40歳代	86	33.7	19.8	17.4	12.8	4.7	4.7	2.3	2.3	2.3
	50歳代	89	33.7	25.8	18.0	9.0	4.5	3.4	1.1	0.0	4.5
	60歳代	49	46.9	26.5	12.2	6.1	4.1	2.0	0.0	0.0	2.0
	70歳以上	12	33.3	41.7	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3
男性	30歳未満	43	37.2	14.0	25.6	9.3	4.7	2.3	2.3	0.0	4.7
	30歳代	59	5.1	5.1	20.3	25.4	18.6	20.3	1.7	0.0	3.4
	40歳代	43	0.0	9.3	11.6	9.3	11.6	34.9	14.0	9.3	0.0
	50歳代	88	2.3	9.1	8.0	10.2	9.1	26.1	22.7	12.5	0.0
	60歳代	86	10.5	24.4	18.6	14.0	11.6	4.7	2.3	8.1	5.8
	70歳以上	23	13.0	13.0	21.7	21.7	0.0	13.0	0.0	8.7	8.7

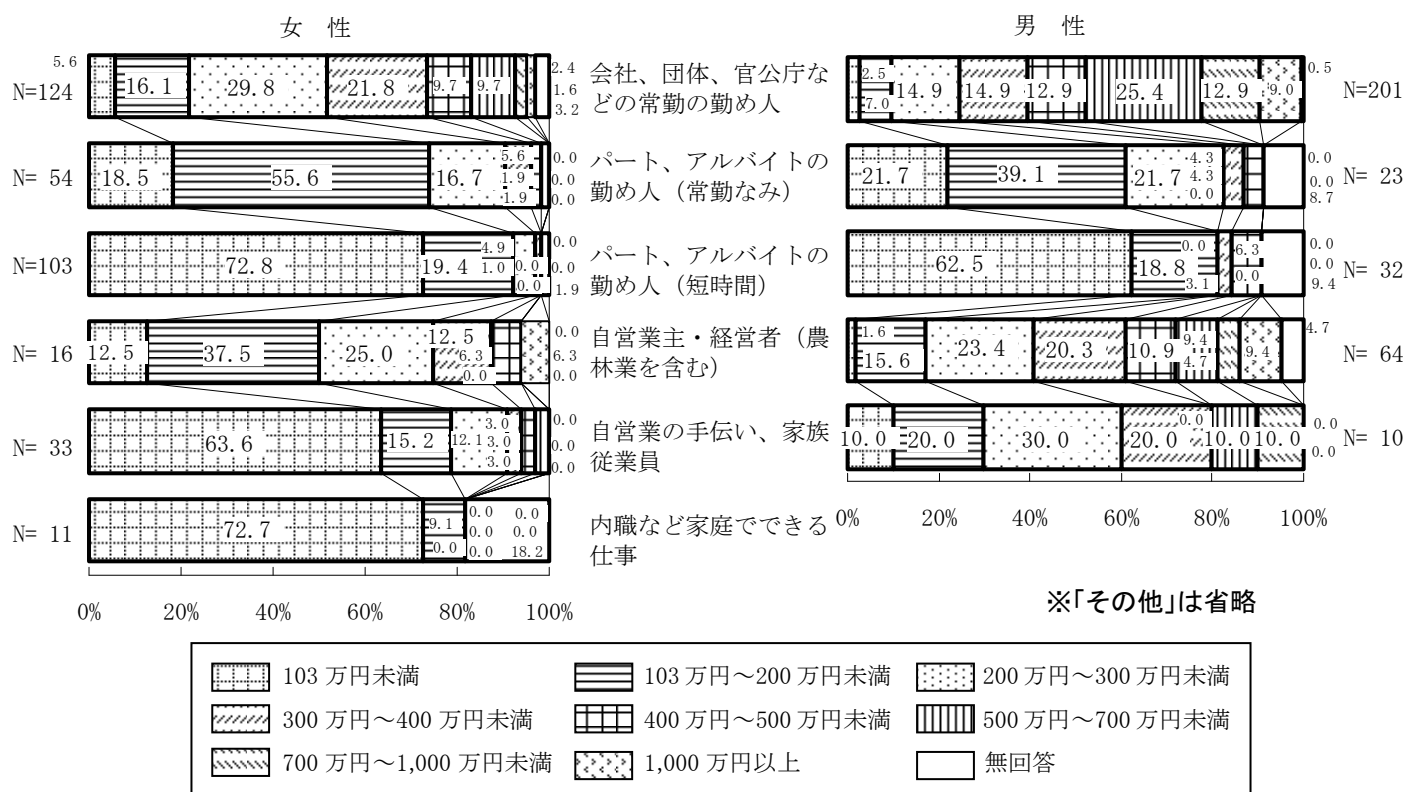
(%)

◆女性の場合は、すべての年齢層で「103万円未満」の割合が30%以上であり、特に「60歳代」では46.9%である。

◆男性の場合は、「103万円未満」の割合は、30歳未満で突出して高く、37.2%である。60歳代、70歳以上でも10%を超えている。「700万円～1,000万円未満」の割合は、50歳代で20%を超えている。

性別・職業別

図1-6 性別・職業別 昨年1年間の収入(税込み)



参考表 性別・職業別 昨年1年間の収入(税込み)

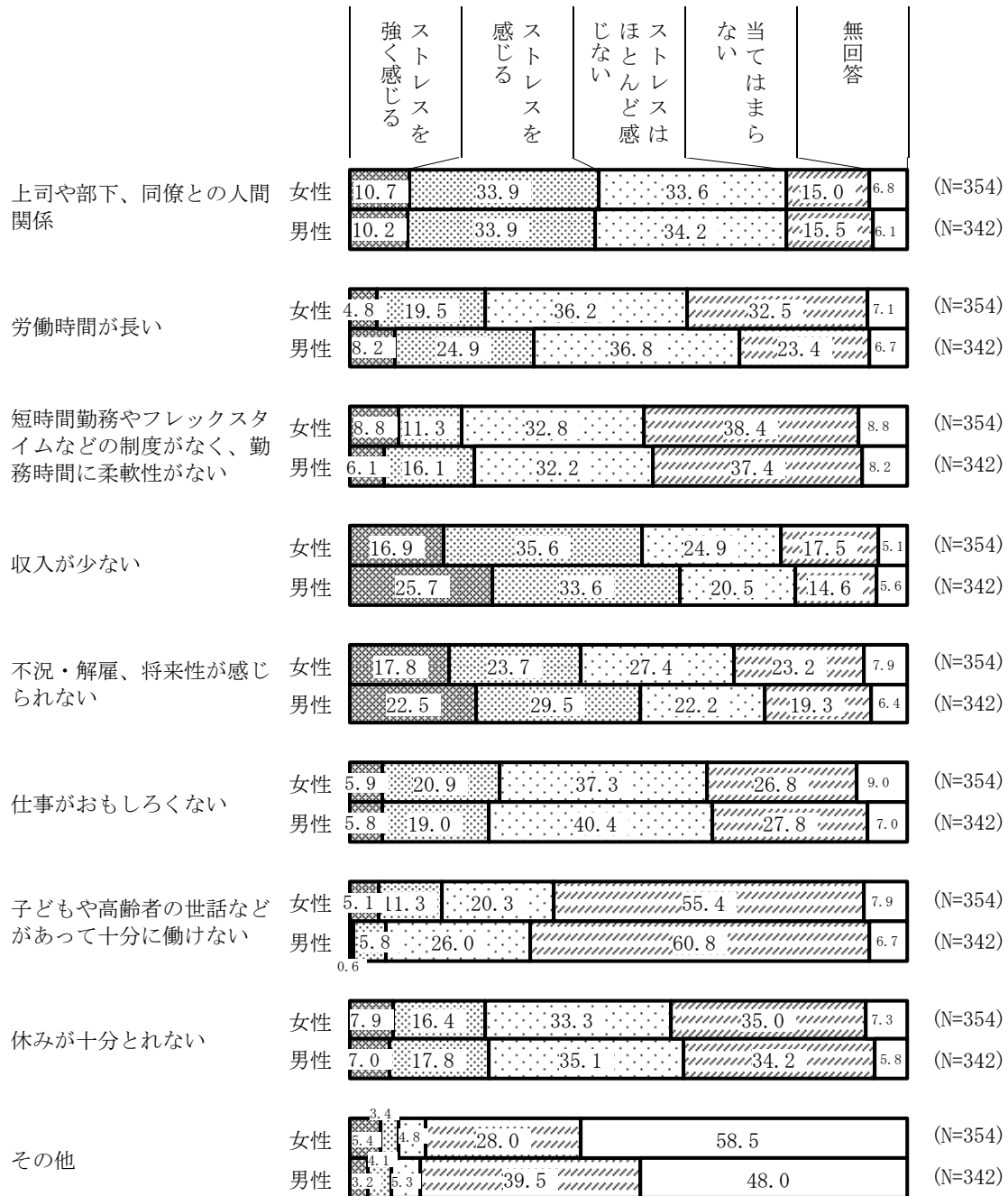
		対象者数(人)	103万円未満	103万円～200万円未満	200万円～300万円未満	300万円～400万円未満	400万円～500万円未満	500万円～700万円未満	700万円～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	5.6	16.1	29.8	21.8	9.7	9.7	2.4	1.6	3.2
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	18.5	55.6	16.7	5.6	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	103	72.8	19.4	4.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
	自営業主・経営者(農林業を含む)	16	12.5	37.5	25.0	12.5	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	33	63.6	15.2	12.1	3.0	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0
	内職など家庭のできる仕事	11	72.7	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2
	その他	13	7.7	7.7	30.8	15.4	7.7	7.7	7.7	0.0	15.4
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	2.5	7.0	14.9	14.9	12.9	25.4	12.9	9.0	0.5
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	23	21.7	39.1	21.7	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	8.7
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	32	62.5	18.8	0.0	3.1	6.3	0.0	0.0	0.0	9.4
	自営業主・経営者(農林業を含む)	64	1.6	15.6	23.4	20.3	10.9	9.4	4.7	9.4	4.7
	自営業の手伝い、家族従業員	10	10.0	20.0	30.0	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0
	内職など家庭のできる仕事	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	10	10.0	20.0	30.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

(%)

◆どの働き方においても、女性の収入の方が男性よりも低い傾向がある。

問10 あなたは、いまの仕事でストレス（不安や悩み）を感じていますか。①～⑨の項目ごとに当てはまる番号に○をしてください。（①～⑨の項目ごとに○は1つずつ）

図1-7 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い



(単位：%)

■最もストレスになるのは「収入が少ない」こと

男女ともに<ストレスを感じる>（「ストレスを強く感じる」＋「ストレスを感じる」の合計）割合が最も高いのは「収入が少ない」（女性 52.5%・男性 59.3%）である。ついで、「上司や部下、同僚との人間関係」（女性 44.6%・男性 44.1%）、「不況・解雇、将来性が感じられない」（女性 41.5%・男性 52.0%）である。

■男女で差があるのは、「将来への不安」と「子どもや高齢者の世話」

「不況・解雇、将来性が感じられない」では、男性の方が女性より 10.5 ポイント高くなっている。

「子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない」では、女性の方が男性より 10 ポイント高くなっている。

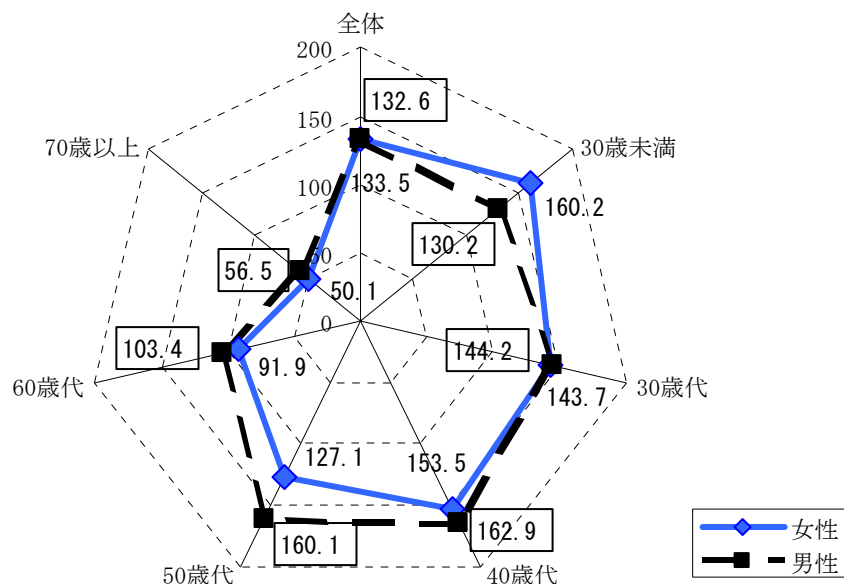
性別・年齢層別

仕事に関して、どのようなことにストレス（悩みや不安）を感じているか、ストレスの強さを属性別で一覧するために、対象とする「働いている女性354人、男性342人」について、以下の定義で数値を算出し、レーダーチャートで表示して概観する。

ストレス強度係数

仕事に関するストレスについて本報告書では、ストレスの強さをどのように感じているかを、選択肢「ストレスを強く感じる」の数値（％）× 3、選択肢「ストレスを感じる」の数値（％）× 2、選択肢「ストレスはほとんど感じない」の数値（％）× 1 の合計値と定義し、「ストレス強度係数」と呼ぶ。

図1－8 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い「上司や部下、同僚との人間関係」



※ 内の数値は男性

図1-9 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い「労働時間が長い」

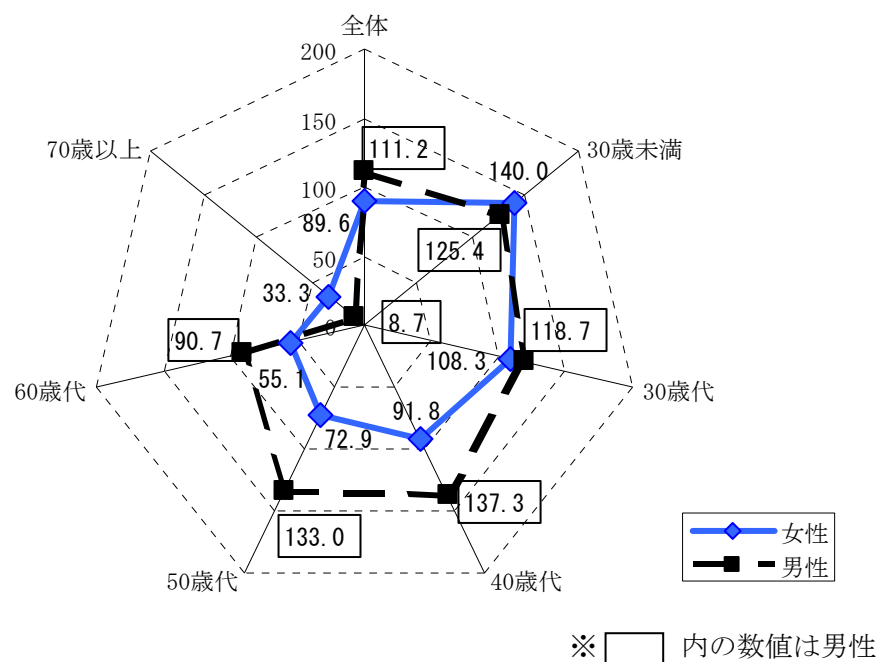


図1-10 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い
「短時間勤務やフレックスタイムなどの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない」

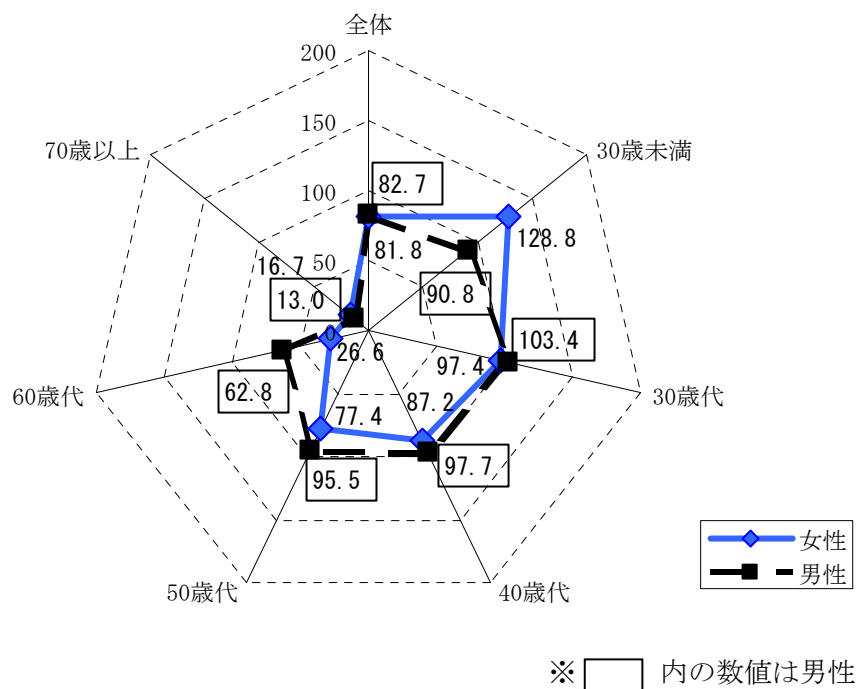


図1-11 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い「収入が少ない」

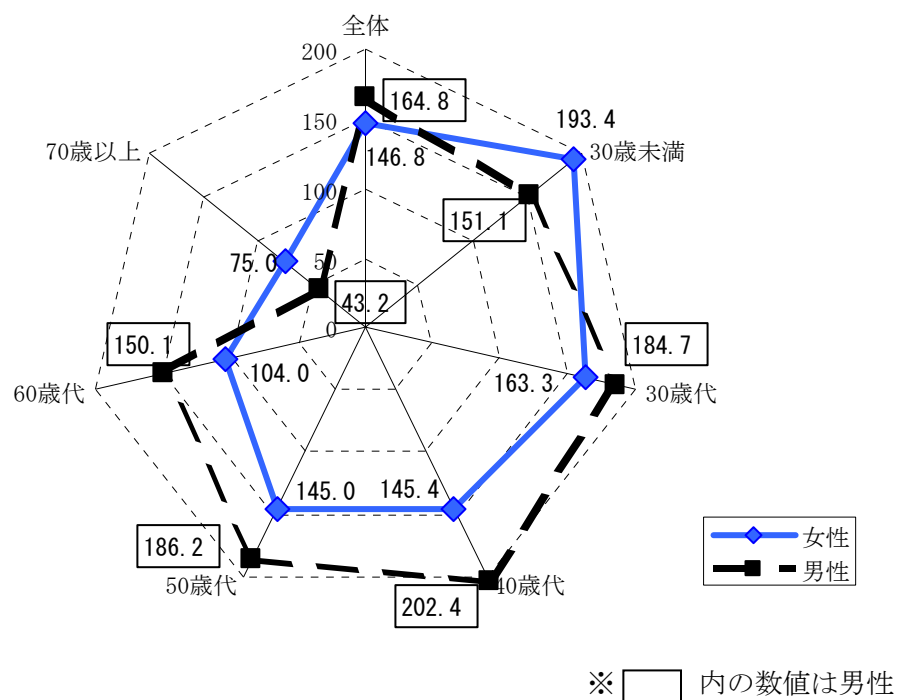


図1-12 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い
「不況・解雇、将来性が感じられない」

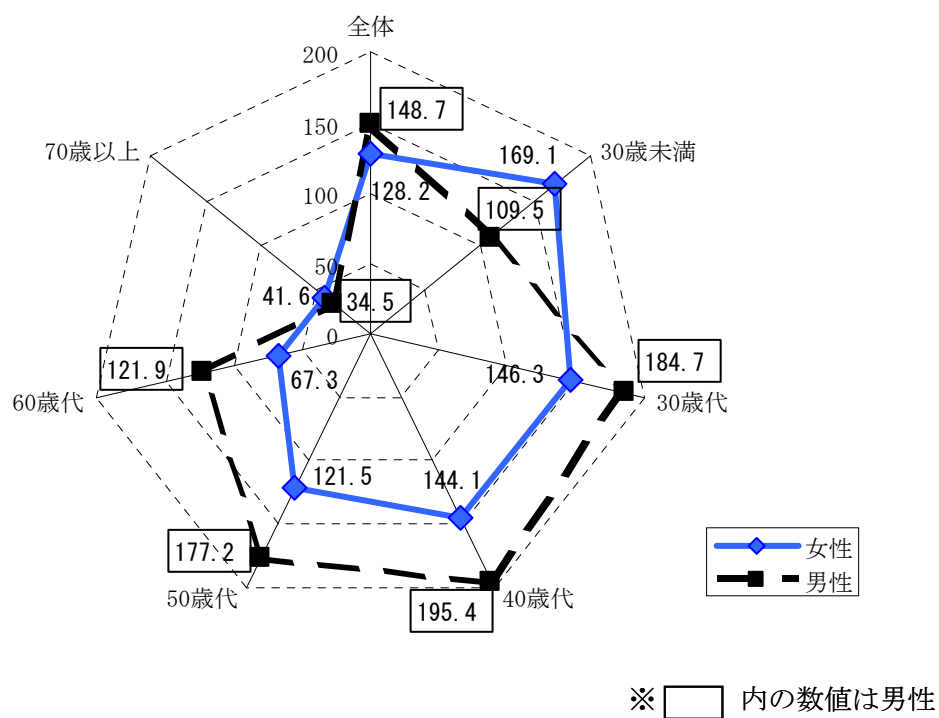


図1-13 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い「仕事がおもしろくない」

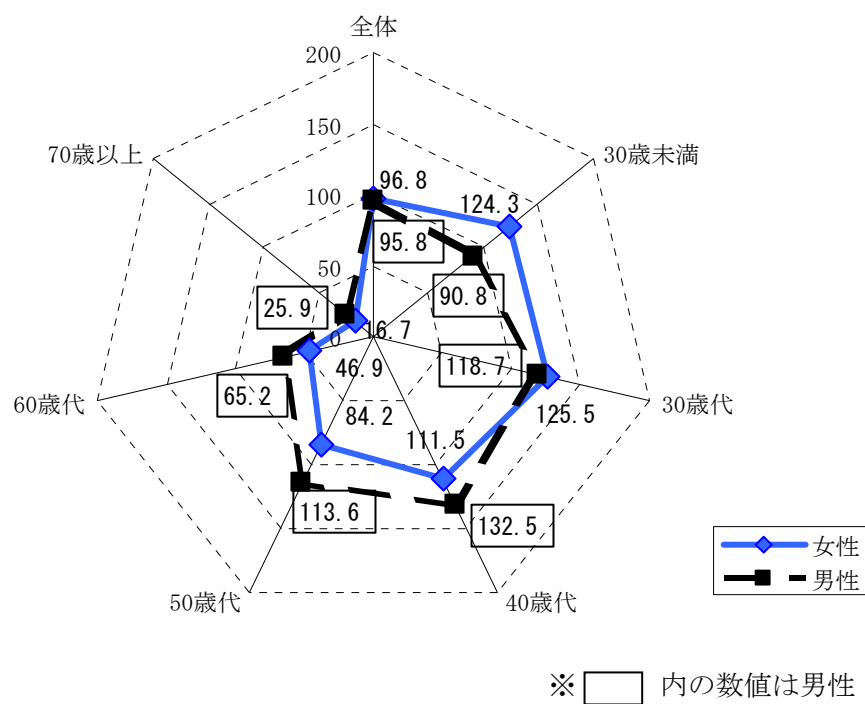


図1-14 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い
「子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない」

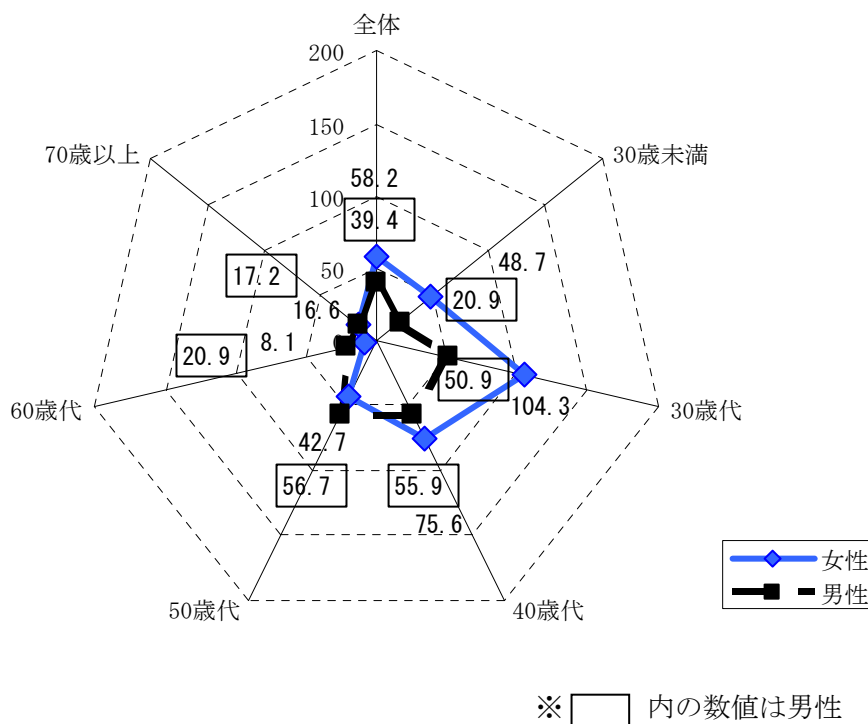
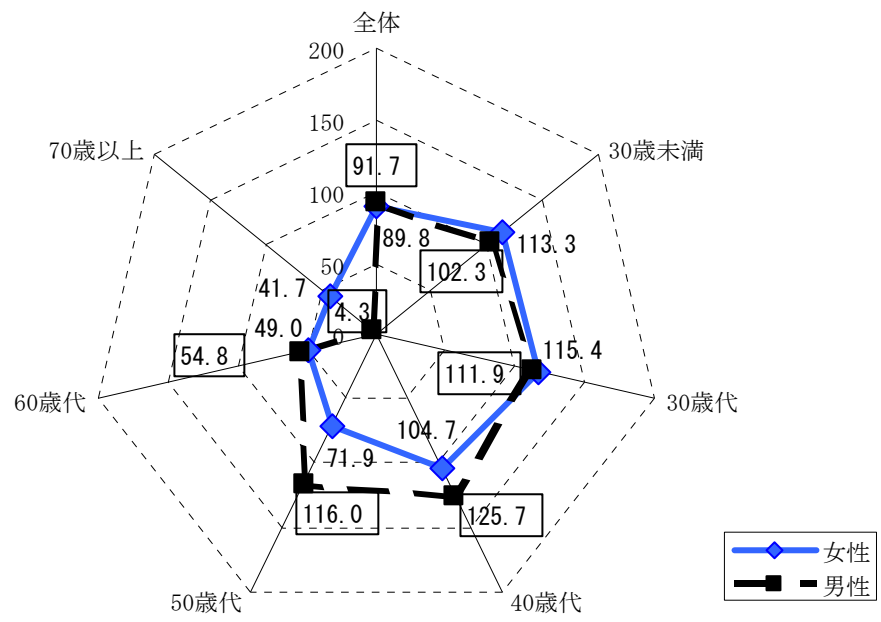


図1-15 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い「休みが十分とれない」



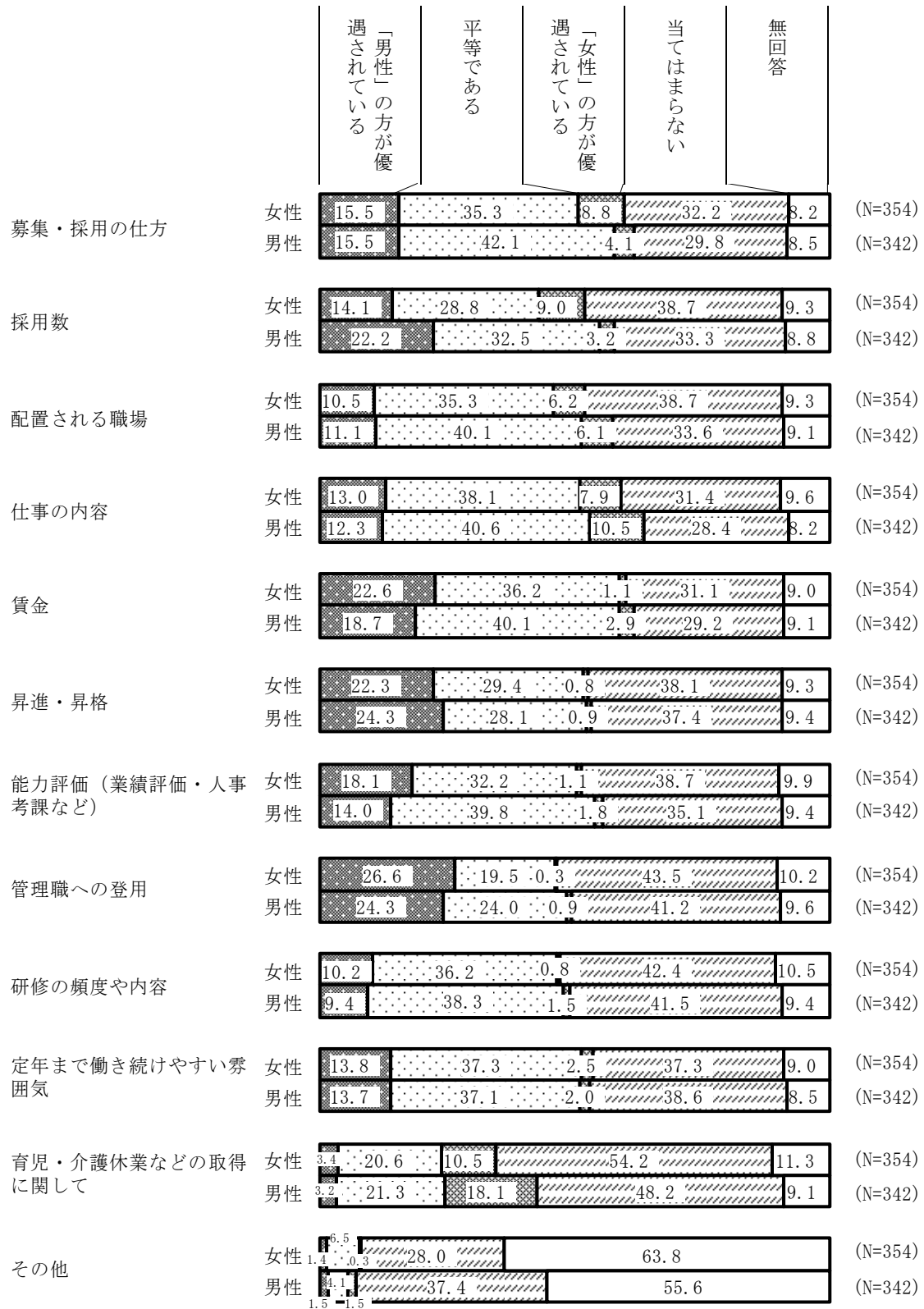
※ 内の数値は男性

表1-1 性別・年齢層別・就業形態別 仕事に関するストレス強度係数

			対象者数（人）	上司や部下、同僚との人間関係	労働時間が長い	短時間勤務などの制度がなく勤務時間に柔軟性がない	収入が少ない	不況・解雇、将来性が感じられない	仕事がおもしろくない	子どもや高齢者の世話などがあつて十分に働けない	休みが十分とれない
全 体			696	133.2	100.2	82.2	155.8	138.4	96.5	49.0	90.9
女 性			354	133.5	89.6	81.8	146.8	128.2	96.8	58.2	89.8
男 性			342	132.6	111.2	82.7	164.8	148.7	95.8	39.4	91.7
年 齢	女 性	30 歳未満	45	160.2	140.0	128.8	193.4	169.1	124.3	48.7	113.3
		30 歳代	71	143.7	108.3	97.4	163.3	146.3	125.5	104.3	115.4
		40 歳代	86	153.5	91.8	87.2	145.4	144.1	111.5	75.6	104.7
		50 歳代	89	127.1	72.9	77.4	145.0	121.5	84.2	42.7	71.9
		60 歳代	49	91.9	55.1	26.6	104.0	67.3	46.9	8.1	49.0
		70 歳以上	12	50.1	33.3	16.7	75.0	41.6	16.7	16.6	41.7
	男 性	30 歳未満	43	130.2	125.4	90.8	151.1	109.5	90.8	20.9	102.3
		30 歳代	59	144.2	118.7	103.4	184.7	184.7	118.7	50.9	111.9
		40 歳代	43	162.9	137.3	97.7	202.4	195.4	132.5	55.9	125.7
		50 歳代	88	160.1	133.0	95.5	186.2	177.2	113.6	56.7	116.0
		60 歳代	86	103.4	90.7	62.8	150.1	121.9	65.2	20.9	54.8
		70 歳以上	23	56.5	8.7	13.0	43.2	34.5	25.9	17.2	4.3
就 業 形 態	女 性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	168.5	128.2	119.4	163.7	142.6	113.0	49.2	117.7
		パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	54	157.4	111.0	105.7	174.1	159.1	112.9	64.9	101.9
		パート、アルバイトの勤め人（短時間）	103	124.3	50.5	56.2	137.7	122.2	91.2	63.1	63.0
		自営業主・経営者（農林業を含む）	16	75.1	50.2	25.0	100.0	81.5	50.0	50.3	62.5
		自営業の手伝い、家族従業員	33	63.8	63.7	39.5	118.1	96.9	63.7	63.8	82.0
		内職など家庭でできる仕事	11	0.0	54.6	9.1	136.5	36.4	54.6	81.9	63.7
	男 性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	162.1	135.1	104.6	183.7	170.7	118.1	47.3	111.1
		パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	23	126.1	82.4	60.6	121.5	138.9	65.1	30.3	65.0
		パート、アルバイトの勤め人（短時間）	32	100.0	59.4	65.6	122.1	90.6	90.7	28.2	50.1
		自営業主・経営者（農林業を含む）	64	76.6	89.1	47.0	157.9	137.4	59.5	34.5	83.0
		自営業の手伝い、家族従業員	10	80.0	70.0	50.0	110.0	80.0	60.0	20.0	60.0

問11 あなたの今の職場では、性別によって、対応や評価に差があると思いますか。あなたの実感に近いものを選んで番号に○をつけてください。
(①～⑫の項目ごとに○は1つずつ)

図1-16 職場の中の性別による対応や評価に対する実感



(単位：%)

■女性は、「管理職への登用」「賃金」「昇進・昇格」で『男性』優遇感が高い

「平等である」の割合が最も高いのは、女性は「仕事の内容」で38.1%。男性は「募集・採用の仕方」で42.1%である。

女性の場合は、『男性』の方が優遇されている」割合の高いものからみていくと、「管理職への登用」(26.6%)、「賃金」(22.6%)、「昇進・昇格」(22.3%)の順である。

その一方で、「育児・介護休業などの取得に関して」(10.5%)、「採用数」(9.0%)、「募集・採用の仕方」(8.8%)、「仕事の内容」(7.9%)、「配置される職場」(6.2%)では、『女性』の方が優遇されている」が約6～10%である。

■男性は、「昇進・昇格」「管理職への登用」「採用数」で『男性』優遇感が高い

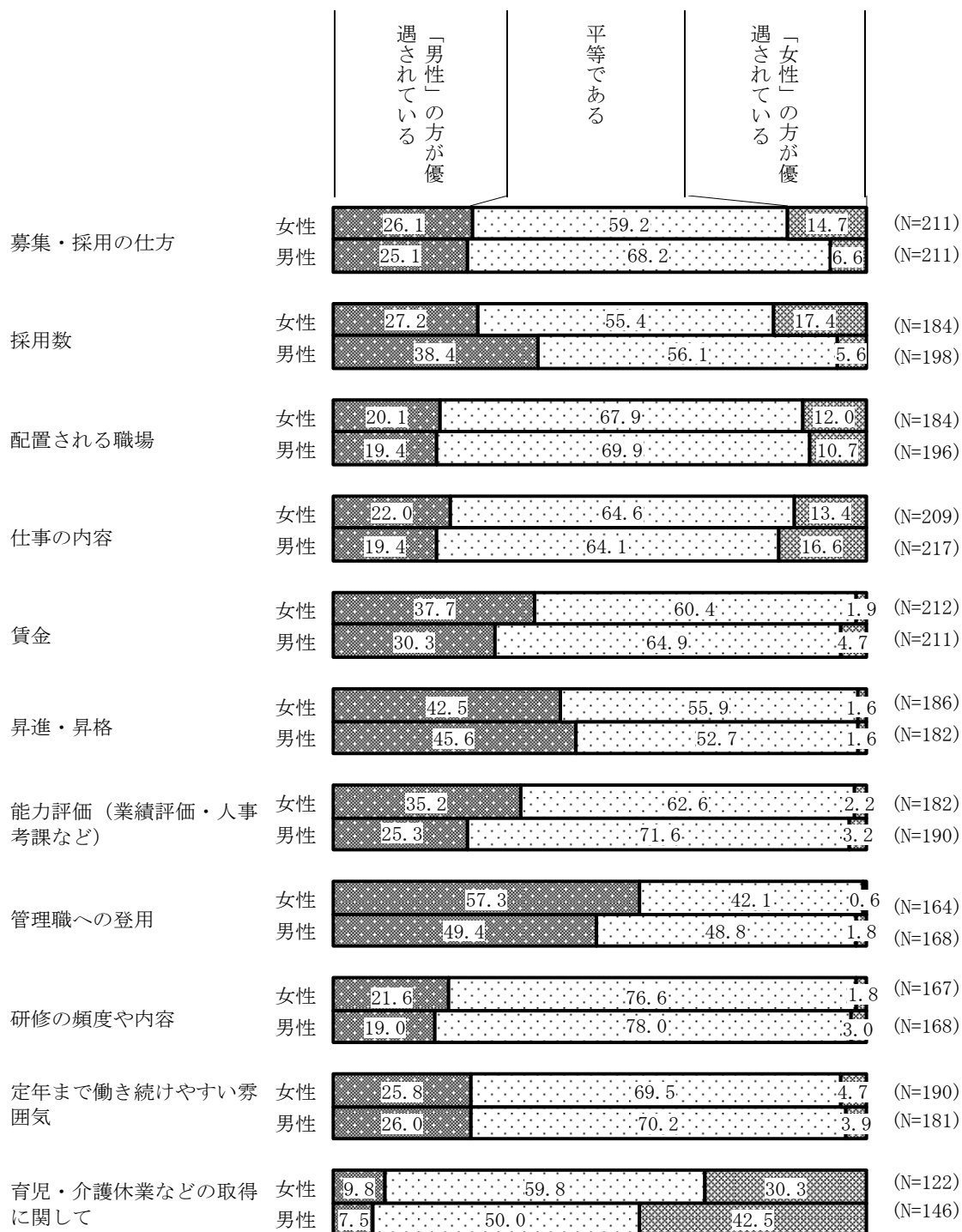
男性の場合は、『男性』の方が優遇されている」割合の高いものからみていくと、「昇進・昇格」、「管理職への登用」(各24.3%)、「採用数」(22.2%)の順である。

その一方で、「育児・介護休業などの取得に関して」と「仕事の内容」で『女性』の方が優遇されている」の割合がそれぞれ18.1%、10.5%となっている。

[参照]

図1-17 職場の中の性別による対応や評価に対する実感

＜『男性』の方が優遇されている』+『平等である』+『女性』の方が優遇されている』を 100%とした場合＞



(単位：%)

性別・年齢層別

「『男性』の方が優遇されている」+「平等である」+「『女性』の方が優遇されている」を 100%とした場合の、「『男性』の方が優遇されている」の割合でグラフを作成した。

図1-18 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合 「募集・採用の仕方」

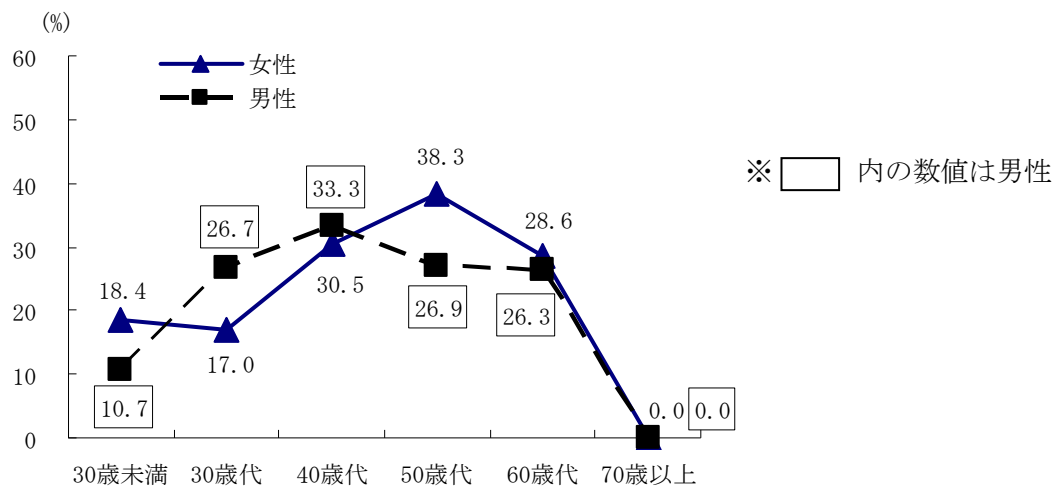


図1-19 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合 「採用数」

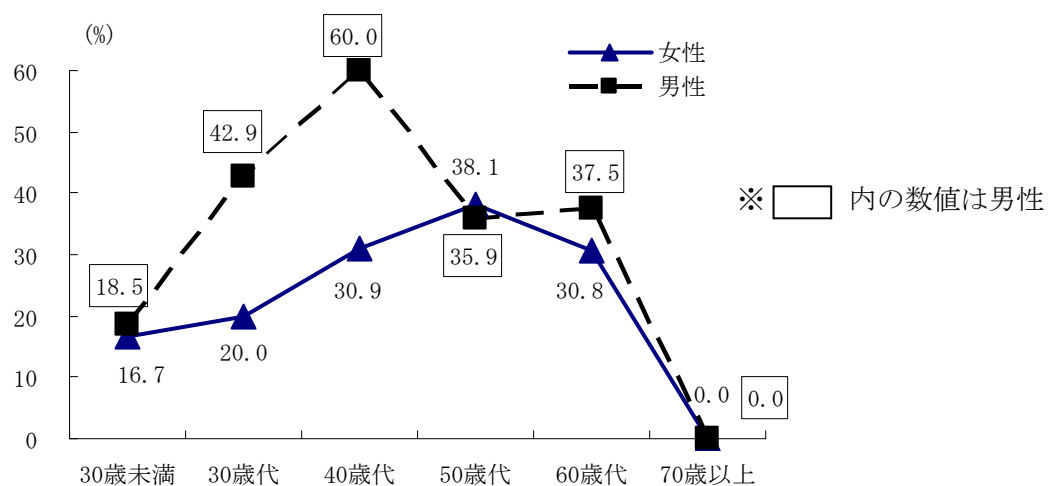


図1-20 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合 「配置される職場」

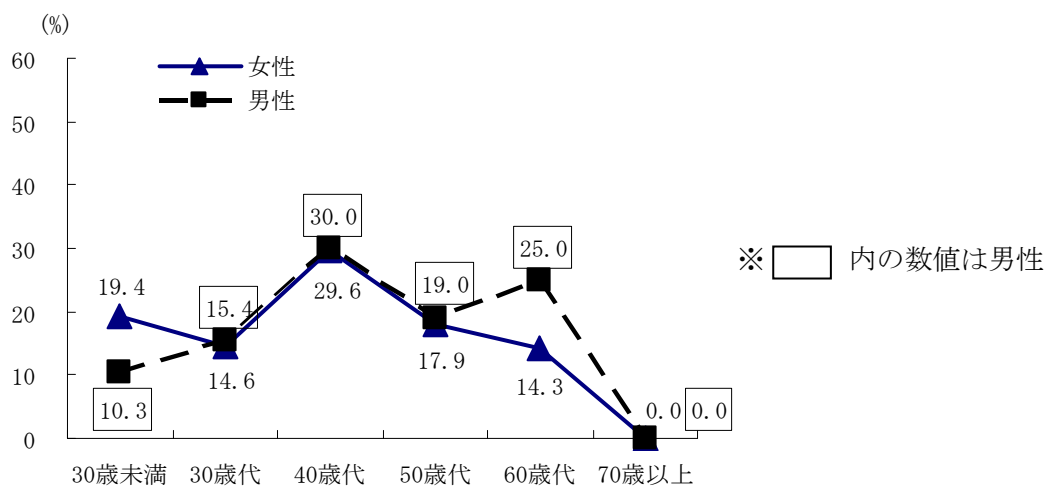


図1-21 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「仕事の内容」

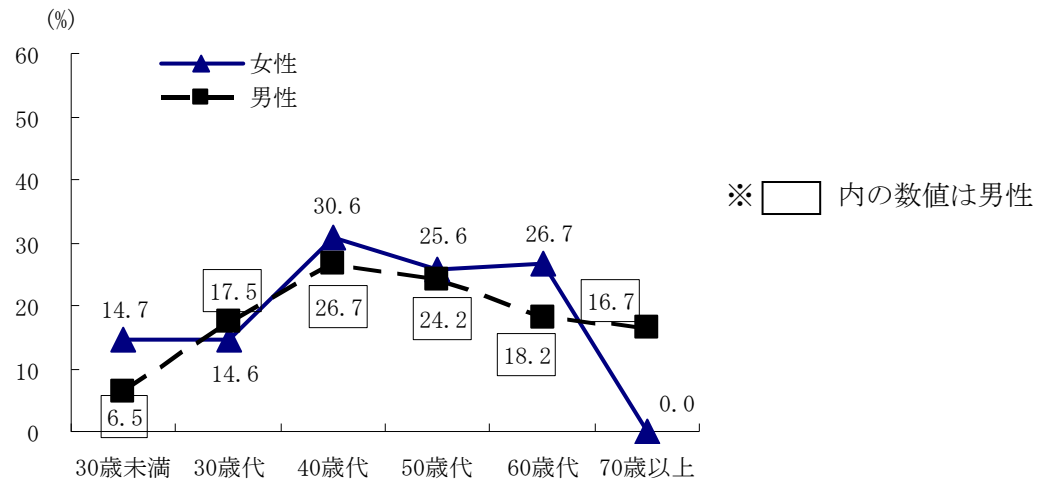


図1-22 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「賃金」

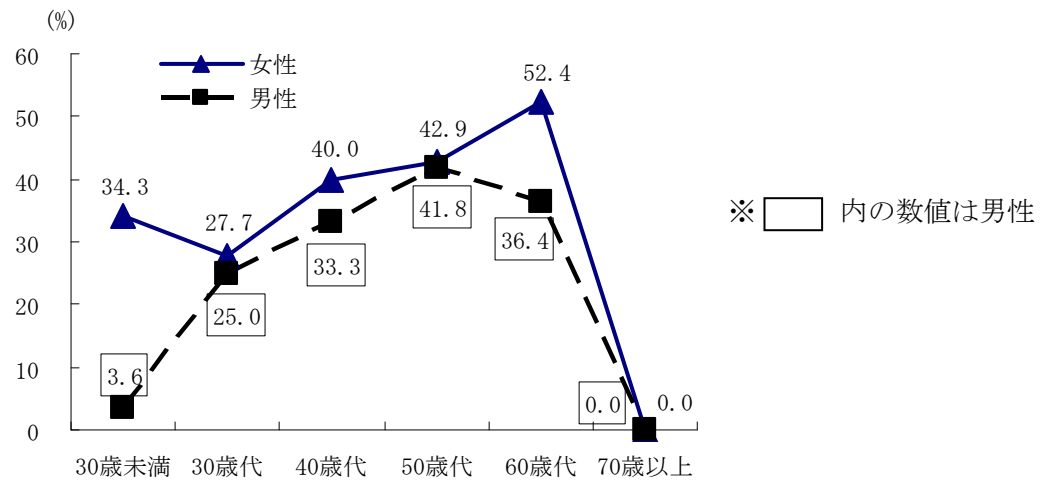


図1-23 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「昇進・昇格」

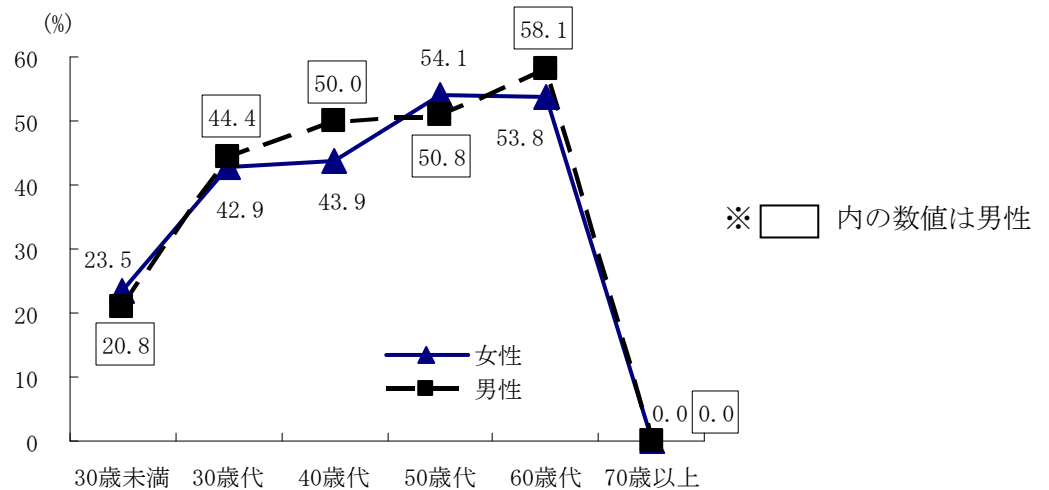


図1-24 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「能力評価(業績評価・人事考課など)」

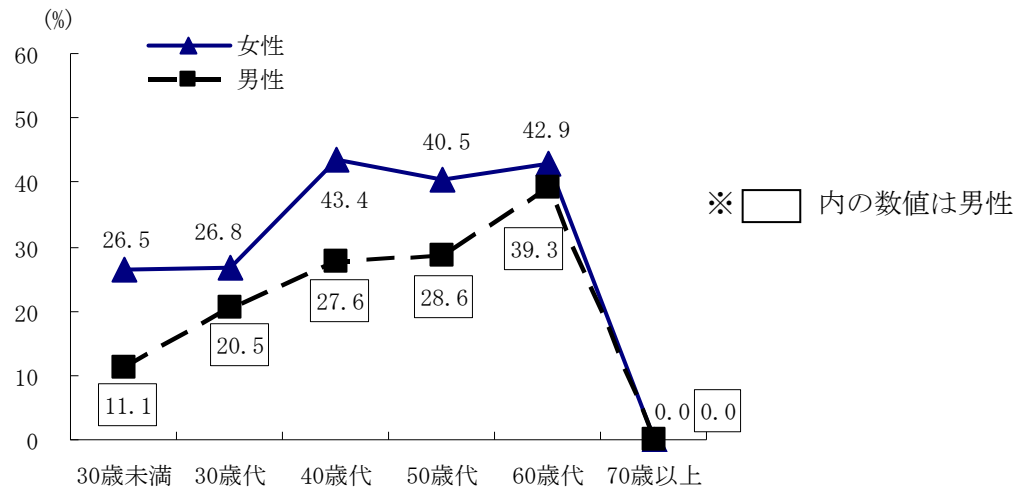


図1-25 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「管理職への登用」

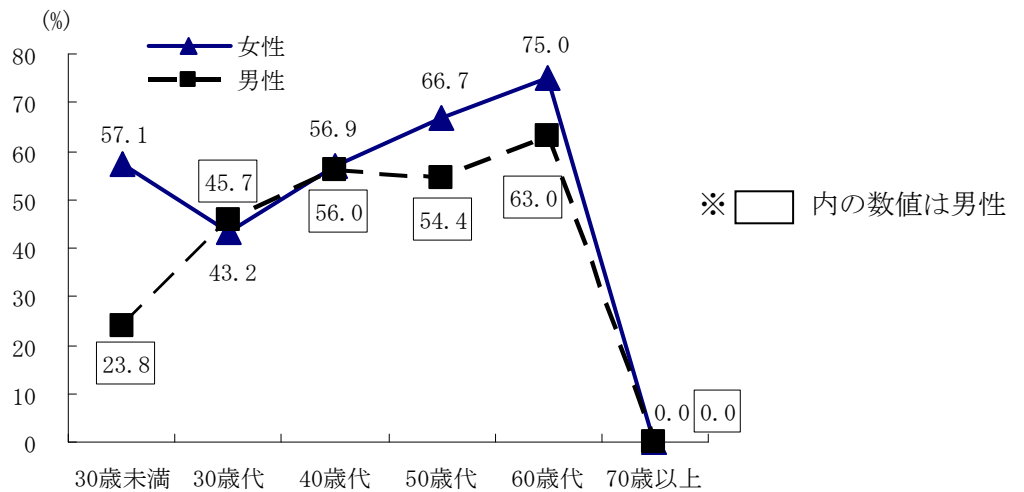


図1-26 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「研修の頻度や内容」

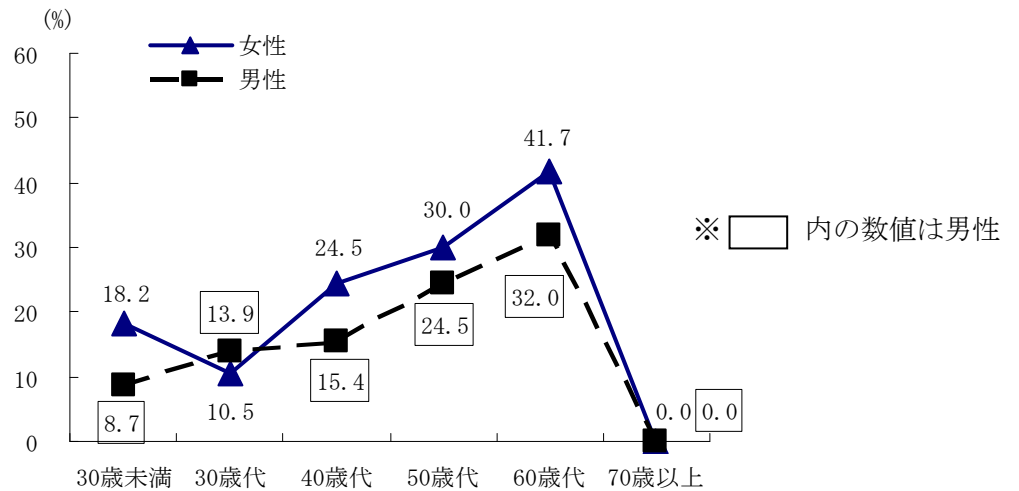


図1-27 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合 「定年まで働き続けやすい雰囲気」

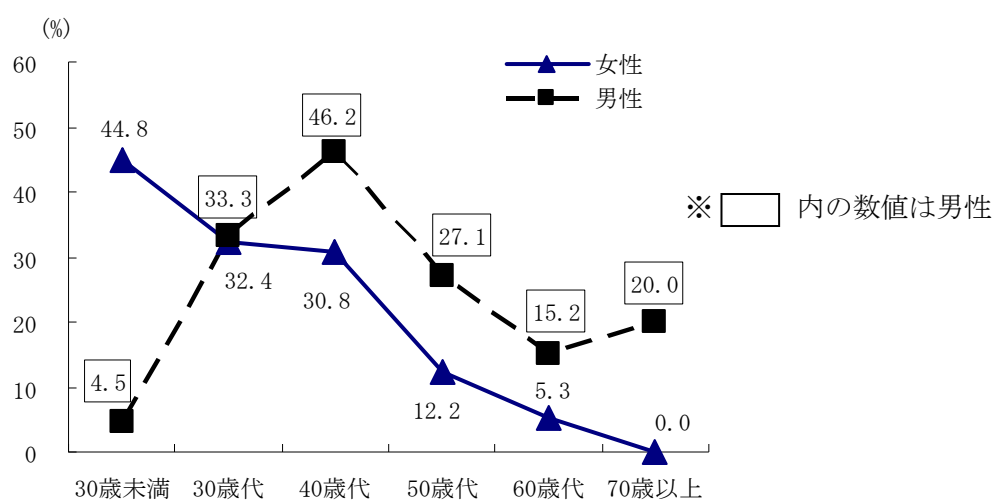


図1-28 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合 「育児・介護休業などの取得に関して」

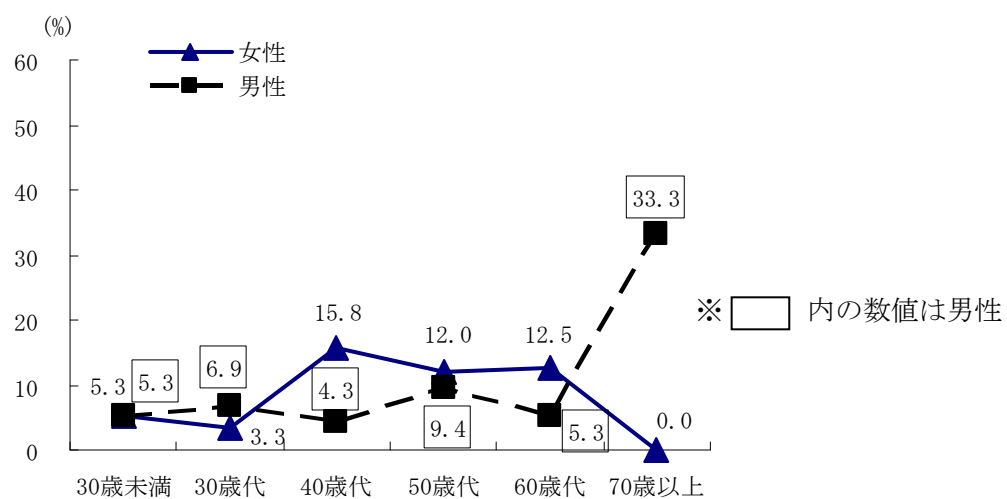


表1-2 性別・年齢層別・就業形態別 職場の中の性別による対応や評価に対する実感
すべての選択肢から「男性の方が優遇されている」と回答した割合

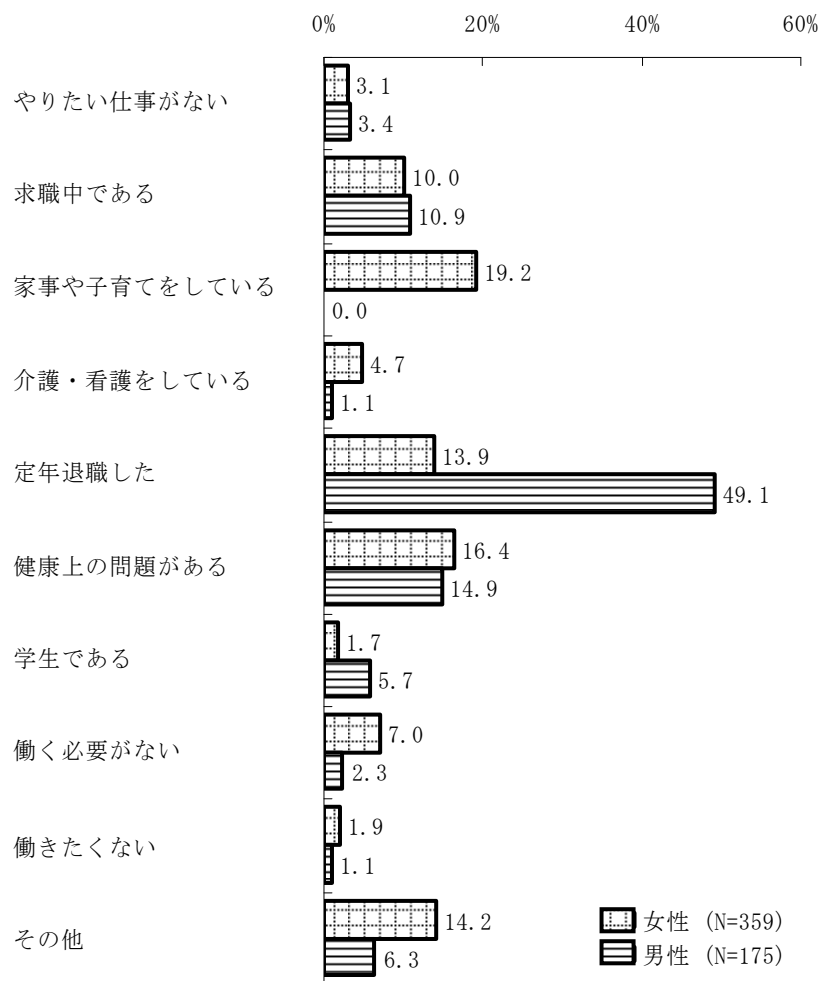
			対象者数(人)	募集・採用の仕方	採用数	配置される職場	仕事の内容	賃金	昇進・昇格	能力評価(業績評価・人事考課など)	管理職への登用	研修の頻度や内容	定年まで働き続けやすい雰囲気	育児・介護休業などの取得に関して
全 体			696	15.5	18.1	10.8	12.6	20.7	23.3	16.1	25.4	9.8	13.8	3.3
女 性			354	15.5	14.1	10.5	13.0	22.6	22.3	18.1	26.6	10.2	13.8	3.4
男 性			342	15.5	22.2	11.1	12.3	18.7	24.3	14.0	24.3	9.4	13.7	3.2
年 齢	女性	30 歳未満	45	15.6	11.1	13.3	11.1	26.7	17.8	20.0	35.6	13.3	28.9	2.2
		30 歳代	71	11.3	11.3	8.5	9.9	18.3	25.4	15.5	22.5	5.6	16.9	1.4
		40 歳代	86	20.9	19.8	18.6	22.1	25.6	29.1	26.7	33.7	14.0	18.6	7.0
		50 歳代	89	20.2	18.0	7.9	12.4	23.6	22.5	16.9	24.7	10.1	6.7	3.4
		60 歳代	49	8.2	8.2	4.1	8.2	22.4	14.3	12.2	18.4	10.2	2.0	2.0
		70 歳以上	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	30 歳未満	43	7.0	11.6	7.0	4.7	2.3	11.6	7.0	11.6	4.7	2.3	2.3
		30 歳代	59	20.3	30.5	10.2	11.9	16.9	27.1	13.6	27.1	8.5	20.3	3.4
		40 歳代	43	23.3	41.9	20.9	18.6	20.9	30.2	18.6	32.6	9.3	27.9	2.3
		50 歳代	88	20.5	26.1	13.6	18.2	31.8	35.2	20.5	35.2	14.8	18.2	5.7
		60 歳代	86	11.6	14.0	9.3	9.3	18.6	20.9	12.8	19.8	9.3	5.8	1.2
		70 歳以上	23	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3
就 業 形 態	女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	24.2	21.8	16.9	19.4	36.3	38.7	27.4	45.2	14.5	23.4	4.0
		パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	18.5	20.4	9.3	14.8	31.5	29.6	25.9	31.5	16.7	13.0	3.7
		パート、アルバイトの勤め人(短時間)	103	9.7	7.8	9.7	10.7	13.6	12.6	12.6	17.5	6.8	9.7	2.9
		自営業主・経営者(農林業を含む)	16	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3
		自営業の手伝い、家族従業員	33	12.1	9.1	3.0	3.0	9.1	3.0	6.1	3.0	3.0	3.0	3.0
		内職など家庭のできる仕事	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	20.9	30.3	13.9	14.9	22.9	32.8	17.9	31.3	10.4	18.4	3.5
		パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	23	17.4	26.1	17.4	17.4	17.4	26.1	13.0	26.1	17.4	17.4	8.7
		パート、アルバイトの勤め人(短時間)	32	0.0	0.0	3.1	0.0	3.1	9.4	3.1	6.3	6.3	0.0	0.0
		自営業主・経営者(農林業を含む)	64	7.8	10.9	6.3	10.9	14.1	10.9	10.9	17.2	6.3	9.4	3.1
		自営業の手伝い、家族従業員	10	10.0	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問6で、「仕事はしていない」と答えられた方におたずねします。

問12 あなたが仕事をしていないのはどうしてですか。(〇は1つ)

図1-29 仕事をしていない理由



■「家事や子育てをしている」を理由にあげたのは女性のみ

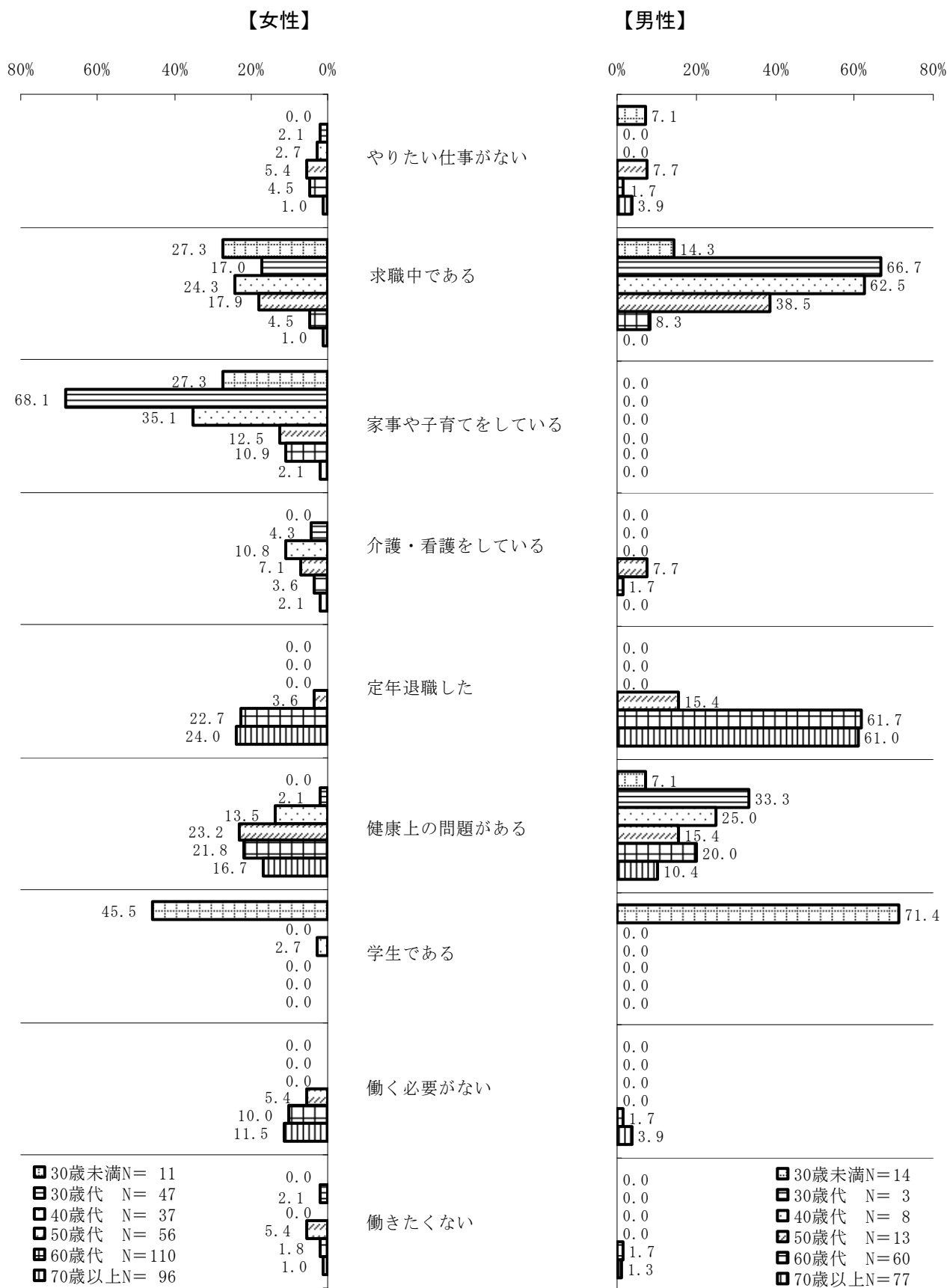
女性の場合の理由で最も高い割合のものは、「家事や子育てをしている」で、19.2%。この理由をあげた男性はいない。ついで、「健康上の問題がある」(16.4%)、「定年退職した」(13.9%)と続くが、どれも10%台である。

■男性の場合は、「定年退職した」が約半数

男性の場合は、「定年退職した」が49.1%で突出して高くなっている以外は、「健康上の問題がある」(14.9%)、「求職中である」(10.9%)が10%台、他は1ケタ台となっている。

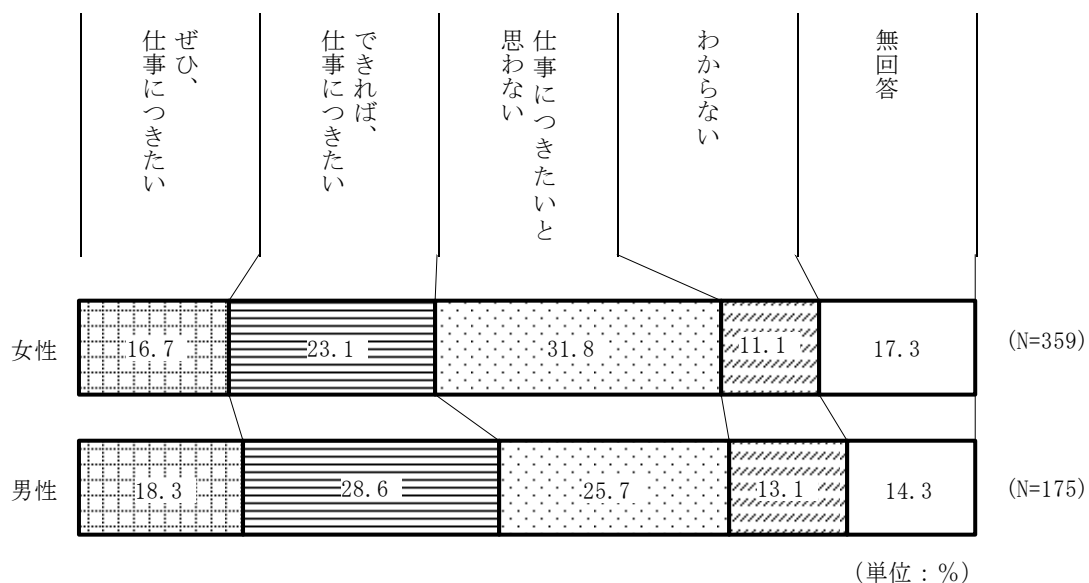
性別・年齢層別

図1-30 性別・年齢層別 働いていない理由



問 13 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

図1-31 今後の就労意向



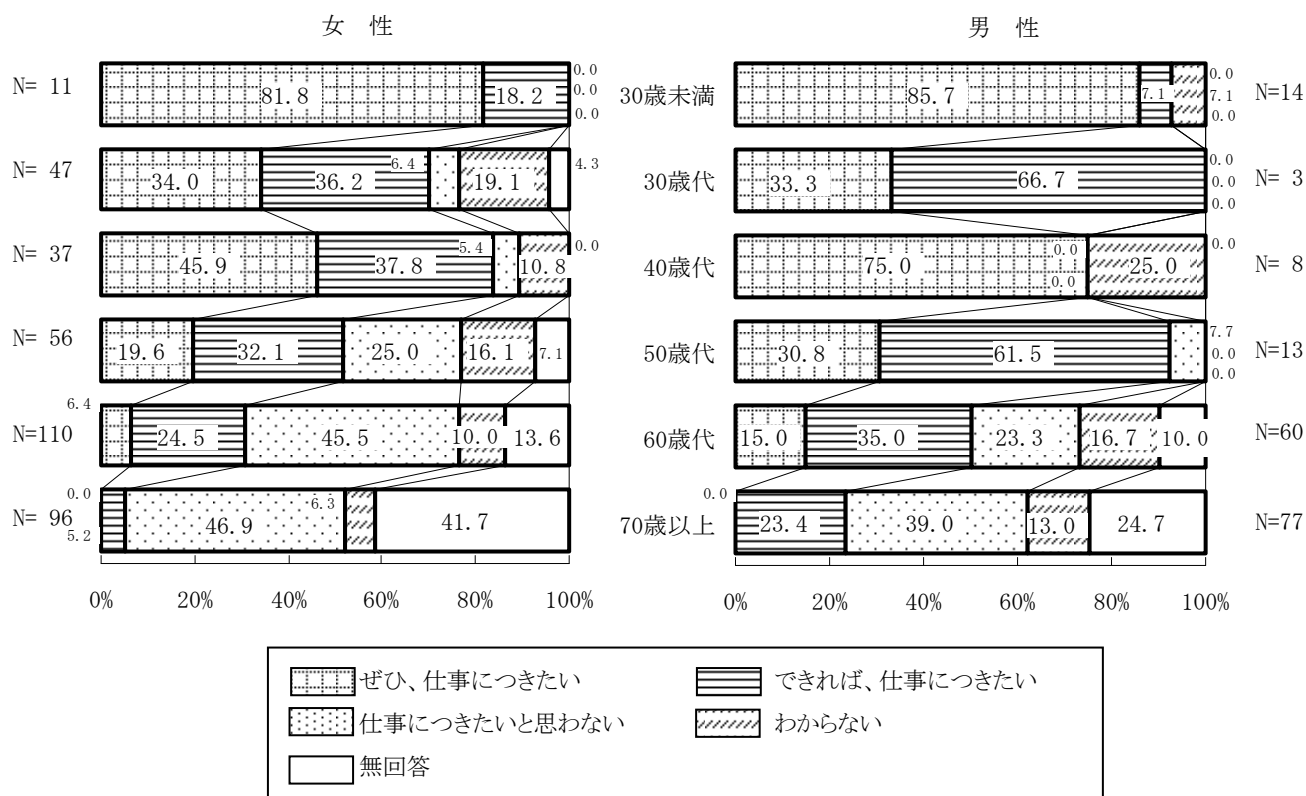
■男女ともに「仕事につきたい」が「仕事につきたいと思わない」を上回る

女性の場合、＜仕事につきたい＞（「ぜひ、仕事につきたい」＋「できれば、仕事につきたい」）が 39.8% である。

男性の場合、＜仕事につきたい＞（「ぜひ、仕事につきたい」＋「できれば、仕事につきたい」）が 46.9% である。

性別・年齢層別

図1-32 性別・年齢層別 今後の就労希望



参考表 性別・年齢層別 今後の就労希望

		対象者数(人)	ぜひ、仕事につきたい	できれば、仕事につきたい	仕事につきたいと思わない	わからない	無回答
女性	30歳未満	11	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0
	30歳代	47	34.0	36.2	6.4	19.1	4.3
	40歳代	37	45.9	37.8	5.4	10.8	0.0
	50歳代	56	19.6	32.1	25.0	16.1	7.1
	60歳代	110	6.4	24.5	45.5	10.0	13.6
	70歳以上	96	0.0	5.2	46.9	6.3	41.7
男性	30歳未満	14	85.7	7.1	0.0	7.1	0.0
	30歳代	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
	40歳代	8	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	50歳代	13	30.8	61.5	7.7	0.0	0.0
	60歳代	60	15.0	35.0	23.3	16.7	10.0
	70歳以上	77	0.0	23.4	39.0	13.0	24.7

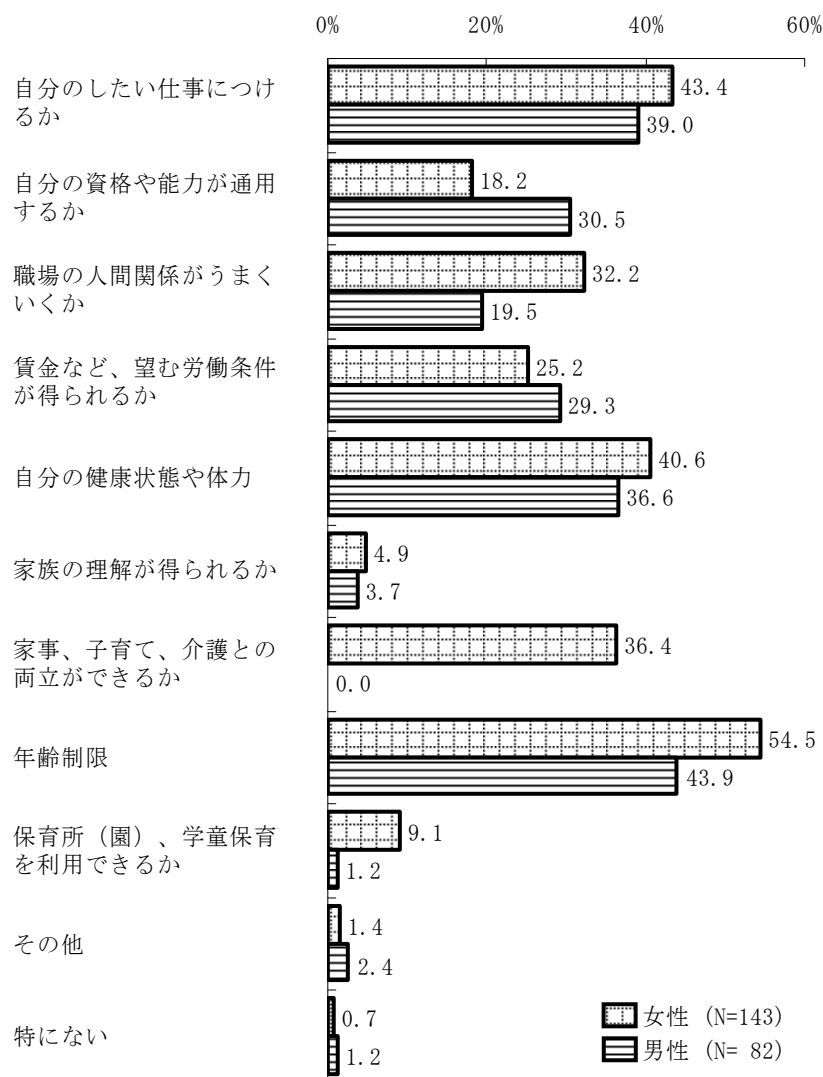
(%)

◆＜仕事につきたい＞の割合が70%を超えているのは、女性の場合は、30歳未満で100%、40歳代で83.7%、30歳代で70.2%である。

◆男性の場合は、30歳代で100%、30歳未満で92.8%、50歳代で92.3%、40歳代で75.0%である。

問 13-1 あなたは、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。
(○はいいくつでも)

図1-33 仕事につく上での困ったことや不安



■今後仕事につく上で「年齢制限」「したい仕事につけるか」「自分の健康状態や体力」に不安を感じる
前問で「ぜひ、仕事につきたい」「できれば、仕事につきたい」と回答した人に、今後仕事につく上での困ったことや不安をたずねたところ、男女ともに上位3位は、「年齢制限」(女性 54.5%・男性 43.9%)、「自分のしたい仕事につけるか」(女性 43.4%・男性 39.0%)、「自分の健康状態や体力」(女性 40.6%・男性 36.6%)である。特に、女性の場合は、「年齢制限」を2人に1人が選んでいる。

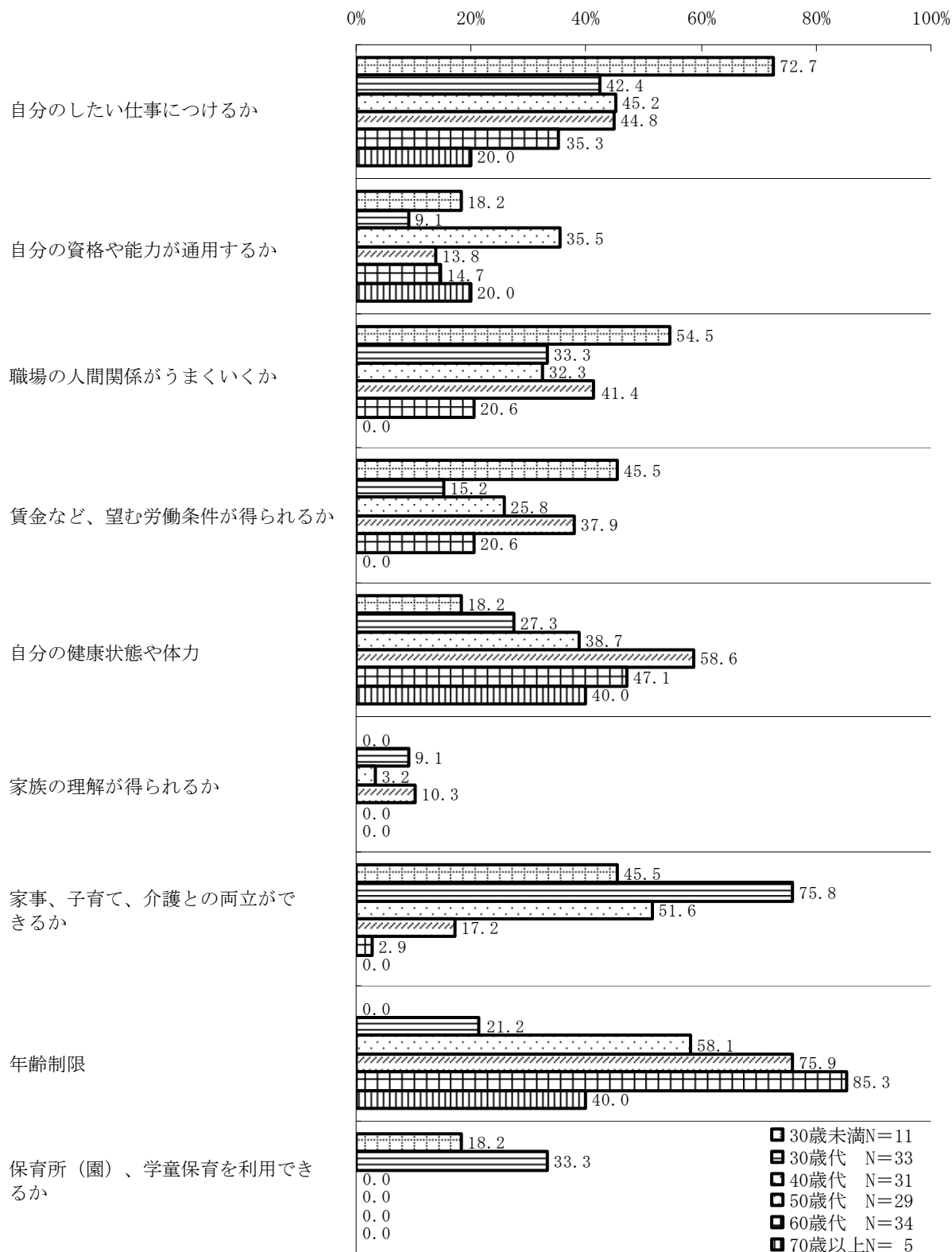
「自分の資格や能力が通用するか」では男性が女性よりも12.3ポイント、「職場の人間関係がうまくいくか」では女性が男性よりも12.7ポイント高くなっている。

■「家事、子育て、介護との両立ができるか」を選択しているのは女性のみ

女性は「家事、子育て、介護との両立ができるか」を36.4%が選んでいるものの、男性においては0%である。

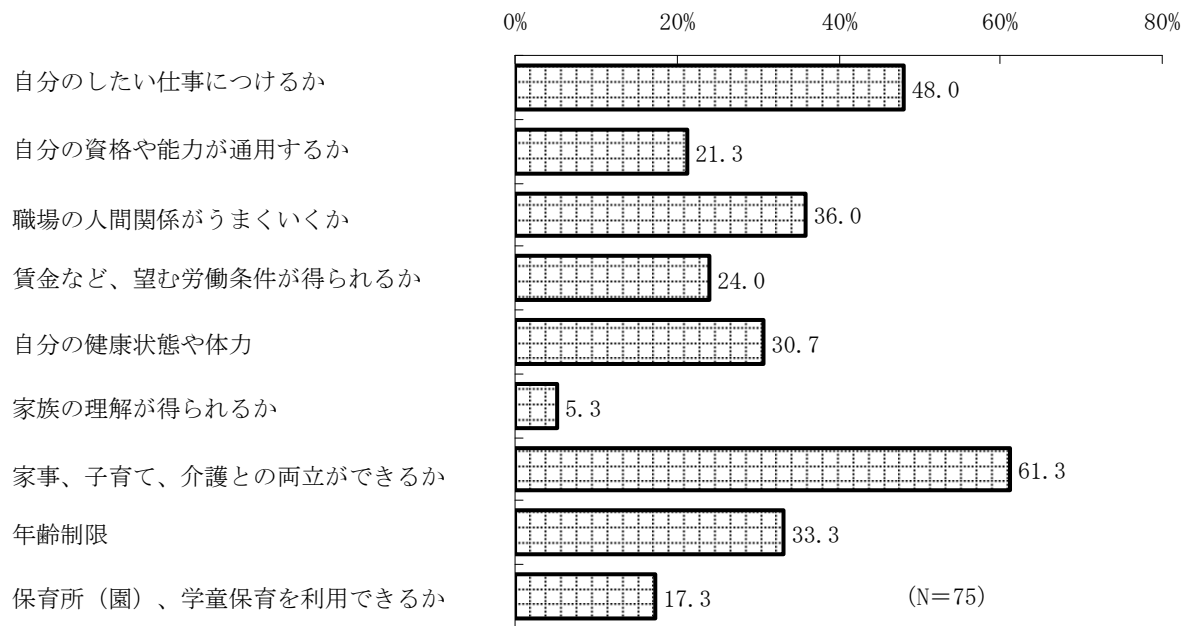
年齢層別

図1-34 年齢層別 仕事につく上での困ったことや不安 <女性>



- ◆「自分のできる仕事につけるか」「職場の人間関係がうまくいくか」の割合は、30 歳未満が他の年齢層より 10 ポイント以上高く、72.7%、54.5%である。
- ◆「家事、子育て、介護との両立ができるか」「保育所(園)、学童保育を利用できるか」の割合は、30 歳代が他の年齢層より高く、75.8%、33.3%である。
- ◆「年齢制限」の割合は、50、60 歳代で高く、70%を超えている。

図1－35 仕事につく上での困ったことや不安 <女性・50歳未満>

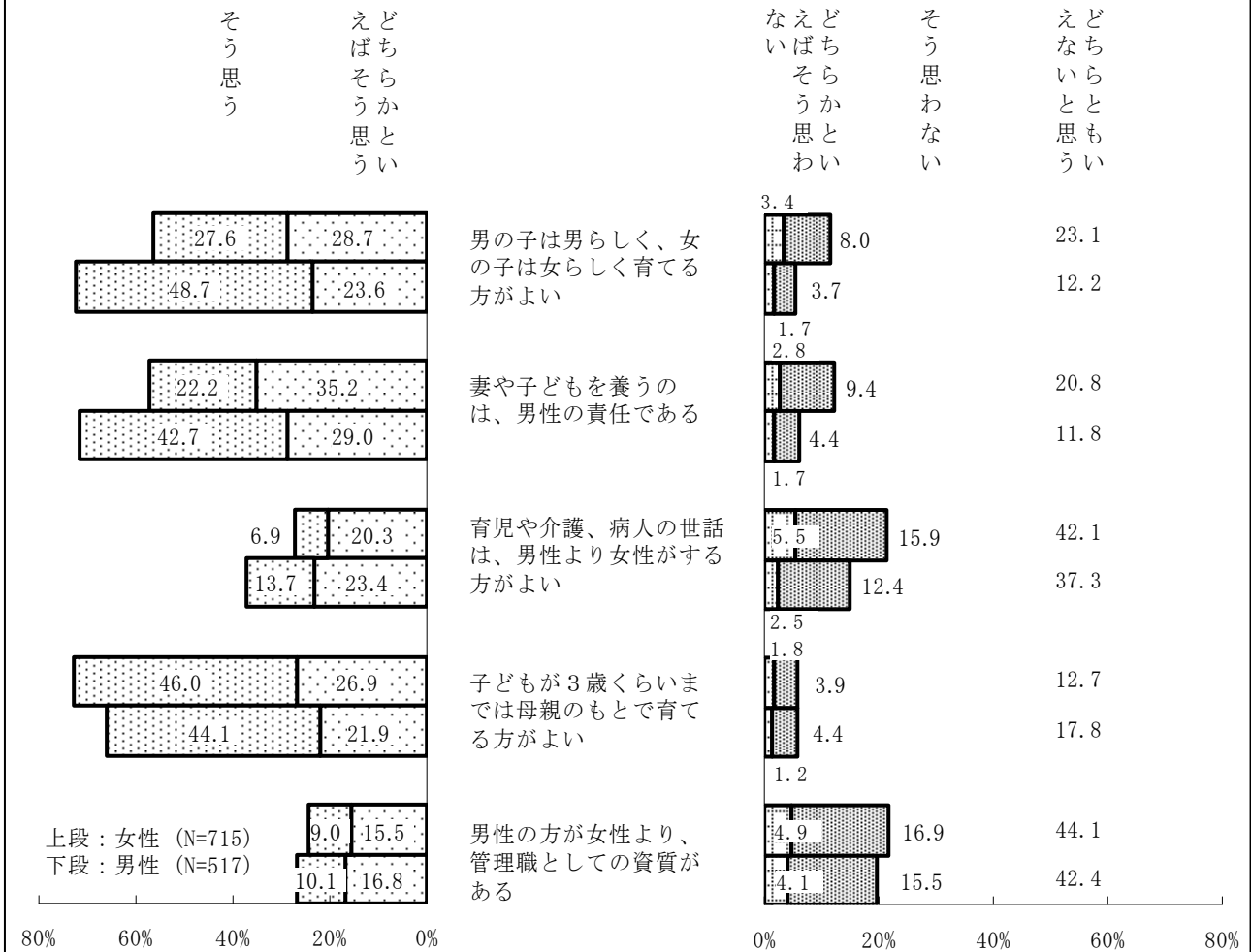


- ◆女性の30歳未満から50歳未満までの年齢層では、70%以上が<仕事につきたい>と回答している。その年齢層の仕事につく上での困ったことや不安をグラフ化したのが上記である。
- それによると、「家事、子育て、介護との両立ができるか」が最も高い割合で61.3%、ついで、「自分のしたい仕事につけるか」が48.0%、「職場の人間関係がうまくいくか」が36.0%、「年齢制限」が33.3%、「自分の健康状態や体力」が30.7%である。

2. 日常生活や子育てについて

問 14 あなたは、次の①～⑤の項目についてどのように思いますか。感じたままをお答えください。
(①～⑤の項目ごとに○は1つつつ)

図2-1 日常生活における考え方



■ 日常のさまざまな場面で固定的な性別役割分担意識は強い

日常生活や職場での男女の役割についての考えをたずねた。

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」という子育てに関する設問や「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」では、＜そう思う＞（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）割合が50%を超えて高くなっている。

また、男女で比較すると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」では、＜そう思う＞は男性の割合の方が女性よりも10ポイント以上高くなっている。

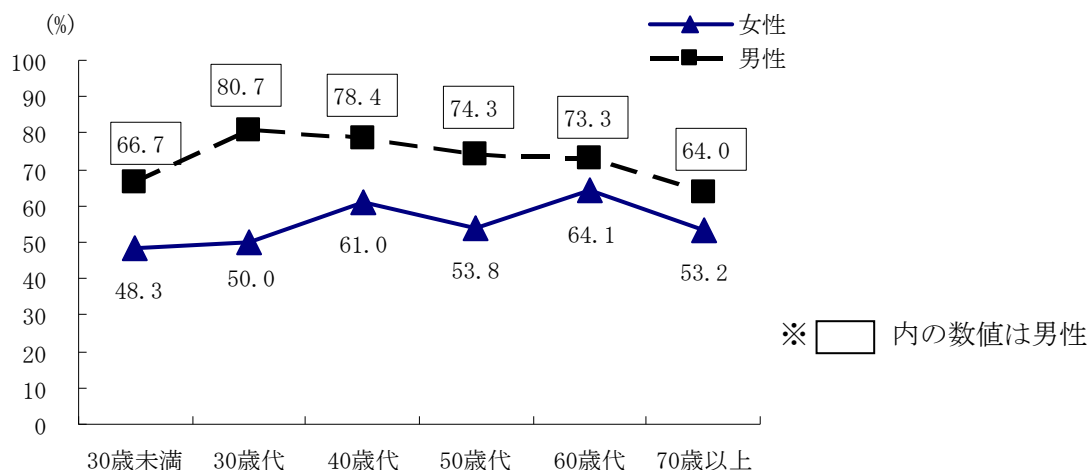
■ 「管理職」「育児や介護、病人の世話」では「どちらともいえない」の割合が高い

「男性の方が女性より、管理職としての資質がある」と「育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい」では、「どちらともいえない」の割合がそれぞれ女性44.1%・男性42.4%、女性42.1%・男性37.3%と高い。しかし、「育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい」においては、女性27.2%・男性37.1%が＜そう思う＞を選んでいる。「男性の方が女性より、管理職としての資質が

ある」においては、女性の＜そう思う＞と＜そう思わない＞（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）割合は同程度となっている。

性別・年齢層別

図2-2 性別・年齢層別「そう思う」の割合 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」



◆男性の場合は、子育て世代である30歳代で、年齢層の中で最も高く、女性の割合とは30.7ポイントの開きがあり、男女のギャップは大きい。

図2-3 性別・年齢層別「そう思う」の割合 「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」

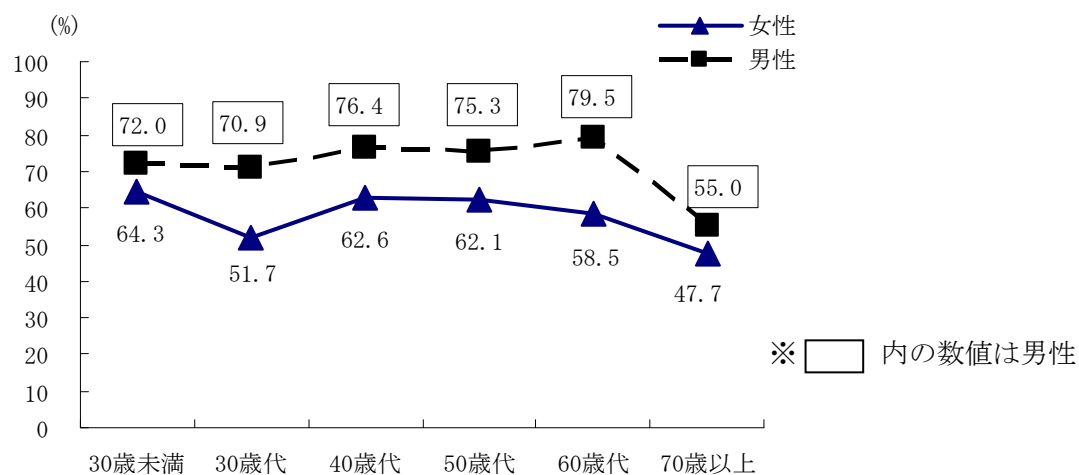


図2-4 性別・年齢層別「そう思う」の割合 「育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい」

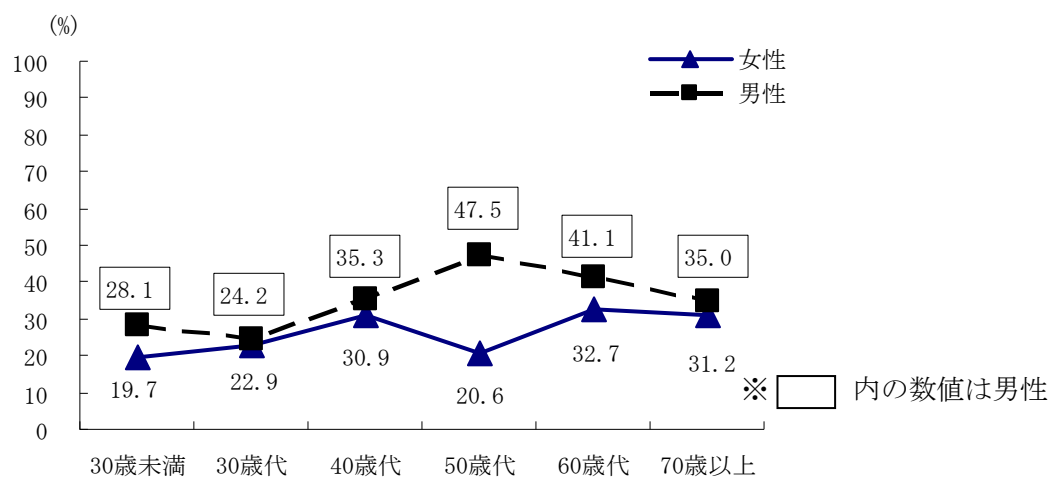


図2-5 性別・年齢層別「そう思う」の割合 「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」

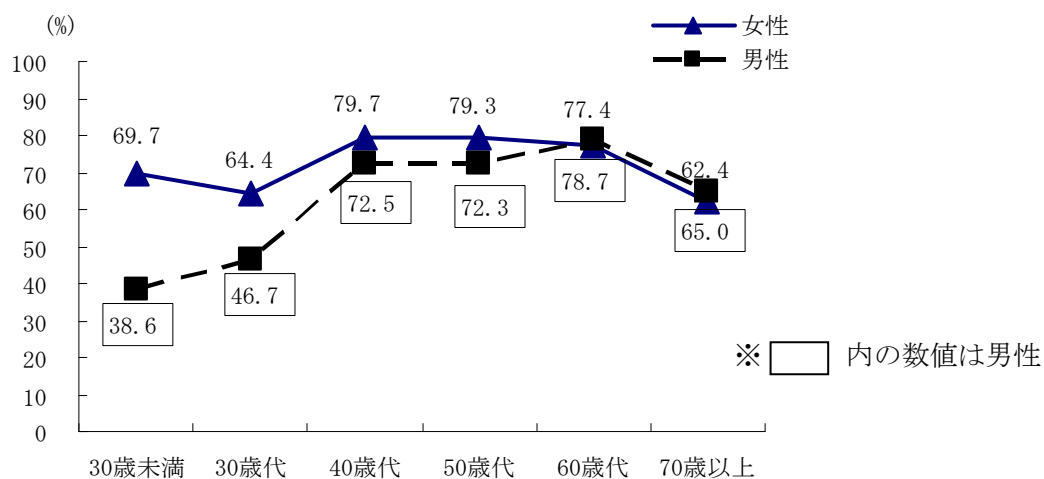
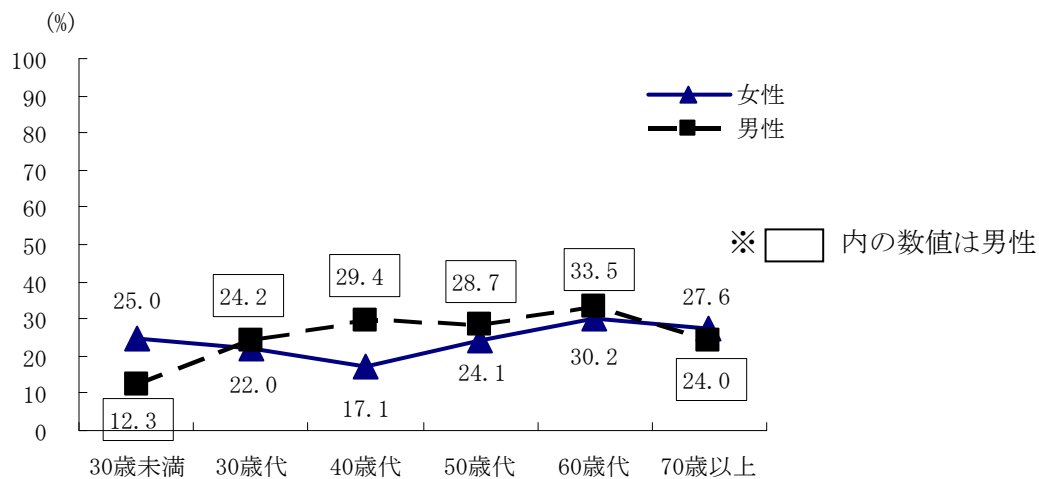


図2-6 性別・年齢層別「そう思う」の割合 「男性の方が女性より、管理職としての資質がある」



問 15 あなたは、普段の平日をどのように過ごしていますか。①～⑥の各項目に使うおおよその時間をご記入ください。

表2－1 平日の生活時間

	女 性	男 性
① 睡眠	6時間30分	6時間48分
② 食事、入浴など	2時間12分	1時間54分
③ 仕事・通勤あるいは学業・通学	7時間54分	9時間30分
④ 家事・育児・介護など	5時間24分	2時間12分
⑤ 余暇、自由時間	4時間48分	6時間00分
⑥ その他	3時間36分	4時間30分

※この項目の数字は、項目ごとに回答者 1 人ひとりの時間平均値を出したため、合計すると 24 時間を超えていることを考慮する必要がある。

■「仕事・通勤あるいは学業・通学」「家事・育児・介護など」では男女で時間の開きがある

この項目の数字は、項目ごとに回答者 1 人ひとりの時間平均値を出したため、合計すると 24 時間を超えていることを考慮する必要がある。

「睡眠」「仕事・通勤あるいは学業・通学」、「余暇、自由時間」「その他」は男性が長く、「家事・育児・介護など」「食事、入浴など」は女性が長い。

性別で比較すると、時間に開きがあるのは、「仕事・通勤あるいは学業・通学」（女性 7 時間 54 分・男性 9 時間 30 分）、「家事・育児・介護など」（女性 5 時間 24 分・男性 2 時間 12 分）である。

性別・年齢層別

◆「仕事・通勤あるいは学業・通学」時間の最も長いのは、男女ともに 30 歳代で女性 9 時間 30 分、男性 10 時間 54 分である。男性は 50 歳代でも 10 時間 18 分と長時間である。

◆「家事・育児・介護など」時間の最も長いのは、女性では 30 歳代で 7 時間 18 分。ついで、40 歳代は 5 時間 48 分である。男性では 50 歳代の 2 時間 42 分が最も長い。

◆「仕事・通勤あるいは学業・通学」時間の長い 30 歳代の男性は、「家事・育児・介護など」時間は 1 時間 54 分である。

◆2 番目に「仕事・通勤あるいは学業・通学」時間の長い 50 歳代の男性は、「家事・育児・介護など」時間も 2 時間 42 分と男性の中では一番長くなっている。

表2-2 性別・年齢層別 平日の生活時間

		対象者数 (人)	睡眠	食事、 入浴な ど	通学 する いは学 業・	仕事・通 勤あ る	家事・育 児・ 介護な ど	余暇、 自由時 間	その他
女性	30 歳未満	56	6:36	2:06	9:06	4:48	3:42	2:54	
	30 歳代	118	6:36	2:12	9:30	7:18	3:36	4:00	
	40 歳代	123	6:06	2:00	7:06	5:48	3:42	3:30	
	50 歳代	145	6:24	1:54	7:24	4:48	4:48	3:00	
	60 歳代	159	6:36	2:12	7:12	4:54	5:42	4:06	
	70 歳以上	109	7:00	2:54	5:12	4:18	7:24	3:42	
男性	20 歳代	57	6:30	1:36	9:30	1:42	4:54	3:48	
	30 歳代	62	6:24	1:42	10:54	1:54	3:54	6:00	
	40 歳代	51	6:24	1:42	9:00	2:06	5:00	6:42	
	50 歳代	101	6:30	2:18	10:18	2:42	4:24	4:48	
	60 歳代	146	7:06	1:48	8:24	2:24	7:12	5:00	
	70 歳以上	100	7:18	1:54	5:42	2:12	9:00	3:12	

※生活時間は無回答を除いた平均値

(時：分)

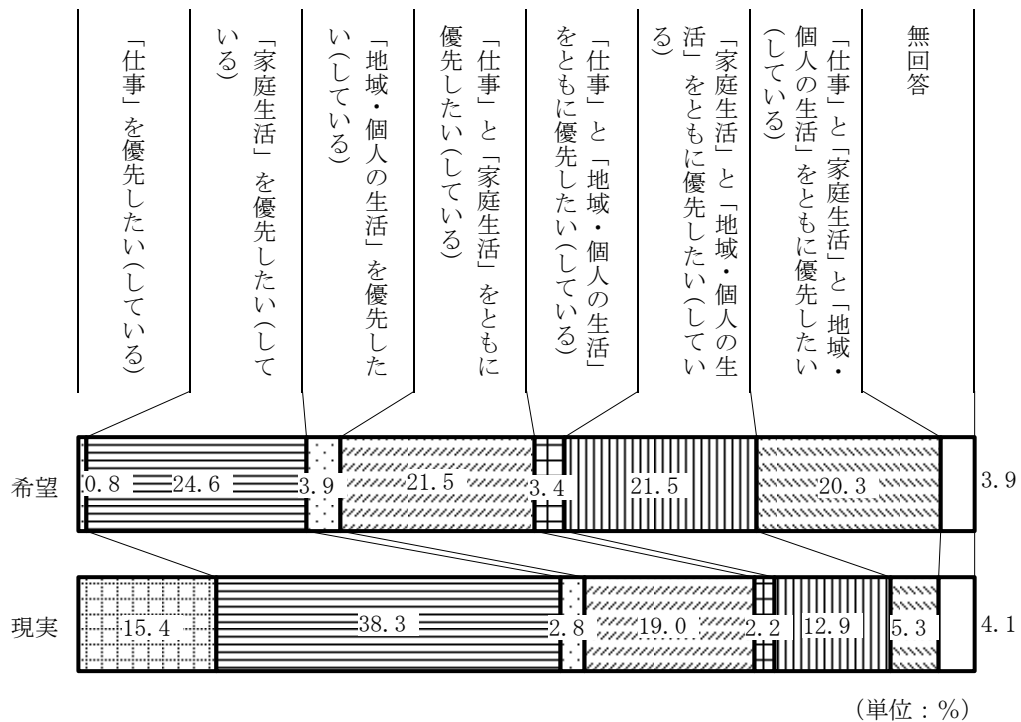
表2-3 性別・職業別 平日の生活時間

		睡眠	食事、 入浴な ど	仕事・通 勤ある いは学 業・	家事・育 児・ 介護な ど	余暇、 自由時 間	その他
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	6:12	1:54	10:42	3:12	3:00	2:18
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	6:18	1:54	7:36	3:12	3:30	4:24
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	6:18	2:00	5:54	5:18	3:36	2:42
	自営業主・経営者（農林業を含む）	6:48	2:18	7:18	4:24	3:54	1:30
	自営業の手伝い、家族従業員	6:48	3:18	7:36	4:12	3:30	2:12
	内職など家庭でできる仕事	7:00	2:54	4:42	8:36	3:24	1:00
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	6:18	2:00	10:06	1:36	3:36	4:42
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	6:48	1:24	10:48	3:48	4:18	3:18
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	6:54	2:00	7:06	2:00	6:06	4:24
	自営業主・経営者（農林業を含む）	7:00	1:36	8:42	1:24	4:42	3:42
	自営業の手伝い、家族従業員	6:54	1:30	8:42	2:00	5:42	20.0

(時：分)

- 問16 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。あなたの希望に最も近いものを下から選んで○をつけてください。（○は1つ）
- 問17 それでは、あなたの実際の生活に最も近いものはどれでしょうか。最も近いものを下から選んで○をつけてください。（○は1つ）

図2-7 暮らし方の希望と現実 <女性の場合> (N=715)



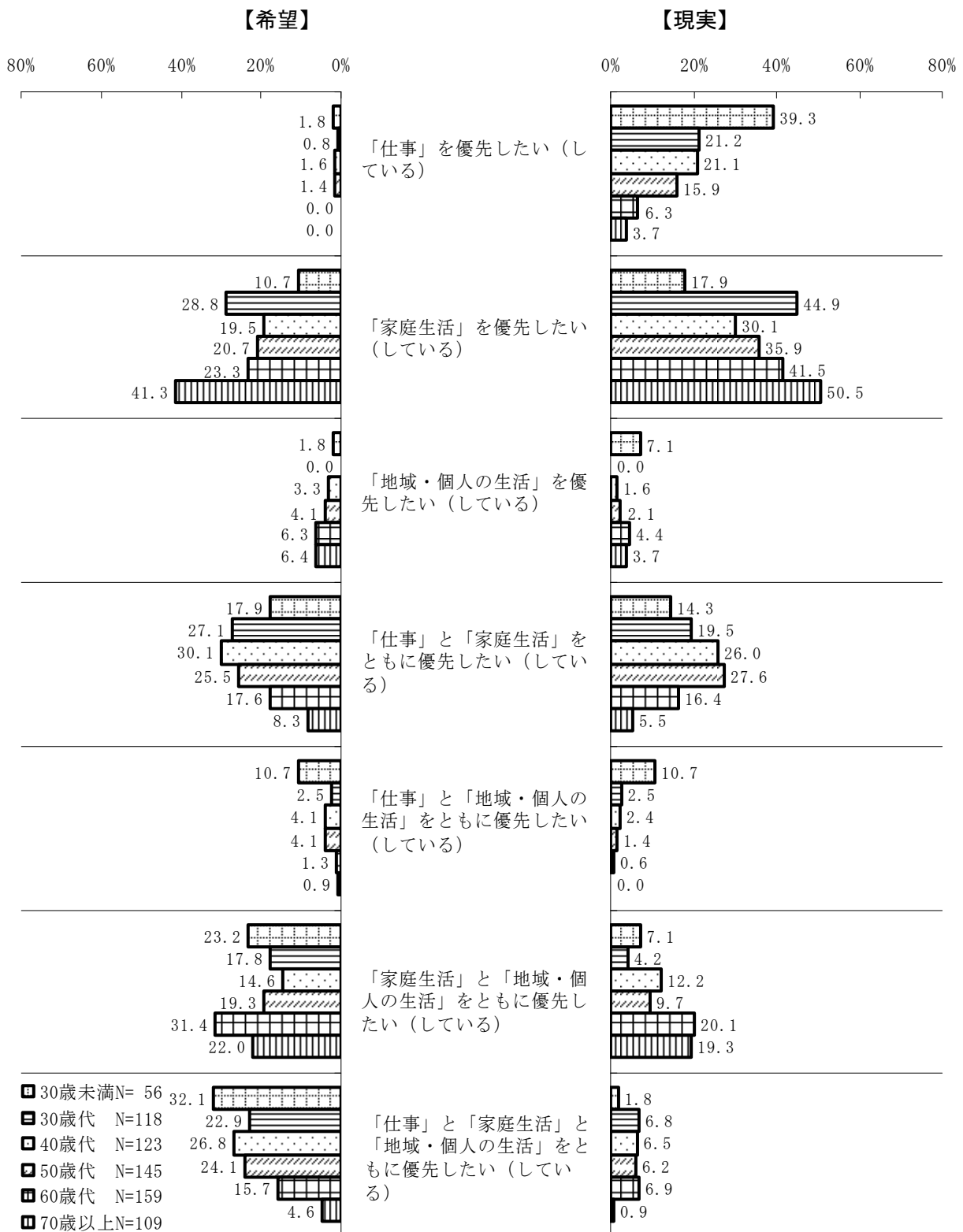
■女性では、希望は多様だが、現実には「『家庭生活』を優先している」が最も高い

希望の暮らし方をみると、「『家庭生活』を優先したい」「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が20%台で同じ程度に希望している。

一方、現実の暮らし方は、「『家庭生活』を優先している」が最も高く38.3%。ついで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が19.0%、「『仕事』を優先している」が15.4%、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」が12.9%と続く。

年齢層別

図2-8 年齢層別 暮らし方の希望と現実 <女性の場合>

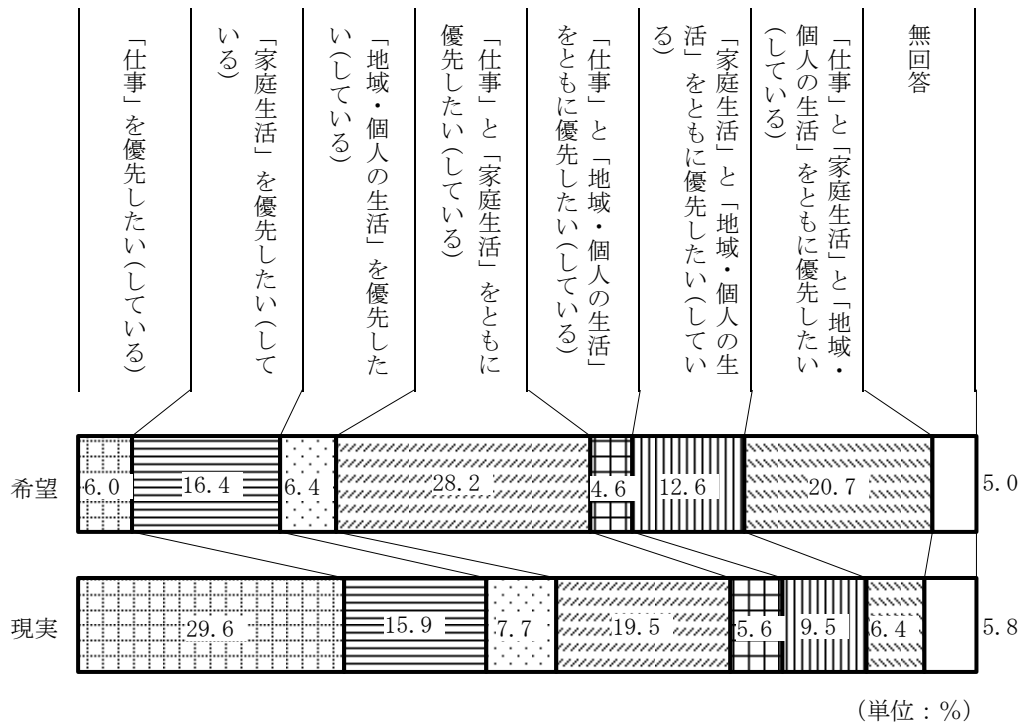


◆ 「『仕事』を優先したい」割合は年齢層による違いはほとんどないものの、「『仕事』を優先している」割合は30歳未満で39.3%と最も高く、年齢層が高いほどその割合は低くなっている。

問 16 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。あなたの希望に最も近いものを下から選んで○をつけてください。（○は1つ）

問 17 それでは、あなたの実際の生活に最も近いものはどれでしょうか。最も近いものを下から選んで○をつけてください。（○は1つ）

図2-9 暮らし方の希望と現実 <男性の場合> (N=517)



■男性の場合、『仕事』と『家庭生活』の両立を希望する割合が最も高いが、現実には『仕事』を優先しているが最も高い

希望の暮らし方を割合の高い順でみると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」(28.2%)、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」(20.7%)、「『家庭生活』を優先したい」(16.4%)である。

一方、現実の暮らし方は、「『仕事』を優先している」が最も高く 29.6%。ついで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が 19.5%、「『家庭生活』を優先している」が 15.9%と続く。

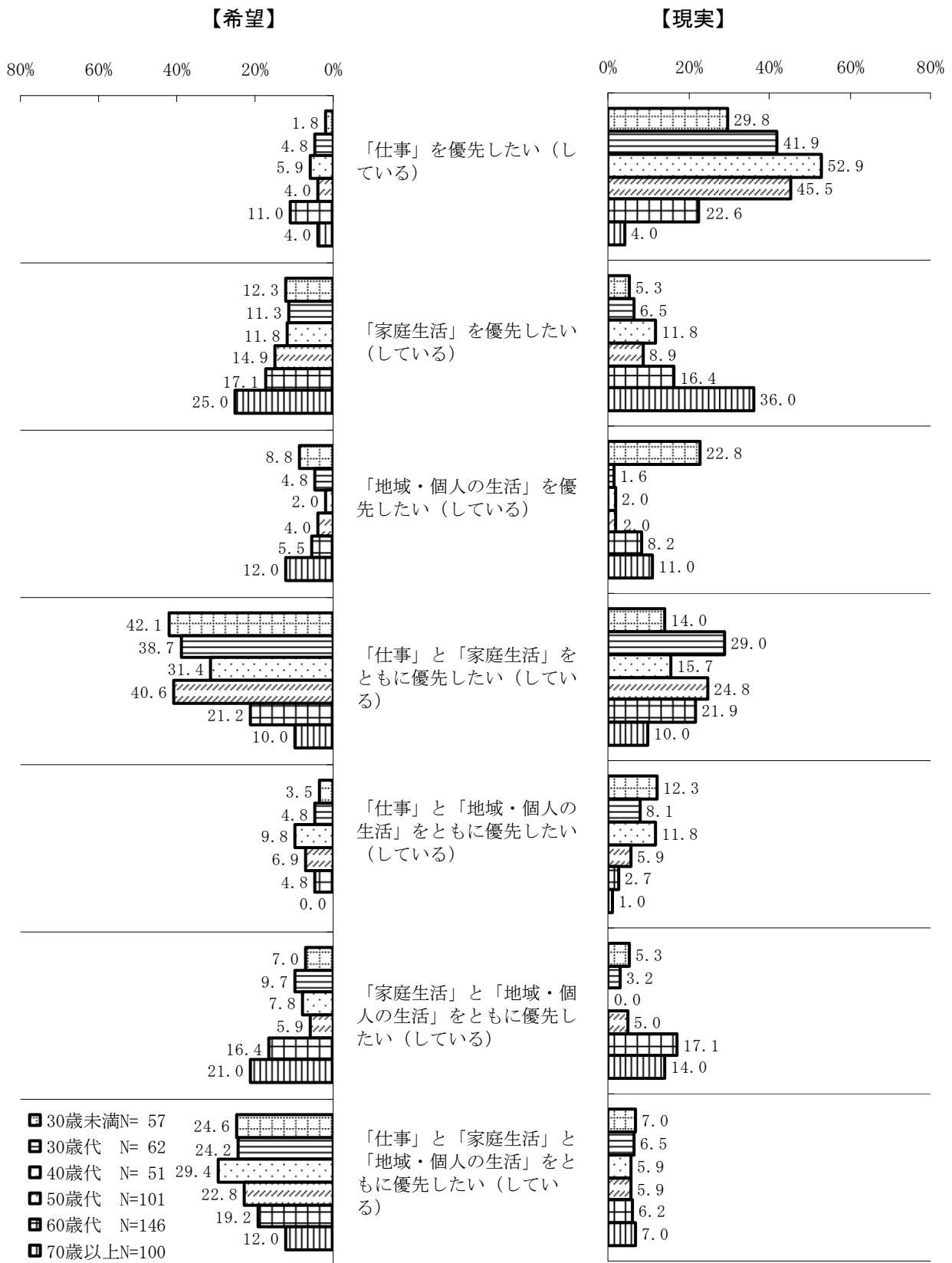
<現実>は、<希望>よりは、「『仕事』を優先している」の割合が高く、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」の割合が低くなっている。

年齢層別

◆「『仕事』を優先したい」の割合は 60 歳代が 11.0%である他は、どの年齢層も 1 ケタ台であるが、「『仕事』を優先している」の割合は、30～50 歳代で高く、特に、40 歳代では 52.9%である。

◆「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」では、40 歳代で最も高く 29.4%で、30 歳未満～50 歳代では 20%を超えているが、<現実>にはどの年齢層においても 5～7%にとどまっている。

図2-10 年齢層別 暮らし方の希望と現実 <男性の場合>



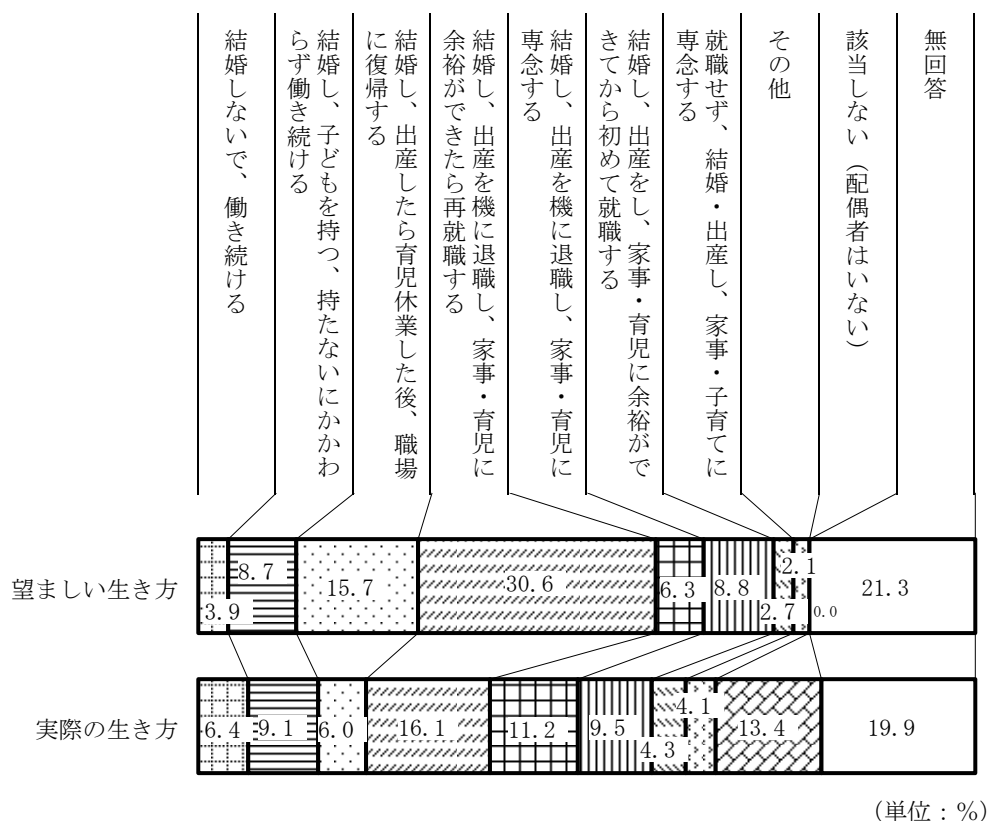
問 18 あなたは、女性の生き方について、(1) どのような生き方が望ましいと思われますか。

(男性もお答えください。)

また、(2) あなた(女性)の実際の生き方は、次のどれにあたりますか。(男性は、あなたの配偶者についてお答えください。配偶者のおられない方は⑨を選択してください。)

((1)(2) それぞれに○は1つずつ)

図2-11 望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方<女性の意見> (N=715)



■女性が望む生き方は、「就労継続型」と「再就職型」がそれぞれ約30%

望ましい生き方として最も高い割合なのは、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」で30.6%。その一方で、「就労継続型」(「結婚しないで、働き続ける」+「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」+「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」)も28.3%である。

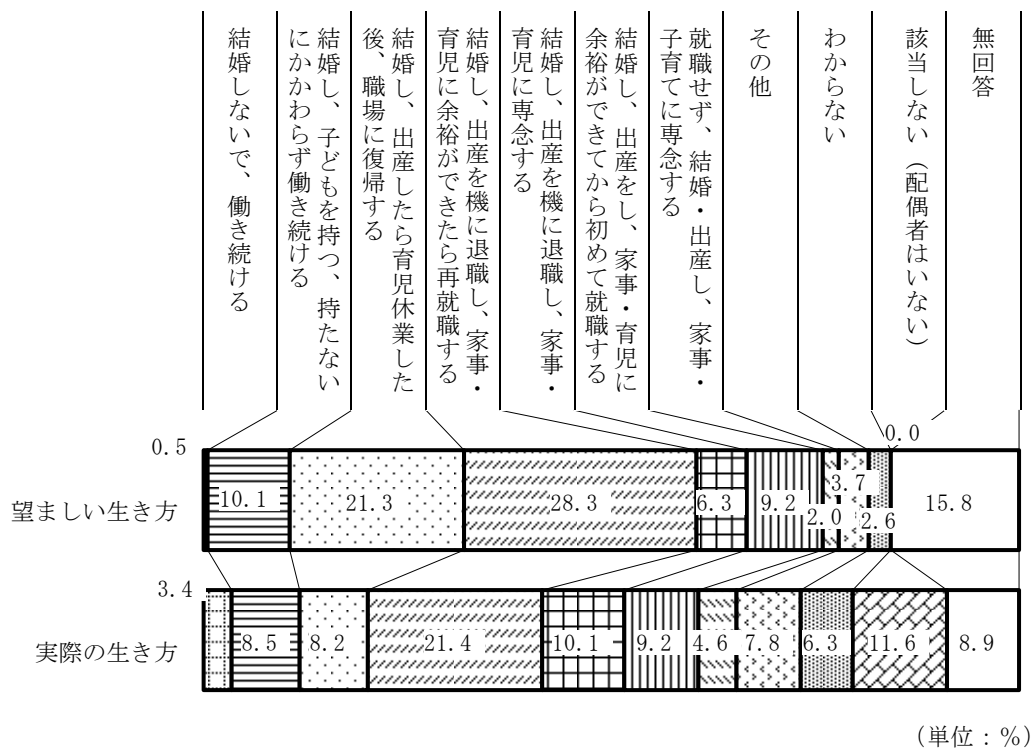
■実際の生き方は、「再就職型」の割合が最も高く16.1%

実際の生き方をみると、最も高い割合なのは、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」で16.1%。

「該当しない(配偶者はいない)」の割合が13.4%と高くなっているため、望ましい生き方と単純に比較できないものの、「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」と「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」の割合がともに少なくなり、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する」の割合が多くなっている。

【前回調査】

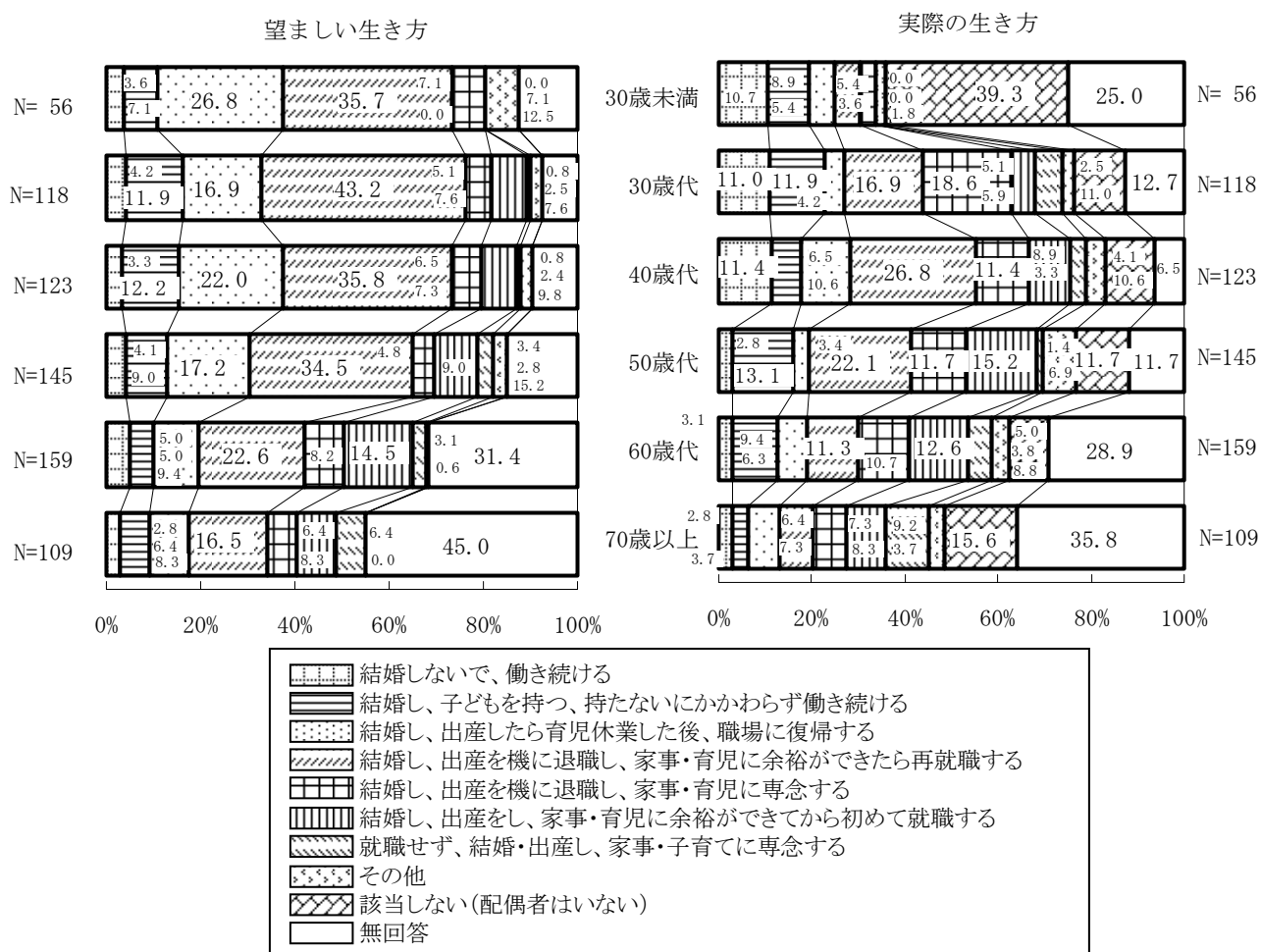
図2-12 望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方＜女性の意見＞（N=732）



- ◆「望ましい生き方」と「実際の生き方」を比べた場合、「実際の生き方」の方が「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」と「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」の割合は減少し、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する」の割合はやや高くなるなど、前回調査と同様の傾向となっている。

年齢層別

図2-13 年齢層別 望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方＜女性の意見＞

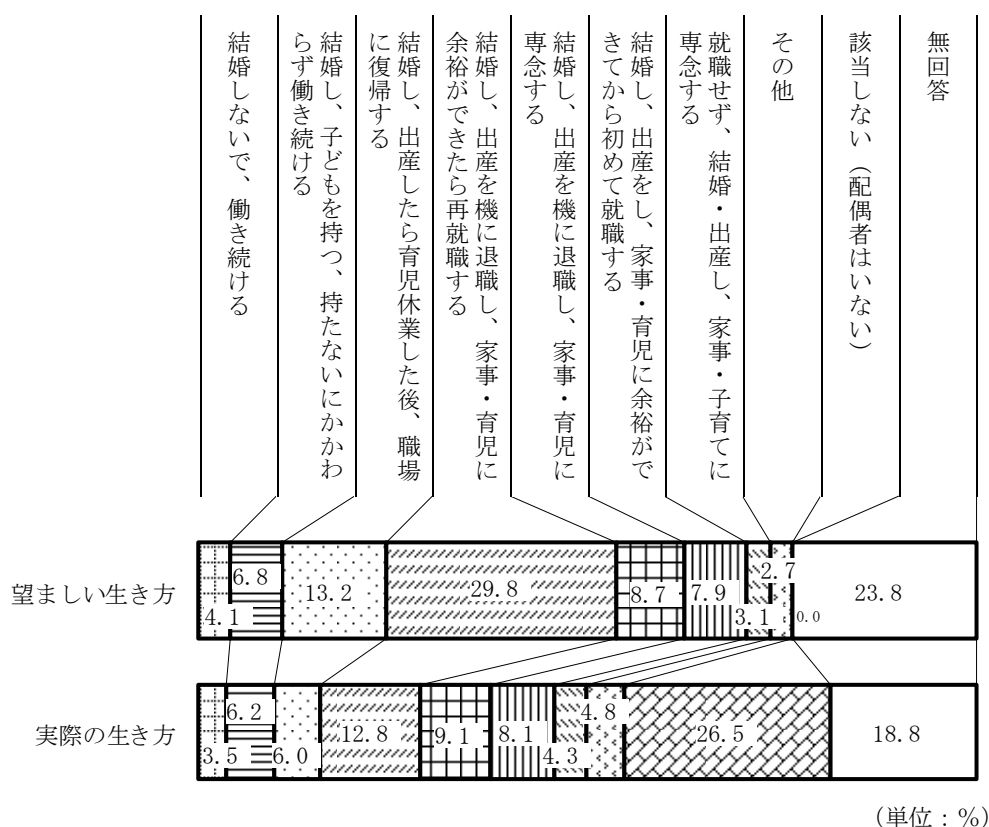


参考表 年齢層別 望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方＜女性の意見＞

		対象者数(人)	結婚しないで、働き続ける	結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける	結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する	結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する	結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	結婚し、出産をし、家事・育児に余裕ができてから初めて就職する	結婚し、出産をし、家事・子育てに専念する	その他	該当しない(配偶者はいない)	無回答
望ましい 生き方	30歳未満	56	3.6	7.1	26.8	35.7	7.1	0.0	0.0	7.1		12.5
	30歳代	118	4.2	11.9	16.9	43.2	5.1	7.6	0.8	2.5		7.6
	40歳代	123	3.3	12.2	22.0	35.8	6.5	7.3	0.8	2.4		9.8
	50歳代	145	4.1	9.0	17.2	34.5	4.8	9.0	3.4	2.8		15.2
	60歳代	159	5.0	5.0	9.4	22.6	8.2	14.5	3.1	0.6		31.4
	70歳以上	109	2.8	6.4	8.3	16.5	6.4	8.3	6.4	0.0		45.0
実際の 生き方	30歳未満	56	10.7	8.9	5.4	5.4	3.6	0.0	0.0	1.8	39.3	25.0
	30歳代	118	11.0	11.9	4.2	16.9	18.6	5.1	5.9	2.5	11.0	12.7
	40歳代	123	11.4	6.5	10.6	26.8	11.4	8.9	3.3	4.1	10.6	6.5
	50歳代	145	2.8	13.1	3.4	22.1	11.7	15.2	1.4	6.9	11.7	11.7
	60歳代	159	3.1	9.4	6.3	11.3	10.7	12.6	5.0	3.8	8.8	28.9
	70歳以上	109	2.8	3.7	6.4	7.3	7.3	8.3	9.2	3.7	15.6	35.8

(%)

図2-14 望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方＜男性の意見＞（N=517）



■男性が配偶者に望む生き方は、「再就職型」が29.8%

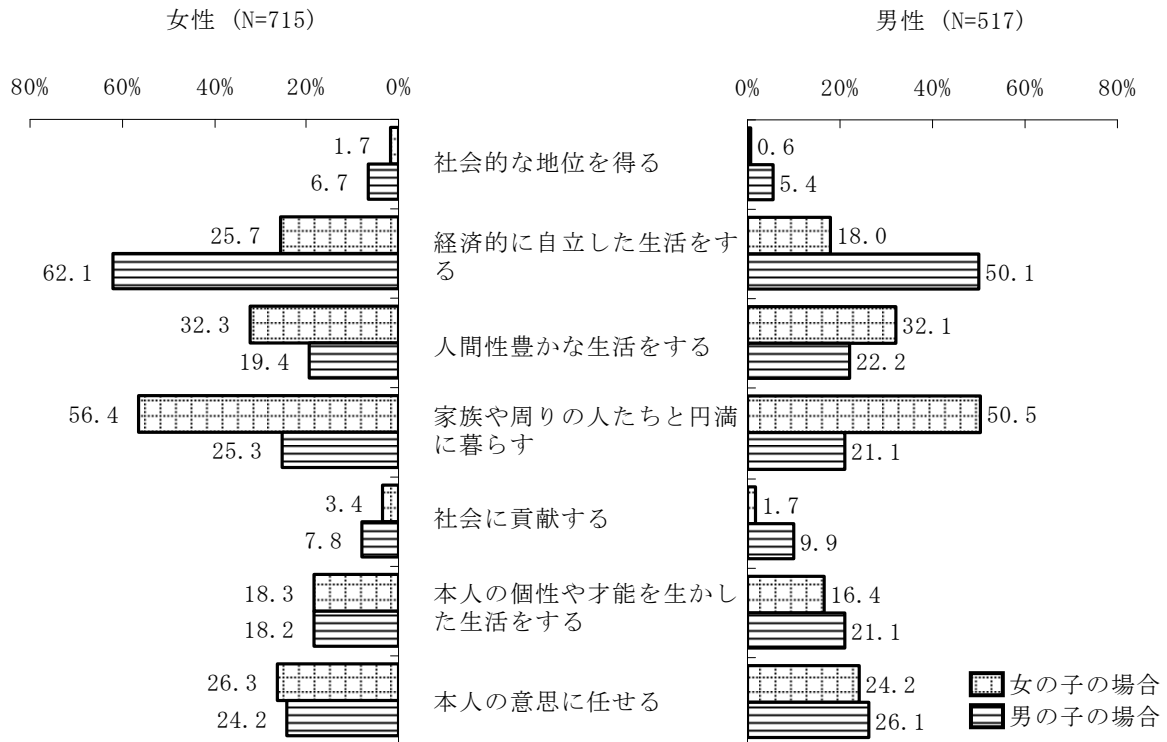
男性が配偶者に望む生き方として最も高い割合なのは、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」で29.8%。「就労継続型」（「結婚しない、働き続ける」＋「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」＋「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」）は24.1%である。

■配偶者の実際の生き方は、「就労継続型」15.7%、「再就職型」12.8%

実際の生き方をみると、「該当しない（配偶者はいない）」と無回答の割合が45.3%と半数近くを占めている。その中で、「就労継続型」は15.7%、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」は12.8%である。

問 19 あなたは、自分の子どもには将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。
 女の子、男の子それぞれの場合について、()内にあなたの考えに近い項目の番号を記入してください。子どもがいない方も、仮にいた場合を想定してお答えください。

図2-15 子どもの将来像として望む生き方



■女の子には「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が最も望まれている

「女の子」の将来については、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が突出して高く、女性 56.4%・男性 50.5%である。ついで、「人間性豊かな生活をする」が女性 32.3%・男性 32.1%、「本人の意思に任せる」が女性 26.3%・男性 24.2%である。

■男の子には「経済的に自立した生活をする」が最も望まれている

「男の子」の将来については、「経済的に自立した生活をする」が突出して高く、女性 62.1%・男性 50.1%である。ついで、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が女性 25.3%・男性 21.1%、「本人の意思に任せる」が女性 24.2%・男性 26.1%である。

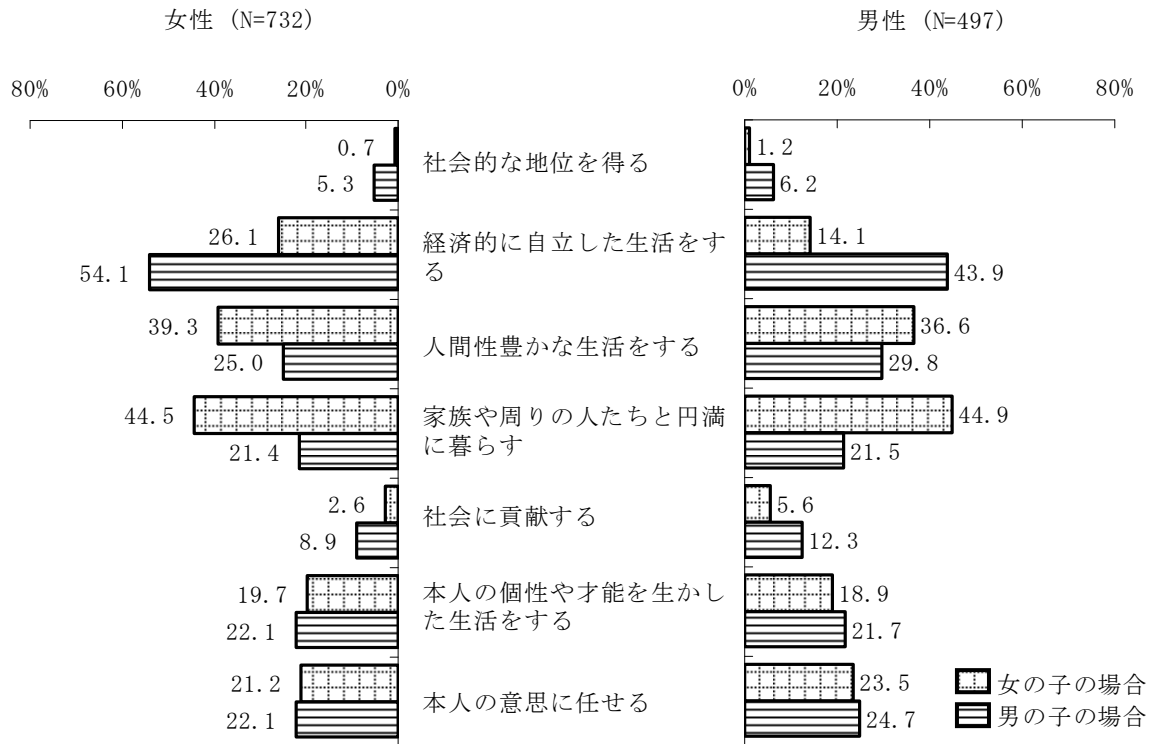
以上、「男の子」と「女の子」では望まれる生き方に違いがあり、その傾向は男女回答者でほぼ同じ傾向である。

■前回調査とほぼ同様の結果

これを前回調査（次ページ参照）と比較すると、多少の割合の違いはあるものの、ほぼ同様の結果である。

【前回調査】

図2-16 子どもの将来像として望む生き方



性別・年齢層別

表2-4 性別・年齢層別子どもの将来像として望む生き方

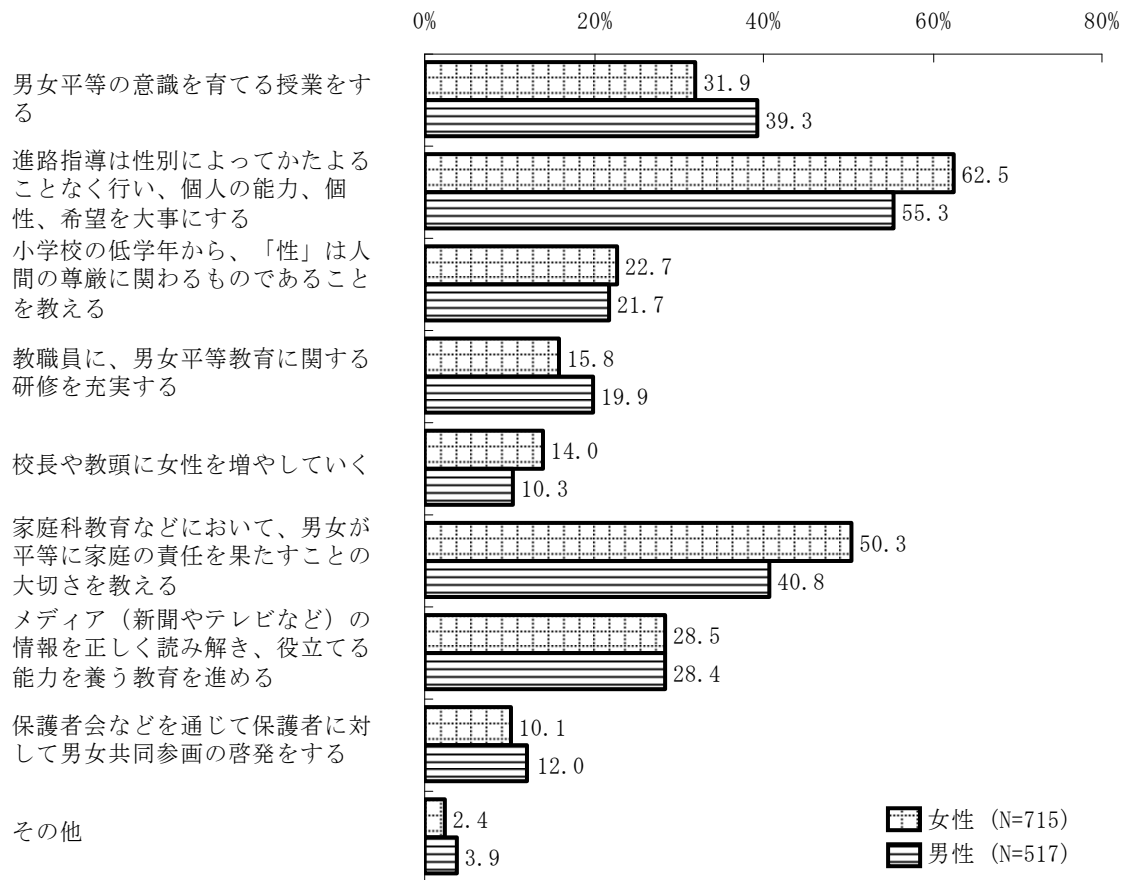
		対象者数(人)		社会的な地位を得る	経済的に自立した生活をする	人間性豊かな生活をする	家族や周りの人たちと円満に暮らす	社会に貢献する	本人の個性や才能を生かした生活をする	本人の意思に任せる
女性	30 歳未満	56	「女の子」の場合	1.8	30.4	48.2	64.3	5.4	12.5	32.1
			「男の子」の場合	0.0	69.6	25.0	33.9	10.7	21.4	32.1
	30 歳代	118	「女の子」の場合	1.7	33.1	33.1	66.9	1.7	19.5	31.4
			「男の子」の場合	8.5	65.3	22.9	34.7	4.2	19.5	26.3
	40 歳代	123	「女の子」の場合	3.3	28.5	28.5	65.0	5.7	25.2	26.8
			「男の子」の場合	9.8	66.7	18.7	34.1	6.5	27.6	18.7
	50 歳代	145	「女の子」の場合	0.0	32.4	37.2	53.1	4.1	22.8	24.8
			「男の子」の場合	7.6	66.2	23.4	24.1	11.0	17.2	24.8
	60 歳代	159	「女の子」の場合	1.3	20.8	29.6	54.1	1.3	17.6	25.2
			「男の子」の場合	5.7	62.9	17.0	15.1	7.5	18.2	28.9
	70 歳以上	109	「女の子」の場合	2.8	11.0	25.7	40.4	2.8	7.3	21.1
			「男の子」の場合	4.6	45.0	11.9	17.4	7.3	6.4	16.5
男性	30 歳未満	57	「女の子」の場合	3.5	14.0	36.8	47.4	0.0	17.5	40.4
			「男の子」の場合	8.8	43.9	24.6	26.3	1.8	21.1	38.6
	30 歳代	62	「女の子」の場合	0.0	22.6	41.9	59.7	3.2	27.4	11.3
			「男の子」の場合	4.8	50.0	30.6	25.8	4.8	29.0	22.6
	40 歳代	51	「女の子」の場合	0.0	19.6	33.3	54.9	5.9	27.5	23.5
			「男の子」の場合	9.8	51.0	21.6	31.4	13.7	29.4	19.6
	50 歳代	101	「女の子」の場合	0.0	18.8	33.7	52.5	1.0	15.8	27.7
			「男の子」の場合	6.9	58.4	20.8	20.8	7.9	23.8	27.7
	60 歳代	146	「女の子」の場合	0.7	19.9	33.6	51.4	0.7	9.6	29.5
			「男の子」の場合	2.7	54.1	21.9	17.1	11.0	21.2	28.1
	70 歳以上	100	「女の子」の場合	0.0	13.0	19.0	41.0	2.0	14.0	12.0
			「男の子」の場合	4.0	39.0	18.0	16.0	16.0	9.0	20.0

(%)

◆女の子に「家族や周りの人たちと円満に暮らす」を望む割合は、女性の30歳未満から40歳代の年齢層で高く、60%を超えている。一方、男の子に「経済的に自立した生活をする」を望む割合は、女性では30歳未満～60歳代で60%を超えている。男性では50歳代でやや高くなっている。

問 20 男女平等を進めるために、小学校・中学校でどのような取り組みが重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

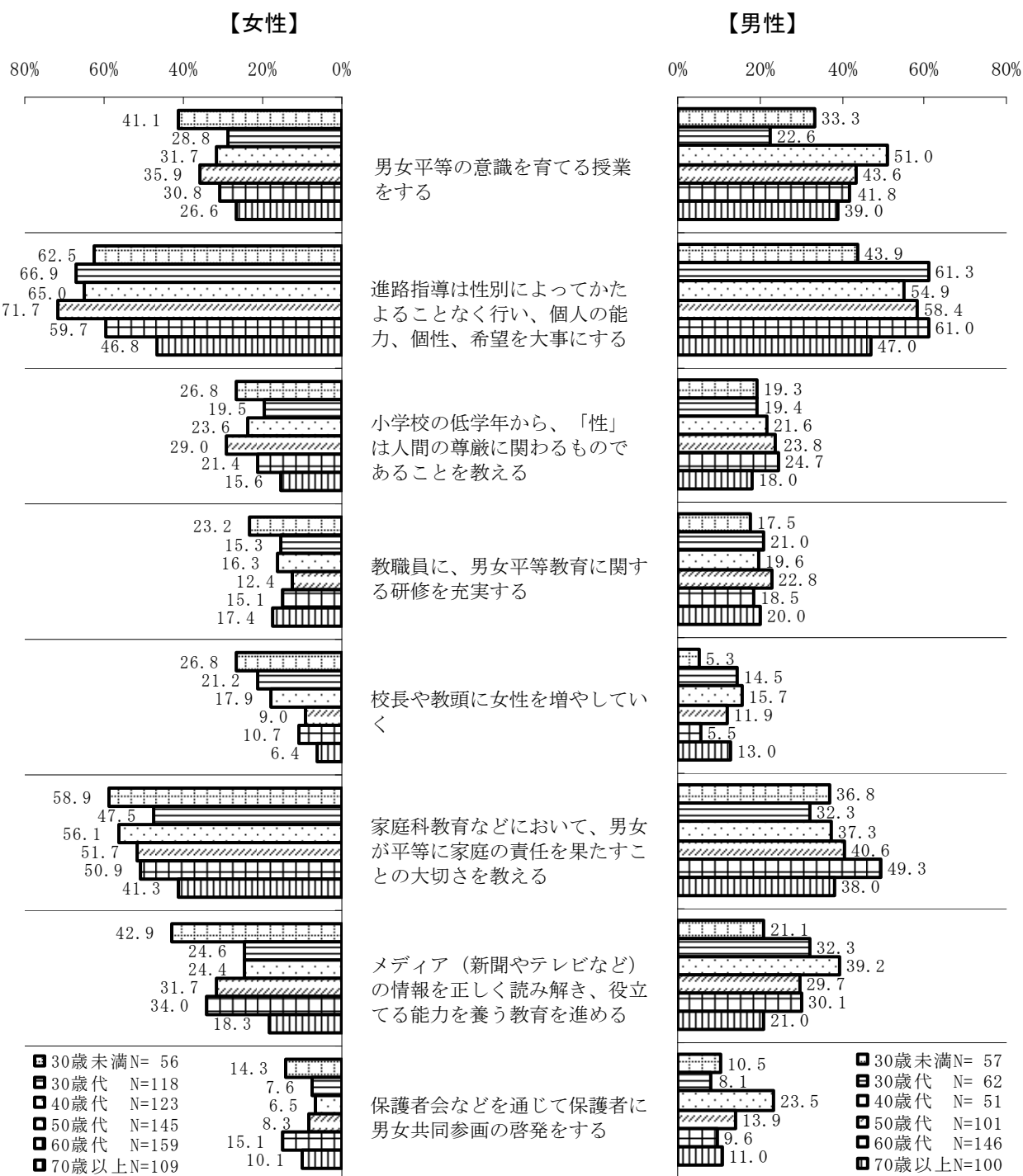
図2-17 男女平等を進めるために小学校・中学校で取組むこと



■男女平等を進める小・中学校での取り組みは、「進路指導」を重視

選択率の高い順番でみると、「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」（女性 62.5%・男性 55.3%）が最も高く、ついで、「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」（女性 50.3%・男性 40.8%）、「男女平等の意識を育てる授業をする」（女性 31.9%・男性 39.3%）と続く。

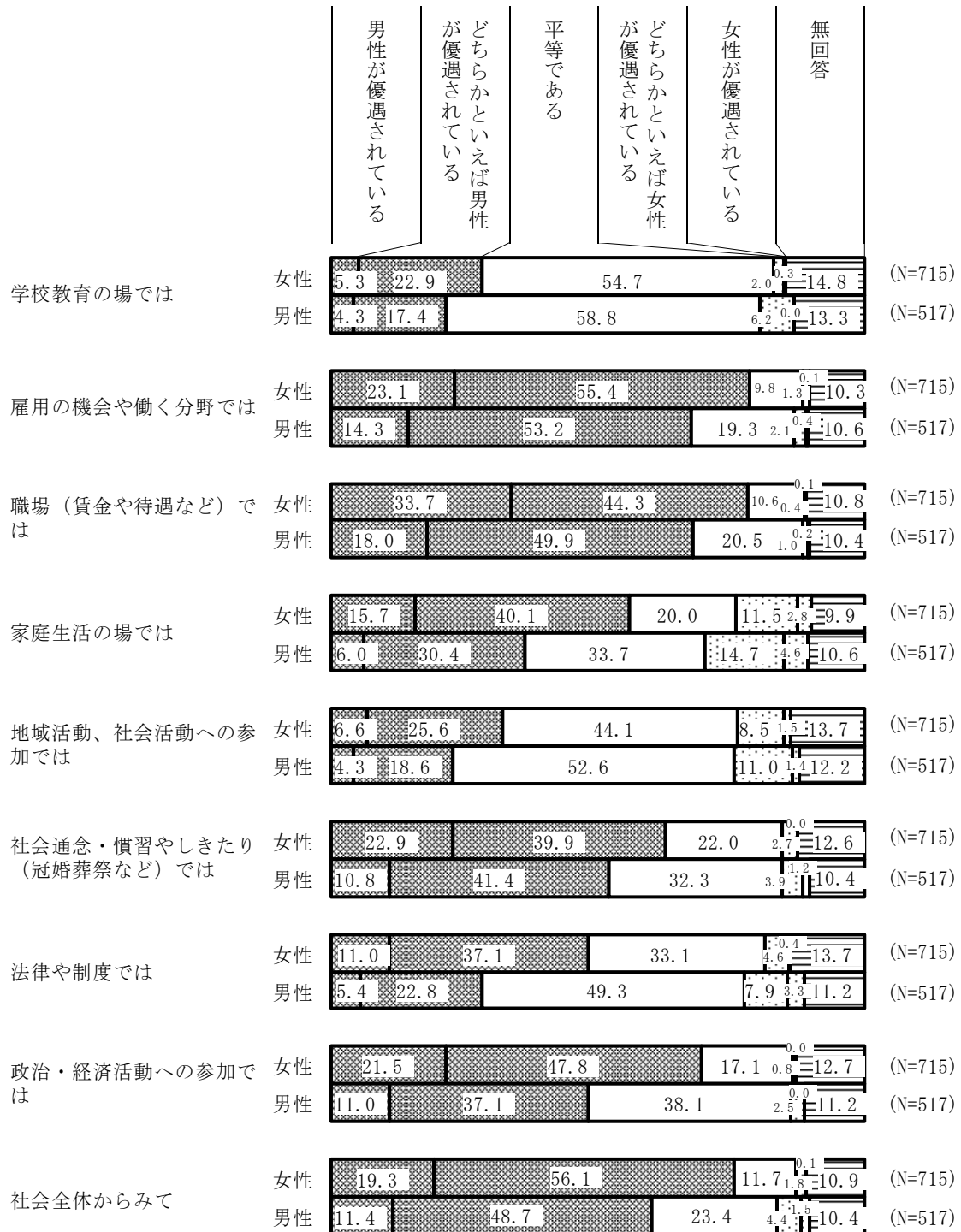
図2-18 性別・年齢層別 男女平等を進めるために小学校・中学校で取組むこと



3. 男女の地位に関する意識について

問 21 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
(①～⑨の項目ごとに〇は1つずつ)

図3-1 男女の地位の平等感



(単位：%)

■男女で「平等である」の割合が50%を超えるのは「学校教育の場」のみ

社会の中のさまざまな分野における男女平等についてたずねたところ、「平等である」の割合が最も高いのは、「学校教育の場」で、女性 54.7%・男性 58.8%である。ついで、「地域活動、社会活動への参

加」は女性 44.1%・男性 52.6%、「法律や制度」では女性 33.1%・男性 49.3%となっている。

■＜男性が優遇＞の割合が最も高いのは「雇用の機会や働く分野」

逆に、＜男性が優遇＞（「男性が優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」）の割合が最も高いのは、「雇用の機会や働く分野」で女性 78.5%・男性 67.5%。ついで、「職場（賃金や待遇など）」が女性 78.0%・男性 67.9%で、就労においての男性の優遇感が高くなっている。

■すべての分野で女性の方が男性の優遇感が高い

すべての分野で＜男性が優遇＞の割合は、男性よりも女性の方が高くなっている。特に、「政治・経済活動への参加」、「法律や制度」、「家庭生活の場」では 20 ポイント前後の開きがある。

■「社会全体から」においても＜男性が優遇＞の割合は高い

「社会全体から」みた場合については、＜男性が優遇＞の割合は、女性 75.4%・男性 60.1%であり、女性の 4 人に 3 人は男性が優遇されていると感じていることがわかる。

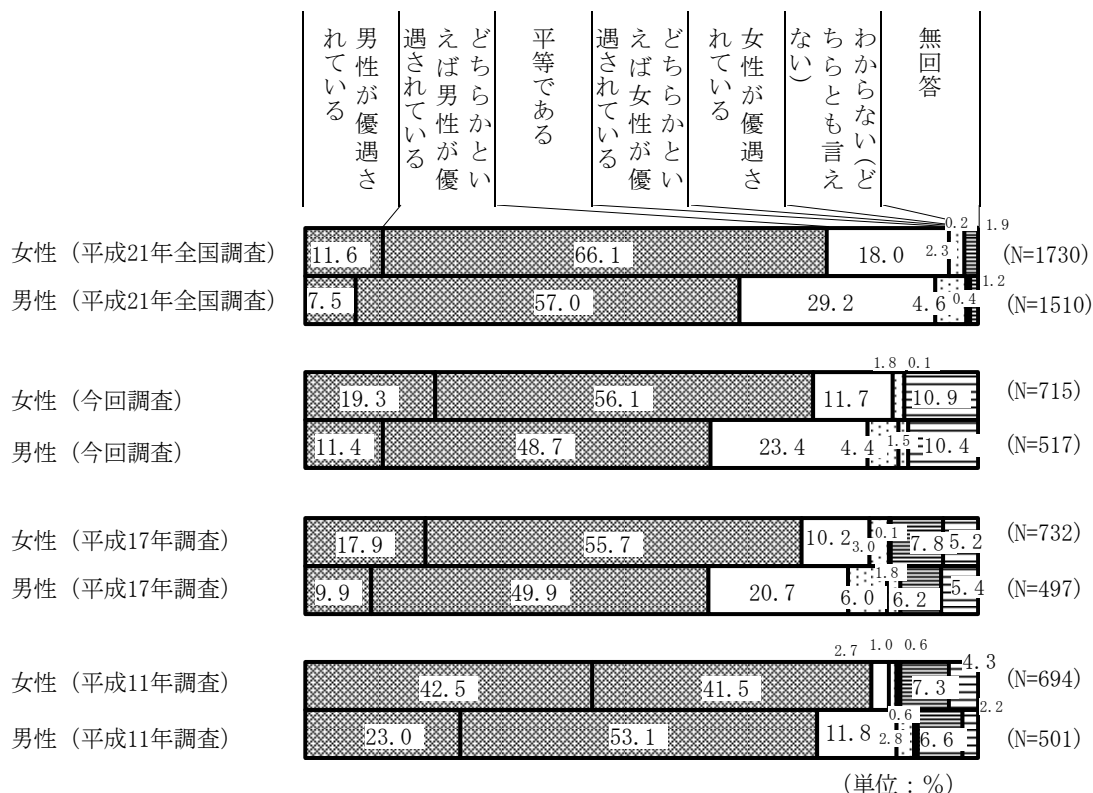
■前回調査とほぼ同様の結果

前回調査と比較するとおおむね前回の結果と同様の傾向である。しかし、女性の場合は「社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）」をのぞく他の分野では、今回の＜男性が優遇＞の割合の方が高くなっている。

また、男性の場合は、「職場（賃金や待遇など）」、「社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）」、「法律や制度」をのぞく他の分野では、今回の＜男性が優遇＞の割合の方が高くなっている。

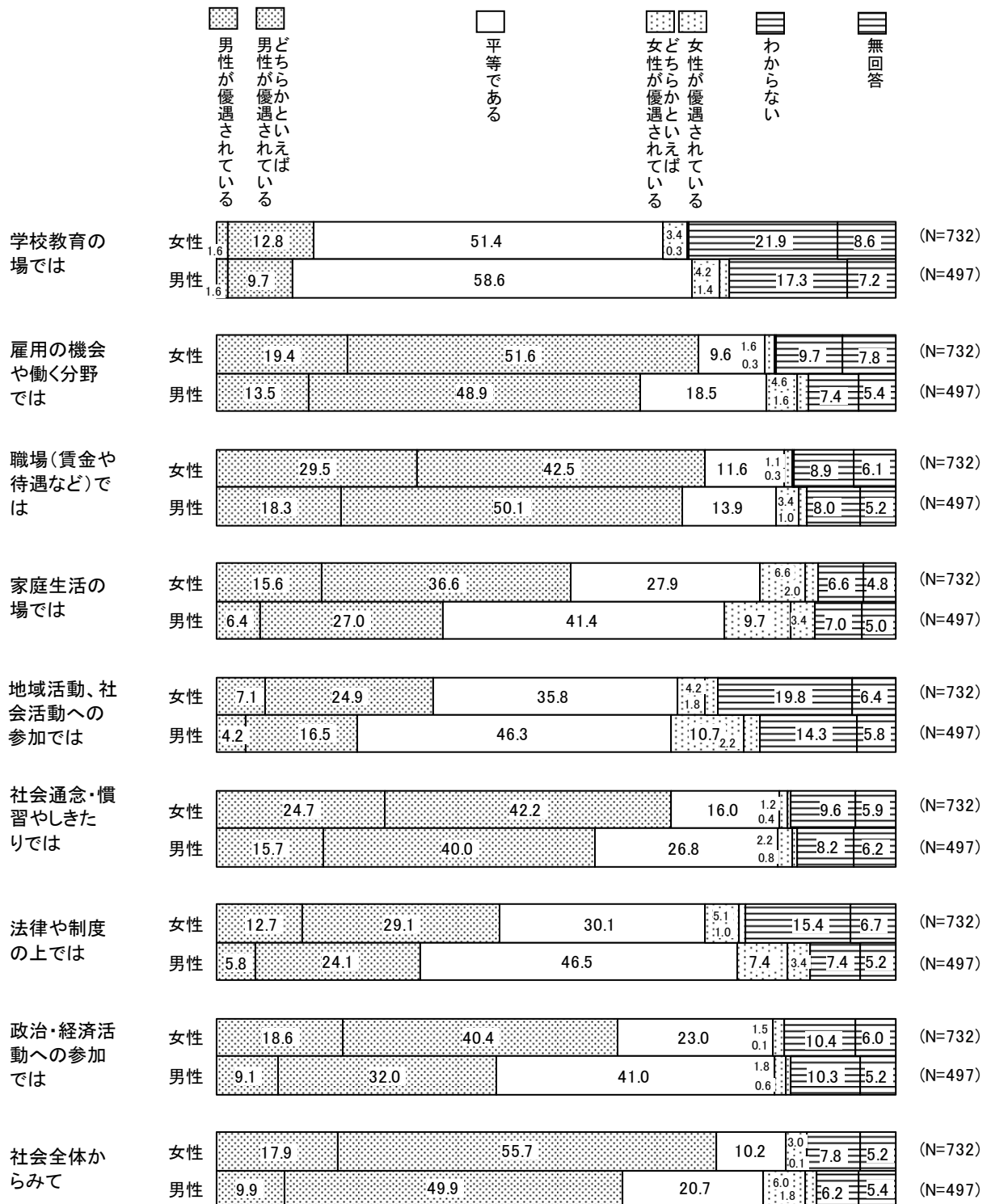
【全国調査、東大阪市前々回・前回調査との比較】

図3-2 男女の地位の平等感<社会全体からみて>



【前回調査】

図3-3 男女の地位の平等感



(単位: %)

資料: 東大阪市「男女共同参画に関する市民意識調査」平成 17 年

性別・年齢層別

<男性が優遇>の割合によって年齢層別の折れ線グラフを作成した。

図3-4 性別・年齢層別 男女の地位の平等 <男性が優遇>の割合 《学校教育の場では》

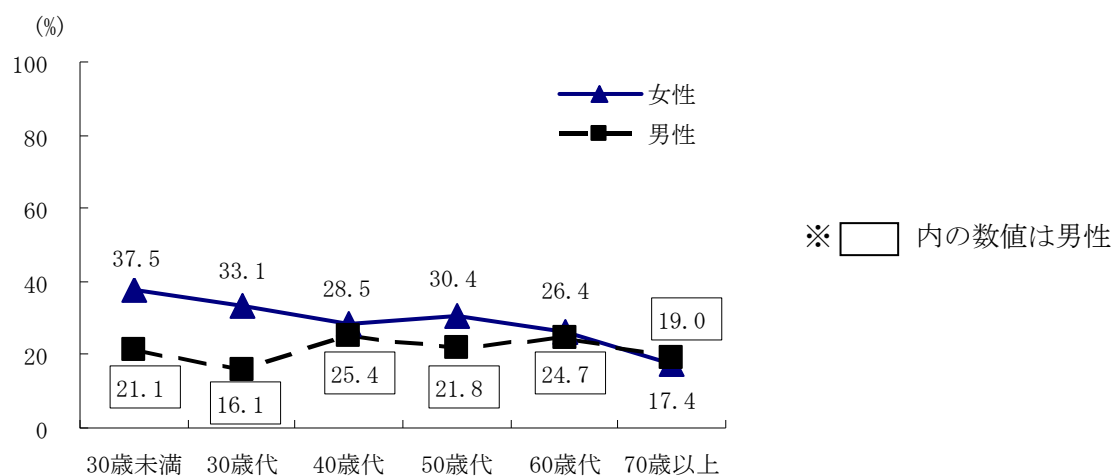


図3-5 性別・年齢層別 男女の地位の平等 <男性が優遇>の割合 《雇用の機会や働く分野では》

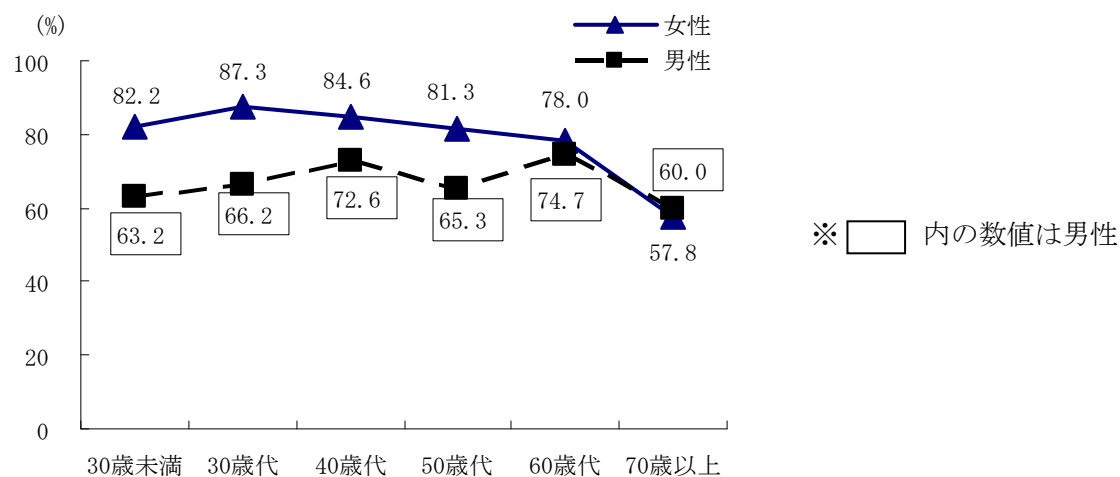


図3-6 性別・年齢層別 男女の地位の平等 <男性が優遇>の割合 《職場（賃金や待遇など）では》

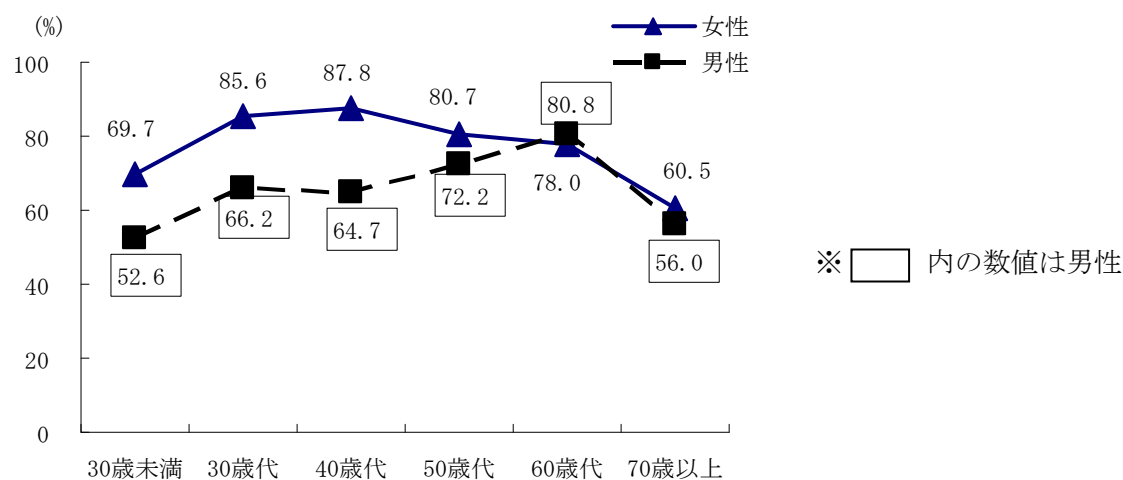


図3-7 性別・年齢層別 男女の地位の平等＜男性が優遇＞の割合 《家庭生活の場では》

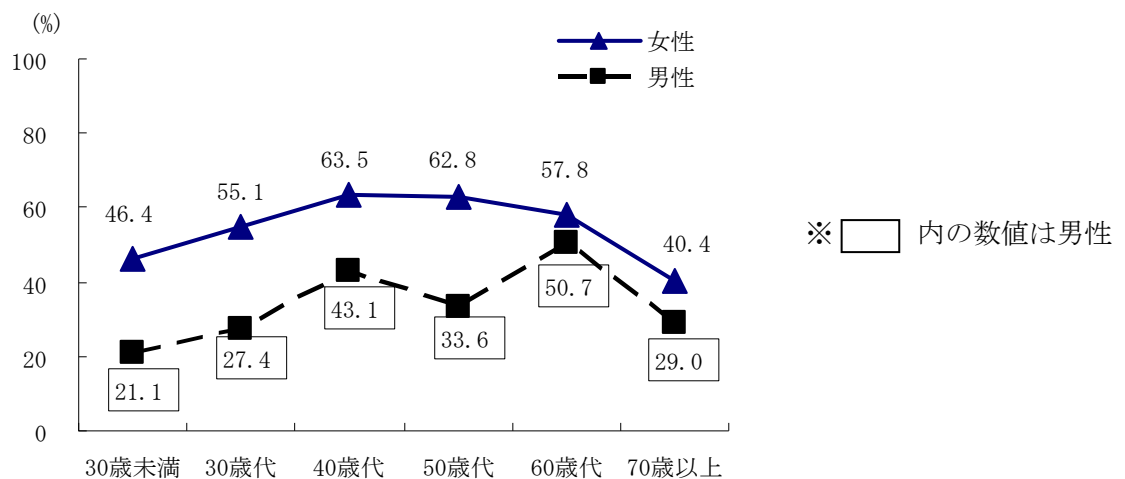


図3-8 性別・年齢層別 男女の地位の平等＜男性が優遇＞の割合 《地域活動、社会活動への参加では》

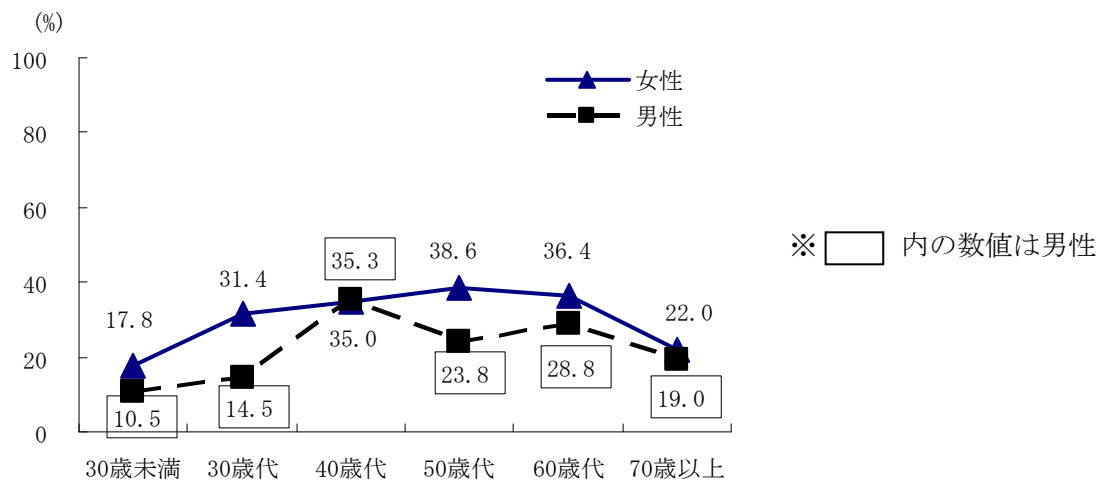


図3-9 性別・年齢層別 男女の地位の平等＜男性が優遇＞の割合 《社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では》

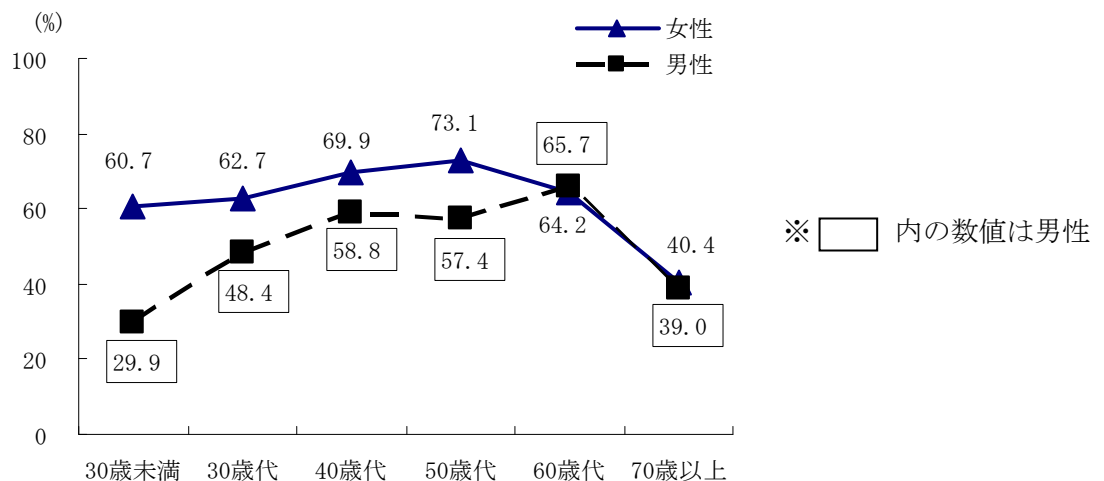


図3-10 性別・年齢層別 男女の地位の平等＜男性が優遇＞の割合 《法律や制度では》

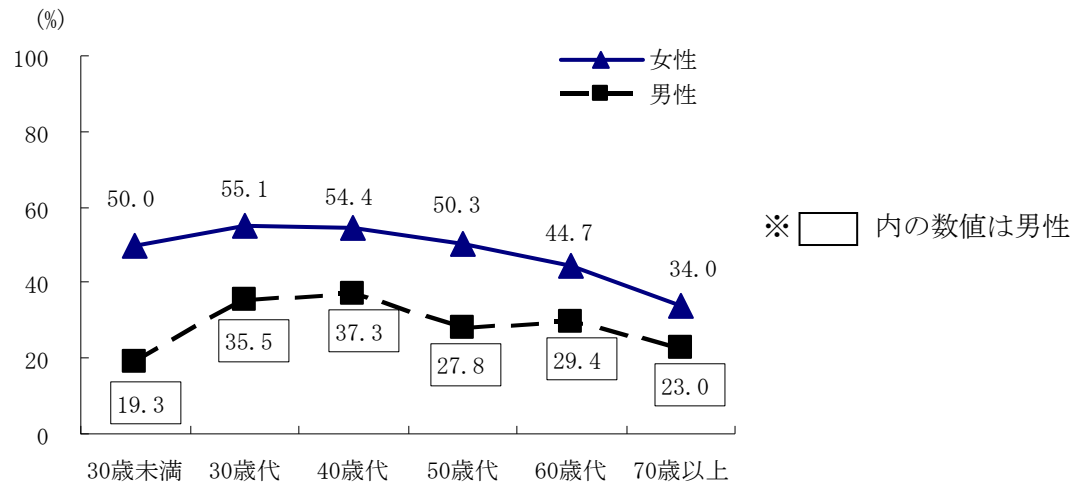


図3-11 性別・年齢層別 男女の地位の平等 ＜男性が優遇＞の割合 《政治・経済活動への参加では》

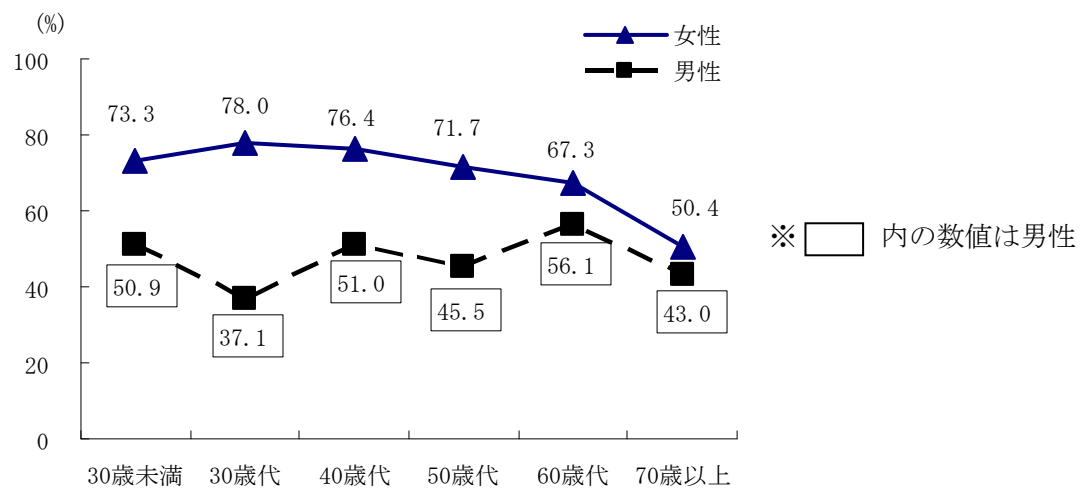
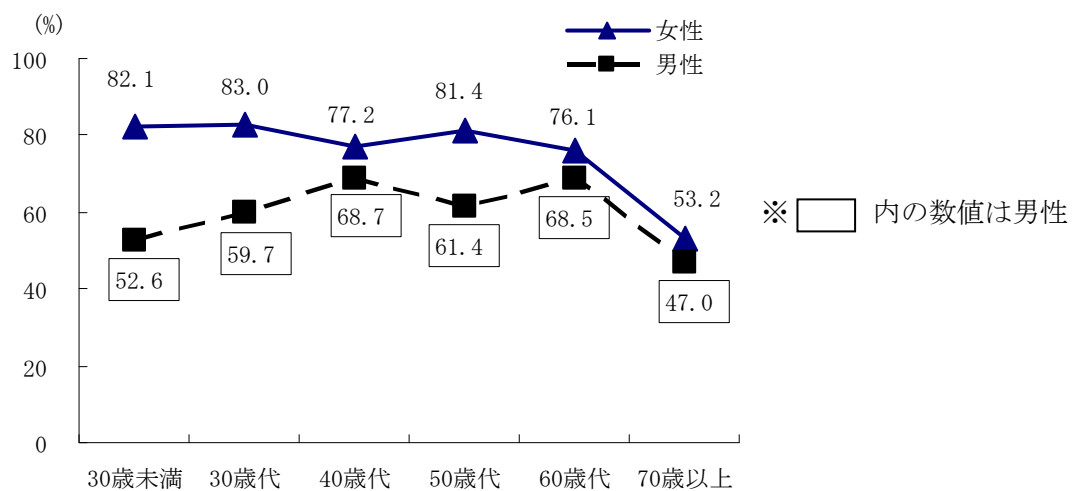
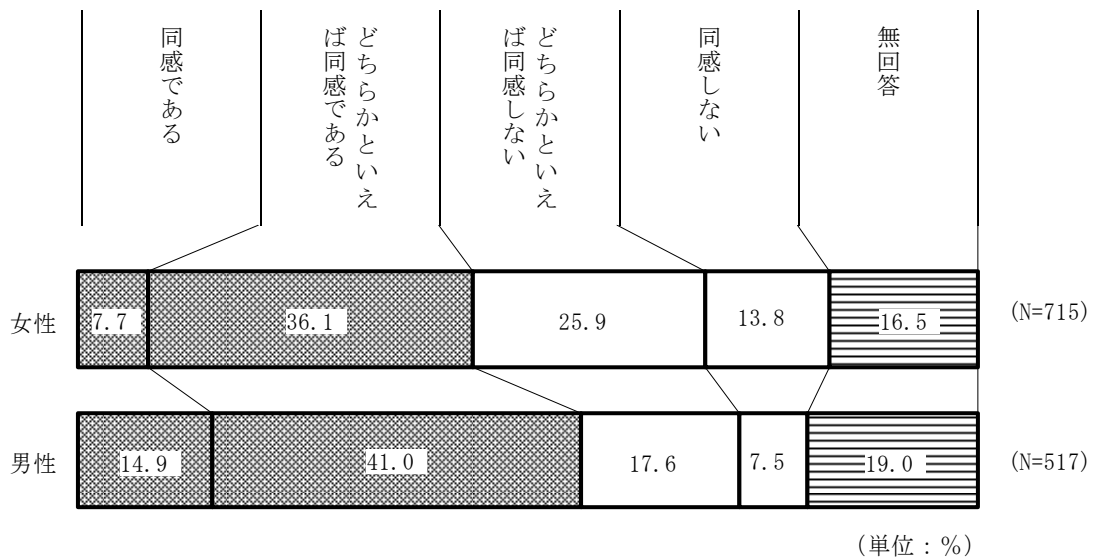


図3-12 性別・年齢層別 男女の地位の平等 ＜男性が優遇＞の割合 《社会全体からみて》



問 22 「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

図3-13 固定的な性別役割分担意識について



■女性では、＜同意する＞と＜同意しない＞がほぼ同じ割合

いわゆる固定的な性別役割分担意識に対しての考え方をたずねたところ、女性では「同意グループ」（「同意である」＋「どちらかといえば同意である」）が 43.8%、「同意しないグループ」（「同意しない」＋「どちらかといえば同意しない」）が 39.7%で、ほぼ同じ割合である。

■男性では、＜同意する＞が＜同意しない＞を約 30 ポイント上回る

男性の場合は、「同意グループ」が 55.9%、「同意しないグループ」が 25.1%で、「同意グループ」の方が 30.8 ポイント高くなっている。

この結果を男女で比較すると、男性の方が「同意グループ」の割合が 12.1 ポイント高くなっている。

■前回調査と比較すると、男女とも「同意しないグループ」が減っている

前回調査と比較すると、女性の場合は、前回調査では、「同意グループ」は 44.1%、「同意しないグループ」は 53.5%であるから、「同意グループ」の割合はほとんど変化がないものの、「同意しないグループ」の割合が 13.8 ポイント減っている。

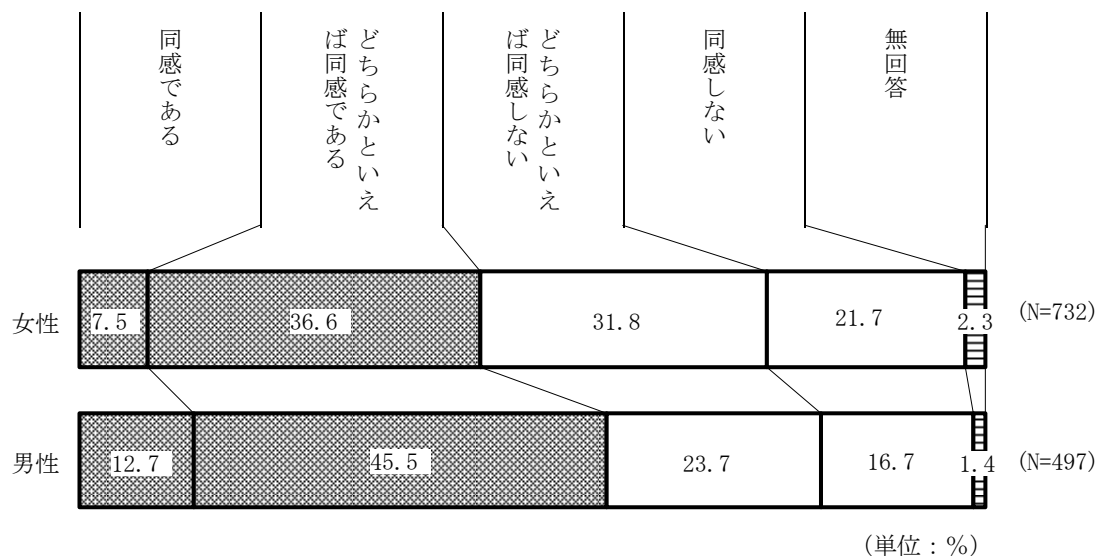
男性の場合は、「同意グループ」58.2%、「同意しないグループ」40.4%であるから、こちらも「同意グループ」の割合はほとんど変化がないものの、「同意しないグループ」の割合が 15.3 ポイント減っている。

■国の調査に比べて「同意しないグループ」の割合が低い

国の調査では、「賛成」（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）の割合は、女性 37.3%・男性 45.9%。「反対」（「どちらかといえば反対」＋「反対」）の割合は、女性 58.6%・男性 51.1%となっており、東大阪市の結果と比べると、「同意しないグループ（国でいえば「反対」）」の割合が女性では 18.9 ポイント、男性では 26.0 ポイント高くなっている。

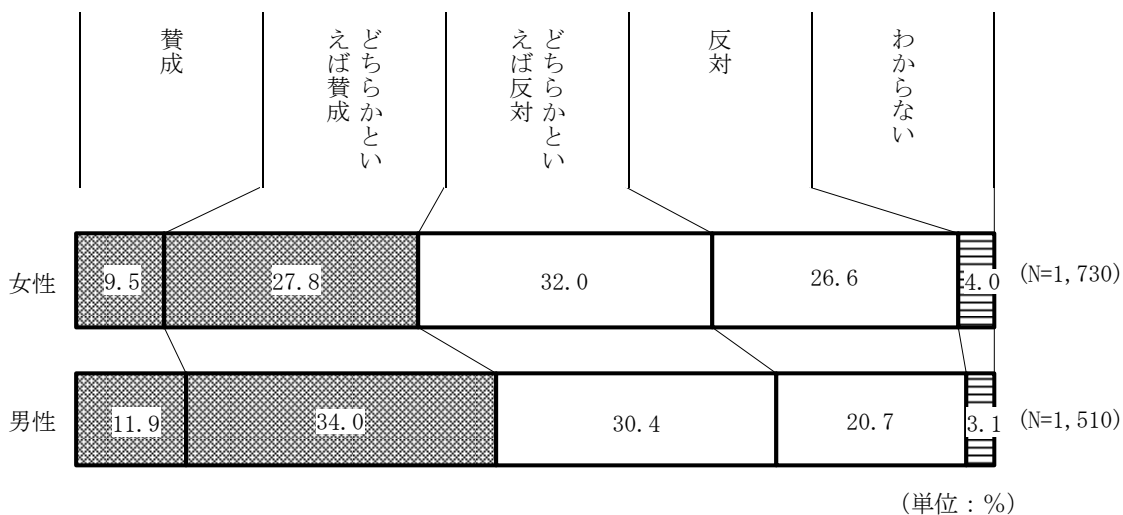
【参考図】

図3-14 固定的な性別役割分担意識について <前回調査>



資料：東大阪市「男女共同参画に関する市民意識調査」平成 17 年

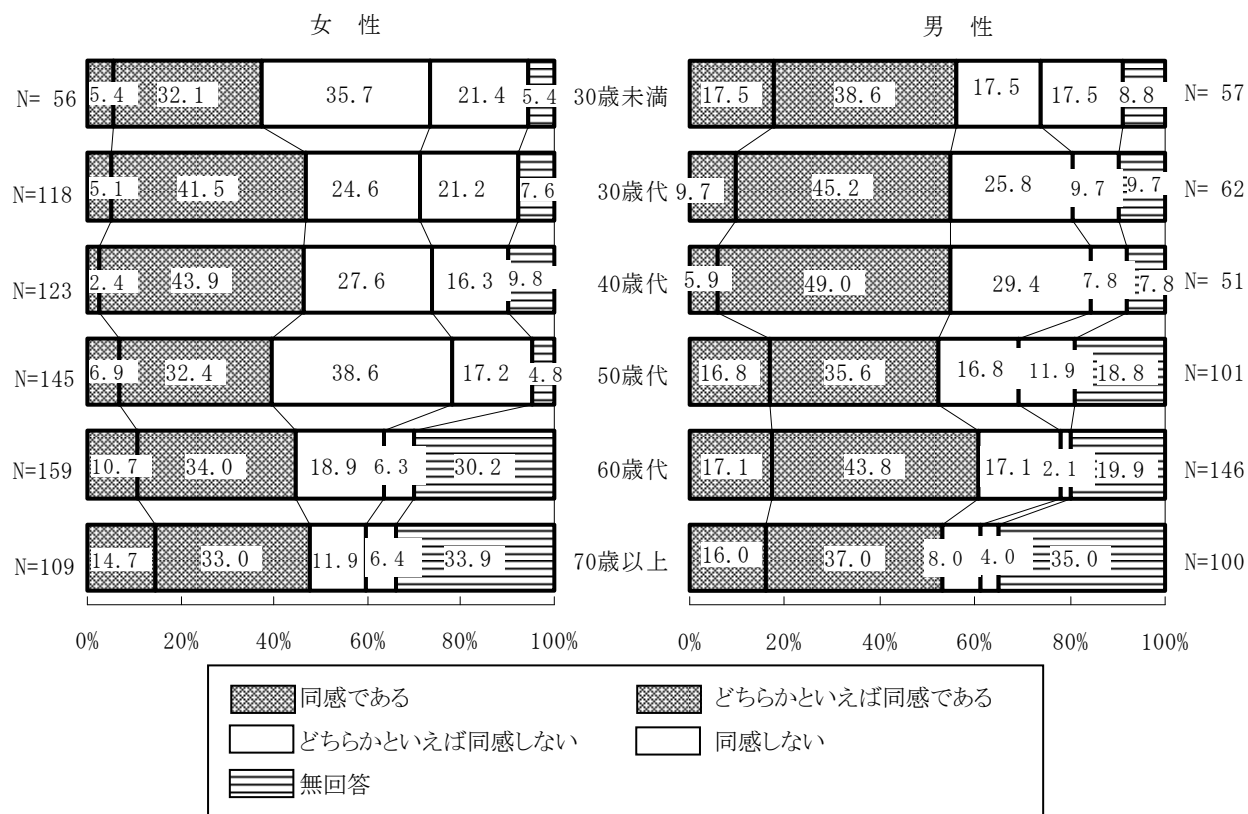
図3-15 固定的な性別役割分担意識について <国の調査>



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成 21 年

性別・年齢層別

図3-16 性別・年齢層別 固定的な性別役割分担意識について

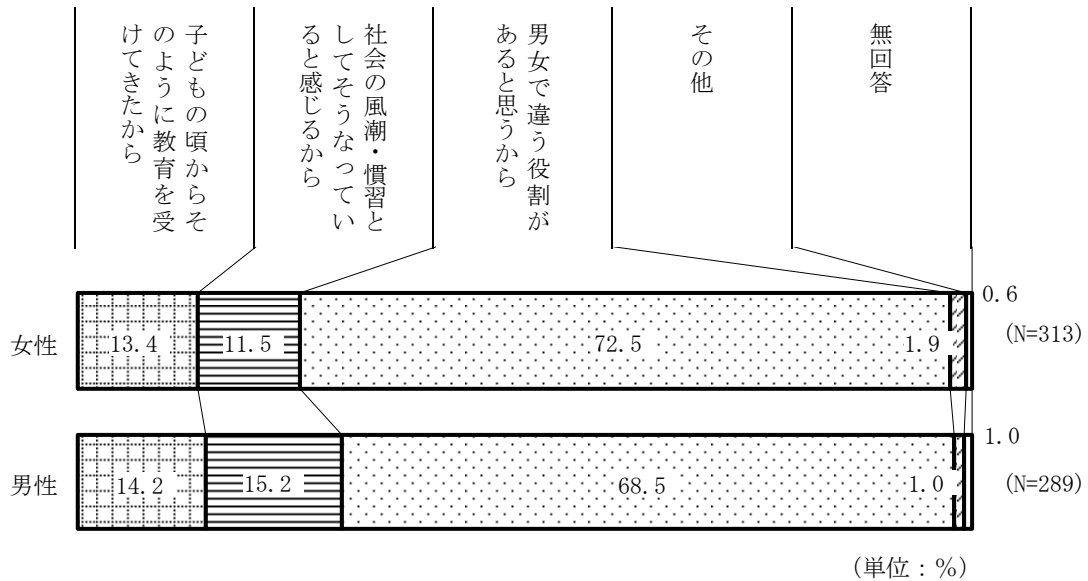


◆女性の場合、「同意しないグループ」の割合が「同意グループ」の割合を上回っているのは、30歳未満と50歳代である。

◆女性の30、40歳代では、「同意しないグループ」と「同意グループ」の割合がほぼ同じである。60歳代以上では「同意グループ」の割合が「同意しないグループ」の割合を大きく上回っている。

問 22－1 その理由は次のうちどれに近いですか。(○は1つ)

図3－17 固定的な性別役割分担意識に「同感する」理由

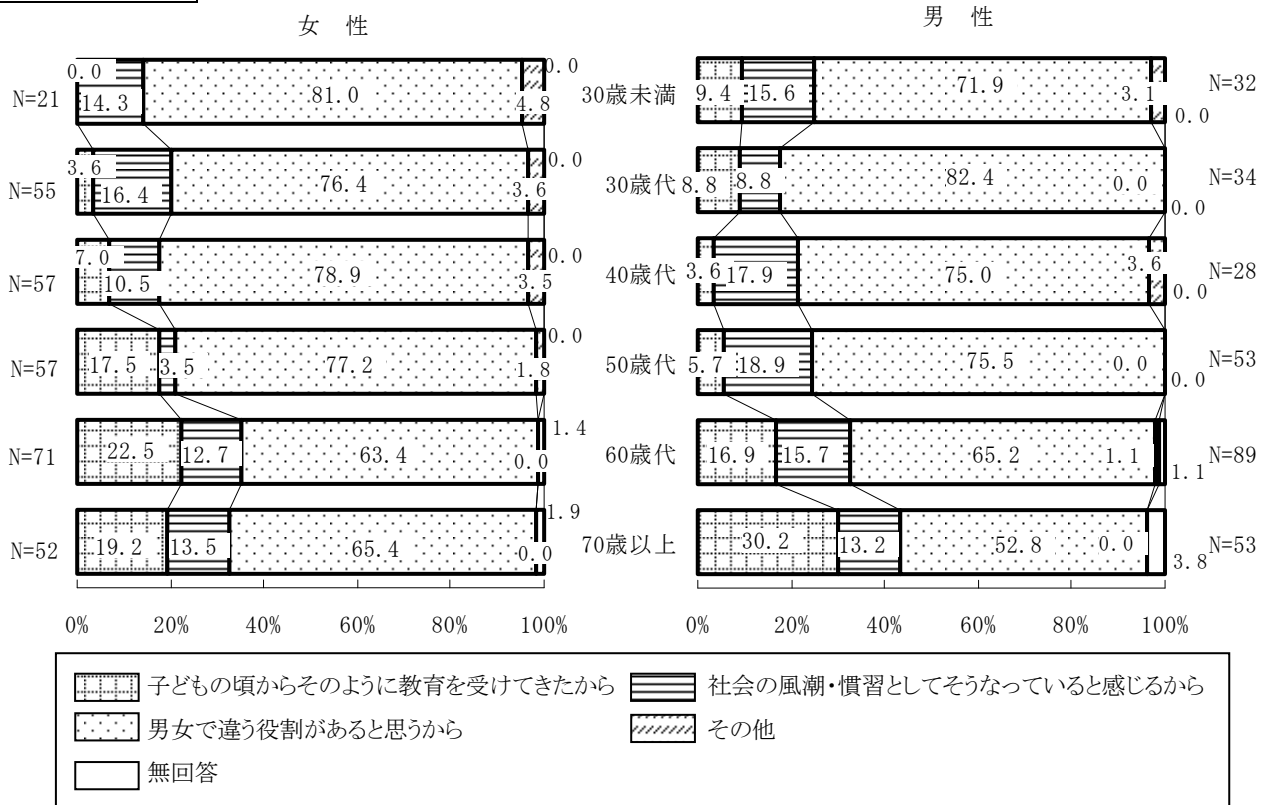


■「男女で違う役割があると思うから」の割合が70%前後

固定的な性別役割分担意識に「同感する」理由をたずねたところ、男女ともに「男女で違う役割があると思うから」の割合が大半を占め、女性72.5%・男性68.5%である。「子どもの頃からそのように教育を受けてきたから」「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」はそれぞれ10%台である。

性別・年齢層別

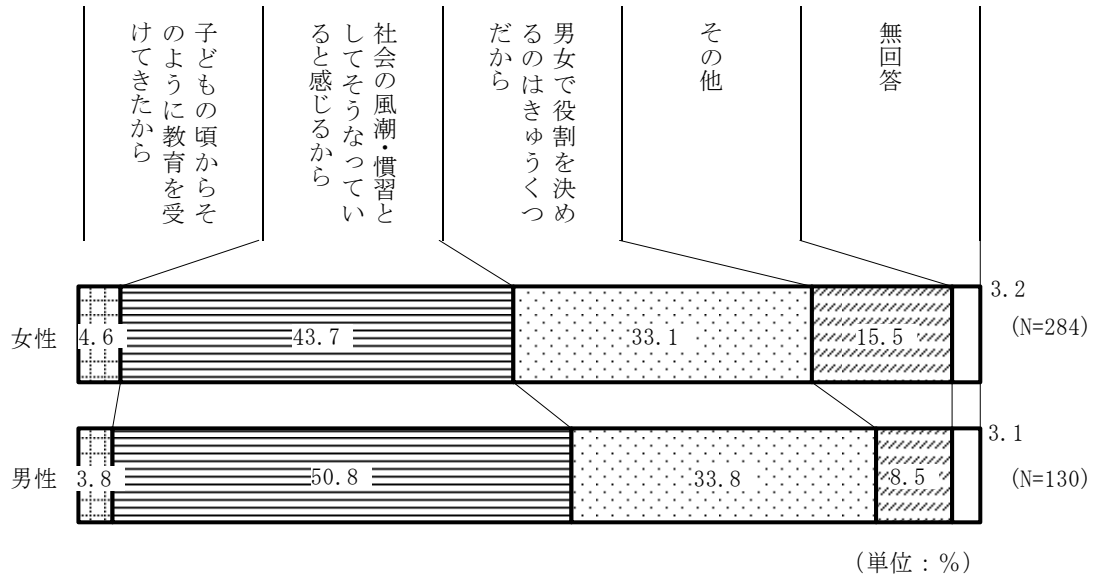
図3－18 性別・年齢層別 固定的な性別役割分担意識に「同感する」理由



◆男女ともに、おおむね年齢層が高い層ほど「子どもの頃からそのように教育を受けてきたから」の割合が高くなっている。

問 22-2 その理由は次のうちどれに近いですか。(○は1つ)

図3-19 固定的な性別役割分担意識に「同感しない」理由

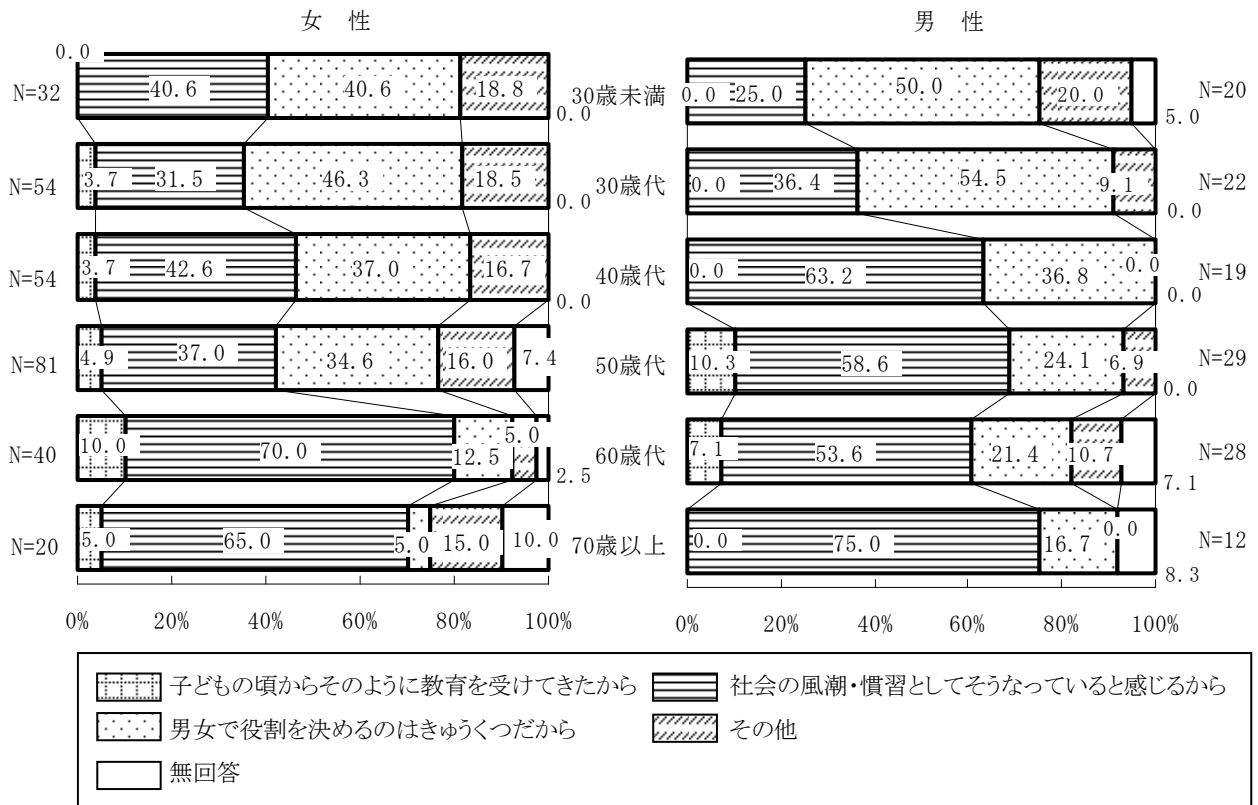


■「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」の割合が最も高い

固定的な性別役割分担意識に「同感しない」理由をたずねたところ、男女ともに「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」が最も高く、女性 43.7%・男性 50.8%である。ついで、「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」が女性 33.1%・男性 33.8%となっている。

性別・年齢層別

図3-20 性別・年齢層別 固定的な性別役割分担意識に「同感しない」理由



4. 健康や地域活動、老後の暮らしについて

問 23 あなたは、生活の中でどのようなことでストレス（不安や悩み）を感じていますか。

（①～⑦の項目ごとに○は1つずつ）

図4-1 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い



■「老後の生活（経済や健康）」と「経済的なこと」に強いストレスを感じているのは30%前後

生活の中でのストレスの度合いをたずねたところ、男女ともに「ストレスを強く感じる」割合が高いのは、「老後の生活（経済や健康）」（女性 32.9%・男性 26.9%）、「経済的なこと」（女性 27.3%・男性 26.9%）である。

「ストレスを強く感じる」と「ストレスを感じる」を合わせると、「老後の生活（経済や健康）」「経

済的なこと」とともに男女それぞれ70%前後にもなる。

また、「経済的なこと」以外の項目では、女性の割合が高くなっている。特に、「家事の負担」では18.0ポイント、「配偶者やパートナー、恋人のこと」では10.7ポイント高くなっている。

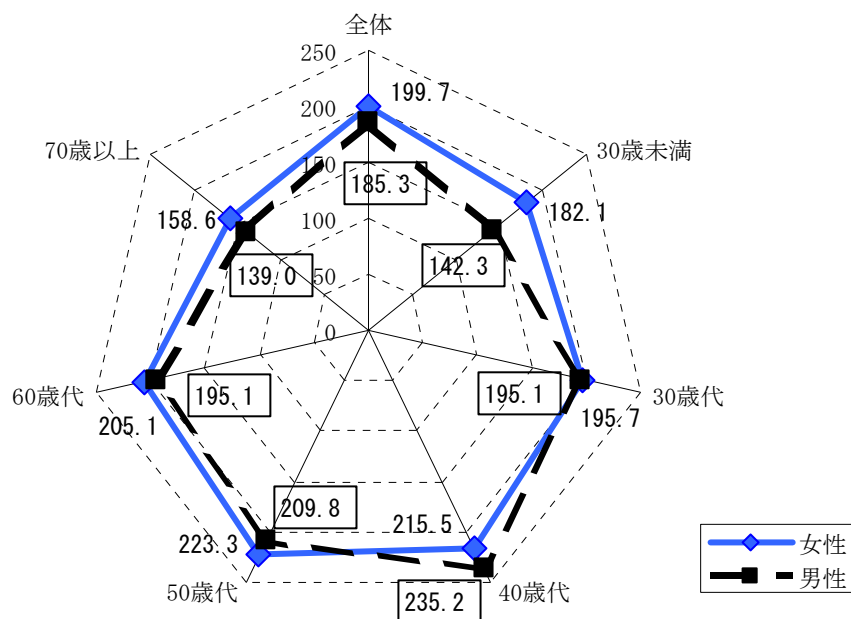
性別・年齢層別

どのようなことにストレス（悩みや不安）を感じているか、ストレスの強さを属性別で一覧するために、対象とする「女性715人、男性517人」について、以下の定義で数値を算出し、レーダーチャートで表示して概観する。

ストレス強度係数

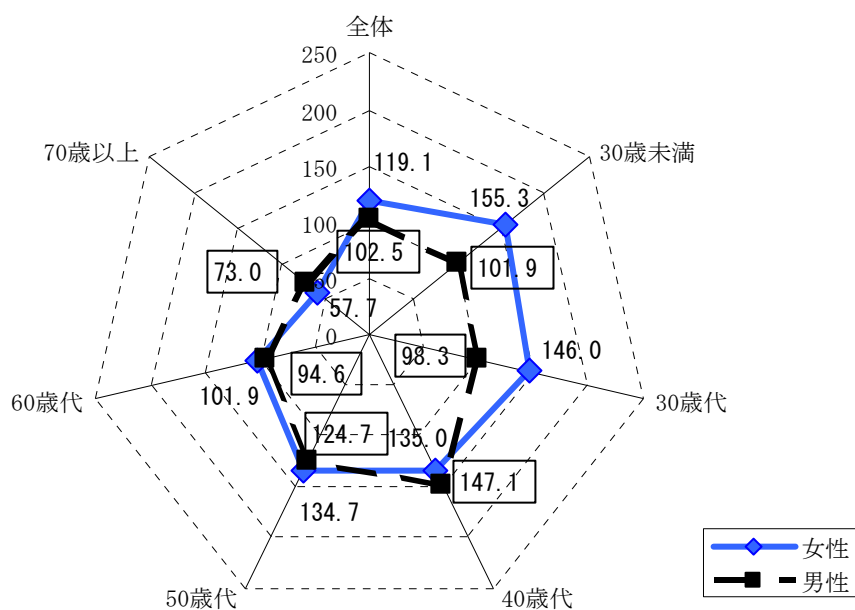
ストレスについて本報告書では、ストレスの強さをどのように感じているかを、選択肢「ストレスを強く感じる」の数値（％）×3、選択肢「ストレスを感じる」の数値（％）×2、選択肢「ストレスはほとんど感じない」の数値（％）×1の合計値と定義し、「ストレス強度係数」と呼ぶ。

図4-2 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い「老後の生活(経済や健康)」



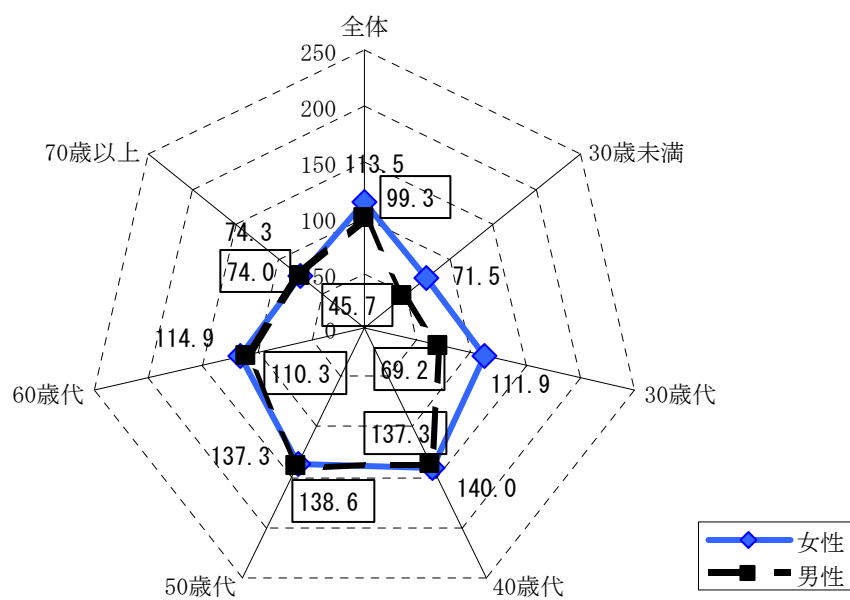
※ □ 内の数値は男性

図4-3 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い
「配偶者やパートナー、恋人のことで」



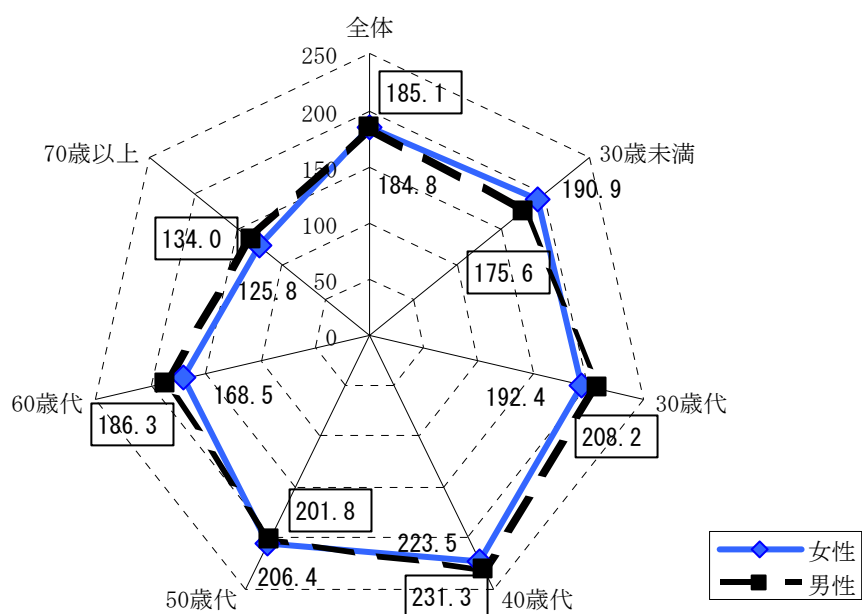
※ □ 内の数値は男性

図4-4 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い「子どものことで」



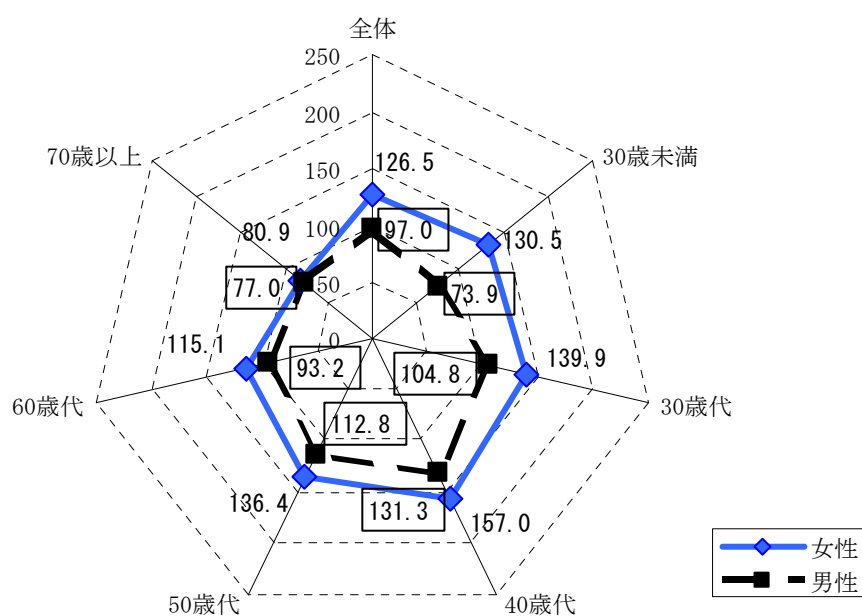
※ □ 内の数値は男性

図4-5 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い「経済的なことで」



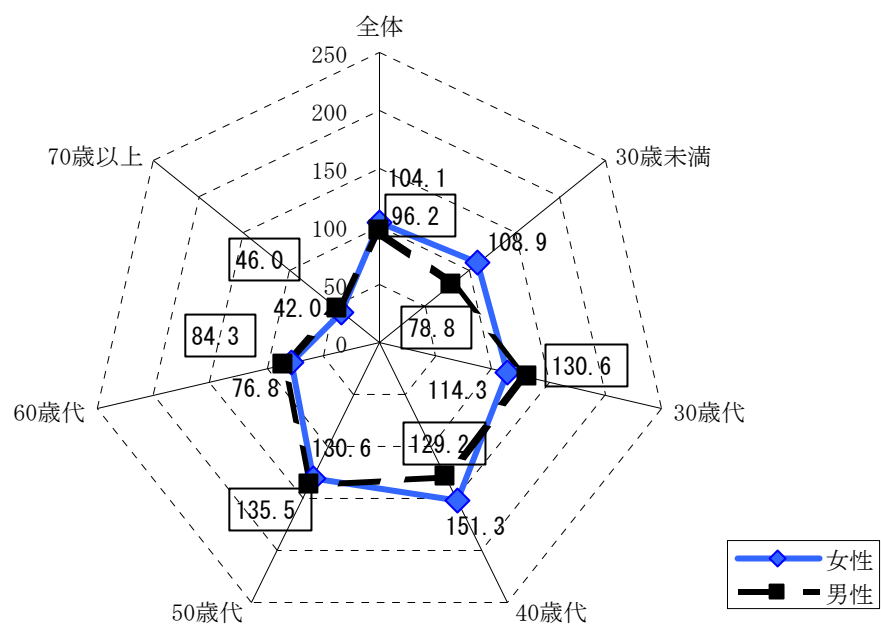
※ □ 内の数値は男性

図4-6 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い「家事の負担」



※ □ 内の数値は男性

図4-7 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い「親の介護や病気」



※ □ 内の数値は男性

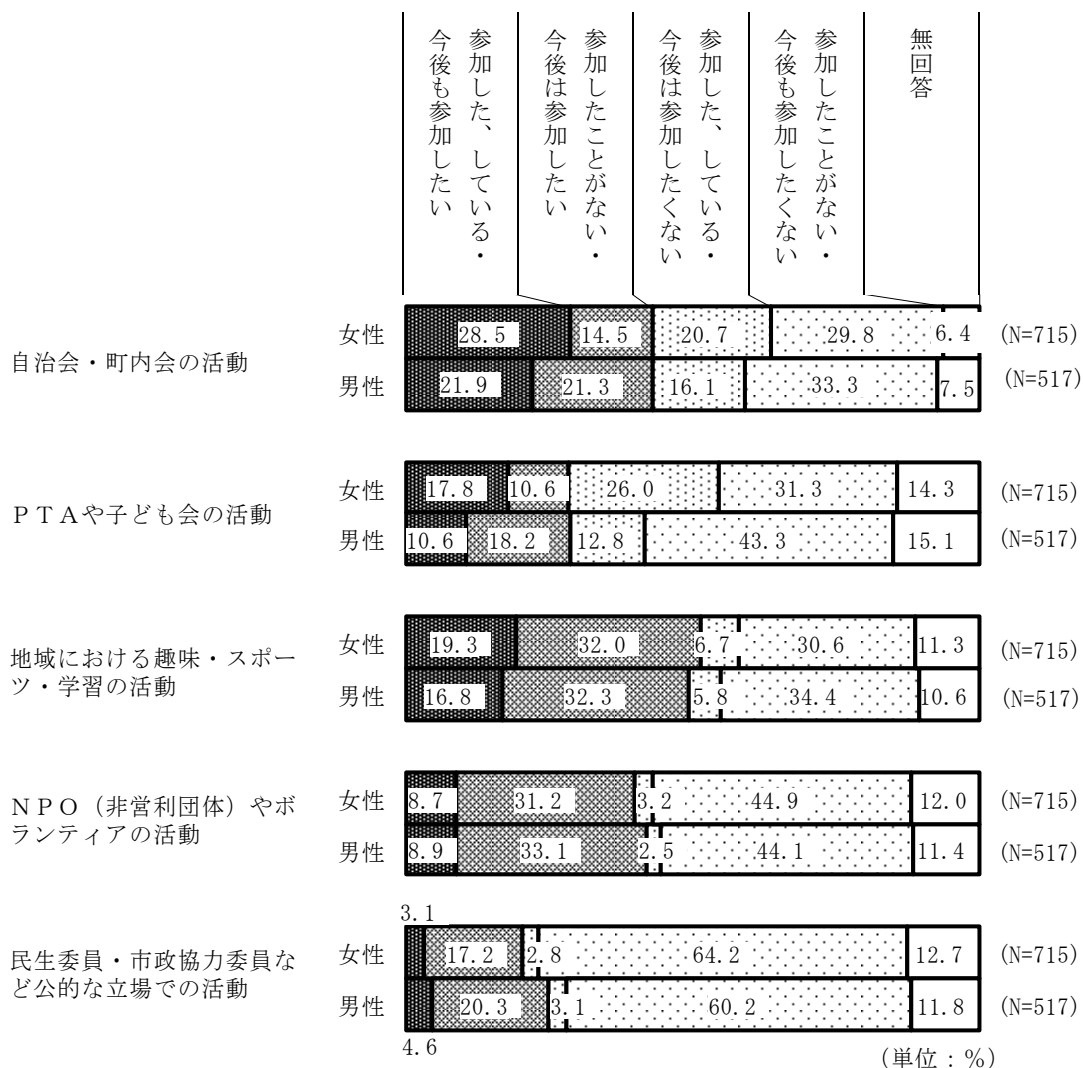
表4-1 性別・年齢層別・就業形態別 生活の中でのストレス強度係数

			対象者数 (人)	老後の生活 (経済や健康)	配偶者やパートナー、 恋人のことで	子どものことで	経済的なことで	家事の負担	親の介護や病気
全 体			1236	193.4	112.0	107.8	184.6	114.2	100.6
女 性			715	199.7	119.1	113.5	184.8	126.5	104.1
男 性			517	185.3	102.5	99.3	185.1	97.0	96.2
年 齢	女 性	30 歳未満	56	182.1	155.3	71.5	190.9	130.5	108.9
		30 歳代	118	195.7	146.0	111.9	192.4	139.9	114.3
		40 歳代	123	215.5	135.0	140.0	223.5	157.0	151.3
		50 歳代	145	223.3	134.7	137.3	206.4	136.4	130.6
		60 歳代	159	205.1	101.9	114.9	168.5	115.1	76.8
		70 歳以上	109	158.6	57.7	74.3	125.8	80.9	42.0
	男 性	30 歳未満	57	142.3	101.9	45.7	175.6	73.9	78.8
		30 歳代	62	195.1	98.3	69.2	208.2	104.8	130.6
		40 歳代	51	235.2	147.1	137.3	231.3	131.3	129.2
		50 歳代	101	209.8	124.7	138.6	201.8	112.8	135.5
		60 歳代	146	195.1	94.6	110.3	186.3	93.2	84.3
		70 歳以上	100	139.0	73.0	74.0	134.0	77.0	46.0
就 業 形 態	女 性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	213.0	120.3	100.9	196.0	134.8	114.5
		パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	237.0	127.7	116.7	212.8	142.6	120.4
		パート、アルバイトの勤め人(短時間)	103	226.2	143.8	136.9	225.3	154.2	126.2
		自営業主・経営者(農林業を含む)	16	175.0	106.4	106.3	125.0	87.6	106.4
		自営業の手伝い、家族従業員	33	209.1	136.5	121.1	169.7	124.1	106.2
		内職など家庭でできる仕事	11	254.5	109.2	154.7	209.3	109.2	91.0
	男 性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	207.9	130.4	123.4	202.7	110.0	127.8
		パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	23	199.9	69.5	60.9	208.8	112.8	113.0
		パート、アルバイトの勤め人(短時間)	32	156.4	90.6	59.3	165.7	74.9	56.1
		自営業主・経営者(農林業を含む)	64	198.4	117.1	128.3	196.8	98.6	112.7
		自営業の手伝い、家族従業員	10	140.0	40.0	70.0	170.0	80.0	70.0

問 24 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものに○をつけてください。

(①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)

図4-8 地域活動への参加状況



■男女ともに「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」への参加意向は、2人に1人の割合

「参加した、している・今後参加したい」の割合が最も高いのは、男女ともに「自治会・町内会の活動」で女性28.5%・男性21.9%である。これに「参加したことがない・今後は参加したい」を加えた＜今後参加したい＞割合は、女性43.0%・男性43.2%である。

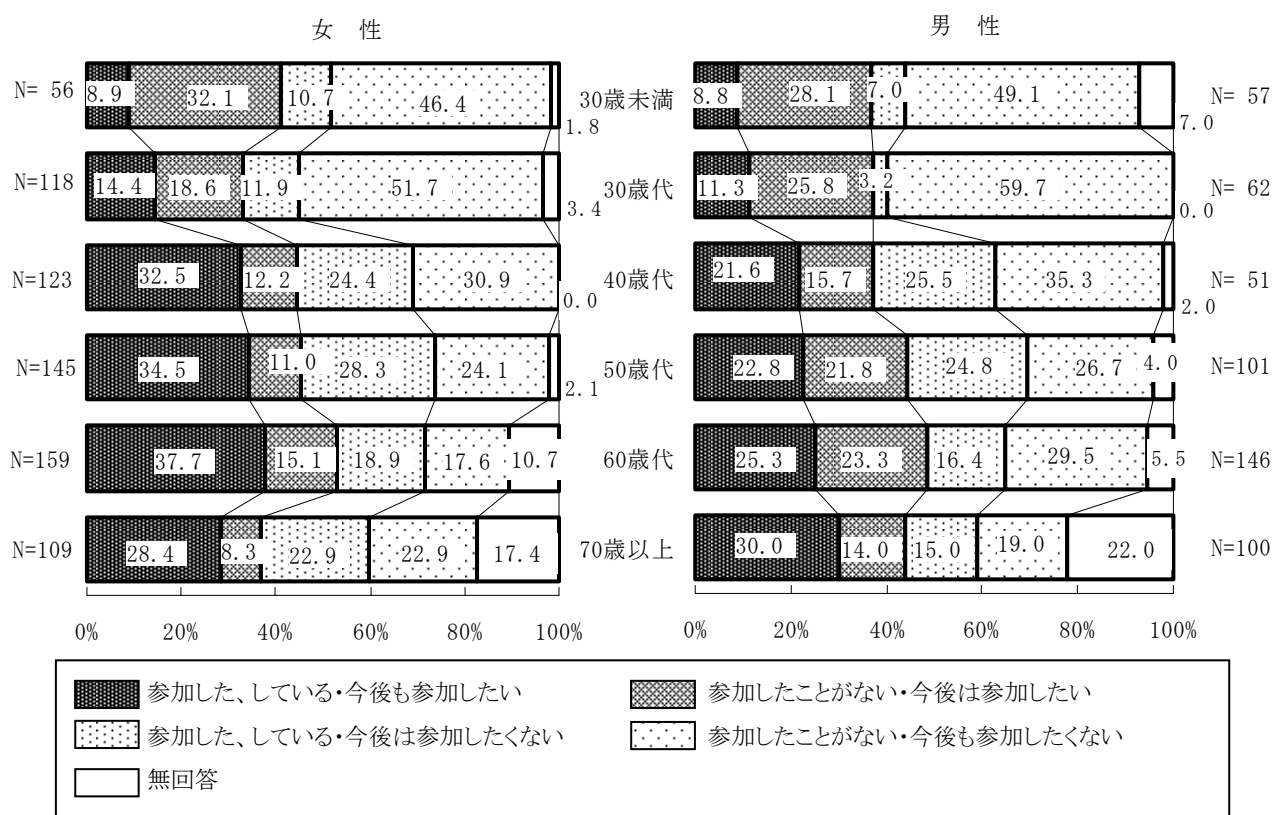
「参加した、している・今後参加したい」の割合が次に高いのは、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」で女性19.3%・男性16.8%である。これに「参加したことがない・今後は参加したい」を加えた＜今後参加したい＞割合は、女性51.3%・男性49.1%である。

■男女とも「今後参加したくない」割合が最も高いのは「公的な立場での活動」

「参加した、している・今後は参加したくない」と「参加したことがない・今後は参加したくない」を合わせた＜今後参加したくない＞割合が高いのは、「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」で女性67.0%・男性63.3%である。ついで、「PTAや子ども会の活動」では、女性57.3%・男性56.1%である。

性別・年齢層別

図4-9 性別・年齢層別 地域活動への参加状況「自治会・町内会の活動」



◆女性の場合、「参加したことがない・今後は参加したい」の割合が最も高いのは30歳未満で、32.1%である。

＜今後参加したい＞の割合が最も高いのは、60歳代で52.8%である。

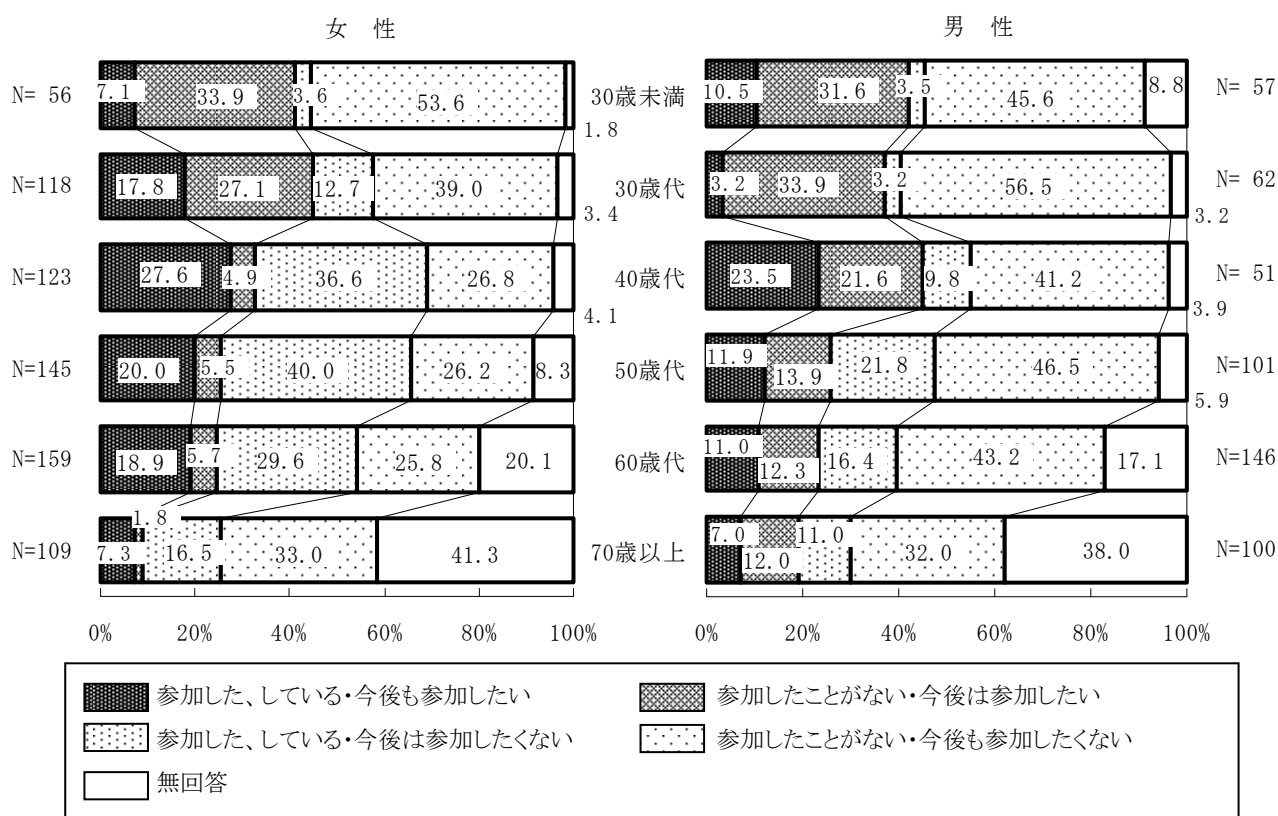
一方、＜今後参加したくない＞の割合が最も高いのは、30歳代で63.6%である。

◆男性の場合、年齢層が高いほど「参加した、している・今後も参加したい」の割合は高く、70歳以上では30.0%である。

＜今後参加したい＞割合が最も高いのは60歳代で、48.6%である。

一方、＜今後参加したくない＞の割合は、30、40歳代で高く、60%を超えている。

図4-10 性別・年齢層別 地域活動への参加状況「PTAや子ども会の活動」



◆女性の場合、「参加したことがない・今後は参加したい」の割合が最も高いのは30歳未満で、33.9%である。

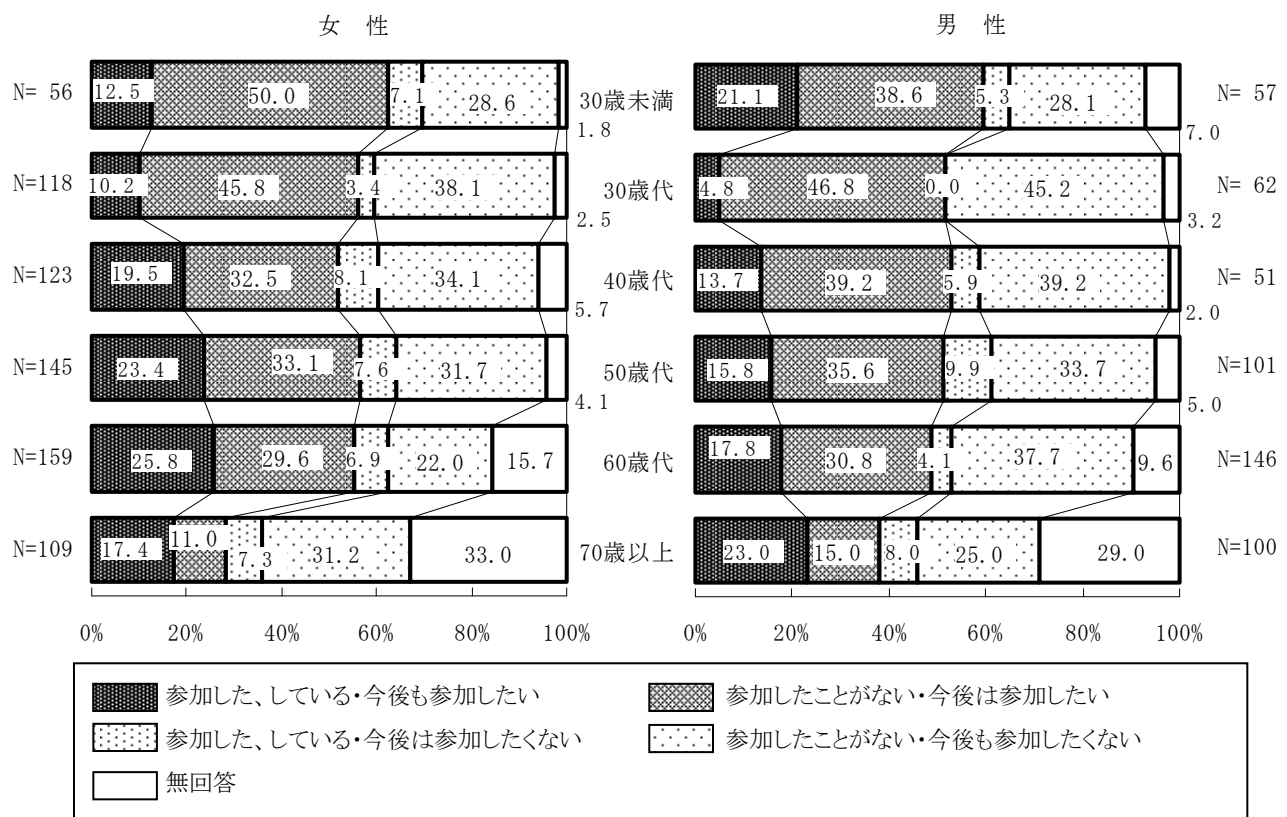
＜今後参加したい＞の割合が最も高いのは、30歳代で44.9%である。

一方、＜今後参加したくない＞の割合が最も高いのは、50歳代で66.2%である。

◆男性の場合、「参加したことがない・今後は参加したい」の割合は、30歳未満、30歳代で30%台で高い。＜今後参加したい＞割合は、40歳代で年齢層中最も高く、45.1%である。

50歳代以降の年代では＜今後参加したい＞割合は、年齢層が高いほど低くなっている。

図4-11 性別・年齢層別 地域活動への参加状況「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」

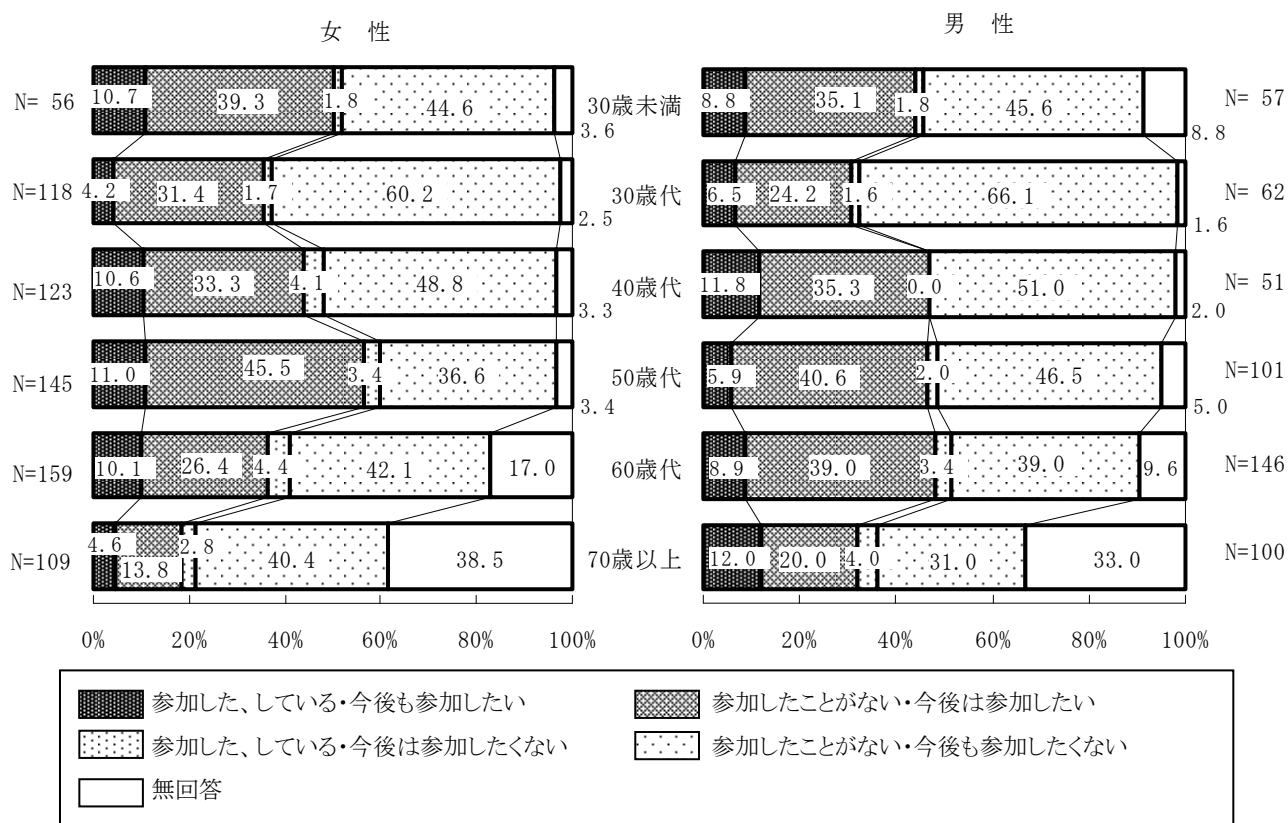


◆女性の場合、「参加したことがない・今後は参加したい」の割合が最も高いのは30歳未満で、50.0%である。

＜今後参加したい＞の割合は、30歳未満で最も高く62.5%である。

◆男性の場合、＜今後参加したい＞の割合は、30歳未満が最も高く59.7%である。

図4-12 性別・年齢層別 地域活動への参加状況「NPO(非営利団体)やボランティアの活動」



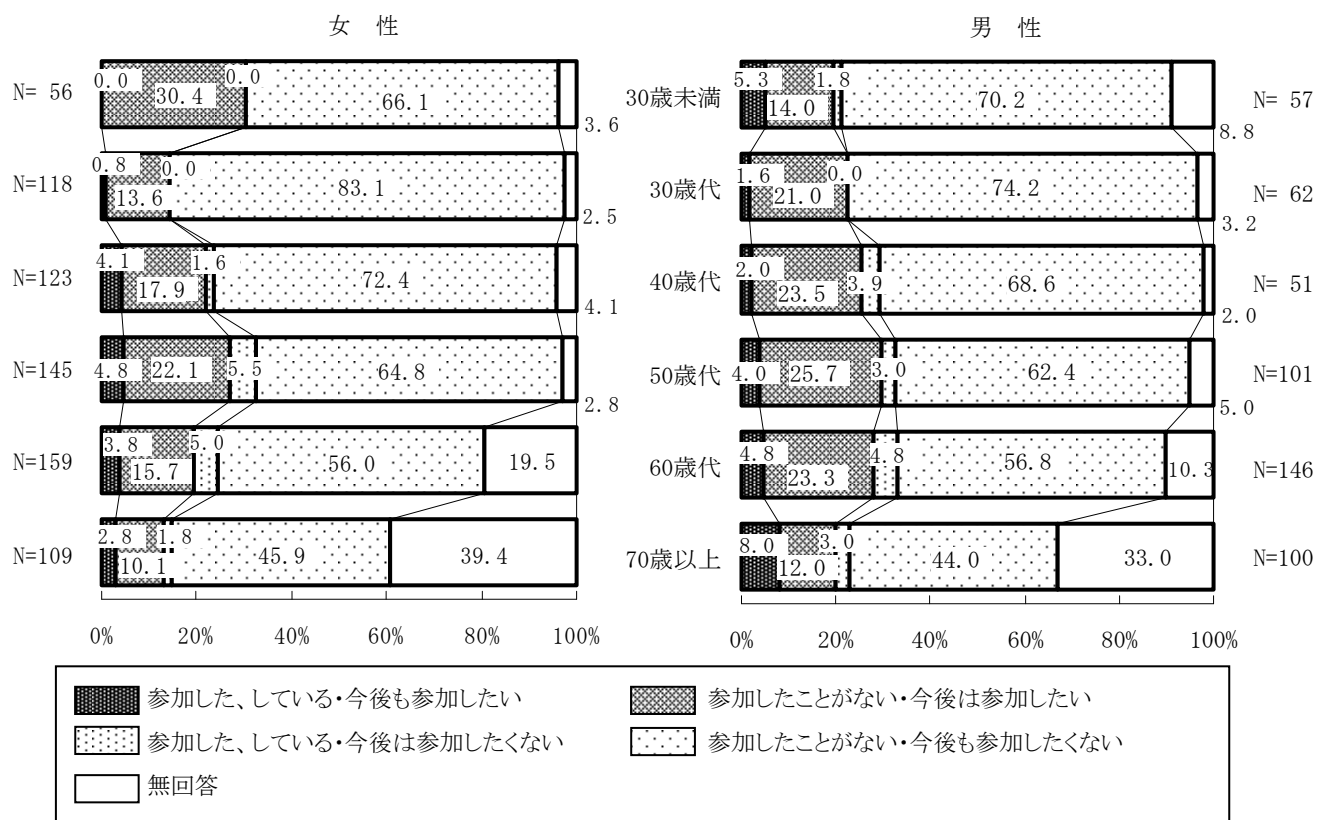
◆女性の場合、「参加した、している・今後も参加したい」の割合は、30歳代、70歳以上で低く4%台で、他の年齢層では10%強である。

＜今後参加したい＞割合が最も高いのは、50歳代で56.5%、ついで30歳未満で50.0%であり、最も低いのは70歳以上で18.4%である。

◆男性の場合は、「参加した、している・今後も参加したい」の割合は40歳代、70歳以上で10%を超えている。

＜今後参加したい＞割合は、40～60歳代で約50%と高くなっており、30歳代、70歳以上では約30%と低くなっている。

図4-13 性別・年齢層別 地域活動への参加状況「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」



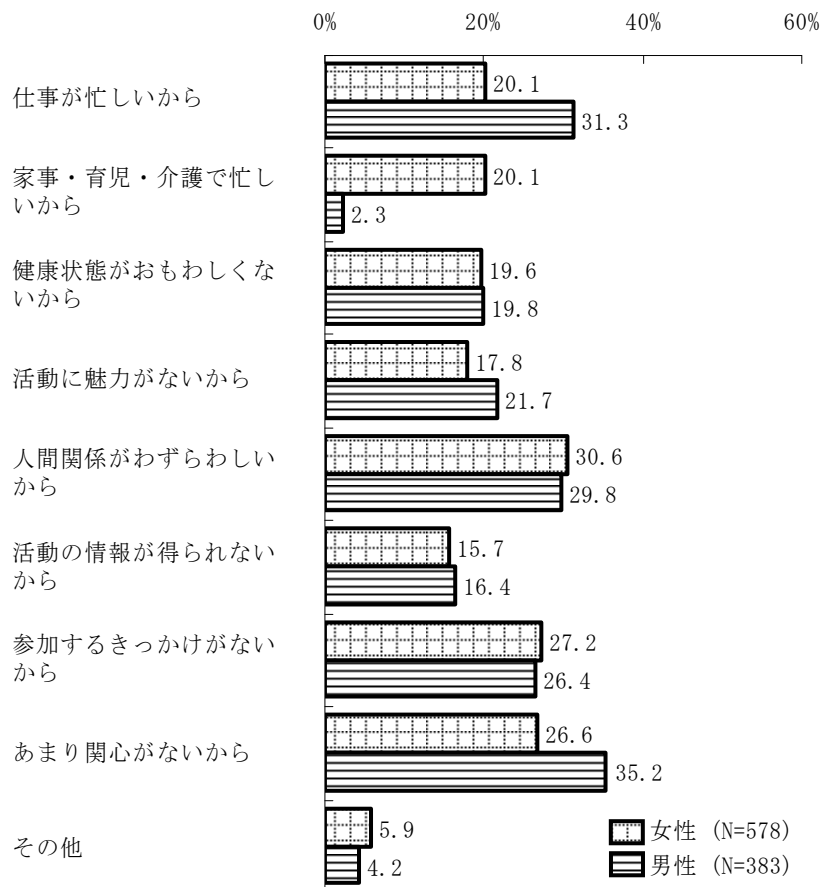
◆女性の場合、＜今後参加したい＞割合が最も高いのは、30歳未満で30.4%。ついで、50歳代で26.9%。

◆男性の場合は、50歳代で＜今後参加したい＞割合が最も高く、29.7%。60歳代28.1%、40歳代25.5%と続く。

問 24 で「今後は（も）参加したくない」と答えられた方におたずねします。

問 24－1 それはどうしてですか。（〇はいくつでも）

図4－14 地域活動に参加したくない理由



■参加したくない理由は、女性の場合「人間関係がわずらわしいから」がトップ

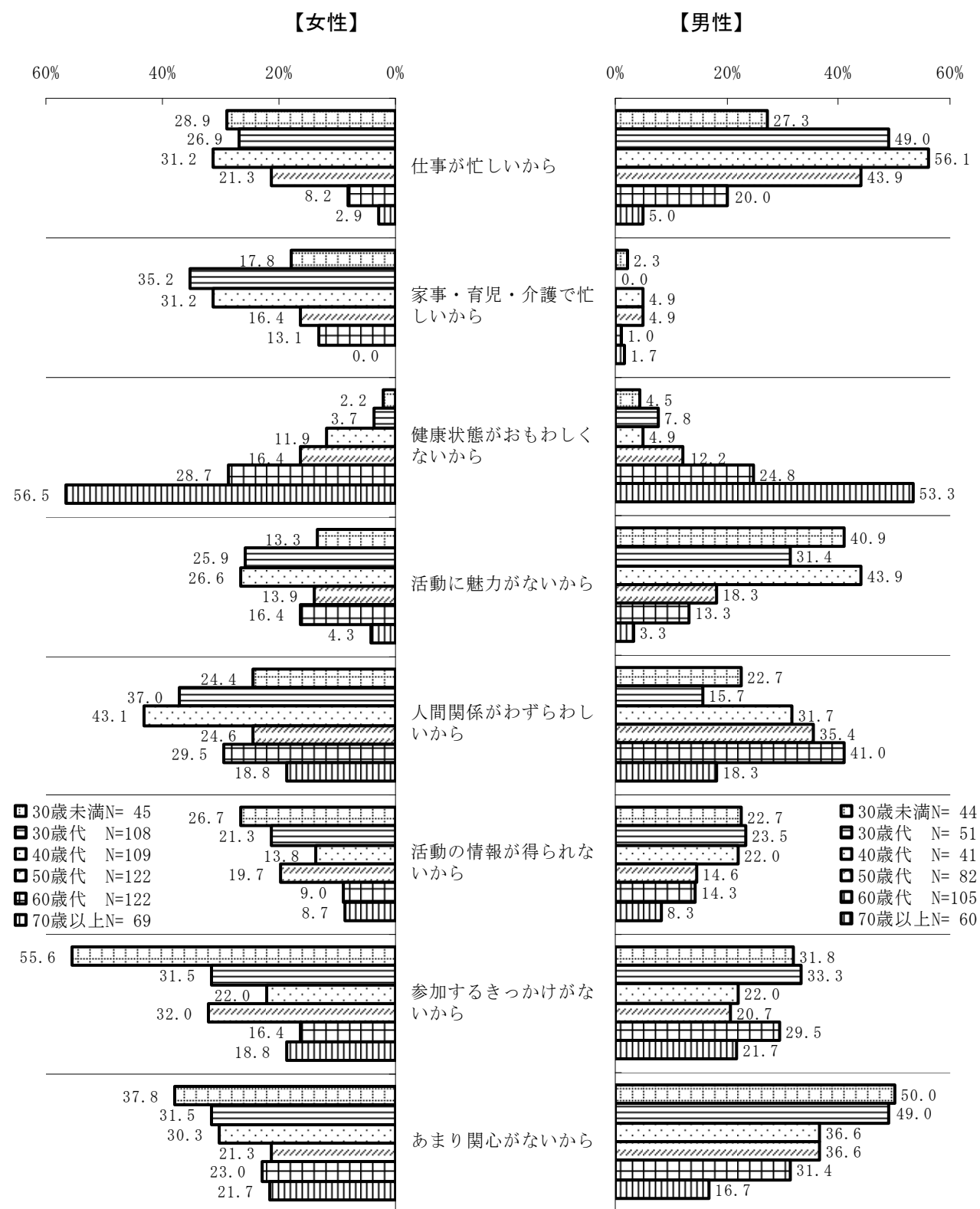
「今後は（も）参加したくない」と答えた男女にその理由をたずねたところ、女性の理由で最も高いのは、「人間関係がわずらわしいから」で30.6%。ついで、「参加するきっかけがないから」が27.2%、「あまり関心がないから」が26.6%と続く。

■男性の場合は、「あまり関心がないから」がトップ

男性では、割合の高い順にみると「あまり関心がないから」が35.2%、「仕事が忙しいから」が31.3%である。

■男女で開きがあるのは、「仕事」と「家事・育児・介護」

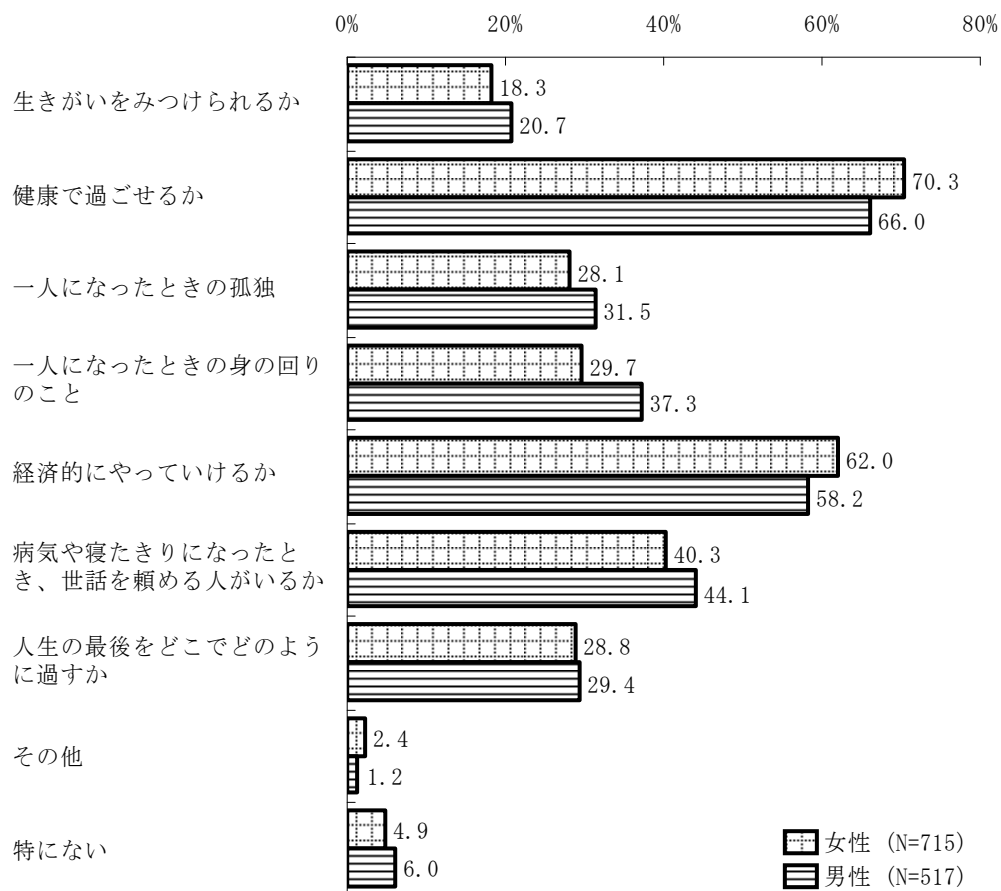
「仕事が忙しいから」では、女性20.1%・男性31.3%で、男性の方が11.2ポイント高くなっている。「家事・育児・介護で忙しいから」では、女性20.1%・男性2.3%で、男性はほとんど選んでいない。



- ◆「参加するきっかけがないから」では、女性の30歳未満で55.6%と年齢層中で突出して高い。
- ◆「仕事が忙しいから」では、男性の40歳代で56.1%で、30歳代、50歳代でも40%台である。
- ◆「家事・育児・介護で忙しいから」は、女性の30、40歳代で30%を超え、他の年齢層より高い。
- ◆「人間関係がわずらわしいから」は、女性では30、40歳代、男性では50、60歳代で高い。

問 25 あなたは、老後の生活について、特に不安に思っていることがありますか。(〇はいくつでも)

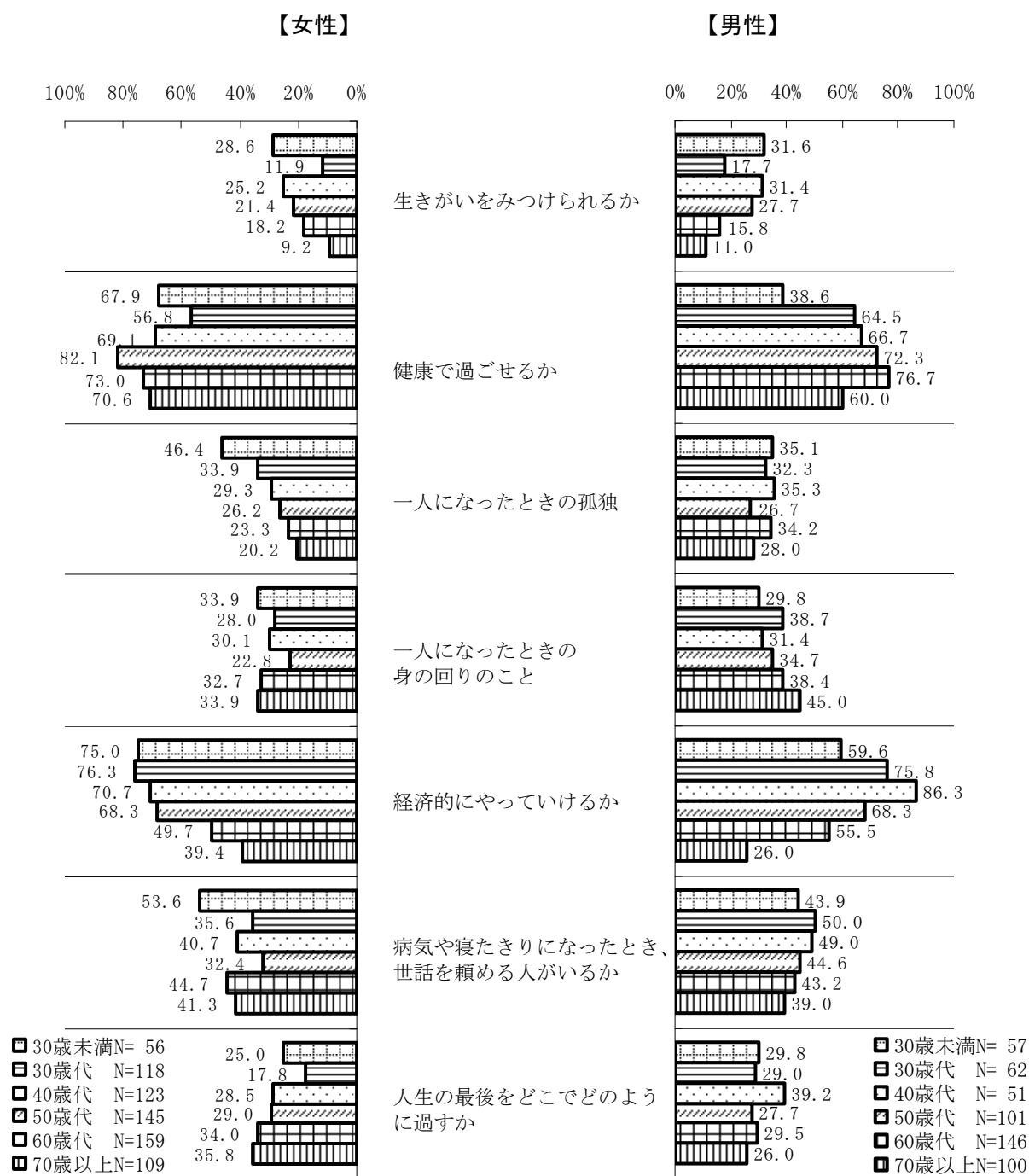
図4-16 老後の生活の不安の内容



■「健康で過ごせるか」と「経済的にやっていけるか」が老後の2大不安

男女でほぼ同様の結果となっている中で、選択率の高いのは、「健康で過ごせるか」(女性 70.3%・男性 66.0%)、「経済的にやっていけるか」(女性 62.0%・男性 58.2%)である。

ついで、「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」が男女ともに 40%台である。



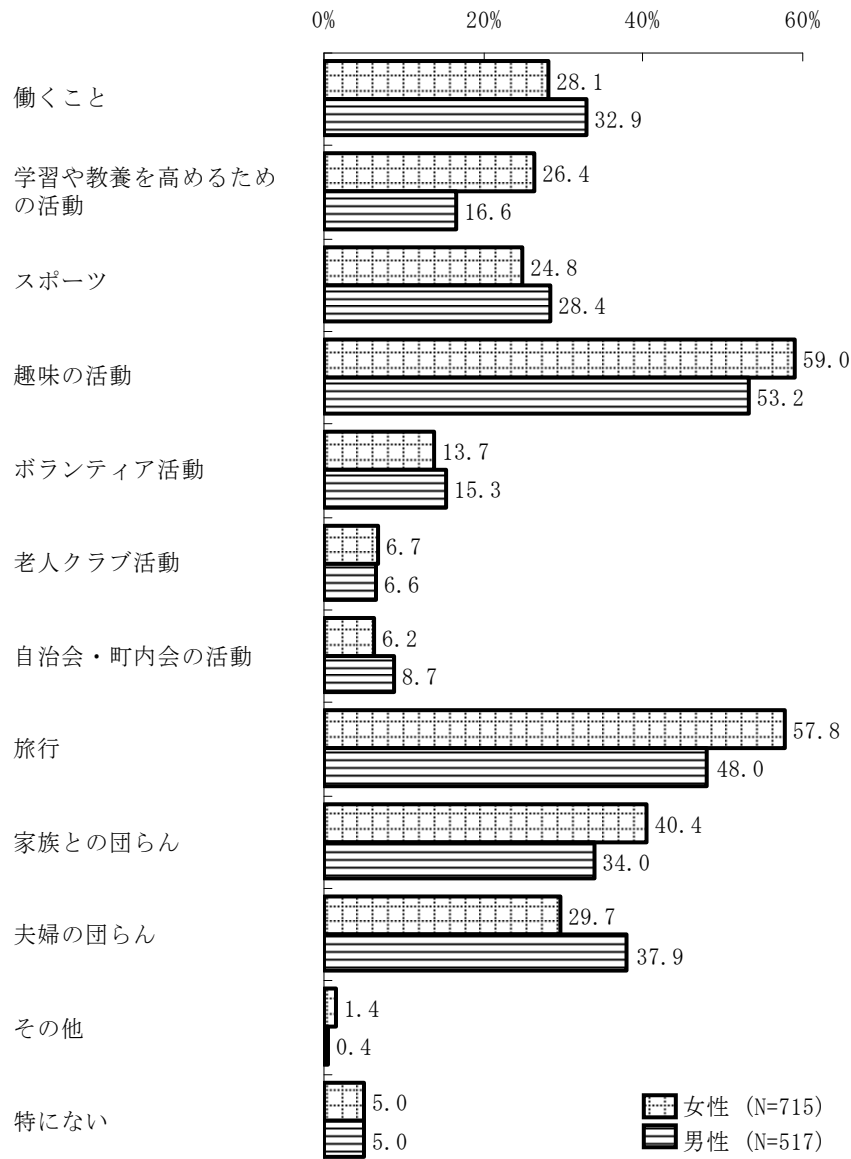
◆「健康で過ごせるか」の割合は、女性の50歳代で82.1%と最も高くなっている。男性の場合は、60歳代まで年齢層が高くなるにつれて選択率も高くなっている。

◆「一人になったときの孤独」では、女性の30歳未満の割合が46.4%で最も高く、70歳以上の20.2%とは26.2ポイントの差がある。男性の場合は、年齢層で大きな違いはない。

◆「経済的にやっていけるか」の割合は、女性の50歳代以前の年齢層で選択率が高くなっている。男性の場合、40歳代で最も高く、70歳以上とは60.3ポイントの開きがある。

問 26 老後をいきいきと暮らすためにやってみたいことがありますか。(〇はいくつでも)

図4-18 老後にやってみたいこと



■老後にやってみたいことは、男女ともに「趣味の活動」と「旅行」

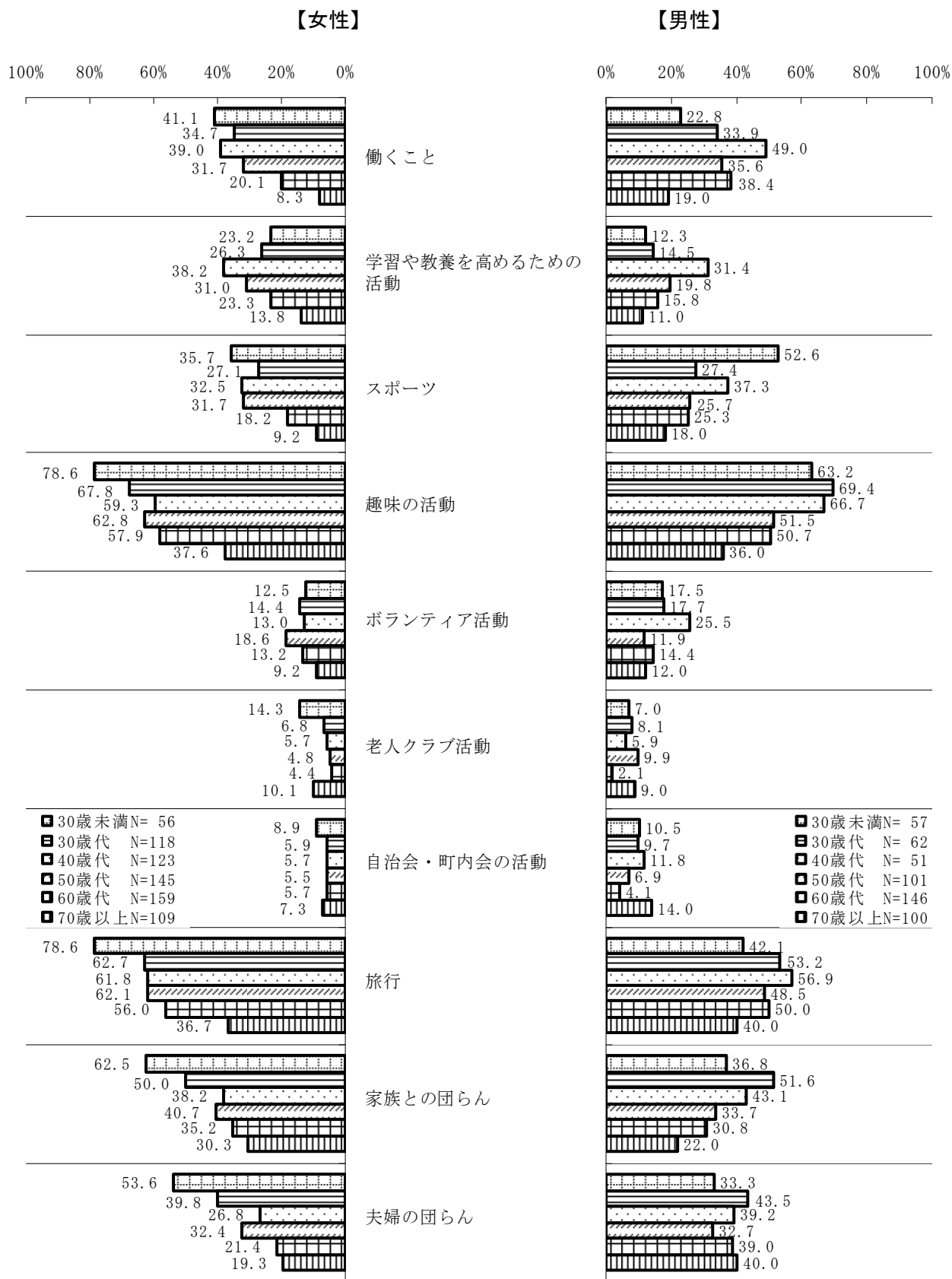
女性がやってみたいことを割合の高い順にみると、「趣味の活動」(59.0%)、「旅行」(57.8%)、「家族との団らん」(40.4%)である。

「ボランティア活動」「老人クラブ活動」「自治会・町内会の活動」などの社会貢献については、選択率が低くなっている。

男性がやってみたいことを割合の高い順にみると、「趣味の活動」(53.2%)、「旅行」(48.0%)、「夫婦の団らん」(37.9%)である。「夫婦の団らん」「働くこと」「スポーツ」「ボランティア活動」「自治会・町内会の活動」では女性よりもやや選択率が高くなっている。

性別・年齢層別

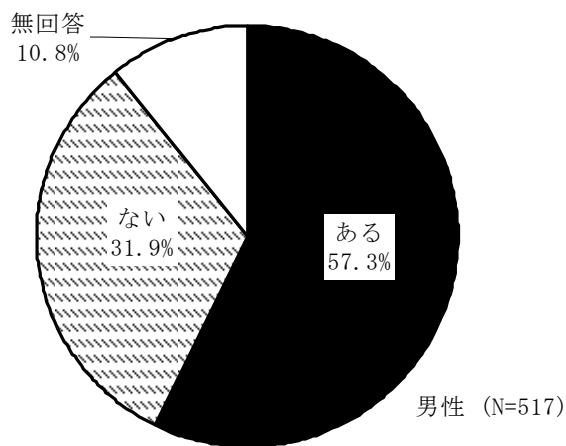
図4-19 性別・年齢層別 老後にやってみたいこと



「男性」におたずねします。

問 27 あなたは「男もつらい」と感じることはありますか。(○は1つ)

図4-20 「男もつらい」と感じることの有無

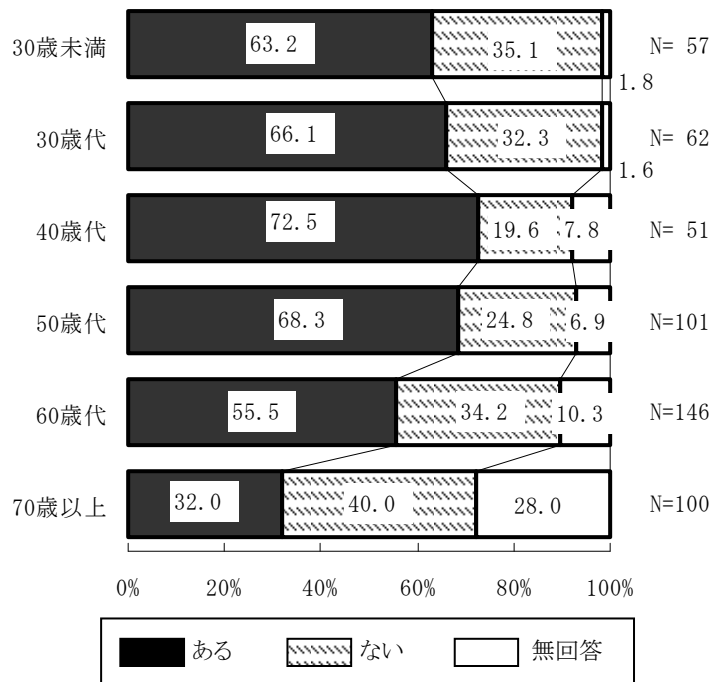


■「男もつらい」と感じる男性は過半数

感じるものが「ある」と回答した男性は、57.3%で半数を超えている。

男性・年齢層別

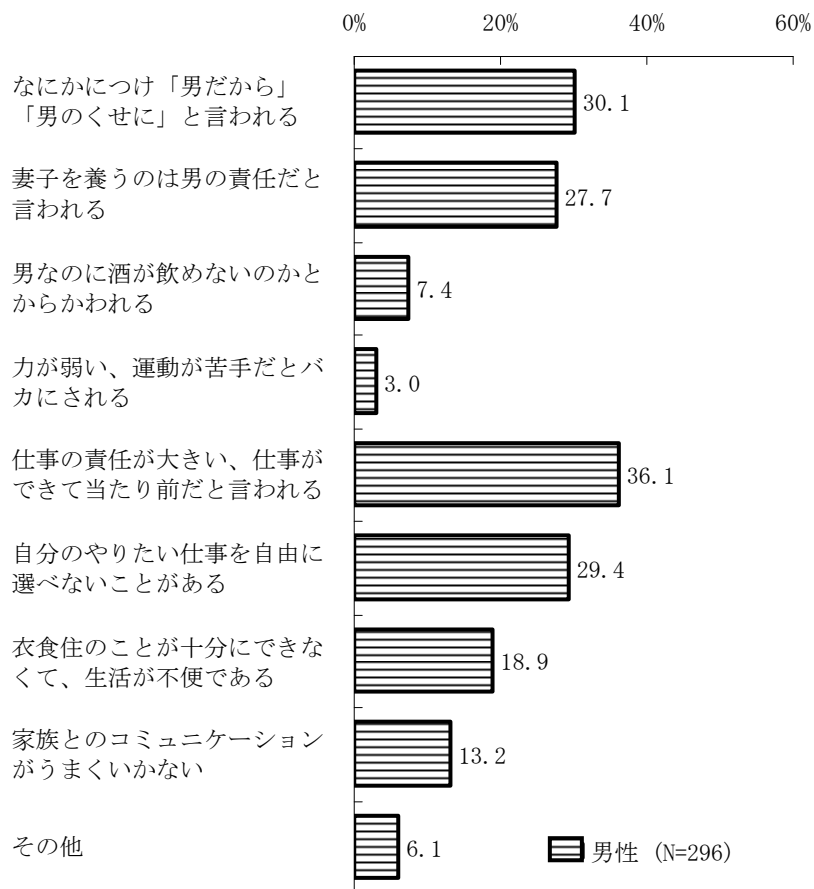
図4-21 年齢層別「男もつらい」と感じることの有無



◆30歳未満から40歳代まで、年齢層が高いほど「男もつらい」と感じる割合が高くなり、最も高い40歳代では72.5%である。

問 27-1 それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

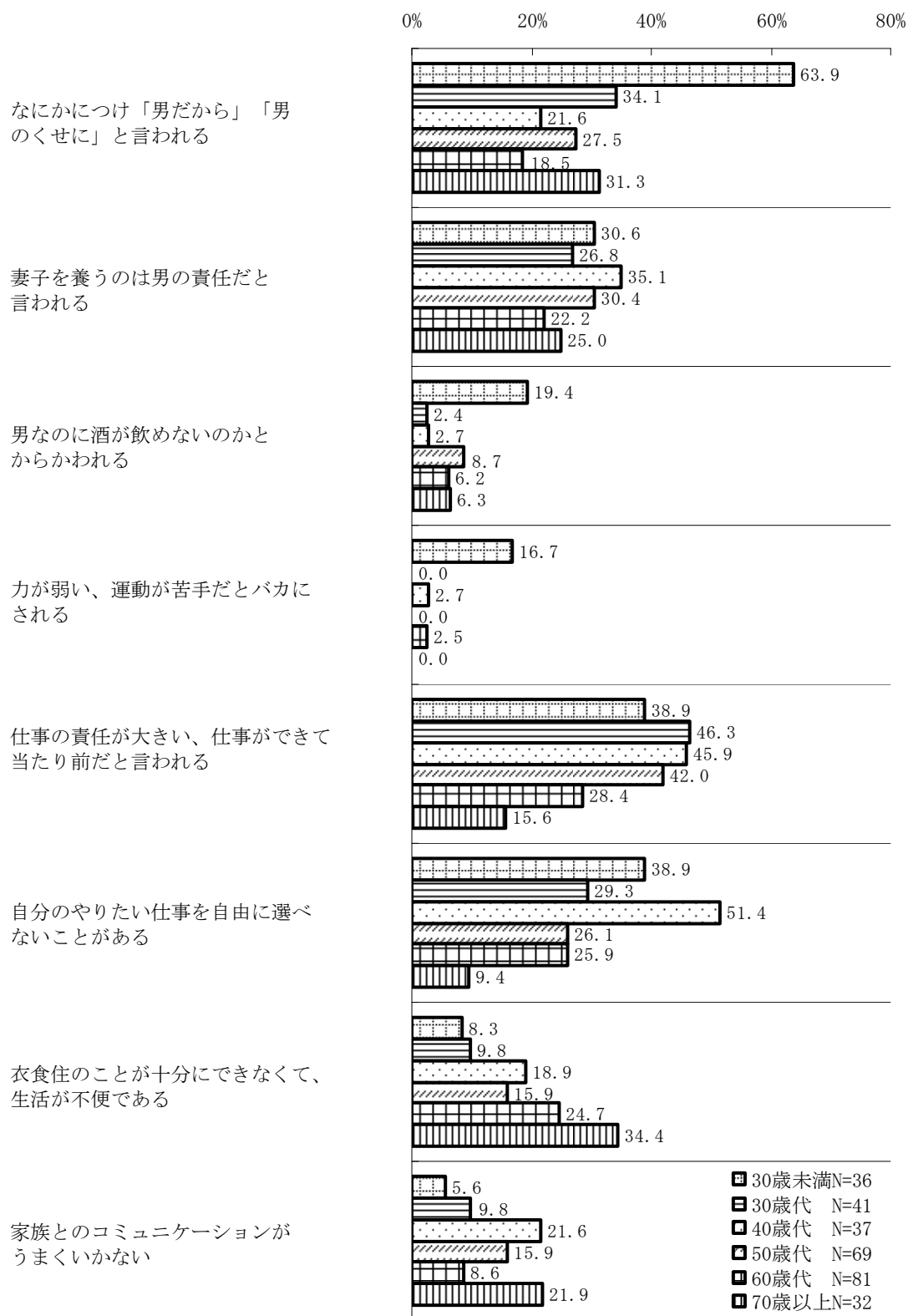
図4-22 「男もつらい」と感じる内容



■「仕事の責任が大きい、仕事ができて当たり前だと言われる」が最も高く、36.1%

「男もつらい」と感じる内容をたずねたところ、最も割合が高かったのは、「仕事の責任が大きい、仕事ができて当たり前だと言われる」ことで、36.1%である。ついで、「なににかにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」、「妻子を養うのは男の責任だと言われる」が30%前後となっている。

図4-23 年齢層別・「男もつらい」と感じる内容



◆「仕事の責任が大きい、仕事ができ当たり前だと言われる」の割合は、30、40、50歳代で高い。

◆「衣食住のことが十分にできなくて、生活が不便である」は、60歳代、70歳以上で高くなっている。

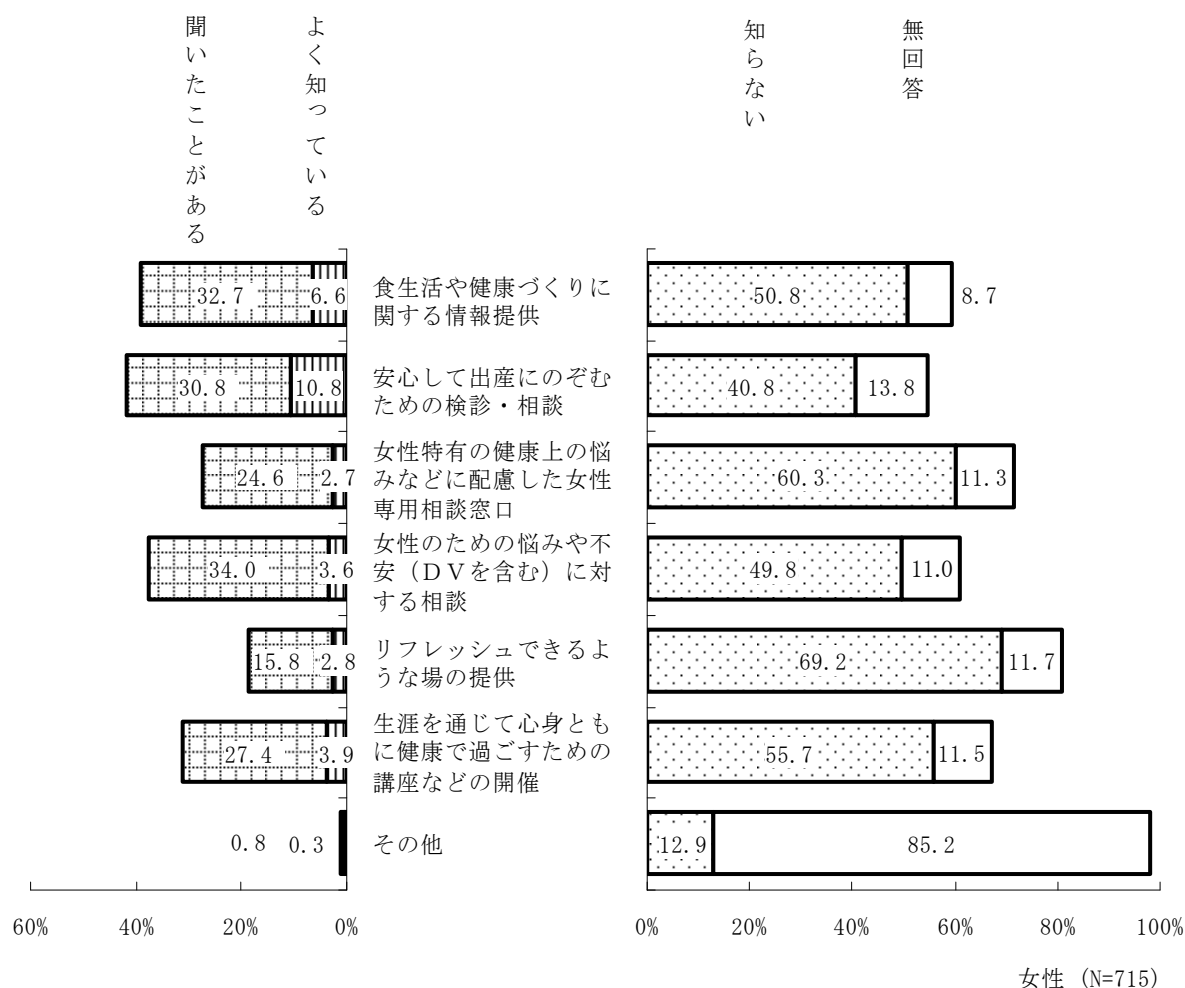
「女性」におたずねします。

問 28 東大阪市では、女性の心とからだの健康を保つために以下の取り組みを行っています。

あなたがご存じのものはどれですか。(①～⑦の項目ごとに○は1つずつ)

また、利用したことがあるものには「4」にも○をつけてください。

図4-24 女性の心とからだの健康を保つために必要な取り組み <女性>



■取り組みで最も知られているのは「安心して出産にのぞむための検診・相談」。しかし、その割合は 10.8%

「よく知っている」割合が最も高いのは、「安心して出産にのぞむための検診・相談」(10.8%)であり、その他の取り組みについて「よく知っている」の割合は、10%を割っている。

「聞いたことがある」を合わせて最も高い割合なもの、「安心して出産にのぞむための検診・相談」で 41.6%。ついで、「食生活や健康づくりに関する情報提供」39.3%、「女性のための悩みや不安(DVを含む)に対する相談」37.6%である。

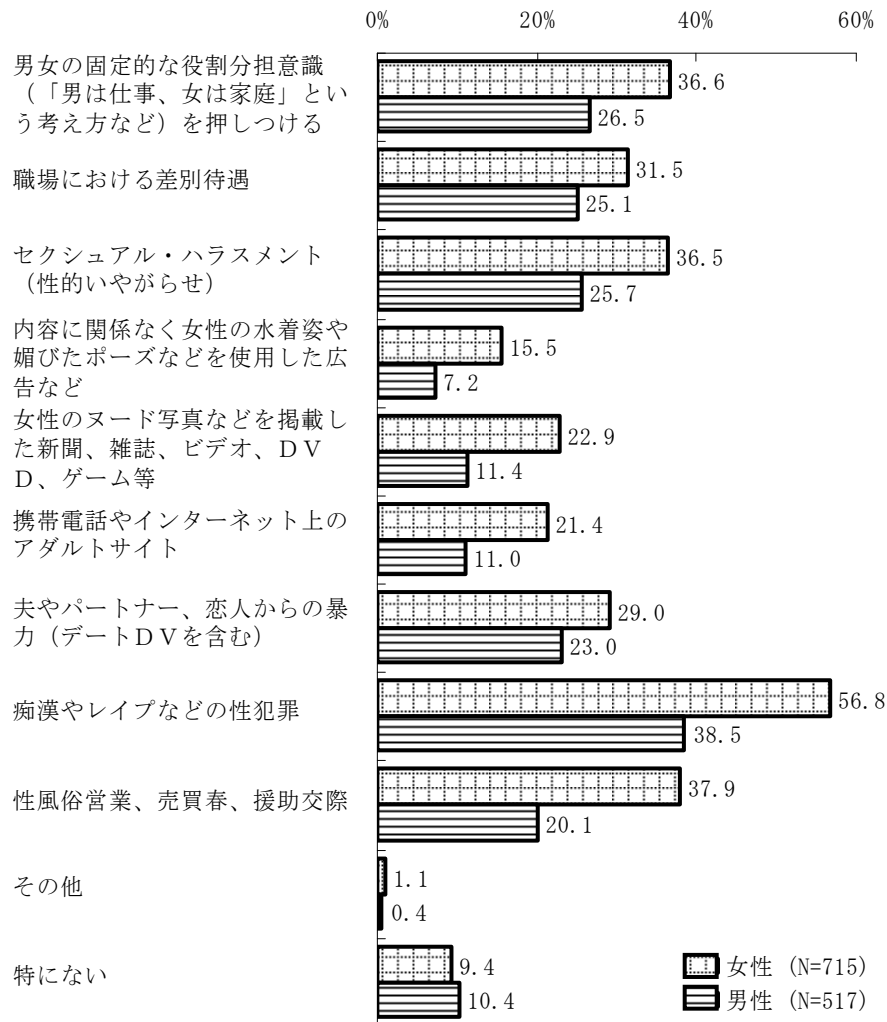
■利用したことがある割合も低い

	食生活や健康づくりに関する情報提供	安心して出産にのぞむための検診・相談	女性特有の健康上の悩みなどに配慮した女性専用相談窓口	女性のための悩みや不安(DVを含む)に対する相談	リフレッシュできるような場の提供	生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための講座などの開催
利用したことがある割合 (%)	2.4	4.8	1.3	1.8	1.0	2.1

5. 人権の尊重について

問 29 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことですか。
(〇はいくつでも)

図5-1 女性の人権が尊重されていないと感じる内容



■女性の人権に対する認識はそれほど高くない

女性に対する人権が尊重されていない項目を示した上で、どの項目について人権が尊重されていないと感じるかを選んでもらったところ、最も選択率が高かったものは、男女ともに「痴漢やレイプなどの性犯罪」で女性 56.8%・男性 38.5%である。

ついで、女性の場合は、「性風俗営業、売買春、援助交際」「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方など）を押しつける」「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「職場における差別待遇」が 30%台で高くなっている。

男性の場合は、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方など）を押しつける」「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「職場における差別待遇」「夫やパートナー、恋人からの暴力（デートDVを含む）」「性風俗営業、売買春、援助交際」の割合が 20%台である。

■すべての項目において、男性の選択率は女性より低い

性別・年齢層別

表5-1 性別・年齢層別 女性の人権が尊重されていないと感じる内容

		対象者数（人）	男女の固定的な役割分担意識を押しつける	職場における差別待遇	セクシユアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	内容に関係なく女性の水着姿や媚びたポーズなどを使用した広告等	女性のヌード写真などを掲載した新聞、雑誌、ビデオ、DVDゲーム等	携帯電話やインターネット上のアダルトサイト	夫やパートナー、恋人からの暴力（デートDVを含む）	痴漢やレイプなどの性犯罪	性風俗営業、売買春、援助交際
女性	30歳未満	56	53.6	37.5	48.2	19.6	23.2	21.4	37.5	75.0	32.1
	30歳代	118	42.4	41.5	45.8	6.8	12.7	12.7	31.4	69.5	28.0
	40歳代	123	42.3	42.3	49.6	16.3	24.4	26.8	32.5	69.9	45.5
	50歳代	145	37.9	29.7	30.3	17.2	22.8	24.8	29.7	60.0	41.4
	60歳代	159	31.4	26.4	32.7	18.2	25.8	23.9	26.4	43.4	39.6
	70歳以上	109	20.2	14.7	20.2	15.6	28.4	16.5	20.2	34.9	35.8
男性	30歳未満	57	29.8	29.8	45.6	8.8	14.0	21.1	22.8	50.9	19.3
	30歳代	62	29.0	21.0	29.0	3.2	6.5	6.5	25.8	54.8	14.5
	40歳代	51	37.3	25.5	33.3	3.9	5.9	17.6	37.3	54.9	15.7
	50歳代	101	28.7	33.7	28.7	8.9	13.9	10.9	27.7	44.6	22.8
	60歳代	146	24.0	24.0	21.9	8.9	12.3	9.6	21.9	30.8	26.7
	70歳以上	100	19.0	18.0	11.0	6.0	12.0	7.0	11.0	18.0	14.0

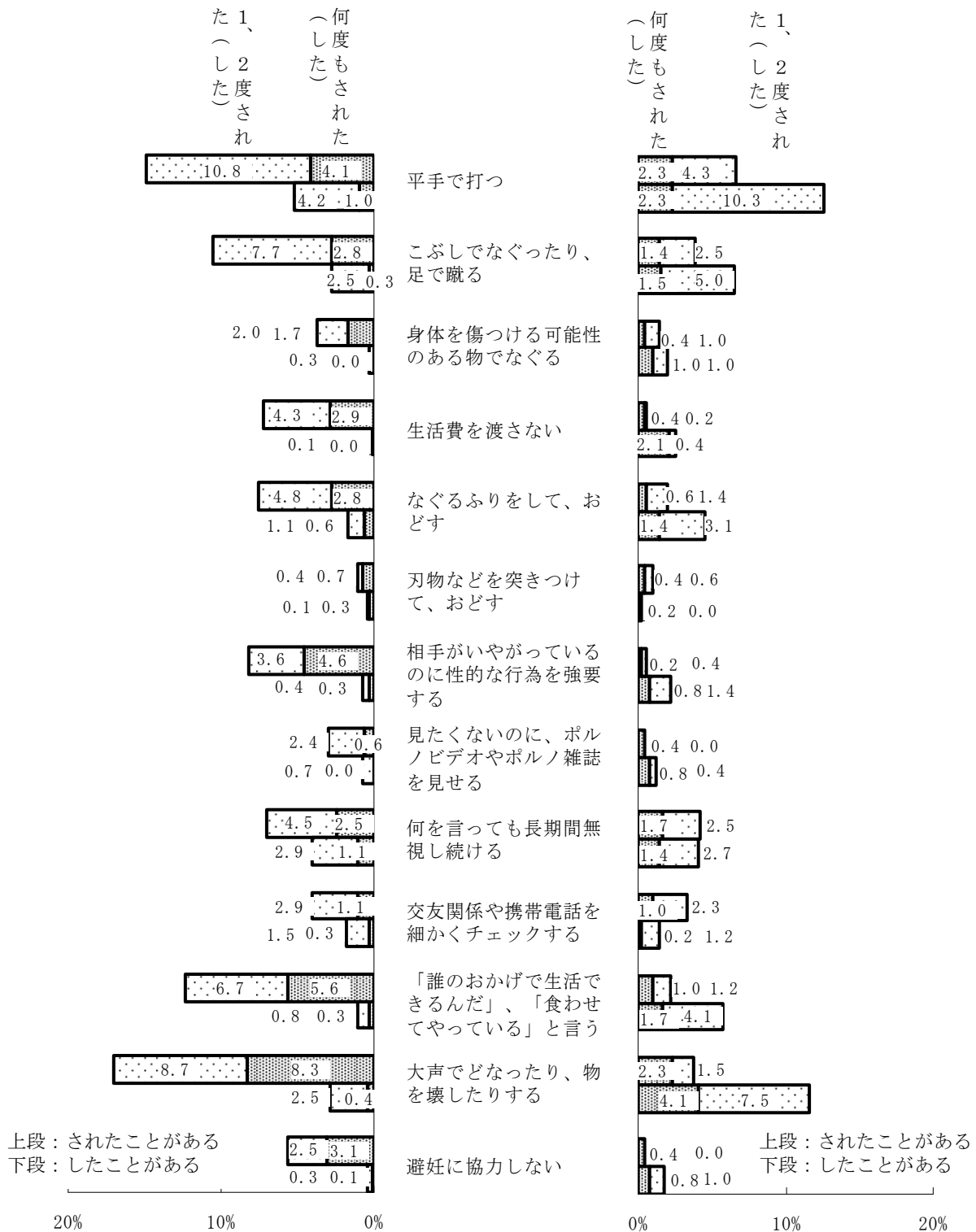
(%)

問 30 あなたは配偶者やパートナー、恋人に、次のようなことをしたり、されたことがありますか。
 (当てはまるものすべてに○をつけてください)

図5-2 配偶者やパートナー、恋人からの暴力

【女性】(N=715)

【男性】(N=517)



■全般的に暴力被害の割合は女性に高い

配偶者やパートナー、恋人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））の経験についてたずねたところ、「何度もされた」と「1、2度された」を合わせた割合は、女性の方が高くなっている。

特に、「大声でどなったり、物を壊したりする」（17.0%）、「平手で打つ」（14.9%）、「『誰のおかげで生活できるんだ』、『食わせてやっている』と言う」（12.3%）、「こぶしでなぐったり、足で蹴る」（10.5%）は10%を超えている。

男性の場合は、「何度もされた」と「1、2度された」を合わせた割合が5%を超えているのは、「平手で打つ」（6.6%）のみである。

一方、男性の場合は、「何度もした」と「1、2度した」を合わせた割合が、「平手で打つ」（12.6%）、「大声でどなったり、物を壊したりする」（11.6%）で10%を超えている。

性別・職業別

◆女性における「仕事の有無」で比較すると、すべての項目で「仕事をしている」方が被害の割合が高くなっている。

◆職業別でみた場合、女性では、13項目のうち5項目において「常勤なみのパート、アルバイト」において被害の割合が高くなっている。特に「相手がいやがっているのに性的な行為を強要する」（18.5%）、「平手で打つ」（24.1%）で他の職業との開きがある。

◆「内職など家庭でできる仕事」では、「『誰のおかげで生活できるんだ』、『食わせてやっている』と言う」（27.3%）、「大声でどなったり、物を壊したりする」（27.3%）、「なぐるふりをして、おどす」（18.2%）が高くなっている。

（男性については標本数が少ないために省略。）

表5-2 性別・仕事の有無別・職業別

ドメスティック・バイオレンスの被害体験(「何度もされた」+「1、2度された」)

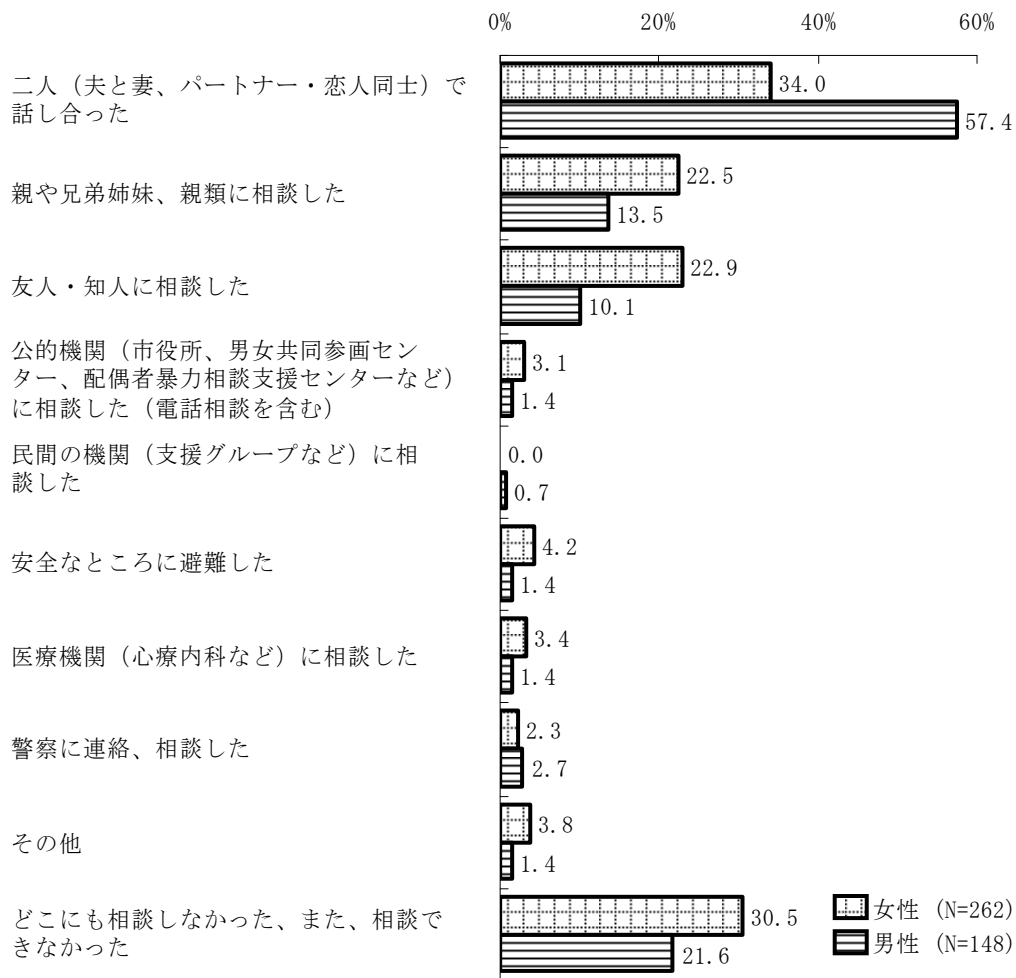
		対象者数(人)	平手で打つ	こぶしでなぐったり、足で蹴る	身体を傷つける可能性のある物でなぐる	生活費を渡さない	なぐるふりをして、おどす	刃物などを突きつけて、おどす	相手がいやがっているのに性的な行為を強要する	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	何を言っても長期間無視し続ける	交友関係や携帯電話を細かくチェックする	「誰のおかげで生活できるんだ」、「食わせてやっている」と言う	大声でどなったり、物を壊したりする	避妊に協力しない
女性	仕事をしている	354	16.1	11.6	4.0	7.3	8.7	1.2	10.7	4.0	8.2	6.0	12.7	19.2	7.4
	仕事はしていない	359	13.7	9.5	3.3	7.0	6.4	1.1	5.8	1.9	5.8	2.2	12.0	14.8	3.9
男性	仕事をしている	342	8.2	4.9	2.1	0.6	2.4	1.5	0.9	0.6	5.8	4.4	3.0	5.8	0.6
	仕事はしていない	175	3.5	1.7	0.0	0.6	1.1	0.0	0.0	0.0	1.2	1.1	0.6	0.0	0.0
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	13.8	10.4	4.8	12.1	7.2	1.6	11.3	4.8	5.6	7.2	5.6	19.4	11.3
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	24.1	13.0	3.8	9.3	11.1	1.9	18.5	9.3	13.0	13.0	18.6	22.2	9.3
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	103	16.6	13.6	3.9	3.9	8.8	0.0	10.7	1.0	7.8	2.9	18.4	20.4	5.9
	自営業主・経営者(農林業を含む)	16	18.8	12.6	6.3	6.3	12.5	0.0	0.0	0.0	18.8	0.0	6.3	18.8	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	33	12.1	9.1	3.0	0.0	6.1	0.0	6.0	0.0	9.1	0.0	12.2	9.1	3.0
	内職など家庭でできる仕事	11	9.1	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	27.3	27.3	0.0
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	9.0	5.0	1.5	0.5	2.5	1.5	0.5	0.5	7.5	5.5	4.0	7.0	0.5
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	23	8.7	8.6	4.3	4.3	4.3	0.0	4.3	4.3	8.6	4.3	4.3	4.3	4.3
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	32	9.4	6.3	3.1	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0
	自営業主・経営者(農林業を含む)	64	1.6	1.6	0.0	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	3.1	3.1	1.6	4.7	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問30の選択肢①～⑬に1つ以上○をつけた方におうかがいします。

問 31 問 30 のようなことをしたり、されたとき、その後どうしましたか。(○はいくつでも)

図5-3 被害を受けた後の行動



■暴力行為後に「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」の割合が男女ともに高い

配偶者やパートナー、恋人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））後の対処の仕方をたずねたところ、「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」割合が最も高く、女性 34.0%・男性 57.4%である。

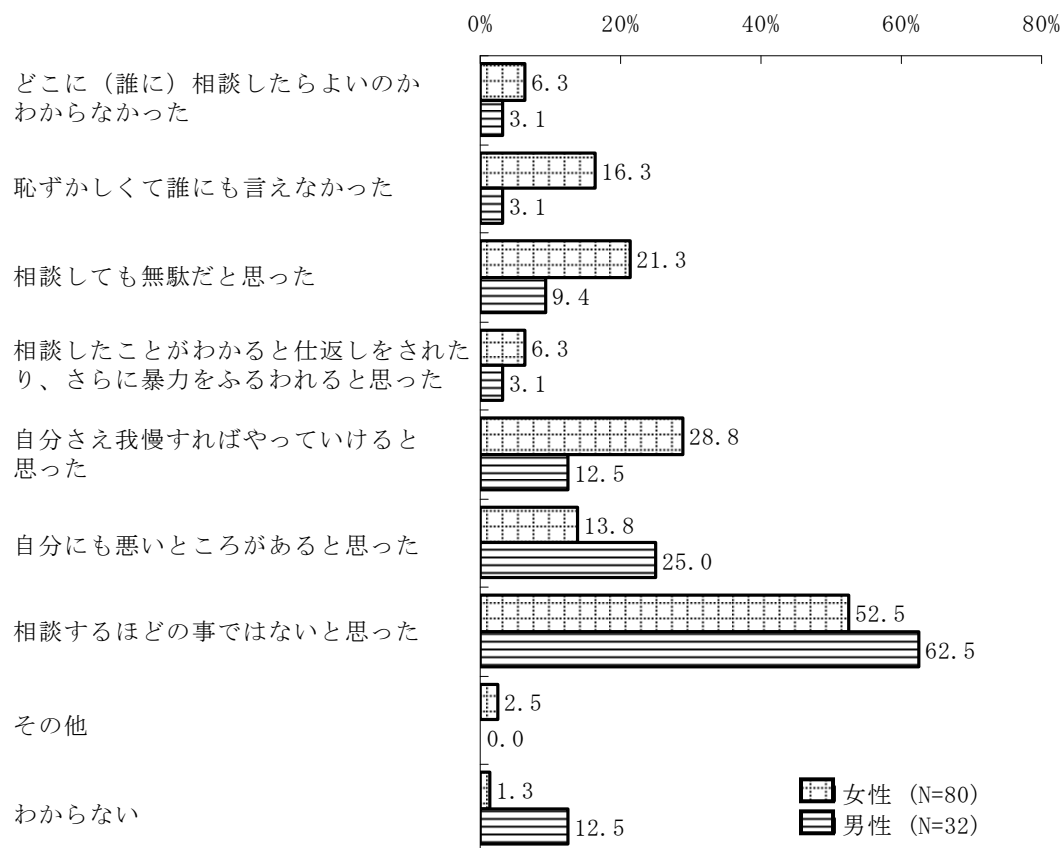
■「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」は、女性 30.5%・男性 21.6%

「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」割合は、女性 30.5%・男性 21.6%と高い。身内や友人・知人以外のところに相談、避難した割合は極めて低くなっている。

問 31 で、「10.」と答えられた方におうかがいします。

問 32 どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

図5-4 相談しなかった(または、できなかった)理由



■「相談するほどの事ではないと思った」割合が男女ともに半数を超える

男女ともに最も高い割合なのは、「相談するほどの事ではないと思った」で、女性 52.5%・男性 62.5% である。

ついで、女性の場合は、「自分さえ我慢すればやっていけると思った」「相談しても無駄だと思った」が 20% 台で続く。

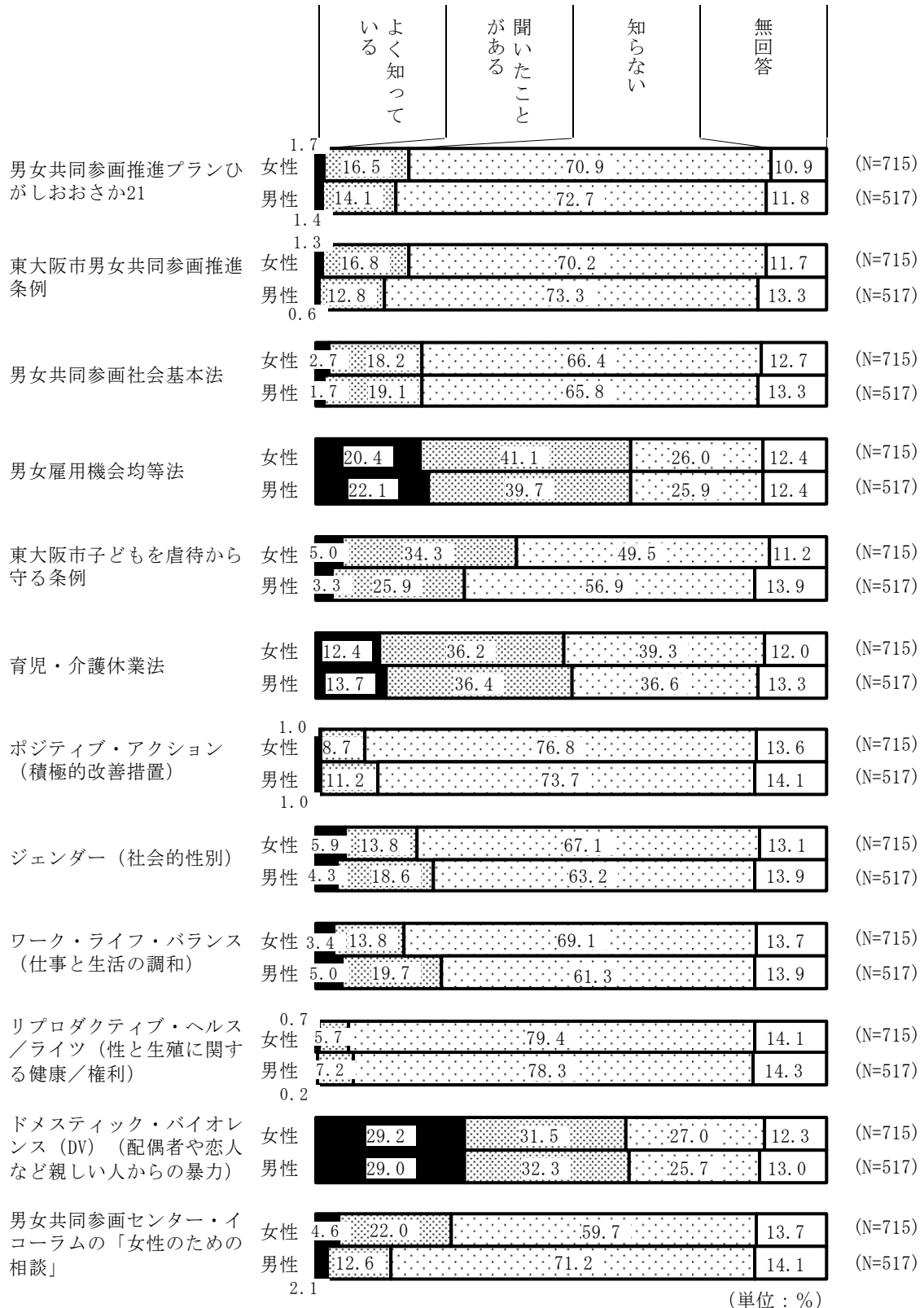
男性の場合は、「自分にも悪いところがあると思った」が 2 番目に高い割合で 25.0% である。

「どこに(誰に)相談したらよいのかわからなかった」は女性 6.3%・男性 3.1% である。

6. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

問 33 あなたは、次の法律や言葉、東大阪市の取り組みをご存じですか。(①～⑫の項目ごとに○は1つずつ)

図6-1 法律や言葉、東大阪市の取り組みの認知度



■＜知っている＞の割合が最も高いのは「男女雇用機会均等法」

＜知っている＞（「よく知っている」＋「聞いたことがある」）の割合が最も高いのは、「男女雇用機会均等法」で女性 61.5％・男性 61.8％である。ついで、「ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者や恋人など親しい人からの暴力）」（女性 60.7％・男性 61.3％）、「育児・介護休業法」（女性 48.6％・男性 50.1％）、「東大阪市子どもを虐待から守る条例」（女性 39.3％・男性 29.2％）である。

男女で比較すると、「東大阪市子どもを虐待から守る条例」と「男女共同参画センター・イコラムの『女性のための相談』」では、女性が男性より約 10 ポイント高い。

その逆に、＜知っている＞割合が最も低いのは、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）」で女性 6.4％・男性 7.4％である。

「男女共同参画推進プランひがしおおさか 21」は女性 18.2％・男性 15.5％、「東大阪市男女共同参画推進条例」は女性 18.1％・男性 13.4％である。

性別・年齢層別

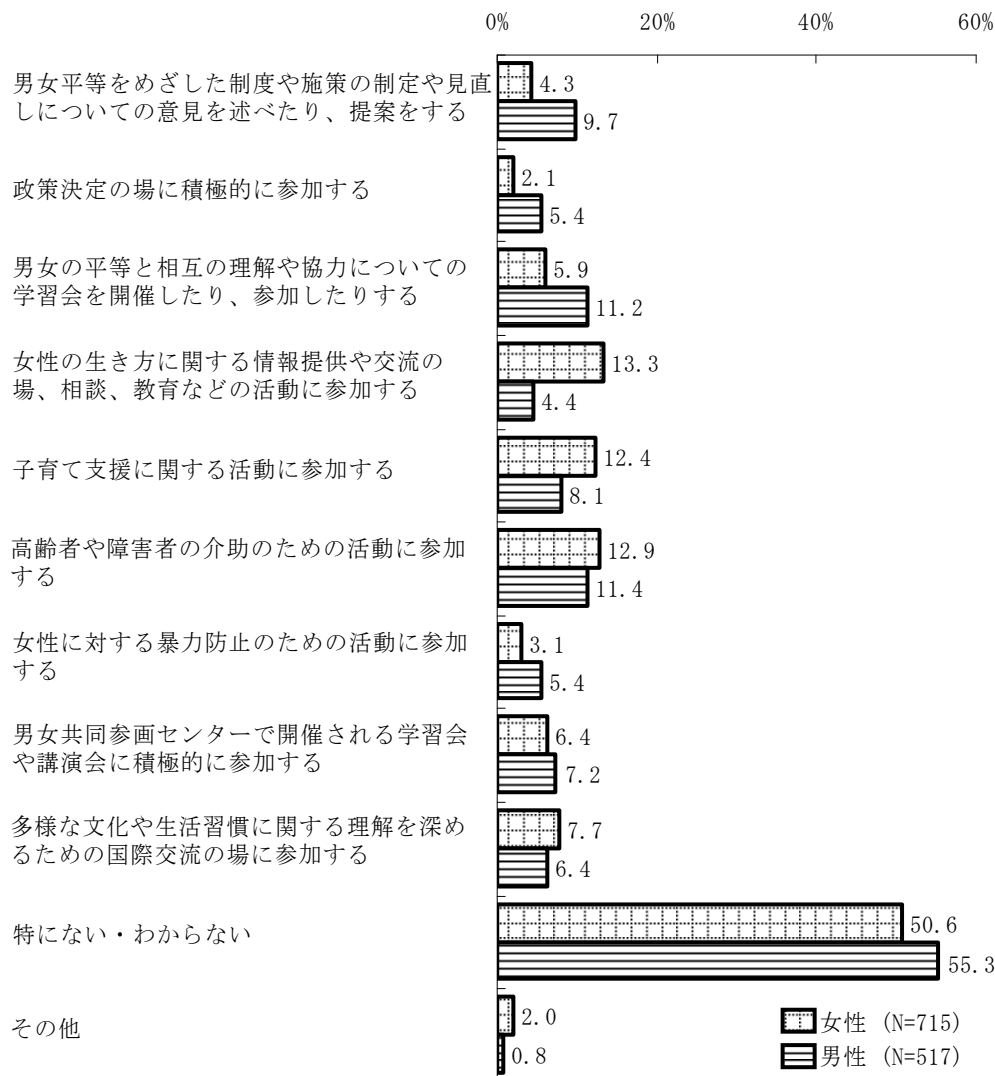
表6－1 性別・年齢層別 法律や言葉、取り組みの認知度＜知っている＞の割合

		男女共同参画推進プランひがしおおさか 21	東大阪市男女共同参画推進条例	男女共同参画社会基本法	男女雇用機会均等法	東大阪市子どもを虐待から守る条例	育児・介護休業法	ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	ジェンダー（社会的性別）	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）	ドメスティック・バイオレンス（DV）	男女共同参画センター・イコラムの「女性のための相談」
女性	30 歳未満	12.5	16.1	32.2	64.2	19.7	50.0	12.5	34.0	16.0	9.0	64.2	19.7
	30 歳代	9.3	12.7	20.3	67.8	27.1	44.1	6.8	22.9	16.1	6.7	67.8	25.4
	40 歳代	17.9	18.7	17.9	70.7	45.6	56.1	9.7	22.7	16.3	2.4	71.6	34.2
	50 歳代	17.3	18.6	21.4	71.0	44.8	57.9	9.7	22.7	18.6	6.2	71.7	22.7
	60 歳代	25.1	20.1	24.6	60.4	49.0	53.5	11.3	15.1	22.0	8.1	57.9	31.4
	70 歳以上	22.0	21.1	13.7	33.9	34.9	25.7	8.2	8.2	11.0	6.4	30.2	21.1
男性	30 歳未満	10.6	15.8	31.6	54.4	17.6	45.6	14.0	33.3	24.6	8.8	64.9	14.0
	30 歳代	8.1	6.5	9.7	66.2	30.6	56.4	11.3	33.9	30.6	9.7	79.1	17.7
	40 歳代	9.8	11.8	23.5	64.8	23.5	56.9	19.6	23.5	35.3	13.7	70.6	11.7
	50 歳代	11.9	7.9	21.8	70.3	24.8	55.5	12.9	25.8	28.7	6.9	73.2	12.9
	60 歳代	19.2	17.1	22.6	63.7	36.9	51.4	13.7	17.9	19.9	5.5	56.2	16.5
	70 歳以上	24.0	17.0	17.0	50.0	31.0	38.0	5.0	14.0	19.0	5.0	39.0	14.0

(%)

問 34 「男女共同参画社会」とは、男女が、互いの人権を尊重しつつ、職場や家庭、地域活動など、社会のあらゆる場に対等に参画し、共に責任と喜びを分かち合う社会のことです。
あなたは、「男女共同参画」を推進するために、どのような活動に参加したいと思いますか。
(〇はいくつでも)

図6-2 「男女共同参画」を推進するために参加したい活動



■「特にない・わからない」が半数を超える

男女共同参画を推進するために自分自身がどのような活動をしたいかをたずねたところ、「特にない・わからない」が男女ともに 50%を超えた。

■「高齢者や障害者の介助のための活動」は男女ともに 10%強

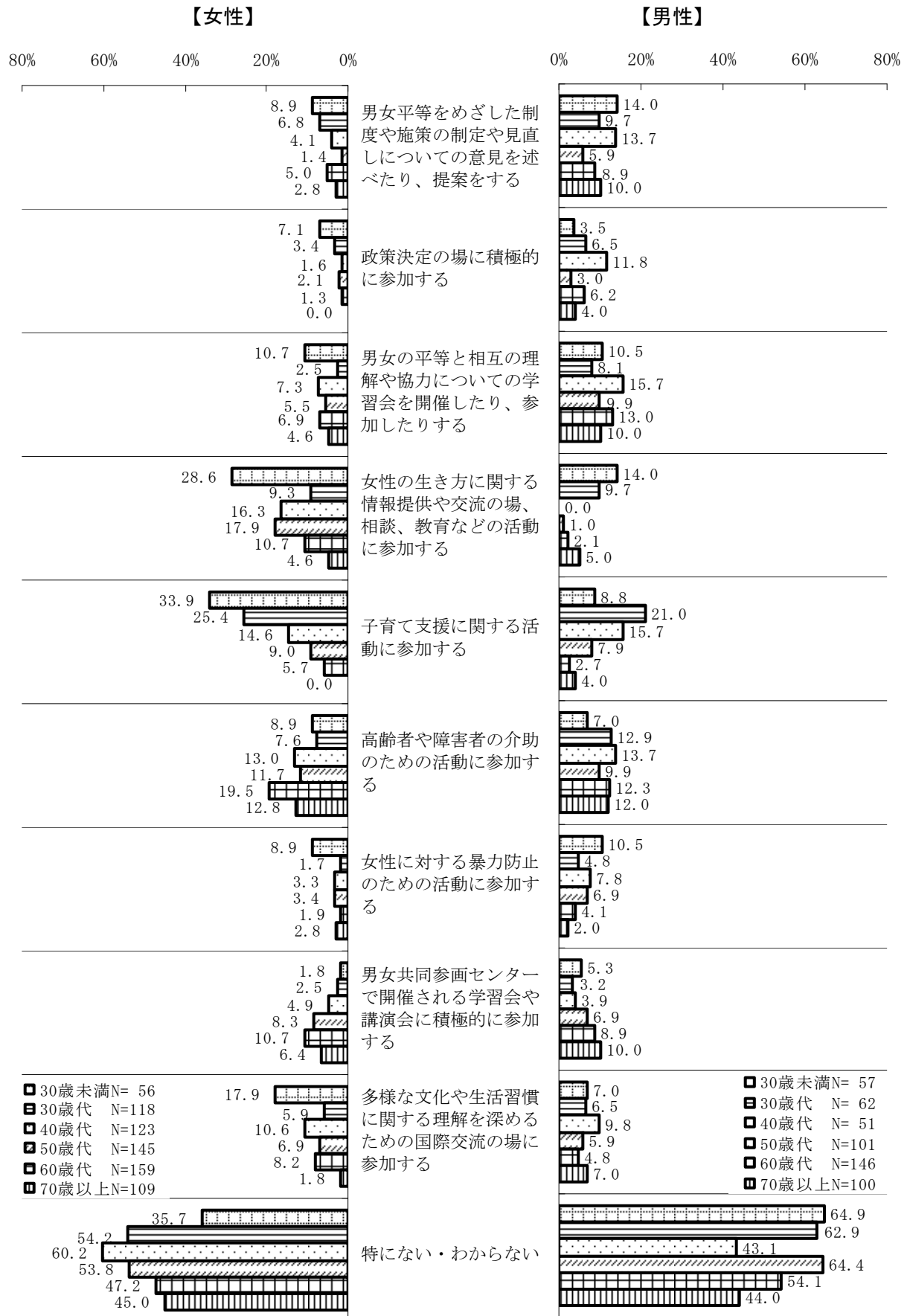
男女がともに 10%を超えているのは、「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」のみである。

性別・年齢層別

◆女性の場合、「女性の生き方に関する情報提供や交流の場などの活動に参加する」の割合は、30 歳未満で他の年齢層より 10 ポイント以上高く、28.6%である。

◆男性の場合、「子育て支援に関する活動に参加する」の割合が最も高いのは 30 歳代で、21.0%である。

図6-3 性別・年齢層別「男女共同参画」を推進するために参加したい活動



IV. 調査結果からみえてくるもの

東大阪市では男女共同参画社会の実現をめざし、平成 15 年（2003 年）に「男女共同参画推進プラン ひがしおおさか 21」を策定、平成 19 年（2007 年）に改訂し、平成 16 年（2004 年）には「男女共同参画推進条例」を制定した。

本調査は、東大阪市における男女共同参画施策のこれまでの成果を検証するとともに、今後の施策を進めるうえでの資料として活用していくものであり、以下、課題の抽出を行った。

1. 就労の場における男女平等の推進

本調査では、現在働いている回答者の就労の実態や意識のいくつかが明らかになった。

1 週間の労働時間では、週「40 時間以上」働いている割合は、女性が 37.2%に対して、男性は 68.5%。特に「60 時間以上」の割合は、女性の 4.2%に対して男性は 12.6%であり、女性に比べて男性の労働時間が長いことがわかる。

次に、昨年 1 年間の収入については、女性の約 60%が「200 万円未満」の収入であり、総体的に男性より女性の年収が低く、女性は経済的自立の基盤が弱い、という結果が出ている。

職場においては、男女ともに「管理職への登用」「昇進・昇格」「賃金」などの就労諸条件について「男性の方が優遇されている」と感じる割合が高く、また、「収入が少ない」「職場の人間関係」「将来に対する不安」に対するストレスが高いこともわかった。

昭和 60 年（1985 年）に制定された「男女雇用機会均等法」は、平成 18 年（2006 年）の改正で男女双方に対する差別、間接差別、妊娠・出産等を理由とする解雇その他不利益取扱いを禁止し、制度上での男女平等化の環境整備は進んでいる。

就労の場における男女平等を実現し、男女一人ひとりが自分らしく生き生きと働くためには、事業者および市民に対して、こうした法律や制度の趣旨を十分に浸透させることが重要である。これまで以上に男女共同参画の視点に立った取り組みが求められている。

また、雇用管理や能力開発において、女性の差別的な取り扱いを撤廃するためには、事業者自身の取り組みが欠かせない。東大阪市では、女性の活躍推進や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する取り組みを積極的に進める事業者に対して顕彰する制度を設けているが、さらに事業所が働きやすい環境づくりに取り組みやすい制度の検討が必要である。

一方、現在仕事をしていない 50 歳未満の女性の 70%以上は「仕事につきたい」と考えているものの、「家事、子育て、介護との両立ができるか」（61.3%）、「自分のしたい仕事につけるか」（48.0%）、「職場の人間関係がうまくいくか」（36.0%）、「年齢制限」（33.3%）、「自分の健康状態や体力」（30.7%）などを不安に思っていることがわかった。

新たな就職や転職、再就職を希望する女性のためには、能力・技術の向上のための情報や場の提供、相談事業が必要であると同時に、ライフスタイルに応じて多様でかつ柔軟な働き方（たとえば、短時間労働や在宅ワーク、起業など）が選択できるようにするために、さまざまな働き方の情報提供や支援が必要である。

同時に、事業者に対しては、就労形態の違いが格差につながらないよう労働条件の向上を促す働きかけが求められている。

就労は、自立した生活を営む基盤であると同時に保障された権利でもある。

しかし、女性に対しては、この点があまり重要視されてこなかった。

たとえば、東大阪市における5歳ごとの労働力率をみると、男性が30歳代～50歳代の各年齢層で90%前後であるのに対して、女性の場合は、20歳代後半の約65%が最も高く、30歳代の出産・育児期に減少して、子育てが一段落したら再就職し、40歳代に第2の労働力率のピークを迎え、高齢になるにつれ再び減少する「M字型」の曲線を描いている。これは、家事や子育ては女性の役割という性別役割の考え方が根強く残っていることを示すと同時に、働き続けるための条件が整っていないという問題点も明らかにしている。

さらに、子育てが一段落した後の再就職では、パートタイム労働が多いということも問題点のひとつである。パートタイム労働では、正規の社員に比べて低賃金、有期雇用などと労働条件がよくない場合が多く、仕事内容も単純作業でキャリアアップにつながらない場合も多い。そして、こうした状況は、女性の高齢期の経済的不安へとつながっていく。

人生の早い段階から、一人ひとりが働くことの意味や職業の選択について考えることができるよう、学校教育や生涯学習を通して男女平等の視点に立った労働観・職業観を醸成することによって、男女がそれぞれに自立しながら、支え合える関係をつくることが求められている。

2. 日常生活や子育てについて

本調査では、子育てや家庭や職場での役割についての考え方をたずねている。

その中で、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」、「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」、「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」については『そう思う』とする割合が半数を上回った。

自分の子どもの将来像として望む生き方においても、「女の子」には「家族や周りの人たちと円満に暮らす」ことを、「男の子」には「経済的に自立した生活をする」ことを望む割合が高くなっている。

固定的な性別役割分担意識に基づいて子育てや仕事を分担し、「男らしさ、女らしさ」を肯定する考え方に基づいた子育ては、次代を担う子どもたちにも、また、固定的な性別役割分担意識を受け継ぐことになりかねない。

子どもたちが固定的な性別役割分担意識を身につけることがないようにするためには、子育て中の男女に対する意識啓発や、学校での男女平等教育の充実が一層求められる。

そして、市民、特に次代を担う若い世代が、男女共同参画の認識を深められ、誰もが学びたいときにいつでも学べるよう、生涯学習などにおける学習機会を充実することも必要である。

3. 地域活動への男女共同参画、豊かな老後の暮らしづくり

東大阪市においては、平成21年（2009年）には22.1%（東大阪市人口統計表 平成21年12月末）であった高齢化率は、平成32年（2020年）には28.4%（国立社会保障・人口問題研究所 平成20年12月）と予想され、今後もますます高齢化が進んでいく。

老いは、誰にでも訪れるものであるが、老後の生き方には、居住地、職業、性別などの条件とともに、「社会的性別（ジェンダー）」が大いに関わっており、高齢期における問題もおのずと男女で違ってくるであろう。

本調査においても、老後の不安では、「一人になったときの身の回りのこと」では男性の割合が高く、「人生の最後をどこでどのように過すか」は、60歳代、70歳以上では女性の方が高くなっている。

「男は仕事、女は家庭」という役割分担の中で、仕事重視で生きざるを得なかった世代の男性は、家事の技術や家族とのコミュニケーション、あるいは地域社会とのつきあいに時間を割くことがままならず、高齢期において、家族や地域の中で孤立する傾向がある。一方、女性は平均寿命が男性よりも長いことで、高齢期の1人暮らしの可能性は高い。よって、終のすみかへの関心は自ずから高くなる。また、一般的に女性の働き方は、結婚・出産・子育てなどのために非正規雇用が多く、就業年数も短い傾向にあり、年金などの収入も少なくなりがちであり、経済的に厳しい状況が予想できる。

しかし、地域活動への参加意向をたずねた設問では、男女ともに社会参加しながら、いきいきと心豊かな高齢期を過したいというという結果がでている。

「自治会・町内会の活動」には、男女ともに50、60歳代の半数弱が、また、「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」には、女性50歳代、男性40、50、60歳代の約半数が「今後は（も）参加したい」と回答している。こうしたエネルギーを活かすことで、より豊かな社会を築けるのではないだろうか。

仕事、家庭、地域活動、趣味などのバランスをとりながら、自らが希望する多面的な生き方を実現できるよう、対等で支えあえる家族関係づくりへの啓発や学習機会の提供、男性の介護教室の開催などを通じて介護への共同参画の促進、高齢期の生きがいがいくくりにも通じる地域活動への共同参画などを支援する積極的な施策が求められている。

4. 健康支援

また、男女の心身の健康についての取り組みも重要である。

男性に対して「男もつらい」と感じるかどうかをたずねた設問では、男性の約60%が「ある」と回答し、40歳代では72.5%にのぼる。

その理由を年齢層別にみると、30歳未満では「なにかにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」が63.9%、40歳代では「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」が51.4%、30歳～50歳代では「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前と言われる」が40%を超えている。60歳代、70歳以上では「衣食住のことが十分できなくて、生活が不便である」が高い。世代での違いはあるものの、男性が「男らしさ」に縛られていることが明らかになった。

近年、年間の自殺者が3万人を下ることはない中で、中高年男性の比率が高いことは多くの人の知るところである。自殺の理由は、健康や経済的な理由が大半を占めているが、その背景にもまた「男らしさ」の抑圧があると考えられる。仕事重視の生活を当たり前とする中で過重な労働を重ねていたり、妻子を養うのは男性の仕事と思い込んでいる中で心身をむしばまれていく可能性は大きい。

男性自身が自らの仕事偏重の生活スタイルを見直し、語り合うことのできる男性の集いの場づくりや相談窓口の充実などの支援が求められている。

一方、女性のこころと体の健康については、東大阪市ではすでに多くの取り組みを進めているところであるが、その認知度はあまり高くない。

せっかくの施策を有効に活用してもらえるよう、利用しやすいしくみづくり、情報提供のあり方、

施策の連携などの課題に一つひとつ取り組んでいく必要がある。

5. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）への取り組み

本調査を「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の観点から見てみよう。

女性自身が希望する暮らし方をみると、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」を組み合わせた暮らし方をしたいとする割合は約 67%である。しかし、実際の生活のその割合は約 39%と減少し、「仕事優先」あるいは「家庭生活優先」とする割合の合計が 50%を超える。また、意識の上でも、家事や子育て、介護は女性の責任であると考えている割合が高く、また、実際にそれに当てる時間は女性の方が多くなっている。

一方、男性では、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」を組み合わせた暮らし方をしたいとする割合は約 66%である。しかし、現実には労働時間は長く、仕事中心となる場合が多い。

30 歳未満の若い世代の男女も現実には仕事中心となっている割合が高い中で、仕事も家庭も地域や個人の生活も大事にしたいとの希望が高い。また、地域での活動についても参加意向がある。

以上の結果からは、仕事と生活について、当人の希望するバランスの選択を実現することは困難な状況であることがわかる。

国においては、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の取り組みを社会全体の活力を維持するための喫緊の課題として男女共同参画政策だけでなく、少子化対策・子育て支援、労働政策などとして取り組んでいる。

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の取り組みは、一人ひとりの労働者にとってはより充実した人生をおくるため、事業所にとっては労働人口が減少する現状において優秀な人材の確保につながるキーワードである。

子育てや介護をしながら就労している男女労働者が、仕事との両立ができるよう子育てや介護への社会的支援の充実を一層進めることが必要である。

また、両立支援にとどまらず、仕事の充実と仕事以外の生活の好循環が生まれるような総合的な施策を展開していくことが重要である。

特に中小の事業所が多い本市においては、市内の事業所での「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関する実態を把握し、実情に合わせた取り組みをきめ細かく行うことが必要である。

6. 女性の人権の尊重

人権の尊重は、男女共同参画社会形成の根底となるものである。

本調査においては、女性の人権が尊重されていない事柄を列举し、人権が尊重されていないと思うものを選択してもらった。しかし、60%を超える項目は1つもなかった。最も高い割合の「痴漢やレイプなどの性犯罪」でも女性 56.8%・男性 38.5%であり、他の項目は 30%台以下である。また、すべての項目で男性の方が女性より選択率が低くなっている。

また、「配偶者やパートナー、恋人からの暴力」被害の経験については、すべての項目において、「何度もされた」と「1、2度された」を合わせた割合は、女性の方が高くなっている。特に、「大声でど

なったり、物を壊したりする」「平手で打つ」「『誰のおかげで生活できるんだ』『食わせてやっている』と言う」「こぶしでなぐったり、足で蹴る」は10%を超えている。しかし、こうした被害にあいながら、公的な相談機関への相談はわずかである。

セクシュアル・ハラスメントや配偶者やパートナー、恋人からの暴力、性犯罪など、女性に対する暴力は、固定的な性別役割分担意識や社会構造として男女格差がある中で男性から女性への支配が生じていることから起こっている。

こうした暴力の背景が認識され、女性の人権が尊重されるよう、特に男性に対し意識啓発をおこなうことが必要である。また、その上で、被害者が1人で抱え込まないで済むように、相談窓口の周知とともに、相談体制の強化が求められている。

また、平成19年(2007年)のDV防止法の2度目の改正では、市町村においても配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護のための施策の実施に関する基本的な計画(「DV防止基本計画」)の策定に努めなければならないとしている。DVに関するこれまでの施策をより一層推進していくためには計画の策定が望まれる。

7. 一人ひとりが参画して進める男女共同参画社会づくり

固定的性別役割分担意識についての考え方を問う設問では、前回調査よりも性別役割分担意識に「同感しない」の割合が、男女ともに15ポイント程度減り、「同感する」が「同感しない」を上回った。そして、「同感する」理由としては、「男女で違う役割があると思うから」が大半を占めている。

これを国の調査と比較すると、東大阪市の方が「同感しない(国でいえば「反対」)」の割合が女性では約19ポイント、男性では26ポイント低く、固定的な性別役割分担意識が強いことがうかがえる。

また、「女らしさ・男らしさ」や性別による役割分担、従来の家族のあり方を肯定する意見は少数ではなく、暮らしの様々な場面において男女の役割について固定的な観念を持っている市民が多いことがわかる。

性別による役割を固定化した考え方は、一人ひとりの個性や能力を発揮する機会を奪うことにもつながり、男女共同参画社会を実現する大きな障害である。

「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」という固定観念を払拭し、男女がともに個性と能力を発揮し、互いを尊重し合うことのできる社会をめざして、「社会的性別(ジェンダー)」の視点に立ってあらゆる場面における幅広い意識啓発に取り組んでいくことが重要である。

V. 自由意見のまとめ

1. 自由意見（抜粋・要約）

男女共同参画社会実現のための意見、要望について寄せられた自由記述（131人）の主な意見を抜粋し要約する。

年 代	20 歳未満		20 歳代		30 歳代		40 歳代		50 歳代		60 歳代		70 歳以上		計	
性 別	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
(1) 仕事について			3	1	2	2						4		1	5	8
(2) 日常生活や子育てについて		1		2	4	1		1	1	1	2		1		8	6
(3) 男女の地位に関する意識について		1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	3	2	1	13	15
(4) 健康や地域活動、老後の暮らしについて						1	2				1	1	2	1	5	3
(5) 人権の尊重について					1		2	1			2		2	1	7	2
(6) 男女共同参画社会の形成に関する意識について			2	4	1	5	3	3	2	1	2	3	2	1	12	17
(7) その他				1	3	2	3	3	2	2	3	2	5	4	16	14
計	0	2	6	10	14	15	11	9	7	7	14	13	14	9	66	65

(人)

(1) 仕事について

- ◆現状としては、女性が結婚後に仕事を変わりなく続けていくのは難しいとされる会社・企業が本当にまだまだ多いと思います。私は秋から本格的に就職活動に入りますが、長期的視野で見て長く働ける（育児休暇が満足にとれたり、労働者を大事にする）会社を探すのはなかなか大変だと感じています。「平等」という感覚を教育環境で子どもに教えるのもいいことだと思いますが、まず身近にいる女性の大人（母親など）が家庭も仕事も両立しているのを見せることが、子どもに「性別は関係なく働きたい人が働ける世の中」と実感させられる方法だと思います。（女性 20 歳代）
- ◆働く母親のために、もっと充実した保育環境を整えてほしい。子どもを育てるために、手当や税金を見直してほしい。働く女性が結婚・出産・育児を理由に解雇をちらつかされるなど、脅されたり、上司からの嫌がらせにより辞めさせられることがあれば、その会社に対して社会的にダメージがでるような罰則を設けてほしい。男性と女性は身体づくりからして違うので、男性は男性、女性は女性の部分を認めて欲しい。女性が働きやすい環境になることを切に願っています。（女性 20 歳代）
- ◆男女間での差別は仕事などであると思う。地域、社会が取組んで男女平等を実現することが望ましい。男性も女性も働きやすい環境を作る事が 1 番重要ではないだろうか。（男性 20 歳代）
- ◆仕事柄女性が大半を占める職場で勤めているため、職場における男女差別はあまり感じることは少な

いですが、実際にフレックスタイム（自由勤務時間）、育児休暇などは優先的に女性がとり、不平等な感を受けることがあります。昨今の経済危機も受け職場内でも人員整理、経費削減が進むなか、職場では、一人一人の仕事量もふえ残業もできないようになっています。一方で優遇され、一方ではその負担を強いられるのでは、本来の男女平等とはいえないのではないのでしょうか？正直“男だから”で片付けられたり“管理職だから我慢しろ”ではやりきれない気持ちです。（男性 30 歳代）

- ◆女性が幼児を預けて安心して働ける社会基盤の整備が重要である。形式的な掛け声だけの施策では意味がない。多様な働き方のできる職場環境の整備について、社会が真剣に検討する時期にきていると考える。大学生の就職活動においては明らかに男女差別が行われている。このような社会に「男女共同参画」なんて言葉はしらじらしい。（男性 60 歳代）
- ◆社会は年齢に関係なく雇用してほしい。（男性 60 歳代）

（２）日常生活や子育てについて

- ◆短時間パートしている主婦です。パートナーとの信頼関係が、男女差別平等についての考え方を左右すると思います。もっと働きたいと思っはいますが、子育て、主婦の仕事、夫婦の時間などのバランスが保て、友人との付き合いも適度にあります。（女性 30 歳代）
- ◆男、女と主張するのではなく互いの体のつくり、役割など、各々あるのだから互いに感謝しあい、生きていくことが大事だと思う。（女性 30 歳代）
- ◆子どもがいてもいなくても、働きたい人が安心して働けたり、専業主婦をしたい人は専業主婦になれる、選択できる世の中になったらいいと思います。（女性 30 歳代）
- ◆男女共同参画社会実現の為には、矛盾したことを言いますが、母親が一日の大半の時間家にいて子どもが 10 歳になるくらいまで、人間は皆等しく平等で、人間としての（男女差なく）責任・義務を教え、命を大切に社会にしていかななくては、法で、いくら決めてもDVも性差別もなくならないと思います。ただ私も子どもがいなければ社会に出て男性と区別がなく働きたいと切に思います。（女性 50 歳代）
- ◆男性と女性の生まれ持った特性は違うと思います。良い点、悪い点それぞれ理解し、助け合って生活すべきだと思います。相手の話（気持ち）を聞く、話し合える関係を作っていけるといいと思います。（女性 60 歳代）
- ◆①子どもを育てる母親が意識をもって自覚を認めて平等な接し方をする。
②教育の場で身体の仕組み働きを（性に限らず）科学的に見つめる習慣をつける。
③男性にこそ男女共同社会の理念を教え込む。
④女性自身も努力し身を律して学習し自立すること。
⑤残念ながら“女性であるがゆえに”我慢していることがいたるところにある。
⑥お互いが尊重しあい、尊敬し合えるなかでこそ成立する。（女性 70 歳以上）
- ◆あらゆるものに対して平等を進めるのではなく、男女それぞれの違いをよく考慮したうえで、柔軟な政策を実施してもらいたいと思う。（男性 20 歳代）
- ◆子どもを産んでからの環境が悪い。社会として子どもと高齢者との接点を増やし働きやすい社会を作る。（保育園と老人ホームの併設）待機児童を減らす取り組みをして欲しい。（男性 30 歳代）
- ◆本当に支援しなければならないのは、子どもを育てる女性である。（男性 40 歳代）

（３）男女の地位に関する意識について

- ◆男の人もお互いのお互いを助け合う気持ちが大切だと思います。平等といっても女の方は男の人に甘えたり頼れる部分があるし、逆もあると思うから。今のままの制度が進めば、逆差別になると以前から強く感じます。（女性 20 歳代）
- ◆主人の考えや言動に、男尊女卑ではないかと思うことがあったりします。そのことを主人に伝えても、

改める様子は全くありません。育ってきた環境は人それぞれなので今更なおるものではないようです。時代とともに男女ともにお互いの立場を深く理解し、協力し合いながら楽しく暮らしていける世の中になっていってくれば嬉しいと思います。(女性 30 歳代)

- ◆男女平等には賛成だが、男性は男性なりに女性は女性なりに、できること、できないこと、向き、不向きはあるので、何から何まで平等にする必要はないと思う。また、権利主張ばかりいうのは間違っていると思う。(女性 30 歳代)
- ◆男は男らしくとか女はもっとしとやかにしろとかまだそんなことを言うような人がいると思ってほしいです。(女性 50 歳代)
- ◆才能のある女性が社会に出て活動すると心から応援しますが、周りの理解を得られなくストレスを感じている方が多いことも事実です。小さい頃からの教育、家庭教育から徐々に女性の社会進出の環境をつくって行くことが必要だと思います。(女性 60 歳代)
- ◆女性も健康で能力のある人は、男女平等で男性と対等すればよい。でもやはり男は上、たたえるべきと思います。(女性 70 歳以上)
- ◆完全な男女平等はやめたほうがよい。(男性 20 歳未満)
- ◆女性に対する差別や、嫌がらせ等はいい事とは言えないけど、異常なまでに気にするのも最近では増えていると思う。結局「平等」という言葉で男性との更なる差別を生んでいるようにも思えます。色々な活動をされるのは素晴らしいと感じるけれども、活動する側が過敏にならないように願います。(男性 20 歳代)
- ◆現実、男女の差別はなくならないと思います。男と女がいて以上は何かしらの差別や問題は起こる事だと思います。(男性 20 歳代)
- ◆適材適所、男女の間で完全な平等などはありません。そういったことを踏まえても男女共同参画は必要だと思う。何から何まですべてを男女平等の考えの下すすめるのは間違いであり、逆に女性に対する過保護となる可能性を秘めているように思える。まさに”適材適所”。(男性 30 歳代)
- ◆男女共同参画社会の意味合いはとても素晴らしいと思いますが、男女の平等というのは難しいと思います。生まれてからそれぞれの役割があるので、それを尊重しあえばいいだけで、何もかも平等というわけではない私は思っています。税金を使ってするアンケートの価値はないと思います。(男性 30 歳代)
- ◆それぞれの人々の潜在意識のなかに男女平等が根付き、男しか、女しかという制限のない逆に男、女それぞれの特性をいかしていける社会が実現できればいいと思います。(男性 40 歳代)
- ◆男性、女性の本来の役割や特性を十分に理解したうえで、平等な社会を築いてほしい。スポーツでも男女は分けている。仕事でもその特性については配慮されるべきと思う。(男性 50 歳代)
- ◆男女共同参画社会実現の為には個人の権利意識の向上、個人の人権尊重が基本になると思う。その点では日本より欧米の方が進んでいると思う。日本では、まだ社会通念や慣習面で不十分な所があり、そういう意識を改革していかなければならないと思います。(男性 60 歳代)
- ◆男女平等はかなり進んでいると思う。特に平等は女性の方が強くなりつつあり良い傾向です。特に意識は持っていません。(男性 60 歳代)
- ◆男女雇用機会均等法制定のもと女性の社会進出がかなり進んでいる現在であるが、全体を見るとまだまだ分野においては共同参画には程遠い現状である。今後は女性進出の出来やすい環境づくり（子育て支援の充実等）が必要である。(男性 70 歳以上)

(4) 健康や地域活動、老後の暮らしについて

- ◆肉親もなくこれからの人生が不安です。そういう為のカウンセリングの場を作ってください。(女性 40 歳代)
- ◆働いているので土日に参画出来るものが増えていくことを望んでいます。(女性 40 歳代)

- ◆地域活動に参加するといってもどのようにどのような方法でやるのかわからない。地域的に小グループであれば、参加しやすいかもしれません。(女性 60 歳代)
- ◆後期高齢者なので色々な行事や活動に参加したいですが身体の調子があまりよくないので参加するのが困難です。(女性 70 歳以上)
- ◆70 代になりますと理想はあってもなかなか活動に参加できません。(女性 70 歳以上)
- ◆男女共に就職しやすい子どもが育てやすい環境づくりをしてほしい。高齢化社会となり将来についても不安が大きい。(男性 30 歳代)
- ◆仕事が優先のため活動や交流の場に参加できかねます。(男性 60 歳代)
- ◆高齢化社会にあっては男女の性別に関係なく余裕のあるものが余裕のないものをカバーすることが家庭ではもちろん、地域社会（自治会の半単位）でも実践できるようになって欲しい。互いに声をかけあう場を持って孤独感などなくしたい。(男性 70 歳以上)

(5) 人権の尊重について

- ◆大人になってから、広報などで知らせるよりも、学校の中で自然と情報が得られるといいと思います。特に、障害者への配慮。中途半端な援助で“してあげている”と思われていることが嫌です。(女性 30 歳代)
- ◆言葉の暴力というのはいつまでも残ります。言った方は何も覚えていないけど、言われた方は心に残ります。(女性 60 歳代)
- ◆男女が、きちんと人権意識を自他共に培うことが大切だと思います。そのためには、子どもの時から自分の思いを伝える力、相手の思いも聞く中で話し合える力の教育、相手への思いやりを知ることが日常のなかで大切になっていくと思います。男女間でもこのことが基本だろうと思います。家庭での両親の関係のあり方が子どもに反映されています。父親が母親に対して、力で抑えたりすると、そのようなことを子ども同士でも、大人に対しても表します。大人の女性や老人に対する態度も家庭のあり方が反映されます。大人の女性（若い女性）は相手の話も聞く中で、相手への思いやりと責めるやり方だけでは理解されないと思います。「言葉」を大切にしていける文化を大切にしたいと思います。(女性 60 歳代)
- ◆障害者や難病の人の為もっと活動して欲しい。お願いします。(女性 70 歳以上)
- ◆テレビや漫画、雑誌など、DVや犯罪が当たり前にある、との前提で情報が氾濫している。メディアへの自制などの対策が必要ではないでしょうか？(男性 40 歳代)

(6) 男女共同参画社会の形成に関する意識について

- ◆学生なので自分には関係ない話では？と思いながらアンケートを書こうとしたのですが、内容を見てみるとすごく重要なことだなと考えさせられました。私がもう少し年月が経って結婚、子育てとなったとき、よりよい社会になっていればと思いました。(女性 20 歳代)
- ◆共働きの家族は、普段忙しく情報を得ることが厳しい。東大阪市の「男女共同参画社会」形成への取り組みについて積極的に情報を流して欲しい。(女性 20 歳代)
- ◆基本的には、男女平等という言葉は、好きな言葉ではない。人権として、各個人が尊重されるのは間違いないとは思わないが、男性と女性を職場、家庭において、国や公共が平等だというのはどうかと思う。男性には体力や性格や本質的な部分で、出来る仕事もあるし、女性がそれをするを批判はしないが、あえて、出来ない女性をあおり立てるようで女性ならではの良さを生かせる仕事も世の中にはたくさんあるので、本人が望むのならば平等という言葉なくとも男も女も関係なく努力すればいいのではないかと思います。(女性 30 歳代)
- ◆情報が聞けないのでよく理解できない。(女性 40 歳代)
- ◆男も女も共に社会に出て、賃金労働をするべきだとの強迫観念のようなものを感じる。女であっても、

男であっても社会で活躍したい人、家庭での生活（主に子育て）を充実させたい人と色々なパターン、多様性のある生き方が選択できるのがいいと思う。キャリアも子育てもと何もかもするのが（出来るのが）いい人生だと押し付けられているようでそういう面에선どい思っているのではないだろうか。家庭で子育てや介護をしている女性にこそ、ねぎらいを持つ社会になってほしい。（女性 40 歳代）

- ◆市民は「男女共同参画社会」このようなことを知らない人が多いと思う。もっと身近にチラシなどでも知らせて欲しいと思います。（女性 50 歳代）
- ◆家庭のプライバシーを守って無理しないで男女共同を考えて一人一人の考え方を取り入れ活動していけたらと思います。（女性 50 歳代）
- ◆すべての点で、男女が対等ということは難しいと思います。男性に出来ること、女性にしか出来ないこと、価値観の違い、意見交換の出来る社会が理想です。（女性 60 歳代）
- ◆若い方たちに興味をもってもらい、たくさんの方が参加して欲しいと思います。（女性 60 歳代）
- ◆あまり聞いたことが無い文面が多いので東大阪市の新聞で知りたい。（女性 70 歳以上）
- ◆お上が「男女共同参画社会実現」と大上段に掲げられると身構えてしまう。また、時に行き過ぎた（偏った）女性の権利向上キャンペーンの為の錦の御旗のように掲げられるようなきらいがある。私の意識では男女同権という事について旧来から認識がずいぶん改善されているように思う。お上からの押し付けではなく自然な形で男らしさ女らしさよりも“その人らしさ”を大切にするような自然な形で施策が望ましいと思われる。追記、人権に限らずこのように市民の声を直接聞く機会がもっとあればいいと思う。その点で今回のアンケートはいい取り組みであると思う。（男性 20 歳代）
- ◆男女だからではなく、各個人の人権、主張が尊重される社会が望ましいと考えている。あまりに女性の権利を主張することが、かえって男性差別、無視となる事のないよう教育、活動をお願いしたい。（男性 20 歳代）
- ◆男女はメンタル面、身体づくり等異なるので平等は無理。理想を掲げても現実異なるので逆にさらに不満ができる。男女それぞれの良い点を尊重した社会にすべきである。（男性 20 歳代）
- ◆本当に実現する気があるのであれば、国（市）がもっと強力なリーダーシップを発揮し、指導していかないとはいけません。（男性 30 歳代）
- ◆私自身このアンケートに答えるまでは「男女共同参画」という意味自体を分かっていない事や「今になって？」と感じたりしましたが、このアンケートをすることで関心を持っていきたいと思います。（男性 40 歳代）
- ◆この世に生をなした男・女という、もって生まれた性差（特に身体能力、母性父性等）は、いかんともしがたく、男女共同参画社会実現を計るには、根底部分でその性差を認め合うところが大事だと思います。（男性 40 歳代）
- ◆共同参画社会の実現推進はよいことと思うが、現在の市民生活には男女問題だけではなく、経済的・将来への不安が目先にある以上、このような参画活動に入るだけの余裕がありません。もっと、暮らしを守る保障を実現してもらいたい。（男性 50 歳代）
- ◆男女共同参画社会ではない事実を偏見なく把握し、それへの施策を考えるべし。その事実・事例が具体的に紹介されていないのではないかと。（男性 60 歳代）

VI. 調査票

だんじょきょうどうさんかく かん ちょうさ 男女共同参画に関するアンケート調査

だれ く ～誰もがいきいきと暮らすまちをめざして～

ねん へいせい ねん がつ
2009年(平成21年) 9月

みなさま ひごろ しせい りかい きょうりょく
皆様には日頃から市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、本市では、性別にかかわらず誰もが自分らしく、いきいきと暮らすことができる
だんじょきょうどうさんかくしやかい しさく いっそう じゅうじつ はか
る男女共同参画社会をめざし、さまざまな施策をおこなっておりますが、一層の充実を図
るため、新しい「男女共同参画推進プラン」を策定することになりました。

そこで、市民の皆様の声をおうかがいし、新プランに反映させるため、アンケート調査を
じっし
実施することになりました。

ちょうさ しゅし りかい きょうりょく ねが もう あ
調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



ひがしおおさかしちょう の だ よし かず
東大阪市長 野田 義和

きにゅう ねが ご記入にあたってのお願い

- 1 あて名のご本人が回答してください。(ご本人による記入が困難な場合は代筆でお願い
します。)
- 2 きにゅう お ちょうさひょう どうふう へんしんようふうとう きってふよう い
記入が終わりましたら、この調査票を同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、
がっ にち か とうかん
10月6日(火)までに投函してください。
- 3 この調査票は無記名方式で、回答の結果はコンピュータで集計処理しますので、個人
が特定されることはありません。また、ご回答いただいた内容をこの調査以外で
しよう
使用することはありません。
- 4 かいとう とい じゅん しつもん ようい こたえ せんたくし なか かんが
回答は、問1から順に、質問ごとに用意してある答(選択肢)の中から、あなたのお考
えにあてはまる番号、または、項目に○をつける、あるいは、数字、番号をご記入くださ
い。
- 5 このアンケート調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

ひがしおおさかし じんけんぶんかぶ だんじょきょうどうさんかく か
東大阪市 人権文化部 男女共同参画課

〒577-8521 東大阪市荒本北1丁目1番1号

でん わ ちやくつう
電 話 06-4309-3300 (直 通)

ファックス 06-4309-3823

あなたについておたずねします

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

1. 女性 2. 男性 3. その他

問2 あなたの年齢は。(○は1つ)

1. 20歳未満 2. 20～29歳 3. 30～39歳
4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳
7. 70歳以上

問3 あなたは結婚(事実婚を含む)していますか。(○は1つ)

1. 結婚していない 2. 結婚している(事実婚を含む)
3. 離別した 4. 死別した

問4 あなたは、お子さんがいますか。(○は1つ)

1. 子どもはいない 2. 子どもがいる

1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人以上
-------	-------	-------	---------

問5 あなたの世帯構成は、つぎのうちどれですか。(○は1つ)

1. 一人暮らし 2. 夫婦(事実婚を含む)のみ
3. 夫婦と子ども(二世帯) 4. ひとり親と子ども(二世帯)
5. 祖父母と親と子ども(三世帯) 6. その他(具体的に)

問6 あなたは、現在収入を得る仕事をしていますか。(○は1つ)

1. 仕事をしている 2. 仕事はしていない

問6-1 それは、どのような働き方ですか。(○は1つ)

1. 会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人 2. パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)
3. パート、アルバイトの勤め人(短時間) 4. 自営業主・経営者(農林業を含む)
5. 自営業の手伝い、家族従業員 6. 内職など家庭でできる仕事
7. その他(具体的に)

問7 あなたの配偶者またはパートナーは、収入を得る仕事をしていますか。(○は1つ)

1. 仕事をしている 2. 仕事はしていない
3. 配偶者またはパートナーはいない

しごと 仕事について

げんざい しごと かた とい
現在「仕事をしていない」方は、3ページ間12におすすみください。

とい げんざい しごと こた かた
問6で、現在「仕事をしている」と答えられた方におたずねします。

とい じゅうかん なんじ かん ざんぎょうじ かん ふく
問8 あなたは、1週間でおおよそ何時間くらい働いていますか（残業時間も含みます）。
(○は1つ)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 20時間未満
じかんみまん | 2. 20～30時間未満
じかんみまん |
| 3. 30～40時間未満
じかんみまん | 4. 40～50時間未満
じかんみまん |
| 5. 50～60時間未満
じかんみまん | 6. 60時間以上
じかんいじょう |

とい さくねん ねんかん しゅうにゅう ぜいこ
問9 あなたの昨年1年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。（○は1つ）

- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1. 103万円未満
まんえんみまん | 2. 103万円～200万円未満
まんえん まんえんみまん |
| 3. 200万円～300万円未満
まんえん まんえんみまん | 4. 300万円～400万円未満
まんえん まんえんみまん |
| 5. 400万円～500万円未満
まんえん まんえんみまん | 6. 500万円～700万円未満
まんえん まんえんみまん |
| 7. 700万円～1,000万円未満
まんえん まんえんみまん | 8. 1,000万円以上
まんえんいじょう |

とい しごと ふあん なや かん こうもく あ
問10 あなたは、いまの仕事でストレス（不安や悩み）を感じていますか。①～⑨の項目ごとに当てはまる番号に○をしてください。（①～⑨の項目ごとに○は1つずつ）

	じる ストレスを強く感 かん	ストレスを感じる かん	ど感 かん じない ストレスはほとん	当てはまらない あ
① じょうし ぶ か どうりょう にんげんかんけい 上司や部下、同僚との人間関係	1	2	3	4
② ろうどうじかん なが 労働時間が長い	1	2	3	4
③ たんじかんきんむ せいど 短時間勤務やフレックスタイム*などの制度 がなく、きんむじかん じゅうなんせい 勤務時間に柔軟性がない	1	2	3	4
④ しゅうにゅう すく 収入が少ない	1	2	3	4
⑤ ふきょう かいこ しょうらいせい かん 不況・解雇、将来性が感じられない	1	2	3	4
⑥ しごと 仕事がおもしろくない	1	2	3	4
⑦ こ こうれいしゃ せ わ じゅうぶん 子どもや高齢者の世話などがあって十分に はたら 働けない	1	2	3	4
⑧ やす じゅうぶん 休みが十分とれない	1	2	3	4
⑨ た ぐたいてき その他（具体的に）	1	2	3	4

*フレックスタイム制度 せいど ろうしきようてい もと ろうどうしや じぶん しぎょうじこく しゅうぎょうじこく いっぺい はんい じゅう
労使協定に基づき、労働者が自分の始業時刻と終業時刻を一定の範囲で自由
に決められる制度 せいど

問11 あなたの今の職場では、性別によって、対応や評価に差があると思いますか。あなたの実感に近いものを選んで番号に○をつけてください。(①～⑫の項目ごとに○は1つずつ)

	優遇されている 「男性」の方が	平等である	優遇されている 「女性」の方が	当てはまらない
① 募集・採用の仕方	1	2	3	4
② 採用数	1	2	3	4
③ 配置される職場	1	2	3	4
④ 仕事の内容	1	2	3	4
⑤ 賃金	1	2	3	4
⑥ 昇進・昇格	1	2	3	4
⑦ 能力評価（業績評価・人事考課など）	1	2	3	4
⑧ 管理職への登用	1	2	3	4
⑨ 研修の頻度や内容	1	2	3	4
⑩ 定年まで働き続けやすい雰囲気	1	2	3	4
⑪ 育児・介護休業などの取得に関して	1	2	3	4
⑫ その他（具体的に）	1	2	3	4

問6で、「仕事はしていない」と答えられた方におたずねします。

問12 あなたが仕事をしていないのはどうしてですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. やりたい仕事がない | 2. 求職中である |
| 3. 家事や子育てをしている | 4. 介護・看護をしている |
| 5. 定年退職した | 6. 健康上の問題がある |
| 7. 学生である | 8. 働く必要がない |
| 9. 働きたくない | 10. その他（具体的に） |



問13 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

1. ぜひ、仕事につきたい

2. できれば、仕事につきたい

3. 仕事につきたいと思わない

4. わからない

問13-1 あなたは、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。

(○はいくつでも)

1. 自分のしたい仕事につけるか

2. 自分の資格や能力が通用するか

3. 職場の人間関係がうまくいくか

4. 賃金など、望む労働条件が得られるか

5. 自分の健康状態や体力

6. 家族の理解が得られるか

7. 家事、子育て、介護との両立ができるか

8. 年齢制限

9. 保育所(園)、学童保育を利用できるか

10. その他(具体的に)

11. 特にない

日常生活や子育てについて

問14 あなたは、次の①～⑤の項目についてどのように思いますか。感じたままをお答えください。
(①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば	と思う	どちらともいえない	そう思わない
① 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5
② 妻や子どもを養うのは、男性の責任である	1	2	3	4	5
③ 育児や介護、病人の世話は、男性より女性の方がよい	1	2	3	4	5
④ 子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい	1	2	3	4	5
⑤ 男性の方が女性より、管理職としての資質がある	1	2	3	4	5

問15 あなたは、普段の平日をどのように過ごしていますか。①～⑥の各項目に使うおおよその時間をご記入ください。

① 睡眠	時間 分
② 食事、入浴など	時間 分
③ 仕事・通勤あるいは学業・通学	時間 分
④ 家事・育児・介護など	時間 分
⑤ 余暇、自由時間	時間 分
⑥ その他（具体的に）	時間 分
合 計	24時間 00分

問16、17 における言葉の意味は次のとおりです。

「家庭生活」……………家族と過すこと、家事(食事のしたく、かたづけ、そうじ、洗濯、買物など)、育児、介護・看護など
「地域・個人生活」…地域活動(ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど)、学習・研究(学業も含む)、趣味・娯楽、スポーツなど

問16 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。あなたの希望に最も近いものを下から選んで○をつけてください。（○は1つ）

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい

問17 それでは、あなたの実際の生活に最も近いものはどれでしょうか。最も近いものを下から選んで○をつけてください。（○は1つ）

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している

問18 あなたは、女性の生き方について、(1) どのような生き方が望ましいと思われますか。(男性もお答えください。)

また、(2) あなた(女性)の実際の生き方は、次のどれにあたりますか。(男性は、あなたの配偶者についてお答えください。配偶者のおられない方は⑨を選択してください。)

(1) 望ましい と思う 生き方	(2) 実際の 生き方	(1) (2) それぞれに○は1つずつ
1	1	① 結婚しないで、働き続ける
2	2	② 結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける
3	3	③ 結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する
4	4	④ 結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する
5	5	⑤ 結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する
6	6	⑥ 結婚し、出産をし、家事・育児に余裕ができてから初めて就職する
7	7	⑦ 就職せず、結婚・出産し、家事・子育てに専念する
8	8	⑧ その他(具体的に)
	9	⑨ 該当しない(配偶者はいない)

問19 あなたは、自分の子どもには将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。
女の子、男の子それぞれの場合について、() 内にあなたの考えに近い項目の番号を記入してください。子どもがいない方も、仮にいた場合を想定してお答えください。

- 社会的な地位を得る
- 経済的に自立した生活をする
- 人間性豊かな生活をする
- 家族や周りの人たちと円満に暮らす
- 社会に貢献する
- 本人の個性や才能を生かした生活をする
- 本人の意思に任せる
- その他(具体的に)



女の子の場合	() ()
男の子の場合	() ()

問20 男女平等を進めるために、小学校・中学校でどのような取り組みが重要だと思いますか。
(○はいくつでも)

1. 男女平等の意識を育てる授業をする
2. 進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする
3. 小学校の低学年から、「性」は人間の尊厳に関わるものであることを教える
4. 教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する
5. 校長や教頭に女性を増やしていく
6. 家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える
7. メディア（新聞やテレビなど）の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う教育を進める
8. 保護者会などを通じて保護者に対して男女共同参画の啓発をする
9. その他（具体的に
10. 特にない

男女の地位に関する意識について

問21 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
(①～⑨の項目ごとに○は1つつ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている
① 学校教育の場では	1	2	3	4	5
② 雇用の機会や働く分野では	1	2	3	4	5
③ 職場（賃金や待遇など）では	1	2	3	4	5
④ 家庭生活の場では	1	2	3	4	5
⑤ 地域活動、社会活動への参加では	1	2	3	4	5
⑥ 社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では	1	2	3	4	5
⑦ 法律や制度では	1	2	3	4	5
⑧ 政治・経済活動への参加では	1	2	3	4	5
⑨ 社会全体からみて	1	2	3	4	5

問22 「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1. 同感である
2. どちらかといえば同感である

3. どちらかといえば同感しない
4. 同感しない

問22-1 その理由は次のうちどれに近いですか。(○は1つ)

1. 子どもの頃からそのように教育を受けてきたから
2. 社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから
3. 男女で違う役割があると思うから
4. その他 ()

問22-2 その理由は次のうちどれに近いですか。(○は1つ)

1. 子どもの頃からそのように教育を受けてきたから
2. 社会の風潮・慣習としてそうになっていると感じるから
3. 男女で役割を決めるのはきゅうくつだから
4. その他 ()

健康や地域活動、老後の暮らしについて

問23 あなたは、生活の中でどのようなことでストレス（不安や悩み）を感じていますか。
(①～⑦の項目ごとに○は1つずつ)

	感じる ストレスを強く	ストレスを感じる	ストレスをほとんど感じない	当てはまらない
① 老後の生活（経済や健康）	1	2	3	4
② 配偶者やパートナー、恋人のことで	1	2	3	4
③ 子どものことで	1	2	3	4
④ 経済的なことで	1	2	3	4
⑤ 家事の負担	1	2	3	4
⑥ 親の介護や病気	1	2	3	4
⑦ その他（具体的に)	1	2	3	4

問24 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものに○をつけてください。

(①～⑤の項目ごとに○は1つつ)

	今後参加したい さんか 今後参加したい	参加した、している さんか 参加した、している	参加したことがない さんか 参加したことがない	参加したことがない さんか 参加したことがない
① 自治会・町内会の活動	1	2	3	4
② P T Aや子ども会の活動	1	2	3	4
③ 地域における趣味・スポーツ・学習の活動	1	2	3	4
④ N P O（非営利団体）やボランティアの活動	1	2	3	4
⑤ 民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動	1	2	3	4



「今後は（も）参加したくない」と答えられた方におたずねします。

問24-1 それはどうしてですか。（○はいくつでも）

1. 仕事が忙しいから
2. 家事・育児・介護で忙しいから
3. 健康状態がおもわしくないから
4. 活動に魅力がないから
5. 人間関係がわずらわしいから
6. 活動の情報が得られないから
7. 参加するきっかけがないから
8. あまり関心がないから
9. その他（具体的に）

問25 あなたは、老後の生活について、特に不安に思っていることがありますか。（○はいくつでも）

1. 生きがいをみつけられるか
2. 健康で過ごせるか
3. 一人になったときの孤独
4. 一人になったときの身の回りのこと
5. 経済的にやっていけるか
6. 病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか
7. 人生の最後をどこでどのように過ごすか
8. その他（具体的に）
9. 特にない

問26 老後をいきいきと暮らすためにやってみたいことがありますか。(〇はいくつでも)

1. 働くこと はたら
 2. 学習や教養を高めるための活動 がくしゅう きょうよう たか
 3. スポーツ
 4. 趣味の活動 しゅみ かつどう
 5. ボランティア活動 かつどう
 6. 老人クラブ活動 ろうじん かつどう
 7. 自治会・町内会の活動 じちかい ちょうないかい かつどう
 8. 旅行 りょこう
 9. 家族との団らん かぞく だん
 10. 夫婦の団らん ふうふ だん
 11. その他（具体的に） た ぐたいてき
 12. 特にない とく

だんせい
「男性」におたずねします。

問27 あなたは「男^{おとこ}もつらい」と感じることはありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ない



問27-1 それはどんなことですか。(○はいくつでも)

1. なにかにつけ「男^{おとこ}だから」「男^{おとこ}のくせに」と言われる
2. 妻^{さいし}子を養^{やしな}うのは男^{おとこ}の責任^{せきにん}だと言われる
3. 男^{おとこ}なのに酒^{さけ}が飲^のめないのかとからかわれる
4. 力^{ちから}が弱^{よわ}い、運動^{うんどう}が苦手^{にがて}だとバカにされる
5. 仕事^{しごと}の責任^{せきにん}が大きい、仕事^{しごと}ができて当たり前^{あまえ}だと言われる
6. 自分^{じぶん}のやりたい仕事^{しごと}を自由^{じゆう}に選^{えら}べないことがある
7. 衣食住^{いしょくじゅう}のことが十分^{じゅうぶん}にできなくて、生活^{せいかつ}が不便^{ふべん}である
8. 家族^{かぞく}とのコミュニケーションがうまくいかない
9. その他^た（具体的^{ぐたいてき}に



問28 東大阪市では、女性の心とからだの健康を保つために以下の取り組みを行っています。
 あなたがご存じのものはどれですか。(①～⑦の項目ごとに○は1つずつ)
 また、利用したことがあるものには「4」にも○をつけてください。

	よく知っている	聞いたことがある	知らない	利用したことがある
* D V 配偶者や恋人など親しい人からの暴力				
① 食生活や健康づくりに関する情報提供	1	2	3	4
② 安心して出産にのぞむための検診・相談	1	2	3	4
③ 女性特有の健康上の悩みなどに配慮した女性専用相談窓口	1	2	3	4
④ 女性のための悩みや不安(D V *を含む)に対する相談	1	2	3	4
⑤ リフレッシュできるような場の提供	1	2	3	4
⑥ 生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための講座などの開催	1	2	3	4
⑦ その他(具体的に)	1	2	3	4

人権の尊重について

問29 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことですか。
 (○はいくつでも)

1. 男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家庭」という考え方など)を押しつける
2. 職場における差別待遇
3. セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)
4. 内容に関係なく女性の水着姿や媚びたポーズなどを使用した広告など
5. 女性のヌード写真などを掲載した新聞、雑誌、ビデオ、D V D、ゲーム等
6. 携帯電話やインターネット上のアダルトサイト
7. 夫やパートナー、恋人からの暴力(デートD V *を含む)
8. 痴漢やレイプなどの性犯罪
9. 性風俗営業、売買春、援助交際
10. その他(具体的に)
11. 特にない

* デートD V 中高生、大学生など、結婚していない恋人間の暴力のこと

問30 あなたは配偶者やパートナー、恋人に、次のようなことをしたり、されたことがありますか。

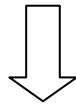
(当てはまるものすべてに○をつけてください)

	されたことがある		したことがある	
	何度もあった(ある)	1、2度あった(ある)	何度もあった(ある)	1、2度あった(ある)
① 平手で打つ	1	2	3	4
② こぶしでなぐったり、足で蹴る	1	2	3	4
③ 身体を傷つける可能性のある物でなぐる	1	2	3	4
④ 生活費を渡さない	1	2	3	4
⑤ なぐるふりをして、おどす	1	2	3	4
⑥ 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3	4
⑦ 相手がいやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3	4
⑧ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	4
⑨ 何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3	4
⑩ 交友関係や携帯電話を細かくチェックする	1	2	3	4
⑪ 「誰のおかげで生活できるんだ」、「食わせてやっている」と言う	1	2	3	4
⑫ 大声でどなったり、物を壊したりする	1	2	3	4
⑬ 避妊に協力しない	1	2	3	4
⑭ したり、されたりしたことがない	1			

問30 の選択肢①～⑬に1つ以上○をつけた方におうかがいします。

問31 問30 のようなことをしたり、されたとき、その後どうしましたか。(○はいくつでも)

1. 二人 (夫と妻、パートナー・恋人同士) で話し合った
2. 親や兄弟姉妹、親類に相談した
3. 友人・知人に相談した
4. 公的機関 (市役所、男女共同参画センター、配偶者暴力相談支援センターなど) に相談した (電話相談を含む)
5. 民間の機関 (支援グループなど) に相談した
6. 安全なところに避難した
7. 医療機関 (心療内科など) に相談した
8. 警察に連絡、相談した
9. その他 (具体的に)
10. どこにも相談しなかった、また、相談できなかった



問31 で、「10.」と答えられた方におうかがいします。

問32 どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

1. どこに (誰に) 相談したらよいのかわからなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかったと仕返しをされたり、さらに暴力をふるわれると思った
5. 自分さえ我慢すればやっていけると思った
6. 自分にも悪いところがあると思った
7. 相談するほどの事ではないと思った
8. その他 (具体的に)
9. わからない



だんじょきょうどうさんかくしゃかい けいせい かん い しき
男女共同参画社会の形成に関する意識について

問33 あなたは、次の法律や言葉、東大阪市の取り組みをご存じですか。(①～⑫の項目ごとに○は1
 つずつ)

	よく知 ^し っている	聞 ^き いたことがある	知 ^し らない
① だんじょきょうどうさんかくすいしん 男女共同参画推進プランひがしおおさか 21	1	2	3
② ひがしおおさかしだんじょきょうどうさんかくすいしんじょうれい 東大阪市男女共同参画推進条例	1	2	3
③ だんじょきょうどうさんかくしゃかいきほんほう 男女共同参画社会基本法	1	2	3
④ だんじょきょうどうさんかくしんとうほう 男女雇用機会均等法	1	2	3
⑤ ひがしおおさかしこどもをぎゃくたいまもじょうれい 東大阪市子どもを虐待から守る条例	1	2	3
⑥ いくじかいごきゅうぎょうほう 育児・介護休業法	1	2	3
⑦ ポジティブ・アクション (せっきよくてきかいぜんそち 積極的改善措置)	1	2	3
⑧ ジェンダー (しゃかいできせいべつ 社会的性別)	1	2	3
⑨ ワーク・ライフ・バランス (しごとせいかつちやうわ 仕事と生活の調和)	1	2	3
⑩ リプロダクティブ・ヘルス／ライツ (せいせいしよくかんけんこうけんり 性と生殖に関する健康／権利)	1	2	3
⑪ ドメスティック・バイオレンス (ディーバイ 配偶者や恋人など親しい人からの暴力)	1	2	3
⑫ だんじょきょうどうさんかく 男女共同参画センター・イコラムの「女性の ための相談」電話相談 072-960-9206 めんせつそうだんよく 面接相談予約 072-960-9205	1	2	3

問34 「男女共同参画社会」とは、男女が、互いの人権を尊重しつつ、職場や家庭、地域活動など、社会のあらゆる場に対等に参画し、共に責任と喜びを分かち合う社会のことです。

あなたは、「男女共同参画」を推進するために、どのような活動に参加したいと思いますか。
(○はいくつでも)

1. 男女平等をめざした制度や施策の制定や見直しについての意見を述べたり、提案をする
2. 政策決定の場に参加する
3. 男女の平等と相互の理解や協力についての学習会を開催したり、参加したりする
4. 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの活動に参加する
5. 子育て支援に関する活動に参加する
6. 高齢者や障害者の介助のための活動に参加する
7. 女性に対する暴力防止のための活動に参加する
8. 男女共同参画センターで開催される学習会や講演会に積極的に参加する
9. 多様な文化や生活習慣に関する理解を深めるための国際交流の場に参加する
10. 特にない・わからない
11. その他(具体的に)

問35 男女共同参画社会実現のためのご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご多忙の中、誠に恐縮ですが、調査票を同封の返信用封筒に入れ、10月6日(火)までにお近くの郵便ポストにご投函ください。(切手を貼る必要はありません。)

男女共同参画に関する市民意識調査報告書

発 行 東大阪市人権文化部男女共同参画課

〒577-8521

東大阪市荒本北1丁目1番1号

電話 06-4309-3300

発行年月 平成22年（2010年）3月
